

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-213700

(P2019-213700A)

(43) 公開日 令和1年12月19日(2019.12.19)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01) A 6 3 F 7/02 3 2 0 2 C 3 3 3

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 201 頁)

(21) 出願番号	特願2018-112657 (P2018-112657)	(71) 出願人	000144153
(22) 出願日	平成30年6月13日 (2018.6.13)		株式会社三共
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号
		(72) 発明者	小倉 敏男
			東京都渋谷区渋谷三丁目29番14号 株
			式会社三共内
		Fターム(参考)	2C333 AA11 CA15 CA26 CA42 CA44
			CA50 CA60 CA76 CA77 DA04
			GA04

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

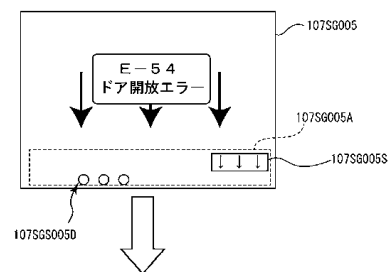
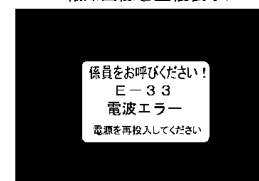
【課題】意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまうことを防ぐことのできる遊技機を提供すること。

【解決手段】画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、異常が発生したときに、異常が発生したことを示す異常表示を表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段と、を備え、異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり、表示手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない。

【選択図】 図8-30

【図8-30】

(A) 変動表示中にドア開放エラー発生

(B) ドア開放エラー報知中に電波エラー発生
(飾り図柄及び小図柄に対してエラー報知画像を重複表示)

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能であることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技が可能な遊技機であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部の各々において演出用識別情報の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態に制御されることを示唆する示唆演出を実行可能な示唆演出実行手段と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能であることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技が可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技機として、異常が発生したときに、遊技を継続不能な遊技停止状態に移行し、該遊技停止状態を、電源を一旦遮断して、再投入することで解消できるようにしたものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

また、遊技機として、演出図柄の可変表示と同期して、縮小演出図柄の可変表示を行う

10

20

30

40

50

ものがある（例えば、特許文献 2 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2016-83012 号公報

【特許文献 2】特開 2016-112051 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献 1 の遊技機において、特許文献 2 の縮小演出図柄の可変表示を実行する場合にあっては、遊技停止状態や電源の復旧時に、意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまう虞があった。

【0006】

本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、意図しない縮小演出図柄の可変表示が実行されてしまうことを防ぐことのできる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

前記課題を解決するために、本発明の手段 1 に記載の遊技機は、

遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図 8-30（B）に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）、

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用 CPU 120）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図 9-2（D）、（F））ことを特徴としている。

10

20

30

40

50

この特徴によれば、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0008】

前記課題を解決するために、本発明の手段2に記載の遊技機は、
遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、
画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

10

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）、

20

さらに、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図9-2（D）、（F））

30

ことを特徴としている。
この特徴によれば、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0009】

本発明の手段3の遊技機は、手段1または手段2に記載の遊技機であって、

特別識別情報（例えば、特別図柄）の可変表示を実行可能な特別可変表示手段（例えば、CPU103が図5に示す特別図柄通常処理、変動パターン設定処理、特別図柄変動処理、特別図柄停止処理を実行する部分）と、

遊技の進行を制御するとともに、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示を制御する遊技制御手段（例えば、CPU103）と、

40

前記遊技制御手段から出力される制御情報（例えば、図8-2に示す演出制御コマンド）に基づいて演出を制御するとともに、前記表示手段における演出用識別情報と縮小識別情報の可変表示を、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示と開始時及び停止時が同期するように制御する演出制御手段（例えば、演出制御用CPU120が図7に示す演出制御プロセス処理において可変表示開始待ち処理、可変表示開始設定処理、可変表示中演出処理、特図当り待ち処理を実行する部分）と、

を備え、

前記特別可変表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、遊技停止状態ではないときとは異なる態様となる（例えば、図8-16及び図8-26に示すように、遊技停止エラーが発生して遊技が停止された場合は、変動表示中の特別図柄が

50

消灯されるが、非遊技停止エラーが発生して遊技が継続される場合は、特別図柄の変動表示が維持される部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、縮小識別情報と特別識別情報の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【0010】

本発明の手段4の遊技機は、手段1～手段3のいずれかに記載の遊技機であって、

遊技停止状態とならない異常（例えば、始動口2異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切れエラー等）が発生したときに、該発生した異常に対応した非遊技停止異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能な異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22及び図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）を備え、

前記表示手段は、前記非遊技停止異常表示が表示されているときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示する（例えば、図8-30(A)に示すように、ドア開放エラー等の非遊技停止エラーが発生した場合は、画像表示装置107SG005における飾り図柄や小図柄の表示が継続される部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、非遊技停止異常表示が表示されても、縮小識別情報を視認することで、可変表示の実行中か否かを把握することができる。

【0011】

本発明の手段5の遊技機は、手段1～手段4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記表示手段は、特定表示を前記異常表示または前記非遊技停止異常表示よりも優先して表示可能である（例えば、変形例1として図8-36に示すように、画像表示装置107SG005において可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31Aの動作チェック結果の画像を飾り図柄、小図柄、ドア開放エラー報知画像に重複して表示する部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、異常表示の表示中であっても、特定表示を確認できる。

【0012】

本発明の手段6の遊技機は、手段5に記載の遊技機であって、

演出に使用される可動体（例えば、可動体32）を備え、

前記特定表示は、前記可動体の動作検証に関する表示である（例えば、動作チェック結果の画像は、可動体32を所定の位置まで動作させる等の動作検証結果を表示するための画像である部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、異常表示の表示中であっても、動作検証に関する表示を確認できる。

【0013】

本発明の手段7の遊技機は、手段1～手段6のいずれかに記載の遊技機であって、

特別識別情報（例えば、特別図柄）の可変表示を実行可能な特別可変表示手段（例えば、CPU103が図5に示す特別図柄通常処理、変動パターン設定処理、特別図柄変動処理、特別図柄停止処理を実行する部分）と、

遊技の進行を制御するとともに、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示を制御する遊技制御手段（例えば、CPU103）と、

前記遊技制御手段から出力される制御情報（例えば、図8-2に示す演出制御コマンド）に基づいて演出を制御するとともに、前記表示手段における演出用識別情報と縮小識別情報の可変表示を、前記特別可変表示手段における特別識別情報の可変表示と開始時及び停止時が同期するように制御する演出制御手段（例えば、演出制御用CPU120が図7に示す演出制御プロセス処理において可変表示開始待ち処理、可変表示開始設定処理、可変表示中演出処理、特図当り待ち処理を実行する部分）と、

を備え、

前記演出制御手段は、可変表示中に電断が発生し、その後において該電断から復旧したときに中断された可変表示が実行されていても、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しないように制御する（例えば、図８－２８に示すように、電断から復旧した場合は、次の変動表示が開始されるタイミングまで飾り図柄と小図柄とを表示しない部分）ことを特徴としている。

この特徴によれば、縮小識別情報と特別識別情報の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【００１４】

本発明の手段８の遊技機は、手段１～手段７のいずれかに記載の遊技機であって、
所定の契機（例えば、遊技球が大入賞口に入賞したこと）にもとづいて計数表示を更新表示可能な計数表示実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０）を備え、

前記計数表示実行手段は、更新後の計数結果を表示するまでの期間が第１期間（例えば、０．１秒）である第１パターン、および更新後の計数結果を表示するまでの期間が第１期間よりも長い第２期間（例えば、０．５秒）である第２パターンにより、計数表示を更新表示可能である（例えば、変形例２として図８－３７～図８－３９に示すように、第１ＫＴ状態において遊技球が大入賞口に入賞した場合は、賞球数表示１０７ＳＧ３０３を０．１秒で更新し、第２ＫＴ状態において遊技球が大入賞口に入賞した場合は、賞球数表示１０７ＳＧ３０５を０．５秒で更新する部分）ことを特徴としている。

この特徴によれば、計数表示を更新表示するパターンを複数種類備えることにより、計数表示の更新表示を行う場合に遊技に対する興趣を向上させることができる。

【００１５】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段９～手段１６に係る発明が含まれる。従来より、遊技機において、特開２０１６－１０１４２８号公報に示されているような、リーチ演出の開始時に、リーチ演出の種類を報知するタイトル表示を行うものがあった。上記した従来の遊技機では、演出効果を高めることが望まれており、この点に鑑み、演出効果を高めることができる遊技機の提供が求められている。

【００１６】

上記目的を達成するため、別態様による手段９の遊技機は、
遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機１）であって、

前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、

前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用ＣＰＵ１２０）と、を備え、

前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図９－２（Ｄ）、（Ｆ））。

このような構成によれば、演出効果を高めることができる。

【００１７】

手段１０の遊技機は、手段９に記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行手段は、複数種類の前記示唆演出を実行可能であって、

複数種類の前記示唆演出において、前記所定期間内の演出の少なくとも一部は共通の態様で実行可能であるようにしてもよい（例えば図９－２（Ｃ））。

このような構成によれば、いずれの示唆演出が実行されるかに注目させることができ、興趣が向上する。

【００１８】

手段１１の遊技機は、手段９または手段１０のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行中の複数の実行タイミングにおいて、前記有利状態に制御されることを示唆する特定演出（例えば発展演出や予告演出）を実行可能であり、

前記所定期間中には前記特定演出の実行タイミングが設けられないようにしてもよい。
このような構成によれば、タイトルの報知後でも遊技者の期待感を維持することができる。

【0019】

手段12の遊技機は、手段9から手段11のいずれかに記載の遊技機であって、
前記示唆演出実行手段は、前記示唆演出として少なくとも第1示唆演出（例えばスーパーリーチAやスーパーリーチBのリーチ演出）と第2示唆演出（例えばスーパーリーチDやスーパーリーチEのリーチ演出）とを実行可能であり、
前記タイトル報知手段は、前記第2示唆演出では、当該第2示唆演出の開始時から当該第2示唆演出に対応したタイトルを報知するようにしてもよい。
このような構成によれば、示唆演出に応じたタイトルの報知を実行できるので演出効果が向上する。

10

【0020】

手段13の遊技機は、手段12に記載の遊技機であって、
前記第2示唆演出が実行された場合よりも前記第1示唆演出が実行された場合の方が前記有利状態に制御される割合が高いようにしてもよい。
このような構成によれば、演出効果が向上する。

【0021】

手段14の遊技機は、手段9から手段13のいずれかに記載の遊技機であって、
前記示唆演出実行手段は、前記所定期間において報知されるタイトルに関連する演出態様で前記示唆演出を実行可能であるようにしてもよい。
このような構成によれば、演出効果が向上する。

20

【0022】

手段15の遊技機は、手段9から手段14のいずれかに記載の遊技機であって、
遊技者の動作を検出可能な検出手段（例えばスティックコントローラ31Aやプッシュボタン31B）と、
前記検出手段に対応した特定表示（例えば小ボタン画像31AK043、大ボタン画像31AK047、スティック画像31AK051）を行う特定表示実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、をさらに備え、
前記特定表示実行手段は、
前記特定表示として、第1特定表示（例えば小ボタン画像31AK043）と、前記第1特定表示よりも遊技者にとって有利度が高い第2特定表示（例えば、大ボタン画像31AK047、スティック画像31AK051）を表示可能であり、
前記検出手段による検出の有効期間において、前記第1特定表示を表示した後に当該第1特定表示を前記第2特定表示に変化させ（例えば図9-10（E）、図9-11（I））、
前記検出手段による検出の有効期間において、変化後の前記第2特定表示を用いた動作演出が実行されるようにしてもよい（例えば図9-11（J）、（K））。
このような構成によれば、演出効果が向上する。

30

【0023】

手段16の遊技機は、手段9から手段15のいずれかに記載の遊技機であって、
前記有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示として、表示サイズが第1サイズである第1示唆表示（図9-12（a）に示すシャッター演出時に表示する第1サイズのシャッター画像31AK061による表示等）と、表示サイズが第2サイズである第2示唆表示（図9-12（d）に示すリーチタイトル演出時に表示する第2サイズのリーチタイトル画像31AK062等）とを表示可能な表示手段（例えば画像表示装置5、演出制御用CPU120）をさらに備え、
前記表示手段は、
態様の異なる複数種類の要素（図9-12（a）、（d）に示す要素E1（バナナ）、要素E2（メロン）、要素E3（リンゴ）、要素E4（スイカ）、要素E5（イチゴ）等

40

50

）を含んで構成された特定画像（図 9-12（a）、（d）に示すフルーツ柄等）を表示可能であり、

前記特定画像を含むパターンにて前記第 1 示唆表示および前記第 2 示唆表示のいずれを表示するときにも、複数種類の要素が前記第 1 示唆表示および前記第 2 示唆表示のいずれにも含まれるように表示する（図 9-12（a）、（d）に示すシャッター画像 31AK061、リーチタイトル画像 31AK062 のいずれにも要素 E1～E5 が含まれるように表示する等）ようにしてもよい。

このような構成によれば、示唆表示の表示サイズに関わらず特定画像を好適に表示することができる。これにより、特定画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

【0024】

また、特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技媒体の付与に関する制御を適切に実行する必要がある。手段 A1～手段 A9 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技媒体の付与に関する制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【0025】

手段 A1 の遊技機は、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット 21TM050）から出力される信号（VL 信号、BRDY 信号、BRQ 信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて遊技媒体を付与する付与手段（払出モータ 21TM289 を制御する払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）と、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップ S21TM1690 等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM1130～ステップ S21TM1200 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

を備え、

前記設定変更モードに制御されているときに、前記遊技用装置から出力される信号に基づく遊技媒体の付与が制限される（1．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が接続確認信号をオンとしない（払出制御基板 21TM037 に出力しない）、2．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が接続確認コマンドを送信しないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が PRDY 信号をオンとしない、3．遊技機枠開放センサにより遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検出しているときには、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が PRDY 信号をオンとしない、4．設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が接続確認コマンドを送信しないことにより（払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が接続確認コマンドを受信しないことにより）、払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 が BRQ 信号のオンを検出しても、EXS 信号をオンとしない。）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御されているときに、遊技媒体の付与に関して適切な制御を実行可能である。

例えば、図 10-12 及び図 10-13 に示すように、電源スイッチ 21TM055 が操作されて動作電圧が主基板 11 に供給されたときに、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が ON 状態であることに基づいて、設定値を変更可能な設定

10

20

30

40

50

変更モードに制御する。設定変更モードに制御されている期間は、ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0 のシリアル通信回路設定処理が実行されていないことにより、接続確認信号が払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力されておらず、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球貸を実行しない。

【0026】

また、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段 A A の遊技機として、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット 2 1 T M 0 5 0）から出力される信号（V L 信号、B R D Y 信号、B R Q 信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて遊技媒体を付与する付与手段（払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を制御する払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0）と、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値 1 ～ 6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 6 9 0 等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 1 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

を備え、

前記設定変更モードに制御されているときに、前記遊技用装置から出力される信号に基づく遊技媒体の付与が制限され（1. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が接続確認信号をオンとしない（払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力しない）、2. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が接続確認コマンドを送信しないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が P R D Y 信号をオンとしない、3. 遊技機枠開放センサにより遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検出しているときには、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が P R D Y 信号をオンとしない、4. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が接続確認コマンドを送信しないことにより（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が接続確認コマンドを受信しないことにより）、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が B R Q 信号のオンを検出しても、E X S 信号をオンとしない。）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L, 1 0 7 S G 0 0 5 C, 1 0 7 S G 0 0 5 R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 2、図 8 - 2 3 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、V D P に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる

10

20

30

40

50

部分)、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない(例えば、図8-30(B)に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分)

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、設定変更モードに制御されているときに、遊技媒体の付与に関して適切な制御を実行可能である。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0027】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段ABの遊技機として、

有価価値(プリペイド残額、持玉、貯玉等)に関する処理(プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理)を実行可能な遊技用装置(カードユニット21TM050)から出力される信号(VL信号、BRDY信号、BRQ信号等)を受信可能な遊技機(パチンコ遊技機1)であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて遊技媒体を付与する付与手段(払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)と、

設定値(大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値1~6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等)を実行可能な特定制御手段(ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段(ステップS21TM1130~ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

を備え、

前記設定変更モードに制御されているときに、前記遊技用装置から出力される信号に基づく遊技媒体の付与が制限され(1. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認信号をオンとしない(払出制御基板21TM037に出力しない)、2. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がPRDY信号をオンとしない、3. 遊技機枠開放センサにより遊技機用枠3が開放状態となっていることを検出しているときには、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がPRDY信号をオンとしない、4. 設定変更モードに制御されているときに遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が接続確認コマンドを受信しないことにより)、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370がBRQ信号のオンを検出しても、EXS信号をオンとしない。)、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部(例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R)の各々において演出用識別情報(例えば、飾り図柄)の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部(例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア)において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段(例えば、画像表示装置107SG005)と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段(例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分)と、

を備え、

10

20

30

40

50

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8-28 及び図 8-31 に示すように、画像表示装置 107SG005 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 CPU 120 が CPU 103 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、設定変更モードに制御されているときに、遊技媒体の付与に関して適切な制御を実行可能である。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0028】

10

手段 A 2 の遊技機は、

手段 A 1 の遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 21TM1210～ステップ S 21TM1240 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を有し、

前記付与手段（払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）は、前記遊技制御手段から特別信号（接続確認信号）が入力されたときに遊技媒体の付与が可能であり、

20

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記特別信号を出力しない（接続確認信号を出力するステップ S 21TM1480 のシリアル通信回路設定処理は、設定変更モードの終了後、設定確認モードの終了後、に実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、遊技媒体を付与しないようにすることができる。

【0029】

手段 A 3 の遊技機は、

手段 A 1 の遊技機であって、

30

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 21TM1210～ステップ S 21TM1240 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

前記付与手段（払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）は、前記遊技用装置に対して第 1 所定信号（PRDY 信号）を出力し、前記第 1 所定信号が入力されていることに基いて前記遊技用装置から出力される第 2 所定信号（BRDY 信号）が入力されたことに基いて遊技媒体の付与が可能であり、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記第 1 所定信号を出力しない（1. 接続確認信号が入力されていないときには PRDY 信号をオンとしない、2. 接続確認コマンドを受信していないときには PRDY 信号をオンとしない）、

40

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、遊技媒体を付与しないようにすることができる。

【0030】

手段 A 4 の遊技機は、

手段 A 1 の遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

50

前記遊技制御手段及び前記付与手段の少なくとも一方（例えば、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0）には、当該遊技機に対応した遊技機枠又は扉枠が開放された開放状態を検出する開放状態検出手段（遊技機用枠 3 が開放状態となっていることを検出可能な遊技機枠開放センサ、ガラス扉枠 3 a が開放状態となっていることを検出可能な扉枠開放センサを備えた遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0）が設けられ、

前記設定変更モードに制御されているか否かによらず、前記開放状態が検出されているときには遊技媒体の付与を制限する（遊技機用枠 3 が開放状態となっているとき、ガラス扉枠 3 a が開放状態となっているときには P R D Y 信号をオンとしない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御させるために遊技機枠又は扉枠を開放させる場合に、遊技媒体の付与を制限することができる。

【0 0 3 1】

手段 A 5 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 4 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記付与手段は、前記遊技用装置から付与要求信号が入力されたこと（B R Q 信号がオンとされたこと）に応じて付与準備信号を出力し（E X S 信号をオンとし）、前記付与準備信号の入力に応じて前記遊技用装置から出力される付与指令信号が入力されたとき（E X S 信号のオンを検出したカードユニット 2 1 T M 0 5 0 が B R Q 信号をオフとしたとき）に遊技媒体を付与し、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかに制御されているときには、前記付与要求信号が入力されても前記付与準備信号を出力しない（B R Q 信号のオンを検出しても E X S 信号をオンとしない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード及び設定確認モードの何れかに制御されているときに、遊技媒体を付与しないようにすることができる。

【0 0 3 2】

手段 A 6 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更条件が成立している場合（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 がオンであり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 がオンである場合）に、前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認条件が成立している場合（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 がオンであり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 がオフである場合）に、前記設定確認モードに制御する、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更モード又は設定確認モードに制御可能である。

【0 0 3 3】

手段 A 7 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 6 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の R A M クリアが実行され）、

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応する報知を実行した後に（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に設定値を点滅表示させた後に）、遊技状態が初期化されたことを報知する（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「C」の文字を表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化されたことを把握することができる。

【0034】

手段 A 8 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 7 から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置 5 に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0035】

手段 A 9 の遊技機は、

手段 A 1 ～手段 A 8 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 を ON とする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON とする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御された場合には、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の R A M クリア処理が実行され）、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない（設定確認モードに制御された場合には、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 で N O と判定された場合にのみ、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の R A M クリア処理が実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

なお、上記した手段 A 2 ～手段 A 9 と手段 A 1 との対応関係は、手段 A 2 ～手段 A 9 と手段 A A との対応関係、あるいは、手段 A 2 ～手段 A 9 と手段 A B との対応関係に適用することができる。

【0036】

また、特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技用装置から出力される信号に基づく制御を適切に実行する必要がある。手段 B1～手段 B7 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技用装置から出力される信号に基づく制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【0037】

手段 B1 の遊技機は、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット 21TM050）から出力される信号（VL 信号、BRDY 信号、BRQ 信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて所定制御（球貸）を実行する所定制御手段（払出モータ 21TM289 を制御する払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）と、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップ S21TM1690 等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM1130～ステップ S21TM1200 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているか否かにかかわらず、前記遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を実行可能である（遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、設定変更モードに制御されている期間であっても、接続確認信号を ON 状態とし、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを送信可能であり、接続確認信号の ON 状態で、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370 は、設定変更モードに制御されている期間であるか否かにかかわらず球貸を実行可能である）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を適切に実行可能であり、設定変更モードに制御されているときに所定制御を実行しない場合の制御負担を回避することができる。

【0038】

また、特開 2010-200902 号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段 BA の遊技機として、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット 21TM050）から出力される信号（VL 信号、BRDY 信号、BRQ 信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて所定制御（球貸）を実行する所定制御手段（払出モータ 21TM289 を制御する払出制御用マイクロコンピュータ 21TM370）と、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップ S21TM1690 等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM1130～ステップ S21TM1200 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているか否かにかかわらず、前記遊技用装置から出力さ

10

20

30

40

50

れる信号に基づく所定制御を実行可能であり（遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されている期間であっても、接続確認信号をON状態とし、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを送信可能であり、接続確認信号のON状態で、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モードに制御されている期間であるか否かにかかわらず球貸を実行可能である）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22、図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-30（B）に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を適切に実行可能であり、設定変更モードに制御されているときに所定制御を実行しない場合の制御負担を回避することができる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0039】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段BBの遊技機として、

有価価値（プリペイド残額、持玉、貯玉等）に関する処理（プリペイド残額を消費する球貸、持玉を消費する球貸、貯玉を消費する球貸等に関連した処理）を実行可能な遊技用装置（カードユニット21TM050）から出力される信号（VL信号、BRDY信号、BRQ信号等）を受信可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

前記遊技用装置から出力される信号に基づいて所定制御（球貸）を実行する所定制御手段（払出モータ21TM289を制御する払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）と、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているか否かにかかわらず、前記遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を実行可能であり（遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されている期間であっても、接続確認信号をON状態とし、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを送信可能であり、接続確認信号のON状態で、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モードに制御されている期間であるか否かにかかわらず球貸を実行可能である）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、遊技用装置から出力される信号に基づく所定制御を適切に実行可能であり、設定変更モードに制御されているときに所定制御を実行しない場合の制御負担を回避することができる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0040】

手段B2の遊技機は、

手段B1の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記所定制御を実行しているときに所定事象（電源断等）が発生したことに基づいて当該所定制御を中断し、その後前記設定変更モード又は前記設定確認モードに制御されたときには、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの終了後に、当該所定制御を再開する（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、球貸の実行途中で電源断が発生した場合には球貸を中断し、電力供給再開後に遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モード又は設定確認モードに移行した場合には、直ちに球貸を再開することなく当該設定変更モード又は当該設定確認モードの終了後に球貸を再開する）、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象が発生した後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときにも、所定制御を適切に実行可能である。

【0041】

手段B3の遊技機は、

手段B1の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステッ

プ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0) を備え、

前記所定制御を実行しているときに、前記設定変更モード又は前記設定確認モードに制御されたときには、当該所定制御を終了させる（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球貸の実行中に電源断が発生したときには、当該球貸を強制終了させ（中止し）、その後の電源復旧時に遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに球貸は再開されず、設定変更モード又は設定確認モードの終了後も球貸は再開されない）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に所定制御を再開させる制御が不要となり、所定制御を簡略化することができる。

【 0 0 4 2 】

手段 B 4 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 3 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0) を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更条件が成立している場合（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 も ON 状態である場合）に、前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認条件が成立している場合（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態であり、且つ、クリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 は OFF 状態である場合）に、前記設定確認モードに制御する、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに成立している条件に応じて、設定変更モード又は設定確認モードに制御することができる。

【 0 0 4 3 】

手段 B 5 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 4 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技情報が初期化され（設定変更モードに制御されたときには、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の R A M クリアが実行され）、

前記設定変更モードにおいて前記設定値が変更されたときには、設定値の変更を報知した後に（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に設定値を点滅表示させた後に）、遊技状態が初期化されたことを報知する（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「C」の文字を表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化されたことを把握することができる。

【 0 0 4 4 】

手段 B 6 の遊技機は、

手段 B 1 ～手段 B 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0) と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用 C P U 1 2 0) と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0) を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

10

20

30

40

50

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置５に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置５に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【００４５】

手段Ｂ７の遊技機は、

手段Ｂ１～手段Ｂ６から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップＳ２１ＴＭ１２１０～ステップＳ２１ＴＭ１２４０を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ１００）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ２１ＴＭ０５１をＯＮとする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ２１ＴＭ０５２をＯＮとする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ２１ＴＭ０５１をＯＮとする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御された場合には、ステップＳ２１ＴＭ１４１０のＲＡＭクリア処理が実行され）、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない（設定確認モードに制御された場合には、ステップＳ２１ＴＭ１３２０又はステップＳ２１ＴＭ１３３０でＮＯと判定された場合にのみ、ステップＳ２１ＴＭ１４１０のＲＡＭクリア処理が実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

なお、上記した手段Ｂ２～手段Ｂ７と手段Ｂ１との対応関係は、手段Ｂ２～手段Ｂ７と手段ＢＡとの対応関係、あるいは、手段Ｂ２～手段Ｂ９と手段ＢＢとの対応関係に適用することができる。

【００４６】

また、特開２０１０－２００９０２号公報（段落０００７）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開２０１０－２００９０２号公報（段落０００７）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに、遊技媒体が特定領域を通過した場合の制御を適切に実行する必要がある。手段Ｃ１～手段Ｃ６に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、遊技媒体が特定領域を通過した場合の制御を適切に実行する遊技機を提供することにある。

【００４７】

手段Ｃ１の遊技機は、

遊技媒体が特定領域（第１始動入賞口、第２始動入賞口）を通過したことに基づいて、設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値１～６）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップＳ２１ＴＭ１６９０等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ１００）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップＳ２１ＴＭ１１３０～ステップＳ２１ＴＭ１２００を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ１００）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御が実行されない（タイマ割込の設定（ステップＳ２１ＴＭ１５００）よりも前に設定変更モードに制御されることにより、設定変更モードに制御されている期間は、ステップＳ２１ＴＭ１６９０の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない

10

20

30

40

50

）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が変更される可能性があるときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。

【0048】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段CAの遊技機として、

遊技媒体が特定領域（第1始動入賞口、第2始動入賞口）を通過したことに基づいて、設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御が実行されず（タイマ割込の設定（ステップS21TM1500）よりも前に設定変更モードに制御されることにより、設定変更モードに制御されている期間は、ステップS21TM1690の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない）

、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22、図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-30（B）に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、設定値が変更される可能性があるときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0049】

なお、特定異常が発生して遊技停止状態となった場合には、設定手段により設定値が変更された場合に遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生して遊技停止状態となった場

10

20

30

40

50

合には、電力供給が停止されたのち電力供給が開始されたときに設定手段による設定値の変更が許可され、設定値が変更されたこと（変更操作を行った結果変更前と同じ設定値にすることを含む）に基づいて初期化処理が行われることにより、特定異常が解消されて遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。ただし、その場合には、初期化処理が行われるため、縮小可変表示部における縮小識別情報は遊技停止状態となる前の状況にかかわらず初期表示となる。初期化処理を行うことなく遊技停止状態から復帰させるようにするには、例えば、遊技場の係員が操作可能（遊技者は操作不可能）なりセットボタン等のエラー解除操作手段を設け、該エラー解除操作手段が操作された場合には、遊技停止状態から復帰させて特定異常が発生する以前の遊技状態に戻すようにすることが考えられる。

また、特定異常が発生して遊技停止状態となった場合に、現在の設定値を確認する設定確認操作が行われたときに遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。例えば、遊技場の係員が操作可能（遊技者は操作不可能）な設定手段に係る機能として設定値変更機能と設定値確認機能を設け、設定値変更操作が行われた場合には初期化処理が行われて遊技停止状態から復帰し、設定値確認操作が行われた場合には初期化処理が行われることなく遊技停止状態から復帰するようにしてもよい。このようにすれば、初期化処理を行うことなく遊技停止状態から復帰させたい場合に、容易に復帰させることができる。

【0050】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段CBの遊技機として、

遊技媒体が特定領域（第1始動入賞口、第2始動入賞口）を通過したことに基づいて、設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記設定変更モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御が実行されず（タイマ割込の設定（ステップS21TM1500）よりも前に設定変更モードに制御されることにより、設定変更モードに制御されている期間は、ステップS21TM1690の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない）

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

10

20

30

40

50

この特徴によれば、設定値が変更される可能性があるときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0051】

なお、電断から復旧したときの状態を、設定値の変更を許可する変更許可状態としてもよいし、設定値の変更を許可しない変更不許可状態としてもよい。変更許可状態とする場合には、電断復旧表示の表示中に設定変更操作が行われる場合があるが、その場合には、画像表示装置5、107SG005の表示を、電断復旧表示から設定変更中表示に切り替えるようにしてもよいし、両方の表示を行うようにしてもよい。

また、電断から復旧したときの状態が変更不許可状態である場合には、変更許可状態とするためには、一旦電源をオフにしたのち、例えば、錠スイッチ21TM051およびクリアスイッチ21TM052がともにオンとなっている状態にして電源投入を行うようにすればよい。

なお、この実施の形態においては、電断復旧表示と設定変更中表示のいずれについても、図8-31(A)や図10-17(1)(B)に示すように、画像表示装置5、107SG005の画面全体で表示されるため、電断復旧表示や設定変更中表示の表示中に、縮小可変表示部に縮小識別情報が表示されることはない。

【0052】

手段C2の遊技機は、

手段C1の遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段(ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100)を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定変更条件が成立している場合(錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ21TM052もON状態である場合)に、前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに設定確認条件が成立している場合(錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ21TM052はOFF状態である場合)に、前記設定確認モードに制御する、
ことを特徴とする。

これによれば、遊技機への電力供給が開始されたときに成立している条件に応じて、設定変更モード又は設定確認モードに制御することができる。

【0053】

手段C3の遊技機は、

手段C1又は手段C2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され(設定変更モードに制御されたときには、ステップS21TM1410のRAMクリアが実行され)、

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応する報知を実行した後に(表示モニタ21TM029に設定値を点滅表示させた後に)、遊技状態が初期化されたことを報知する(表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示させる)、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了して遊技状態が初期化されたことを把握することができる。

【0054】

手段C4の遊技機は、

手段C1～手段C3から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段とを有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段(遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を更に有し、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知に関する制御を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0055】

手段C5の遊技機は、

手段C1～手段C4から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定確認モードに制御されているときには、遊技媒体が前記特定領域を通過しても前記特定制御を実行しない（タイマ割込の設定（ステップS21TM1500）よりも前に設定確認モードに制御されることにより、設定確認モードに制御されている期間は、ステップS21TM1690の特別図柄プロセス処理（大当たり判定処理）が実行されない）

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が確認されているときに特定制御が実行されてしまうことを防止することができる。

【0056】

手段C6の遊技機は、

手段C1～手段C5から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

前記設定変更モード制御手段は、移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）及び初期化操作（電源投入時にクリアスイッチ21TM052をONとする操作）に基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、前記移行操作（電源投入時に錠スイッチ21TM051をONとする操作）に基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化され（設定変更モードに制御された場合には、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行され）、前記設定確認モードに制御されることに伴い、当該遊技機の遊技状態が初期化されない（設定確認モードに制御された場合には、ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合にのみ、ステップS21TM1410のRAMクリア処理が実行される）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能であると共に、遊技状態を初期化させるか否かも選択可能となる。

なお、上記した手段C2～手段C6と手段C1との対応関係は、手段C2～手段C6と手段CAとの対応関係、あるいは、手段C2～手段C6と手段CBとの対応関係に適用することができる。

10

20

30

40

50

【0057】

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機では、設定値を変更するときに電力供給が停止された場合に、適切な処理を実行する必要がある。手段D1～手段D5に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、電力供給が停止された場合に適切な処理を実行する遊技機を提供することにある。

【0058】

手段D1の遊技機は、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM1130～ステップS21TM1200を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を確認可能に報知する設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS21TM1210～ステップS21TM1240を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

設定値を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）と、を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに第1条件が成立し（錠スイッチ21TM051がON状態であり）且つ第2条件が成立している（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である）ことに基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記第1条件が成立し（錠スイッチ21TM051がON状態であり）且つ前記第2条件が成立していない（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態である）ことに基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードにおける特定操作（錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り換えられる操作）に基づいて前記設定値が決定され、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されているときに当該設定変更モードに制御される前の設定値を記憶し（設定変更モードへの移行前からRAM102の設定値格納領域に記憶されている設定値を、設定変更モードへの移行に伴い変更することなく継続して記憶させておき）、

前記設定変更モードにおいて前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止され（錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態に切り換えられる操作が行われることなく電源断が発生し）、その後当該遊技機への電力供給が再開されたときに前記設定確認モードに制御された場合には、前記設定値記憶手段に記憶されている設定値が報知される（電源投入後に設定確認モードに制御された場合には、設定確認モードへの移行前からRAM102の設定値格納領域に記憶されている設定値を、表示モニタ21TM029に表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードに制御されているときに電力供給が停止された場合の設定値を適切に定めることができる。

【0059】

また、特開2010-200902号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段DAの遊技機として、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップS21TM1690等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 1 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

前記設定値を確認可能に報知する設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

設定値を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納される R A M 1 0 2 の設定値格納領域）と、を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに第 1 条件が成立し（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり）且つ第 2 条件が成立している（

10

クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O N 状態である）ことに基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記第 1 条件が成立し（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり）且つ前記第 2 条件が成立していない（クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O F F 状態である）ことに基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードにおける特定操作（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態から O F F 状態に切り換えられる操作）に基づいて前記設定値が決定され、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されているときに当該設定変更モードに制御される前の設定値を記憶し（設定変更モードへの移行前から R A M 1 0 2 の設定値格納領域に記憶されている設定値を、設定変更モードへの移行に伴い変更することなく継続して記憶させておき）、

20

前記設定変更モードにおいて前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止され（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態から O F F 状態に切り換えられる操作が行われることなく電源断が発生し）、その後当該遊技機への電力供給が再開されたときに前記設定確認モードに制御された場合には、前記設定値記憶手段に記憶されている設定値が報知され（電源投入後に設定確認モードに制御された場合には、設定確認モードへの移行前から R A M 1 0 2 の設定値格納領域に記憶されている設定値を、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示させる）、

さらに、

30

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 L, 1 0 7 S G 0 0 5 C, 1 0 7 S G 0 0 5 R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 2、図 8 - 2 3 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

40

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、V D P に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8 - 3 0 （B）に示すように、画像表

50

示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分)

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、遊技場の店員等が、設定変更モードに制御されているときに電力供給が停止された場合の設定値を適切に定めることができる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0060】

また、特開 2010-200902 号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段 DB の遊技機として、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な特定制御手段（ステップ S21TM1690 等の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM1130～ステップ S21TM1200 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

前記設定値を確認可能に報知する設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S21TM1210～ステップ S21TM1240 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納される RAM 102 の設定値格納領域）と、を備え、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに第 1 条件が成立し（錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり）且つ第 2 条件が成立している（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が ON 状態である）ことに基づいて前記設定変更モードに制御し、

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記第 1 条件が成立し（錠スイッチ 21TM051 が ON 状態であり）且つ前記第 2 条件が成立していない（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が OFF 状態である）ことに基づいて前記設定確認モードに制御し、

前記設定変更モードにおける特定操作（錠スイッチ 21TM051 が ON 状態から OFF 状態に切り換えられる操作）に基づいて前記設定値が決定され、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されているときに当該設定変更モードに制御される前の設定値を記憶し（設定変更モードへの移行前から RAM 102 の設定値格納領域に記憶されている設定値を、設定変更モードへの移行に伴い変更することなく継続して記憶させておき）、

前記設定変更モードにおいて前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止され（錠スイッチ 21TM051 が ON 状態から OFF 状態に切り換えられる操作が行われることなく電源断が発生し）、その後当該遊技機への電力供給が再開されたときに前記設定確認モードに制御された場合には、前記設定値記憶手段に記憶されている設定値が報知され（電源投入後に設定確認モードに制御された場合には、設定確認モードへの移行前から RAM 102 の設定値格納領域に記憶されている設定値を、表示モニタ 21TM029 に表示させる）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段

10

20

30

40

50

に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

10

この特徴によれば、遊技場の店員等が、設定変更モードに制御されているときに電力供給が停止された場合の設定値を適切に定めることができる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0061】

手段D2の遊技機は、

手段D1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに移行操作（錠スイッチ21TM051をON状態とする操作）が行われ且つ初期化操作（クリアスイッチ21TM052をON状態とする操作）が行われた場合に前記設定変更モードに制御し、

20

前記設定確認モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記移行操作が行われ且つ前記初期化操作が行われなかった場合に前記設定確認モードに制御する、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるかを選択可能である。

【0062】

手段D3の遊技機は、

手段D1又は手段D2の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたときには、遊技状態が初期化され（ステップS21TM1410のRAMクリアが実行され）、

30

前記設定変更モードの制御の終了に基づいて、前記設定変更モードの制御の終了に対応する報知を実行する（表示モニタ21TM029に設定値を点滅表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モードの制御が終了したことを把握することができる。

【0063】

手段D4の遊技機は、

手段D1～手段D3から選択される何れかの遊技機であって、

前記特定制御手段と前記設定変更モード制御手段と前記設定確認モード制御手段を有し、前記遊技機における遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

40

演出の制御を実行する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、前記設定変更モード又は前記設定確認モードの何れかに制御されることに伴い、前記演出制御手段に対してコマンド（設定変更モードコマンド、設定確認モードコマンド）を出力し、

前記演出制御手段は、前記コマンドに応じた報知を実行する（設定変更モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定変更中」と表示する、設定確認モードコマンドを受信したときに画像表示装置5に「設定確認中」と表示する）、

ことを特徴とする。

50

これによれば、遊技場の店員等が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことを把握することができる。

【0064】

手段D5の遊技機は、

手段D1～手段D4から選択される何れかの遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始された後のタイミング（設定変更モード又は設定確認モード終了後に、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、遊技制御用タイマ割込処理を実行可能となった後のタイミング）で前記第1条件又は前記第2条件が成立した場合には、所定の報知を行う（演出制御用CPU120は、錠スイッチ21TM051が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置5に表示させる）

10

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、電力供給が開始された後のタイミングで、第1条件又は第2条件が成立したことを把握することができる。

なお、上記した手段D2～手段D5と手段D1との対応関係は、手段D2～手段D5と手段DAとの対応関係、あるいは、手段D2～手段D5と手段DBとの対応関係に適用することができる。

【0065】

20

また、特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2014-200506号公報（段落0102）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報（段落0007）に記載されたような遊技機に関しては、設定値の変更に関連する処理の状況を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開2014-200506号公報（段落0102）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段E1～手段E8に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値の変更に関連する処理の状況を外部装置側で把握することが可能な遊技機を提供することにある。

30

【0066】

手段E1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は変更可能であり（設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり）、

前記遊技機で発生した所定事象（異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAMクリア等）に対応して第1端子（第10端子）から特定信号（セキュリティ信号）を出力可能であり、

40

前記設定値の変更に関連する処理（設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行）に対応して第2端子（第7端子）から特別信号（設定変更対応信号）を出力可能である、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。

【0067】

また、特開2010-200902号公報および特開2014-200506号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段EAの遊技機として、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄

50

プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は変更可能であり(設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり)、

前記遊技機で発生した所定事象(異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAMクリア等)に対応して第1端子(第10端子)から特定信号(セキュリティ信号)を出力可能であり、

前記設定値の変更に関連する処理(設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行)に対応して第2端子(第7端子)から特別信号(設定変更対応信号)を出力可能であり、

さらに、

10

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部(例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R)の各々において演出用識別情報(例えば、飾り図柄)の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部(例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア)において縮小識別情報(例えば、小図柄)の可変表示を実行可能な表示手段(例えば、画像表示装置107SG005)と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示(例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像)を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段(例えば、演出制御用CPU120が図8-22、図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分)と、

20

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり(例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分)、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない(例えば、図8-30(B)に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分)

30

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0068】

また、特開2010-200902号公報および特開2014-200506号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段EBの遊技機として、

設定値(大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1~6)に応じた特定制御(特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等)を実行可能な遊技機であって、

40

前記設定値は変更可能であり(設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり)、

前記遊技機で発生した所定事象(異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAMクリア等)に対応して第1端子(第10端子)から特定信号(セキュリティ信号)を出力可能であり、

前記設定値の変更に関連する処理(設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行)に対応して第2端子(第7端子)から特別信号(設定変更対応信号)を出力可能であり、

さらに、

50

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用 CPU120 が図 8-27 に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置 107SG005 に電断復旧画像を表示させる部分）と、

10

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8-28 及び図 8-31 に示すように、画像表示装置 107SG005 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 CPU120 が CPU103 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、所定事象の発生と、設定値の変更に関連する処理が実行されたことを、区別可能な態様で外部に通知できる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

20

【0069】

手段 E2 の遊技機は、

手段 E1 の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたことに対応して前記特定信号を出力可能であり（RAM クリアが実行された場合にはセキュリティ信号が出力され）、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM1130～ステップ S21TM1200 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

前記設定変更モードに制御されたときには、前記特定信号と前記特別信号の両方を出力可能である（セキュリティ信号と設定対応変更信号を同時に出力する）、

30

ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定変更モードに制御された可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定変更モードに制御された可能性があることを把握することができる。

【0070】

手段 E3 の遊技機は、

手段 E2 の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されたことに基づいて前記特定信号と前記特別信号の両方を出力したときに、前記特定信号の出力期間は前記特別信号の出力期間よりも長い（設定対応変更信号の出力が終了してから 30 秒間はセキュリティ信号を継続して出力させる）、

40

ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定変更モードに制御されている可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定変更モードに制御されている可能性があることを把握することができる。

【0071】

手段 E4 の遊技機は、

手段 E1～手段 E3 から選択される何れかの遊技機であって、

50

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を備え、

前記設定確認モードに制御されたことに基づいて前記特別信号を出力可能である（設定確認モードに制御されている期間は設定対応変更信号を出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御された可能性があることを外部に通知できる。

【 0 0 7 2 】

手段 E 5 の遊技機は、

手段 E 4 の遊技機であって、

10

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定確認モードに制御可能であり（電源投入時に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O F F 状態であったことに基づいて設定確認モードに制御され）、

前記設定確認モードに制御されたことに基づいて前記特定信号と前記特別信号の両方を出力可能である（セキュリティ信号と設定対応変更信号を同時に出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、特定信号によって、少なくとも設定確認モードに制御された可能性があることを外部に通知できるため、特別信号の入力を想定していない従来の外部装置においても、特定信号によって設定確認モードに制御された可能性があることを把握することができる。

20

【 0 0 7 3 】

手段 E 6 の遊技機は、

手段 E 1 の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 1 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を備え、

前記設定変更モードに制御されたときに前記特別信号を出力し（設定変更モードに制御されたときに設定変更対応信号を出力し）、前記設定変更モードが終了したときに前記特定信号を出力可能である（R A M クリアが実行された場合には、設定変更モードが終了したときにセキュリティ信号を出力する）、

30

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御された場合の信号出力処理を簡素化しつつ、所定事象の発生を外部に通知できる。

【 0 0 7 4 】

手段 E 7 の遊技機は、

手段 E 1 又は手段 E 6 の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始されたときに前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を備え、

40

前記設定確認モードに制御されたときに前記特別信号を出力し（設定確認モードに制御されたときに設定変更対応信号を出力し）、前記設定確認モードが終了したときに前記特定信号を出力可能である（R A M クリアが実行された場合には、設定確認モードが終了したときにセキュリティ信号を出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御された場合の信号出力処理を簡素化しつつ、所定事象の発生を外部に通知できる。

【 0 0 7 5 】

手段 E 8 の遊技機は、

手段 E 1 ～手段 E 7 から選択される何れかの遊技機であって、

50

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS 2 1 T M 1 1 3 0～ステップS 2 1 T M 1 2 0 0を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0）と、

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップS 2 1 T M 1 2 1 0～ステップS 2 1 T M 1 2 4 0を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0）と、を備え、

前記設定変更モードにおいて、設定変更操作に応じて前記設定値を変更可能であり（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）2 1 T M 0 5 2の操作、及び、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1の操作により設定値を変更可能であり）、

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れにも制御されていないときに前記設定変更操作が行われた場合には、所定の報知を行う（演出制御用C P U 1 2 0は、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンド、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ1 0 0から受信したときには、「錠スイッチの操作を検出しました。」、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」という警告を画像表示装置5に表示させる）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員等が、不適切な設定変更操作が行われたことを把握することができる。

なお、上記した手段E 2～手段E 8と手段E 1との対応関係は、手段E 2～手段E 8と手段E Aとの対応関係、あるいは、手段E 2～手段E 8と手段E Bとの対応関係に適用することができる。

【0 0 7 6】

また、特開2 0 1 0－2 0 0 9 0 2号公報（段落0 0 0 7）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開2 0 1 4－2 0 0 5 0 6号公報（段落0 1 0 2）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開2 0 1 0－2 0 0 9 0 2号公報（段落0 0 0 7）に記載されたような遊技機に関しては、設定値に関連する情報を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開2 0 1 4－2 0 0 5 0 6号公報（段落0 1 0 2）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段F 1～手段F 1 1に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値に関連する情報を外部装置側で把握することが可能な遊技機を提供することにある。

【0 0 7 7】

手段F 1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は複数の値のうちのいずれかの値に変更可能であり（設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり）、

前記設定値の変更に関連する処理（設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

前記設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能である（設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。

【0 0 7 8】

また、特開2 0 1 0－2 0 0 9 0 2号公報および特開2 0 1 4－2 0 0 5 0 6号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段F Aの遊技機として、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は複数の値のうちのいずれかの値に変更可能であり（設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり）、

前記設定値の変更に関連する処理（設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

前記設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能であり（設定値に対応した数のパルスを出力する）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107SG005）と、

異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用 CPU 120 が図 8-22、図 8-23 に示すエラー報知処理を実行する部分）と、

を備え、

前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDP に対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置 107SG005 に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、

前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8-30（B）に示すように、画像表示装置 107SG005 の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。また、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【0079】

また、特開 2010-200902 号公報および特開 2014-200506 号公報に記載の遊技機の問題を解決する手段 FB の遊技機として、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値 1～6）に応じた特定制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な遊技機であって、

前記設定値は複数の値のうちのいずれかの値に変更可能であり（設定変更モードにおける操作に基づいて変更可能であり）、

前記設定値の変更に関連する処理（設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行）に対応して特別信号（設定変更対応信号）を出力可能であり、

前記設定値を特定可能な特殊態様で前記特別信号を出力可能であり（設定値に対応した数のパルスを出力する）、

さらに、

画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置 107S

G 0 0 5) と、

電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 8 - 2 7 に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 に電断復旧画像を表示させる部分）と、

を備え、

前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示しない（例えば、図 8 - 2 8 及び図 8 - 3 1 に示すように、画像表示装置 1 0 7 S G 0 0 5 において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用 C P U 1 2 0 が C P U 1 0 3 から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部

10

分）

ことを特徴とする遊技機が挙げられる。

この特徴によれば、遊技機の設定値を外部に通知することが可能となる。また、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。

【 0 0 8 0 】

手段 F 2 の遊技機は、

手段 F 1 の遊技機であって、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 1 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を備え、

20

前記設定変更モードの終了に伴い前記特殊態様の前記特別信号を出力する（設定変更モードが終了したときに、確定した設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御されているか否かを通知する信号と、遊技機の設定値を通知する信号とを、共通の端子から出力可能となる。

【 0 0 8 1 】

手段 F 3 の遊技機は、

手段 F 2 の遊技機であって、

前記設定変更モードに制御されているときに非特殊態様の特別信号（設定変更モードに制御されている期間中は O N 状態となる設定変更対応信号）を出力し、前記設定変更モードの終了に伴い一旦特別信号の出力を停止した後（設定変更モードの終了に伴い一旦設定変更対応信号を O F F 状態とした後）、前記特殊態様の特別信号（確定した設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号）を出力する、

30

ことを特徴とする。

これによれば、特別信号によって、設定変更モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、遊技機の設定値を外部に通知することも可能となる。

【 0 0 8 2 】

手段 F 4 の遊技機は、

手段 F 1 ～手段 F 3 から選択される何れかの遊技機であって、

40

前記設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）を備え、

前記設定確認モードの終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力する（設定確認モードが終了したときに、表示された設定値に対応した数のパルスを出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、設定確認モードに制御されているか否かを通知する信号と、遊技機の設定値を通知する信号とを、共通の端子から出力可能となる。

【 0 0 8 3 】

手段 F 5 の遊技機は、

50

手段 F 4 の遊技機であって、

前記設定確認モードに制御されているときに非特殊態様の特別信号（設定確認モードに制御されている期間中は ON 状態となる設定変更対応信号）を出力し、前記設定確認モードの終了に伴い一旦特別信号の出力を停止した後（設定確認モードの終了に伴い一旦設定変更対応信号を OFF 状態とした後）、前記特殊態様の特別信号（表示された設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号）を出力する、

ことを特徴とする。

これによれば、特別信号によって、設定確認モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、遊技機の設定値を外部に通知することも可能となる。

【0084】

手段 F 6 の遊技機は、

手段 F 1 ～手段 F 5 から選択される何れかの遊技機であって、

前記特殊態様の特別信号において、前記設定値はパルス数により特定可能である（パルス状の設定変更対応信号の出力回数を設定値と同じ回数とすることにより、外部装置において設定値を特定可能である）、

ことを特徴とする。

これによれば、外部装置において設定値を容易に特定可能となる。

【0085】

手段 F 7 の遊技機は、

手段 F 1 ～手段 F 6 から選択される何れかの遊技機であって、

前記遊技機で発生した所定事象（異常入賞、スイッチ異常検出、磁気エラー、RAM クリア等）に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力可能である、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生を外部に通知することができる。

【0086】

手段 F 8 の遊技機は、

手段 F 7 の遊技機であって、

前記特定信号（セキュリティ信号）と前記特別信号（設定変更対応信号）を、共通の端子から出力する（例えば第 10 端子から出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、簡素な構成により所定事象の発生と設定値とを外部に通知できる。

【0087】

手段 F 9 の遊技機は、

手段 F 7 の遊技機であって、

前記特定信号（セキュリティ信号）と前記特別信号（設定変更対応信号）を、異なる端子から出力する（例えばセキュリティ信号を第 10 端子から出力し、設定変更対応信号を第 7 端子から出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、所定事象の発生と設定値とを明確に区別可能な態様で外部に通知できる。

【0088】

手段 F 10 の遊技機は、

手段 F 1 ～手段 F 9 から選択される何れかの遊技機であって、

前記設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 1 1 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）を備え、

前記設定変更モードにおいて、設定変更操作に応じて前記設定値を変更可能であり（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）2 1 T M 0 5 2 の操作に応じて設定値を変更可能であり）、

前記設定変更モードにおいて前記設定変更操作が行われたか否かにかかわらず、当該設

10

20

30

40

50

定変更モードの終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力する（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態とされたときに、それ以前に設定切替スイッチ（クリアスイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作が行われたか否かにかかわらず、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルスを設定変更対応信号として出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、実際に設定変更操作が行われたか否かにかかわらず、共通の信号出力処理を実行することにより、信号出力処理の処理負担を軽減可能である。

【0089】

手段 F 1 1 の遊技機は、

手段 F 1 ～手段 F 1 0 から選択される何れかの遊技機であって、

10

前記設定値の変更に関連する処理の終了に伴い前記特殊態様の特別信号を出力し（設定変更モードの終了に伴い R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号を出力し、設定確認モードの終了に伴い R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号を出力し）、当該特別信号の出力が終了した後に、前記設定値の変更に関連する処理とは異なる所定契機（例えば、大当り遊技状態の終了等）により前記特殊態様の特別信号を出力する（R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号を出力する）、

ことを特徴とする。

これによれば、所定契機により設定値を外部に通知することが可能となるため、外部装置において設定値を特定可能とする機会を増やすことができる。

20

なお、上記した手段 F 2 ～手段 F 1 1 と手段 F 1 との対応関係は、手段 F 2 ～手段 F 1 1 と手段 F A との対応関係、あるいは、手段 F 2 ～手段 F 8 と手段 F B との対応関係に適用することができる。

【0090】

尚、本発明は、本発明の請求項に記載された発明特定事項のみを有するものであって良いし、本発明の請求項に記載された発明特定事項とともに該発明特定事項以外の構成を有するものであってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0091】

30

【図 1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図 5】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図 6】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 7】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図 8 - 1】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 8 - 2】（A）、（B）は、演出制御コマンドを例示する図である。

【図 8 - 3】各乱数を示す説明図である。

40

【図 8 - 4】変動パターンを例示する図である。

【図 8 - 5】各変動パターン判定テーブル毎の変動パターンの決定割合を例示する図である。

【図 8 - 6】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 8 - 7】（A）は、大当り種別判定テーブルの構成例を示す図であり、（B）は、各種大当りの内容を示す図である。

【図 8 - 8】遊技制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図である。

【図 8 - 9】（A）は、演出制御用データ保持エリアの構成例を示すブロック図であり、（B）は、始動入賞時受信コマンドバッファの構成を示す図である。

【図 8 - 10】タイマ割込処理の一部を示すフローチャートである。

50

- 【図 8-11】電断検出処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-12】メイン側エラー処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-13】メイン側エラー処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-14】エラー指定コマンド形態を例示する説明図である。
- 【図 8-15】パチンコ遊技機で発生するエラーを示す説明図である。
- 【図 8-16】特別図柄プロセス処理の一部を示すフローチャートである。
- 【図 8-17】特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-18】特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-19】大当り終了処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-20】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。 10
- 【図 8-21】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-22】エラー報知処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-23】エラー報知処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 8-24】エラーの発生に応じて演出制御基板から V D P に対して出力するコマンドの説明図である。
- 【図 8-25】エラー報知の報知期間やエラー報知の切替タイミングを示すタイミングチャートである。
- 【図 8-26】遊技停止エラーが発生した場合の特別図柄、飾り図柄、小図柄、エラー報知画像の態様の説明図である。
- 【図 8-27】電断復旧画像表示処理の一例を示すフローチャートである。 20
- 【図 8-28】電断復旧時の特別図柄、飾り図柄、小図柄、電断復旧画像の態様の説明図である。
- 【図 8-29】画像表示装置の説明図である。
- 【図 8-30】変動表示中にエラーが発生した場合の画像表示装置の表示態様を示す図である。
- 【図 8-31】変動表示中に電断が発生した場合の画像表示装置の表示態様を示す図である。
- 【図 8-32】変形例 1 におけるパチンコ遊技機の背面図である。
- 【図 8-33】変形例 1 における演出制御基板の概略図である。
- 【図 8-34】変形例 1 における設定切替スイッチを示す図である。 30
- 【図 8-35】変形例 1 においてパチンコ遊技機 1 を節電モードに制御する際の画像表示装置の表示態様を示す図である。
- 【図 8-36】変形例 1 において可動体等の動作チェックを行う際の画像表示装置の表示態様を示す図である。
- 【図 8-37】変形例 2 における大当り遊技中の賞球表示の更新態様示す図である。
- 【図 8-38】変形例 2 における第 1 K T 状態での賞球表示の更新態様示す図である。
- 【図 8-39】変形例 2 における第 2 K T 状態での賞球表示の更新態様示す図である。
- 【図 9-1】変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。
- 【図 9-2】演出動作例を示す図である。
- 【図 9-3】演出動作例を示す図である。 40
- 【図 9-4】演出動作例を示す図である。
- 【図 9-5】演出動作例を示す図である。
- 【図 9-6】演出動作例を示す図である。
- 【図 9-7】演出動作例を示す図である。
- 【図 9-8】予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 9-9】予告演出決定処理における決定割合を示す図である。
- 【図 9-10】変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 9-11】変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 9-12】変形例の演出動作例を示す図である。
- 【図 10-1】パチンコ遊技機の回路構成例を示すブロック図である。 50

- 【図10-2】払出制御基板の回路構成を示すブロック図である。
- 【図10-3】パチンコ遊技機を示す背面図である。
- 【図10-4】表示結果判定テーブルを示す説明図である。
- 【図10-5】(A)は、主基板を簡略化した正面図、(B)は、表示モニタの表示内容を説明する説明図である。
- 【図10-6】主基板のRAMにおける記憶領域の一部の構成を示す説明図である。
- 【図10-7】主基板におけるCPUのメモリマップを示した図である。
- 【図10-8】主基板RAMの記憶領域に対応するRAM領域を示した図である。
- 【図10-9】(A)は、表示モニタに表示される項目の表示時間を示すタイムチャート、(B-1)～(B-6)は、表示モニタの表示内容の変化を説明する説明図である。 10
- 【図10-10】リングバッファの記憶領域に記憶されたデータの移動を説明する説明図である。
- 【図10-11】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-12】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-13】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-14】遊技制御用タイマ割込処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図10-15】設定変更モードにおける表示モニタの表示態様を示す説明図である。
- 【図10-16】設定確認モードにおける表示モニタの表示態様を示す説明図である。
- 【図10-17】(1)は、設定変更モードに制御された場合に画像表示装置に表示される情報を示す図、(2)は、設定確認モードに制御された場合に画像表示装置に表示される情報を示す図である。 20
- 【図10-18】(1)～(3)は、設定示唆演出の演出態様を示す説明図、(4)は、設定示唆演出の演出態様を決定するためのテーブルを示す説明図である。
- 【図10-19】遊技制御基板から払出制御基板に対して出力される制御信号の内容の一例を示す説明図である。
- 【図10-20】遊技制御基板と払出制御基板との間で送受信される制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。
- 【図10-21】制御信号および制御コマンドの送受信に用いられる信号線等を示すブロック図である。
- 【図10-22】通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すシーケンス図である。 30
- 【図10-23】払出制御用CPUが実行するメイン処理を示すフローチャートである。
- 【図10-24】払出制御用CPUが実行するタイマ割込処理を示すフローチャートである。
- 【図10-25】この実施形態における球貸制限方法の概要を示す説明図である。
- 【図10-26】カードユニットとパチンコ遊技機との間の通信を説明するためのタイミング図である。
- 【図10-27】第1の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-28】第2の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-29】第3の球貸制限方法を示すタイミング図である。 40
- 【図10-30】第4の球貸制限方法を示すタイミング図である。
- 【図10-31】設定変更モード中に球貸制限しない例を示すタイミング図である。
- 【図10-32】設定変更モード終了後に払出を再開する例を示すタイミング図である。
- 【図10-33】設定変更モードへの移行に伴い払出を強制終了する例を示すタイミング図である。
- 【図10-34】通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。
- 【図10-35】設定変更モードに制御されている期間における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。 50

【図10-36】遊技機用枠又はガラス扉枠が開放されている期間における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号の送受信を示すタイミング図である。

【図10-37】(1)は、設定値確定前に電源断が発生した場合の制御、(2)は、設定値確定後に電源断が発生した場合の制御を示す説明図である。

【図10-38】遊技中に設定変更操作が行われた場合の警告画面を示す図である。

【図10-39】各出力端子から出力される信号の説明図である。

【図10-40】セキュリティ信号及び設定変更対応信号の出力期間を示すタイミング図である。

【図10-41】設定値と設定変更対応信号の出力態様との関係を示す図である。

10

【図10-42】設定変更対応信号の出力態様及び出力期間を示すタイミング図である。

【図10-43】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図10-44】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0092】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機1の基本的な構成及び制御(一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。)について説明する。

【0093】

(パチンコ遊技機1の構成等)

20

図1は、パチンコ遊技機1の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機(遊技機)1は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤(ゲージ盤)2と、遊技盤2を支持固定する遊技機用枠(台枠)3とから構成されている。遊技盤2には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【0094】

遊技盤2の所定位置(図1に示す例では、遊技領域の右側方)には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄(特図ともいう)の可変表示(特図ゲームともいう)を行う第1特別図柄表示装置4A及び第2特別図柄表示装置4Bが設けられている。これらは、それぞれ、7セグメントのLEDなどからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LEDを全て消灯したパターンが含まれてもよい。

30

【0095】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである(後述の他の図柄についても同じ)。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1以上の図柄の変形、1以上の図柄の拡大/縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1以上の飾り図柄が変形や拡大/縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示(導出又は導出表示などともいう)される(後述の他の図柄の可変表示についても同じ)。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

40

【0096】

なお、第1特別図柄表示装置4Aにおいて可変表示される特別図柄を「第1特図」ともいい、第2特別図柄表示装置4Bにおいて可変表示される特別図柄を「第2特図」ともいう。また、第1特図を用いた特図ゲームを「第1特図ゲーム」といい、第2特図を用いた特図ゲームを「第2特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は1種類であってもよい。

【0097】

遊技盤2における遊技領域の中央付近には画像表示装置5が設けられている。画像表示

50

装置 5 は、例えば L C D（液晶表示装置）や有機 E L（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

【0098】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第 1 特図ゲーム又は第 2 特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

10

【0099】

画像表示装置 5 の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

【0100】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第 1 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 1 保留記憶数、第 2 特図ゲームに対応する保留記憶数を第 2 保留記憶数ともいう。また、第 1 保留記憶数と第 2 保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

【0101】

また、遊技盤 2 の所定位置には、複数の L E D を含んで構成された第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とが設けられ、第 1 保留表示器 2 5 A は、L E D の点灯個数によって、第 1 保留記憶数を表示し、第 2 保留表示器 2 5 B は、L E D の点灯個数によって、第 2 保留記憶数を表示する。

20

【0102】

画像表示装置 5 の下方には、入賞球装置 6 A と、可変入賞球装置 6 B とが設けられている。

【0103】

入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第 1 始動入賞口を形成する。第 1 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 1 特図ゲームが開始され得る。

30

【0104】

可変入賞球装置 6 B（普通電動役物）は、ソレノイド 8 1（図 2 参照）によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第 2 始動入賞口を形成する。可変入賞球装置 6 B は、例えば、一对の可動翼片を有する電動チューリップ型役物を備え、ソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動翼片が垂直位置となることにより、当該可動翼片の先端が入賞球装置 6 A に近接し、第 2 始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる（第 2 始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。）。その一方で、可変入賞球装置 6 B は、ソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動翼片が傾動位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる（第 2 始動入賞口が開放状態になるともいう。）。第 2 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 2 特図ゲームが開始され得る。なお、可変入賞球装置 6 B は、閉鎖状態と開放状態とに変化するものであればよく、電動チューリップ型役物を備えるものに限定されない。

40

【0105】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左右下方 4 箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口 1 0 が設けられる。この場合には、一般入賞口 1 0 のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0106】

50

入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B の下方には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、ソレノイド 8 2 (図 2 参照) によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。

【0107】

一例として、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用 (特別電動役物用) のソレノイド 8 2 がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口に進入 (通過) できなくなる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口に進入しやすくなる。

10

【0108】

大入賞口に遊技球が進入したときには、所定個数 (例えば 14 個) の遊技球が賞球として払い出される。大入賞口に遊技球が進入したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口及び一般入賞口 10 に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出される。

【0109】

一般入賞口 10 を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口 (第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口始動口) への入賞を始動入賞ともいう。

【0110】

遊技盤 2 の所定位置 (図 1 に示す例では、遊技領域の左側方) には、普通図柄表示器 20 が設けられている。一例として、普通図柄表示器 20 は、7 セグメントの LED などからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

20

【0111】

画像表示装置 5 の左方には、遊技球が通過可能な通過ゲート 41 が設けられている。遊技球が通過ゲート 41 を通過したことに基つき、普図ゲームが実行される。

【0112】

普通図柄表示器 20 の上方には、普図保留表示器 25 C が設けられている。普図保留表示器 25 C は、例えば 4 個の LED を含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数を LED の点灯個数により表示する。

30

【0113】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【0114】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の遊技効果ランプ 9 が設けられている。遊技効果ランプ 9 は、LED を含んで構成されている。

【0115】

遊技盤 2 の所定位置 (図 1 では図示略) には、演出に応じて動作する可動体 32 が設けられている。

40

【0116】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル (操作ノブ) 30 が設けられている。

【0117】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持 (貯留) する打球供給皿 (上皿) が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い

50

出される打球供給皿（下皿）が設けられている。

【0118】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ31Aが取り付けられている。スティックコントローラ31Aには、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ31Aに対する操作は、コントローラセンサユニット35A（図2参照）により検出される。

【0119】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン31Bが設けられている。プッシュボタン31Bに対する操作は、プッシュセンサ35B（図2参照）により検出される。

10

【0120】

パチンコ遊技機1では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bが設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【0121】

（遊技の進行の概略）

パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート41を通過すると、普通図柄表示器20による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート41を通過した場合（遊技球が通過ゲート41を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば4）まで保留される。

20

【0122】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置6Bを所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第2始動入賞口が開放状態になる）。

【0123】

入賞球装置6Aに形成された第1始動入賞口に遊技球が進入すると、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームが開始される。

30

【0124】

可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に遊技球が進入すると、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが開始される。

【0125】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態や小当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば4）までその実行が保留される。

40

【0126】

特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「ー」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0127】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

50

【0128】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0129】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（後述の、通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

10

【0130】

小当り遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。例えば、小当り遊技状態では、一部の大当り種別のときの大当り遊技状態と同様の開放態様（大入賞口の開放回数が上記ラウンド数と同じであり、かつ、大入賞口の閉鎖タイミングも同じ等）で大入賞口が開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

【0131】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

20

【0132】

時短状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

【0133】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

30

【0134】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変等）ともいう。

【0135】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、時短状態、確変状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率及び特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

40

【0136】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

50

【0137】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。なお、特図ゲームの表示結果として「小当り」がなくてもよい。

【0138】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0139】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、遊技効果ランプ9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

【0140】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0141】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【0142】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

【0143】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0144】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

10

20

30

40

50

【0145】

特図ゲームの表示結果が「小当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄（例えば、「1 3 5」等）が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別）の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

【0146】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄（「非リーチハズレ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる）ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチハズレ」ともいう）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる）こともある。

【0147】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

【0148】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0149】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当り種別）での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0150】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストラーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0151】

（基板構成）

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

10

20

30

40

50

【0152】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当り遊技状態、小当り遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

【0153】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM（Read Only Memory）101と、RAM（Random Access Memory）102と、CPU（Central Processing Unit）103と、乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105とを備える。 10

【0154】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板11の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。 20

【0155】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0156】

I/O105は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。 30

【0157】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッチ23）からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

【0158】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82に伝送する。 40

【0159】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板11における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当り種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

【0160】

演出制御基板 1 2 は、主基板 1 1 とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体 3 2 の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【0161】

演出制御基板 1 2 には、演出制御用 CPU 1 2 0 と、ROM 1 2 1 と、RAM 1 2 2 と、表示制御部 1 2 3 と、乱数回路 1 2 4 と、I/O 1 2 5 とが搭載されている。

【0162】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、ROM 1 2 1 に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部 1 2 3 とともに演出を実行するための処理（演出制御基板 1 2 の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM 1 2 1 が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 1 2 2 がメインメモリとして使用される。

【0163】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、コントローラセンサユニット 3 5 A やプッシュセンサ 3 5 B からの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部 1 2 3 に指示することもある。

【0164】

表示制御部 1 2 3 は、VDP (Video Display Processor)、CGROM (Character Generator ROM)、VRAM (Video RAM) などを備え、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0165】

表示制御部 1 2 3 は、演出制御用 CPU 1 2 0 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 1 2 3 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 9 の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 1 3 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 1 4 に供給したりする。また、表示制御部 1 2 3 は、可動体 3 2 を動作させる信号を当該可動体 3 2 又は当該可動体 3 2 を駆動する駆動回路に供給する。

【0166】

音声制御基板 1 3 は、スピーカ 8 L、8 R を駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ 8 L、8 R を駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ 8 L、8 R から出力させる。

【0167】

ランプ制御基板 1 4 は、遊技効果ランプ 9 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 9 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 9 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 1 2 3 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【0168】

なお、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体 3 2 の制御（可動体 3 2 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 1 2 0 が実行するようにしてもよい。

【0169】

乱数回路 1 2 4 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用 CPU 1 2 0 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0170】

演出制御基板 1 2 に搭載された I/O 1 2 5 は、例えば主基板 1 1 などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ラ

10

20

30

40

50

ンプ信号)を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0171】

演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14といった、主基板11以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機1のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0172】

(動作)

次に、パチンコ遊技機1の動作(作用)を説明する。

【0173】

(主基板11の主要な動作)

10

まず、主基板11における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機1に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理が実行される。図3は、主基板11におけるCPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【0174】

図3に示す遊技制御メイン処理では、CPU103は、まず、割込禁止に設定する(ステップS1)。続いて、必要な初期設定を行う(ステップS2)。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス(CTC(カウンタ/タイマ回路)、パラレル入出力ポート等)のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0175】

20

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する(ステップS3)。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号(クリア信号)が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合(ステップS3; Yes)、初期化处理(ステップS8)を実行する。初期化处理では、CPU103は、RAM102に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアするRAMクリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

【0176】

また、CPU103は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する(ステップS9)。演出制御用CPU120は、当該演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

30

【0177】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には(ステップS3; No)、RAM102(バックアップRAM)にバックアップデータが保存されているか否かを判定する(ステップS4)。不測の停電等(電断)によりパチンコ遊技機1への電力供給が停止したときには、CPU103は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号(チェックサム、パリティビット等)の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ(各種フラグ、各種タイマの状態等を含む)の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップS4では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフでRAM102にバックアップデータが記憶されていない場合(ステップS4; No)、初期化处理(ステップS8)を実行する。

40

【0178】

RAM102にバックアップデータが記憶されている場合(ステップS4; Yes)、CPU103は、バックアップしたデータのデータチェックを行い(誤り検出符号を用いて行われる)、データが正常か否かを判定する(ステップS5)。ステップS5では、例

50

えば、パリティビットやチェックサムにより、RAM 102のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、RAM 102のデータが正常であると判定する。

【0179】

RAM 102のデータが正常でないと判定された場合（ステップS5；No）、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化处理（ステップS8）を実行する。

【0180】

RAM 102のデータが正常であると判定された場合（ステップS5；Yes）、CPU 103は、主基板11の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理（ステップS6）を行う。復旧処理では、CPU 103は、RAM 102の記憶内容（バックアップしたデータの内容）に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であった場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

【0181】

そして、CPU 103は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する（ステップS7）。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であった場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用CPU 120は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用CPU 120は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

【0182】

復旧処理または初期化处理を終了して演出制御基板12に演出制御コマンドを送信した後は、CPU 103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS10）。そして、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い（ステップS11）、割込みを許可する（ステップS12）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば2ms）ごとにCTCから割込み要求信号がCPU 103へ送出され、CPU 103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0183】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU 103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図4のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図4に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU 103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップS21）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップS22）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報（大当りの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数等を示す情報）などのデータを出力する（ステップS23）。

【0184】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップS24）。この後、CPU 103は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップS25）。CPU 103がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行

及び保留の管理や、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される（詳しくは後述）。

【0185】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップS26）。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく（通過ゲート41に遊技球が通過したことに基

【0186】

づく）普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

【0187】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する（ステップS27）。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS27のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板

【0188】

に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後には、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

図5は、特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、始動入賞判定処理を実行する（ステップS101）。

【0189】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果（大当り種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後には、演出制御基板12に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

【0190】

S101にて始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110～S120の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS110～S120）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

ステップS110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かや「大当り」とする場合の大当り種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図2優先消化ともいう）。また、第1始動入賞口及び第2始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶

し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

【0191】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

【0192】

ステップS111の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

10

【0193】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

20

【0194】

ステップS112の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

【0195】

ステップS113の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“3”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“4”に更新される。その一方で、大当りフラグがオフであり、表示結果が「小当り」である場合には、特図プロセスフラグの値が“8”に更新される。また、表示結果が「ハズレ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「小当り」又は「ハズレ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

30

【0196】

ステップS114の大当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“4”のときに実行される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“5”に更新され、大当り開放前処理は終了する。

40

【0197】

ステップS115の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“5”のときに実

50

行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ23によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“6”に更新し、大当り開放中処理を終了する。

【0198】

ステップS116の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“7”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当り解放後処理は終了する。

【0199】

ステップS117の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“7”のときに実行される。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、大当り終了処理は終了する。

【0200】

ステップS118の小当り開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“8”のときに実行される。この小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基づき、小当り遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“9”に更新され、小当り開放前処理は終了する。

【0201】

ステップS119の小当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“9”のときに実行される。この小当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当り遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“10”に更新され、小当り開放中処理は終了する。

【0202】

ステップS120の小当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が“10”のときに実行される。この小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、小当り終了処理は終了する。

【0203】

(演出制御基板12の主要な動作)

次に、演出制御基板12における主要な動作を説明する。演出制御基板12では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用CPU120が起動して、図6のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図6に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用CPU120は、まず、所定の初期化処理を実行して(ステップS71)、RAM122のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板12に搭載されたCTC(カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理

を実行する（ステップ S 7 2）。初期動作制御処理では、可動体 3 2 を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体 3 2 の初期動作を行う制御が実行される。

【0204】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う（ステップ S 7 3）。タイマ割込みフラグは、例えば C T C のレジスタ設定に基づき、所定時間（例えば 2 ミリ秒）が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば（ステップ S 7 3 ; N o）、ステップ S 7 3 の処理を繰り返し実行して待機する。

【0205】

また、演出制御基板 1 2 の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板 1 1 からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板 1 1 からの演出制御 I N T 信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならない C P U を用いている場合には、割込み禁止命令（D I 命令）を発行することが望ましい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I / O 1 2 5 に含まれる入力ポートのうちで、中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【0206】

ステップ S 7 3 にてタイマ割込みフラグがオンである場合には（ステップ S 7 3 ; Y e s）、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに（ステップ S 7 4）、コマンド解析処理を実行する（ステップ S 7 5）。コマンド解析処理では、例えば主基板 1 1 の遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドを R A M 1 2 2 の所定領域に格納したり、R A M 1 2 2 に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部 1 2 3 に指示してもよい。

【0207】

ステップ S 7 5 にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する（ステップ S 7 6）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力動作、遊技効果ランプ 9 及び装飾用 L E D といった装飾発光体における点灯動作、可動体 3 2 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 1 1 から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0208】

ステップ S 7 6 の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップ S 7 7）、演出制御基板 1 2 の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップ S 7 3 の処理に戻る。ステップ S 7 3 の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

【0209】

図 7 は、演出制御プロセス処理として、図 6 のステップ S 7 6 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 7 に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用

10

20

30

40

50

C P U 1 2 0 は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップ S 1 6 1）。先読予告設定処理では、例えば、主基板 1 1 から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【0210】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ～ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

【0211】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“1”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【0212】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を“2”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

【0213】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8 L、8 R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 L E D を点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 1 1 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“3”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

【0214】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“3”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“6”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“4”に更新する。また、大当り遊技状態又

10

20

30

40

50

は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

【0215】

ステップS174の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“4”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板11から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“5”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

10

【0216】

ステップS175の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“5”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

【0217】

ステップS176の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“6”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板11から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“7”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

20

【0218】

ステップS177のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“7”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用CPU120は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“0”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

30

【0219】

(基本説明の変形例)

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機1に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

【0220】

上記基本説明のパチンコ遊技機1は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

40

【0221】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは1種類の図柄(例えば、「一」を示す記号)だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい(表示結果としては「一」を示す記号が表示されなくてもよい)。

【0222】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転さ

50

せ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、R T、A T、A R T、C Z（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

【0223】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機1に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。

10

【0224】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。

20

【0225】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0%」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0%」の割合で、他方が「100%」の割合又は「100%」未満の割合であることも含む。

【0226】

（本実施形態の特徴部に関する説明）

【0227】

次に、本実施の形態の特徴部について説明する。図8-1に示すように、本実施の形態の特徴部においては、遊技領域の左右下方4箇所に設けられた各一般入賞口10に入賞した遊技球を検出するための第1一般入賞口スイッチ107SG026A、第2一般入賞口スイッチ107SG026、第3一般入賞口スイッチ107SG026C、第4一般入賞口スイッチ107SG026Dを有しており、各一般入賞口スイッチはスイッチ回路110に接続されている。

30

【0228】

また、主基板11には、磁気を検出可能な磁気センサ107SG060、電波を検出可能な電波センサ107SG070、大入賞口扉の開放を検出可能な大入賞口扉センサ107SG091、上皿が遊技球で満タンになったことを検出可能な満タンセンサ107SG093、補給球が切れたことを検出可能な球切れセンサ107SG094が接続されている。

40

【0229】

また、演出制御基板12には、VDP107SG500が接続されている。演出制御用CPU120は、VDP107SG500に対して所定のコマンドを送信することによって、該VDP107SG500に画像表示装置107SG005における画像の表示制御を実行させることが可能となっている。

【0230】

遊技盤2における遊技領域の中央付近には、図8-29に示す画像表示装置107SG005が設けられている。画像表示装置107SG005は、例えばLCD（液晶表示装置）等から構成され、各種の演出画像を表示する表示領域を形成している。画像表示装置107SG005の表示領域では、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図の変動表示

50

や第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図の変動表示のそれぞれに対応して、例えば3つといった複数の変動表示部となる飾り図柄表示エリアにて、各々を識別可能な複数種類の識別情報（装飾識別情報）である飾り図柄（演出図柄とも言う）が変動表示される。

【0231】

一例として、画像表示装置107SG005の表示領域には、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rが配置されている。そして、特図ゲームにおいて第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図の変動と第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図の変動のうち、いずれかが開始されることに伴って、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにおいて飾り図柄の変動（例えば上下方向のスクロール表示）が開始される。その後、特図ゲームにおける変動表示結果として確定特別図柄が停止表示されるときに、画像表示装置107SG005における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにて、飾り図柄の変動表示結果となる確定飾り図柄（最終停止図柄）が停止表示される。

【0232】

このように、画像表示装置107SG005の表示領域では、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた変動表示、または、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた変動表示と同期して、各々が識別可能な複数種類の飾り図柄の変動表示を行い、変動表示結果となる確定飾り図柄を導出表示（あるいは単に「導出」ともいう）する。尚、例えば特別図柄や飾り図柄といった、各種の表示図柄を導出表示するとは、飾り図柄等の識別情報を停止表示（完全停止表示や最終停止表示ともいう）して変動表示を終了させることである。これに対して、飾り図柄の変動表示を開始してから変動表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでの変動表示中には、飾り図柄の変動速度が「0」となって、飾り図柄が停留して表示され、例えば微少な揺れや伸縮などを生じさせる表示状態となることがある。このような表示状態は、仮停止表示ともいい、変動表示における表示結果が確定的に表示されていないものの、スクロール表示や更新表示による飾り図柄の変動が進行していないことを遊技者が認識可能となる。尚、仮停止表示には、微少な揺れや伸縮なども生じさせず、所定時間（例えば1秒間）よりも短い時間だけ、飾り図柄を完全停止表示することなどが含まれてもよい。

【0233】

「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにて変動表示される飾り図柄には、例えば9種類の図柄（英数字「1」～「9」あるいは漢数字や、英文字、所定のモチーフに関連する9個のキャラクタ画像、数字や文字あるいは記号とキャラクタ画像との組合せなどであればよく、キャラクタ画像は、例えば人物や動物、これら以外の物体、もしくは、文字などの記号、あるいは、その他の任意の図形を示す飾り画像であればよい）で構成される。飾り図柄のそれぞれには、対応する図柄番号が付されている。例えば、「1」～「9」を示す英数字それぞれに対して、「1」～「9」の図柄番号が付されている。尚、飾り図柄は9種類に限定されず、大当たり組合せやハズレとなる組合せなど適当な数の組合せを構成可能であれば、何種類であってもよい（例えば8種類や10種類など）。

【0234】

飾り図柄の変動表示が開始された後、変動表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでには、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rにおいて、例えば図柄番号が小さいものから大きいものへと順次に上方から下方へと流れるようなスクロール表示が行われ、図柄番号が最大（例えば「9」）である飾り図柄が表示されると、続いて図柄番号が最小（例えば「1」）である飾り図柄が表示される。あるいは、飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rのうち少なくともいずれか1つ（例えば「左」の飾り図柄表示エリア5Lなど）において、図柄番号が大きいものから小さいものへとスク

ロール表示を行って、図柄番号が最小である飾り図柄が表示されると、続いて図柄番号が最大である飾り図柄が表示されるようにしてもよい。

【0235】

画像表示装置107SG005の表示領域の下部には、飾り図柄の変動表示中に可動体32の動作等によって遊技者からの視認性が損なわれない常時表示エリア107SG005Aとなっており、該常時表示エリア107SG005A内には、第1保留記憶表示エリア107SG005D及び第2保留記憶表示エリア107SG005Uが配置されている。ここで、各特別図柄に対応した変動表示の保留は、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口や、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を、遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生する。すなわち、特別図柄や飾り図柄の変動表示を実行するための始動条件（「実行条件」ともいう）は成立したが、先に成立した開始条件に基づく変動表示が実行中であることやパチンコ遊技機1が大当たり遊技状態に制御されていることなどにより、変動表示の開始を許容する開始条件が成立していないときに、成立した始動条件に対応する変動表示の保留が行われる。第1保留記憶表示エリア107SG005Dにおける保留表示は、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示であり、第2保留記憶表示エリア107SG005Uにおける保留表示は、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示である。また、常時表示エリア107SG005A内には、飾り図柄の変動表示と連動して変動する「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリアを含む小図柄表示エリア107SG005Sも配置されている。

【0236】

つまり、本実施の形態の特徴部における第1保留記憶表示エリア107SG005D、第2保留記憶表示エリア107SG005U、小図柄表示エリア107SG005Sは、飾り図柄の変動表示中に可動体32の動作等によって遮られることなく遊技者から視認可能な位置に配置されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら第1保留記憶表示エリア107SG005D、第2保留記憶表示エリア107SG005U、小図柄表示エリア107SG005Sの少なくとも一部は、飾り図柄の変動表示中に可動体32の動作等によって遮られる位置に配置されていてもよい。

【0237】

本実施の形態の特徴部では、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示を丸型の白色表示（第1保留記憶表示エリア107SG005Dに表示される保留記憶表示）とし、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示を丸型の白色表示（第2保留記憶表示エリア107SG005Uに表示される保留記憶表示）とする。尚、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示と、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）することによる始動入賞に基づいて発生した保留表示と、の表示態様は、異なる表示態様であってもよい。

【0238】

図8-2（A）は、本実施の形態の特徴部で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば2バイト構成であり、1バイト目はMODE（コマンドの分類）を示し、2バイト目はEXT（コマンドの種類）を表す。MODEデータの先頭ビット（ビット7）は必ず「1」とされ、EXTデータの先頭ビットは「0」とされる。尚、図8-2（A）に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが2つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1であってもよいし、3以上の複数であってもよい。

【0239】

図8-2（A）に示す例において、コマンド8001Hは、第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲームにおける変動開始を指定する第1変動開始コマンドである。コマンド8002Hは、第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特

図ゲームにおける変動開始を指定する第2変動開始コマンドである。コマンド81XXHは、特図ゲームにおける特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置107SG005における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rで変動表示される飾り図柄などの変動パターン（変動時間）を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXHは不特定の16進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。尚、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なるEXTデータが設定される。

【0240】

コマンド8CXXHは、変動表示結果通知コマンドであり、特別図柄や飾り図柄などの変動表示結果を指定する演出制御コマンドである。変動表示結果通知コマンドでは、例えば図8-2(B)に示すように、変動表示結果が「ハズレ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果（事前決定結果）や、変動表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当たり種別決定結果）に応じて、異なるEXTデータが設定される。

【0241】

変動表示結果通知コマンドでは、例えば図8-2(B)に示すように、コマンド8C00Hは、変動表示結果が「ハズレ」となる旨の事前決定結果を示す第1変動表示結果指定コマンドである。コマンド8C01Hは、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりA」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第2変動表示結果指定コマンドである。コマンド8C02Hは、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりB」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第3変動表示結果指定コマンドである。コマンド8C03Hは、変動表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりC」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第4変動表示結果指定コマンドである。コマンド8C04Hは、変動表示結果が「小当たりA」となる旨の事前決定結果を通知する第5変動表示結果指定コマンドである。コマンド8C05Hは、変動表示結果が「小当たりB」となる旨の事前決定結果を通知する第6変動表示結果指定コマンドである。

【0242】

コマンド8F00Hは、画像表示装置107SG005における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005Rで飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンドである。コマンド95XXHは、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機1における現在の遊技状態に応じて、異なるEXTデータが設定される。具体的な一例として、コマンド9500Hを時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第1遊技状態指定コマンドとし、コマンド9501Hを時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第2遊技状態指定コマンドとする。

【0243】

コマンド96XXHは、パチンコ遊技機1においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応するEXTデータが設定されることにより、演出制御基板12側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、後述するエラー報知処理によって報知される。

【0244】

コマンドA0XXHは、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンドA1XXHは、大当たり遊技状態または小当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマン

10

20

30

40

50

ド A 2 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【0245】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば変動表示結果通知コマンドと同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、変動表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当り遊技状態または小当り遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

10

【0246】

コマンド B 1 0 0 H は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基づき、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基づき、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

20

【0247】

コマンド C 1 X X H は、第 1 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 D などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、第 2 保留記憶表示エリア 1 0 7 S G 0 0 5 U などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。第 1 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことに基づいて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことに基づいて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。また、第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

30

【0248】

第 1 保留記憶数通知コマンドや第 2 保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

40

【0249】

コマンド C 4 X X H 及びコマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンド C 4 X X H は、入賞時判定結果として、変動表示結果が「大当り」となるか否か及び大当り種別（確変や非確変や突確）の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果として、変動パターン判定用の乱数値 M R 3 が、「非リーチ」、「スーパリーチ」、「その他」のいずれの変動パターンとなるかの判定結果を示す変動カテゴリコマンドである。

50

【0250】

コマンドC700Hは、パチンコ遊技機1が電断された状態から復旧したことを示す演出制御コマンド（電断復旧通知コマンド）である。

【0251】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM（Read Only Memory）101と、遊技制御用のワークエリアを提供するRAM（Random Access Memory）102と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行うCPU（Central Processing Unit）103と、CPU103とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105と、時刻情報を出
10

【0252】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU103がROM101から読み出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU103がROM101から固定データを読み出す固定データ読出動作や、CPU103がRAM102に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU103がRAM102に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部から各種信号の入力を受付ける受信動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピ
20

【0253】

図8-3は、主基板11の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図8-3に示すように、この実施の形態では、主基板11の側において、特図表示結果判定用の乱数値MR1の他、大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3、普図表示結果判定用の乱数値MR4のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。尚、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値MR1~MR4は、CPU103にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路104によって更新されてもよい。乱数回路104は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。
30

【0254】

図8-4は、本実施の形態の特徴部における変動パターンを示している。本実施の形態では、変動表示結果が「ハズレ」となる場合のうち、飾り図柄の変動表示態様が「非リーチ」である場合と「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、変動表示結果が「大当たり」となる場合などに対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。また、変動表示結果が「小当たり」となる場合などに対応して、1の変動パターンが予め用意されている。尚、変動表示結果が「ハズレ」で飾り図柄の変動表示態様が「非リーチ」である
40

場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（「非リーチハズレ変動パターン」ともいう）と称され、変動表示結果が「ハズレ」で飾り図柄の変動表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（「リーチハズレ変動パターン」ともいう）と称される。また、非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、変動表示結果が「ハズレ」となる場合に対応したハズレ変動パターンに含まれる。変動表示結果が「大当たり」である場合に対応した変動パターンは、大当たり変動パターンと称される。変動表示結果が「小当たり」または変動表示結果が「大当たり」であり大当たり種別が後述する「確変大当たりC」である場合に対応した変動パターンは、特殊当たり変動パターンと称される。

【0255】

10

20

30

40

50

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。尚、本実施の形態の特徴部では、ノーマルリーチ変動パターンとスーパーリーチ変動パターンとを1種類のみしか設けていないが、本発明はこれに限定されるものではなく、複数のノーマルリーチ変動パターンやスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

【0256】

図8-4に示すように、本実施の形態の特徴部におけるノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチ変動パターンよりも短く設定されている。

10

【0257】

尚、本実施の形態の特徴部では、前述したようにスーパーリーチ、ノーマルリーチの順に変動表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。

【0258】

遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるROM101には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のテーブルデータなどが記憶されている。例えば、ROM101には、CPU103が各種の判定や決定を行うために用意された、図8-5～図8-7などに示す複数の判定テーブルを構成するテーブルデータが記憶されている。また、ROM101には、CPU103が主基板11から各種の制御信号を出力させるために用いられる複数の制御パターンテーブルを構成するテーブルデータや、特別図柄や普通図柄などの変動表示における各図柄の変動態様となる変動パターンを複数種類格納する変動パターンテーブルなどが記憶されている。

20

【0259】

ROM101が記憶する判定テーブルには、例えば、通常大当たり変動パターン判定テーブル(図示略)、確変大当たり変動パターン判定テーブル(図示略)、小当たり変動パターン判定テーブル(図示略)、ハズレ変動パターン判定テーブル(図示略)、図8-6(A)に示す表示結果判定テーブル1、図8-6(B)に示す表示結果判定テーブル2、図8-7(A)に示す大当たり種別判定テーブル等が含まれている。

30

【0260】

図8-5に示すように、本実施の形態の特徴部においては、変動表示結果が大当たりであるか否かや、大当たり種別、変動表示結果が小当たりであるか否か、保留記憶数等に応じて選択する変動パターン判定テーブルが異なっている。

【0261】

具体的には、図8-5に示すように、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する非確変大当たりである場合は、大当たり用変動パターン判定テーブルAが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、50%の割合でノーマルリーチ大当たりの変動パターン(PB1-1)が選択され、50%の割合でスーパーリーチ大当たりの変動パターン(PB1-2)が選択される。また、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する確変大当たりAや確変大当たりBである場合は、大当たり用変動パターン判定テーブルBが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、25%の割合でノーマルリーチ大当たりの変動パターン(PB1-1)が選択され、75%の割合でスーパーリーチ大当たりの変動パターン(PB1-2)が選択される。

40

【0262】

また、変動表示結果が大当たりであり、大当たり種別が後述する確変大当たりCである場合、または、変動表示結果が小当たりである場合は、特殊当たり用変動パターン判定テーブルが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、100%の割合で特殊当たりの変動パターン(PC1-1)が選択される。

【0263】

50

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が1または2個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルAが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、60%の割合で短縮無しの非リーチハズレの変動パターン(PA1-1)が選択され、30%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0264】

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が3個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルBが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、70%の割合で短縮無しの非リーチハズレの変動パターンよりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)が選択され、20%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

10

【0265】

また、変動表示結果がハズレであり、変動特図の保留記憶数が4個である場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルCが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、80%の割合で短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)よりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)が選択され、10%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0266】

20

また、時短状態(高ベース状態)において変動表示結果がハズレである場合は、ハズレ用変動パターン判定テーブルDが選択され、変動表示を実行する変動パターンとして、80%の割合で短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)よりも変動時間が短い短縮非リーチハズレの変動パターン(PA1-4)が選択され、10%の割合でノーマルリーチハズレの変動パターン(PA2-1)が選択され、10%の割合でスーパーリーチハズレの変動パターン(PA2-2)が選択される。

【0267】

このように、本実施の形態の特徴部では、スーパーリーチ、ノーマルリーチ、非リーチの順に変動表示結果が「大当り」となる大当り期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当り期待度が高くなっている。更に、変動表示結果が大当りとなる場合は、大当り種別が「確変大当りA」や「確変大当りB」となる場合の方が大当り種別が「非確変大当り」となる場合よりも高い割合で変動表示がスーパーリーチの変動パターンにて実行されるので、変動表示がスーパーリーチの変動パターンにて実行されることによって、大当り種別が「確変大当りA」や「確変大当りB」となるかに対して遊技者を注目させることができる。

30

【0268】

また、図8-4に示すように、短縮なしの非リーチハズレの変動パターン(PA1-1)よりも非リーチハズレの変動パターン(PA1-2)の方が変動時間は短く、更に、変動パターン(PA1-2)よりも非リーチハズレの変動パターン(PA1-3)の方が変動時間は短い。よって、保留記憶数が増加した場合には、変動時間が短い非リーチハズレの変動パターンが決定されることにより、保留記憶が消化されやすくなって、保留記憶数が上限数である4に達しているときに始動入賞することで、保留記憶がなされない無駄な始動入賞が発生し難くなるようになるとともに、保留記憶数が減少した場合には、変動時間が長い短縮なしの非リーチハズレの変動パターン(PA1-1)が決定されることによって、変動表示の時間が長くなることにより、変動表示が実行されないことによる遊技の興趣低下を防ぐことができるようになる。

40

【0269】

図8-6(A)は、第1特別図柄用の表示結果判定テーブル1を示す説明図であり、図8-6(B)は、第2特別図柄用の表示結果判定テーブル2を示す説明図である。これら

50

表示結果判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、MR1と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。

【0270】

本実施の形態の特徴部における特図表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が通常状態または時短状態（低確状態）であるか、確変状態（高確状態）であるかに応じて、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される数値（判定値）が、「大当り」や「小当り」、「ハズレ」の特図表示結果に割り当てられている。

【0271】

各特図表示結果判定テーブルにおいて、特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される判定値を示すテーブルデータは、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かや、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられる判定用データとなっている。本実施の形態の特徴部における各特図表示結果判定テーブルでは、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態または時短状態（低確状態）であるときよりも多くの判定値が、「大当り」の特図表示結果に割り当てられている。これにより、パチンコ遊技機1において確変制御が行われる確変状態（高確状態）では、通常状態または時短状態（低確状態）であるときに特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率（約1/300）に比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなる（約1/30）。即ち、各特図表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機1における遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態や時短状態であるときに比べて大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように、判定用データが大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられている。

【0272】

尚、図8-6（A）及び図8-6（B）に示すように、変動特図が第1特別図柄である場合は、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率（約1/100）が有るのに対して、変動特図が第2特別図柄である場合は、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定されることが無いように判定値が割り当てられている。

【0273】

図8-7（A）は、ROM101に記憶されている大当り種別判定テーブルを示す説明図である。

【0274】

大当り種別判定テーブルは、変動表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数（MR2）に基づいて、大当りの種別を「非確変大当り」、「確変大当りA」～「確変大当りC」のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0275】

ここで、本実施の形態における大当り種別について、図8-7（B）を用いて説明すると、本実施の形態の特徴部では、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において高確制御と時短制御とが実行されて高確高ベース状態に移行する確変大当りAや確変大当りBと、大当り遊技状態の終了後において高確制御が実行されるが時短制御が実行されない高確低ベース状態に移行する確変大当りCと、大当り遊技状態の終了後において時短制御のみが実行されて低確高ベース状態に移行する非確変大当りとが設定されている。

【0276】

「確変大当りA」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが16回（いわゆる16ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。一方、「確変大当りB」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが5回（いわゆる5ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。また、「非確変大当り」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウ

ンドが16回（いわゆる16ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当りである。よって、「確変大当りA」を16ラウンド（16R）確変大当りと呼称し、「確変大当りB」を5ラウンド（5R）確変大当り、「非確変大当り」を16ラウンド（16R）非確変大当りと呼称する場合がある。更に、「確変大当りC」による大当り遊技は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが2回（いわゆる2ラウンド）繰返し実行されるとともに、各ラウンドでの特別可変入賞球装置7の開放期間が他の大当り遊技よりも短い（例えば、0.1秒）高速開放大当りである。尚、いずれの大当り種別の大当り遊技中においても、確変制御や時短制御は実行されないようになっている。

【0277】

また、特に図示はしないが、本実施の形態の特徴部における小当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に2回変化させるとともに、該開放時間が確変大当りCと同じ開放期間（本実施の形態では0.1秒）となっている。尚、小当り遊技の終了後は、該小当り遊技直前の遊技状態が引き継がれる。

【0278】

つまり、本実施の形態の特徴部においては、変動表示結果が「確変大当りC」となった場合と「小当り」となった場合とでは、同じ変動パターンにて変動表示が実行されるとともに、特別可変入賞球装置7の開放パターンが同一となっているため、確変大当りCの大当り遊技や小当り遊技の終了後、遊技者に対して確変制御が実行されていることに期待させつつ遊技を続行させることが可能となっている。

【0279】

確変大当りAや確変大当りBの大当り遊技状態の終了後において実行される高確制御と時短制御は、該大当り遊技状態の終了後において再度大当りが発生するまで継続して実行される。よって、再度発生した大当りが確変大当りAや確変大当りBである場合には、大当り遊技状態の終了後に再度、高確制御と時短制御が実行されるので、大当り遊技状態が通常状態を介することなく連続的に発生する、いわゆる連荘状態となる。

【0280】

一方、「非確変大当り」による大当り遊技状態の終了後において実行される時短制御は、所定回数（本実施の形態の特徴部では100回）の特図ゲームが実行されること、或いは該所定回数の特図ゲームが実行される前に大当り遊技状態となることにより終了する。

【0281】

図8-7（A）に示す大当り種別判定テーブルの設定例では、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて、「確変大当りA」、「確変大当りB」、「確変大当りC」、「非確変大当り」の大当り種別に対する判定値の割当てが異なっている。即ち、変動特図が第1特図である場合には、所定範囲の判定値（「81」～「100」の範囲の値）がラウンド数の少ない「確変大当りB」や「確変大当りC」の大当り種別に割り当てられる一方で、変動特図が第2特図である場合には、「確変大当りB」や「確変大当りC」の大当り種別に対して判定値が割り当てられていない。このような設定により、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームを開始するための第1開始条件が成立したことに基いて大当り種別を複数種類のいずれかに決定する場合と、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームを開始するための第2開始条件が成立したことに基いて大当り種別を複数種類のいずれかに決定する場合とで、大当り種別をラウンド数の少ない「確変大当りB」や「確変大当りC」に決定する割合を、異ならせることができる。特に、第2特図を用いた特図ゲームでは大当り種別を「確変大当りB」や「確変大当りC」としてラウンド数の少ない通常開放大当り状態や高速開放大当り状態に制御すると決定されることがないので、例えば時短制御に伴う高開放制御により、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に遊技球が進入しやすい高ベース状態において、得られる賞球が少ない大当り状態の頻発を回避して遊技興趣が低下してしまうことを防止できるようになっている。

【0282】

尚、図 8-7 (A) に示す大当り種別判定テーブルの設定例では、「非確変」の大当り種別に対する判定値の割当ては、変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかに係わらず同一とされているので、非確変の大当りとなる確率と確変の大当りとなる確率は、変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかにかかわらず同一とされている。

【0283】

よって、前述したように、「確変大当り B」や「確変大当り C」に対する判定値の割り当てが、変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかに応じて異なることに応じて、「確変大当り A」に対する判定値の割り当ても変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかに応じて異なり、ラウンド数の多い「確変大当り A」については、変動特図が第 2 特図である場合の方が第 1 特図である場合よりも決定され易くなるように設定されている。

10

【0284】

尚、変動特図が第 2 特図である場合にも、変動特図が第 1 特図である場合とは異なる所定範囲の判定値が、「確変大当り B」や「確変大当り C」の大当り種別に割り当てられるようにしてもよい。例えば、変動特図が第 2 特図である場合には、変動特図が第 1 特図である場合に比べて少ない判定値が、「確変大当り B」や「確変大当り C」の大当り種別に割り当てられてもよい。あるいは、変動特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかにかかわらず、共通のテーブルデータを参照して、大当り種別の決定を行うようにしてもよい。

【0285】

本実施の形態の特徴部における RAM 102 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域として、例えば図 8-8 に示すような遊技制御用データ保持エリア 107SG150 が設けられている。図 8-8 に示す遊技制御用データ保持エリア 107SG150 は、第 1 特図保留記憶部 107SG151A と、第 2 特図保留記憶部 107SG151B と、普図保留記憶部 107SG151C と、遊技制御フラグ設定部 107SG152 と、遊技制御タイマ設定部 107SG153 と、遊技制御カウンタ設定部 107SG154 と、遊技制御パッファ設定部 107SG155 とを備えている。

20

【0286】

第 1 特図保留記憶部 107SG151A は、入賞球装置 6A が形成する第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第 1 特別図柄表示装置 4A における第 1 特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第 1 特図保留記憶部 107SG151A は、第 1 始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第 1 始動条件の成立に基づいて CPU 103 により乱数回路 104 等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値 MR1 や大当り種別判定用の乱数値 MR2、変動パターン判定用の乱数値 MR3 を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第 1 特図保留記憶部 107SG151A に記憶された保留データは、第 1 特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当りとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

30

【0287】

第 2 特図保留記憶部 107SG151B は、可変入賞球装置 107SG006B が形成する第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第 2 特別図柄表示装置 4B における第 2 特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第 2 特図保留記憶部 107SG151B は、第 2 始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第 2 始動条件の成立に基づいて CPU 103 により乱数回路 104 等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値 MR1 や大当り種別判定用の乱数値 MR2、変動パターン判定用の乱数値 MR3 を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第 2 特図保留記憶部 107SG151B に記憶された保留データは、第 2 特図を用いた特図ゲームの

40

50

実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける変動表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【0288】

尚、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第1始動条件の成立に基づく保留情報（第1保留情報）と、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第2始動入賞の成立に基づく保留情報（第2保留情報）とを、共通の保留記憶部にて保留番号と対応付けて記憶するようにしてもよい。この場合には、第1始動入賞口と第2始動入賞口のいずれを遊技球が通過（進入）したかを示す始動口データを保留情報に含め、保留番号と対応付けて記憶させればよい。

【0289】

普図保留記憶部107SG151Cは、通過ゲート107SG041を通過した遊技球がゲートスイッチ21によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器20により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部107SG151Cは、遊技球が通過ゲート107SG041を通過（入賞）した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値MR4を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

【0290】

遊技制御フラグ設定部107SG152には、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部107SG152には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【0291】

遊技制御タイマ設定部107SG153には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部107SG153には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【0292】

遊技制御カウンタ設定部107SG154には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるカウント値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部107SG154には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部107SG154には、遊技用乱数の一部または全部をCPU103がソフトウェアにより更新可能にカウントするためのランダムカウンタが設けられてもよい。

【0293】

遊技制御カウンタ設定部107SG154のランダムカウンタには、乱数回路104で生成されない乱数値、例えば、乱数値MR2～MR4を示す数値データが、ランダムカウント値として記憶され、CPU103によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。CPU103がランダムカウント値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウント値を乱数回路104における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路104から抽出された数値データの全部または一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウント値を更新するためのものであってもよい。

【0294】

遊技制御バッファ設定部107SG155には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部107SG155には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【0295】

図8-1に示す演出制御基板12に搭載されたRAM122には、演出動作を制御する

10

20

30

40

50

ために用いられる各種データを保持する領域として、例えば図 8-9 (A) に示すような演出制御用データ保持エリア 107SG190 が設けられている。図 9 (A) に示す演出制御用データ保持エリア 107SG190 は、演出制御フラグ設定部 107SG191 と、演出制御タイマ設定部 107SG192 と、演出制御カウンタ設定部 107SG193 と、演出制御バッファ設定部 107SG194 とを備えている。

【0296】

演出制御フラグ設定部 107SG191 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示状態などといった演出動作状態や主基板 11 から送信された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部 107SG191 には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

10

【0297】

演出制御タイマ設定部 107SG192 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示動作などといった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部 107SG192 には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【0298】

演出制御カウンタ設定部 107SG193 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部 107SG193 には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

20

【0299】

演出制御バッファ設定部 107SG194 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部 107SG194 には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【0300】

本実施の形態の特徴部では、図 8-9 (B) に示すような始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A を構成するデータが、演出制御バッファ設定部 107SG194 の所定領域に記憶される。始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A には、第 1 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「1-1」～「1-4」に対応した領域）と、変動表示中の第 1 特図に対応した格納領域（バッファ番号「1-0」に対応した領域）とが設けられている。また、始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A には、第 2 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「2-1」～「2-4」に対応した領域）と、変動表示中の第 2 特図に対応した格納領域（バッファ番号「2-0」に対応した領域）とが設けられている。第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド（第 1 始動口入賞指定コマンドまたは第 2 始動口入賞指定コマンド）、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド及び保留記憶数通知コマンド（第 1 保留記憶数通知コマンドまたは第 2 保留記憶数通知コマンド）という 4 つのコマンドが 1 セットとして、主基板 11 から演出制御基板 12 へと送信される。始動入賞時受信コマンドバッファ 107SG194A における第 1 特図保留記憶に対応した格納領域と第 2 特図保留記憶に対応した格納領域は、これらの始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドを対応付けて、第 1 特図保留記憶と第 2 特図保留記憶とに分けて格納するための格納領域（エントリ）が確保されている。

30

40

【0301】

これら格納領域（エントリ）の記憶内容は、開始条件が成立して最上位の保留記憶（バッファ番号「1-1」またはバッファ番号「2-1」）の変動表示が開始されるときに、後述するように 1 つずつ上位にシフトされていくとともに、該開始条件が成立した保留記

50

憶の内容を格納するバッファ番号「1-0」またはバッファ番号「2-0」の記憶内容は、当該変動表示を終了するときに行われる飾り図柄変動停止処理においてクリアされるようになっている。

【0302】

更に、本実施の形態における特徴部の始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aには、先読予告設定処理（図7）において、先読予告としての保留表示予告演出の実行の有無の決定に伴う表示パターンの決定が未決定であるか否か、つまり、新たな始動入賞の発生によって、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドが新たに格納されたことにより表示パターンの決定が未決定である旨を示す表示未決定フラグと、保留記憶表示の表示パターン（表示態様）に応じたフラグ値がセットされる保留表示フラグと、を第1特図保留記憶及び第2特図保留記憶に対応する各バッファ番号に対応付けて格納できるように記憶領域が、各格納領域（エントリ）毎に確保されている。

【0303】

尚、保留表示フラグには、先読予告設定処理（図7）において、保留表示予告演出の実行が決定されなかった場合には、通常の保留記憶表示の表示パターンに対応する「0」が格納されることで、通常の表示態様（例えば、白抜き○）の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア5D、第2保留記憶表示エリア5Uに表示され、保留表示予告演出の実行が決定された場合には、通常の表示態様とは異なる特別態様（例えば、四角形（◇）や星（☆））の保留記憶表示の表示パターンに対応する「1」（四角形（◇））または「2」（星（☆））がセットされることで、通常の表示態様とは異なる特別態様の保留記憶表示が第1保留記憶表示エリア5D、第2保留記憶表示エリア5Uに表示されて、該保留記憶表示に対応する変動表示において、大当たりとなる可能性やスーパーリーチとなる可能性が高いことが予告されるようになっている。

【0304】

演出制御用CPU120は、第1始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aの第1特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していき、第2始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aの第2特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していく。始動入賞時には、始動口入賞指定コマンドから保留記憶数通知コマンドまでが順次送信される。従って、コマンド受信が行われれば、第1特図保留記憶または第2特図保留記憶に対応するバッファ番号の末尾「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、始動口入賞指定コマンド、図柄指定コマンド、変動カテゴリ指定コマンド、保留記憶数通知コマンドの順に格納されていくことになる。

【0305】

図8-9（B）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aに格納されているコマンドは、飾り図柄の変動表示を開始するごとに、直前に終了した変動表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1-0」または「2-0」のエントリ）に格納されているものが削除されるとともに、該開始する変動表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1-1」または「2-1」に対応したエントリ）に格納されているものと、該開始する変動表示の保留記憶以降のエントリの記憶内容がシフトされる。例えば図8-9（B）に示す格納状態において第1特図保留記憶の飾り図柄の変動表示が終了した場合には、バッファ番号「0」に格納されている各コマンドが削除され、バッファ番号「1」に格納されている各コマンドがバッファ番号「0」にシフトされるとともに、バッファ番号「2」に対応した領域にて格納されている各コマンドがバッファ番号「1」に対応した領域にシフトされ、バッファ番号「3」、「4」のそれぞれに対応した領域にて格納されている各コマンドが、バッファ番号「2」、「3」に対応した領域にシフトされる。よって、バッファ番号「0」は、その時点において変動表示されている保留記憶に関する各コマンドを格納するための領域（エントリ）となる。

【0306】

次に、本実施の形態の特徴部における遊技制御用タイマ割込み処理について説明する。図8-10に示すように、CPU103は、遊技制御用タイマ割込み処理において先ず電源断検出処理(107SGS020)を実行した後、スイッチ処理(S21)～コマンド制御処理(S27)の処理を実行する。図8-11に示すように、電源断検出処理において、CPU103は、先ず、電源基板(図示略)からの電源電圧が所定値以下に低下したことを示す電源断信号の入力が有るか否かを判定する(107SGS051)。電源断信号の入力が無い場合は(107SGS051;N)、処理を終了し、電源断信号の入力が有る場合は(107SGS051;Y)、バックアップデータを特定し(107SGS053)、該特定したバックアップデータをRAM102に設けられたバックアップデータ記憶領域に格納する(107SGS053)。そして、バックアップデータを復旧させるときに用いるチェックデータを作成し、バックアップデータ記憶領域に格納した後(107SGS054)、パチンコ遊技機1が電断するまでいずれの処理も実行しないループ処理に移行する。

【0307】

次に、本実施の形態における特徴部のメイン側エラー処理(S22、図4参照)について説明する。8-12に示すように、メイン側エラー処理においてCPU103は、先ず、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、磁気センサ107SG060、電波センサ107SG070、扉開放センサ107SG090、大入賞口扉センサ107SG091、満タンセンサ107SG093、球切れセンサ107SG094、コントローラセンサユニット35A等の検出状況を参照し、異常が発生しているか否かを判定する異常判定処理を実行し(107SG40)、異常が発生していると判定した場合には、該判定した異常を特定する(107SGS403)。

【0308】

例えば、図8-15に示すように、CPU103は、電波センサ107SG070が所定の電波を検出したことにもとづいて電波エラーの発生を特定し、磁気センサ107SG060が所定の強さ以上の磁気を検出したことにもとづいて磁気エラーの発生を特定し、特別可変入賞球装置7が大当り遊技中や小当り遊技中以外で開放している、つまり、大入賞口扉センサ107SG091が大当り遊技中や小当り遊技中以外で大入賞口扉の開放を検出したことにもとづいて遊技球誘導蓋作動エラーの発生を特定し、低ベース状態において第2始動入賞が発生したこと(低ベース状態において第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出したこと)にもとづいて始動口2異常入賞エラーが発生したことを特定し、コントローラセンサユニット35Aがスティックコントローラ31Aの操作を検出できないこと等の異常を検出したことにもとづいてコントローラ接続エラーの発生を特定し、扉開放センサ107SG090が遊技機用枠3の開放を検出したことにもとづいてドア開放エラーが発生したことを特定し、球切れセンサ107SG094が補給球が切れたことを検出したことにもとづいて球切れエラーが発生したことを特定する。

【0309】

これらエラーには優先順位が設定されており、複数のエラーが重複して発生した場合には、詳細は後述するが、原則的に該優先順位の最も高いエラーのみが報知されるようになっている。これらエラーのうち優先順位が上位3位以内のエラー(電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー)は、発生した時点で遊技が停止するエラー(遊技停止エラー)である。これら遊技停止エラーが発生した場合は、パチンコ遊技機1の電源を一旦OFFにした後、パチンコ遊技機1に再び電源を投入する(パチンコ遊技機1を再起動させる)ことによって遊技停止エラーが解除される。つまり、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラーの解除条件は、パチンコ遊技機1の電源をOFFとすることである。

【0310】

これら優先順位が上位3位以内のエラー(遊技停止エラー)が発生した場合は、ターミナル基板16からパチンコ遊技機1が設置されている遊技場に設けられている管理コンピュータや各台計数機等の管理装置に対して、ターミナル基板16からセキュリティ信号が

出力される。尚、この場合のセキュリティ信号は、遊技停止エラーが発生してからパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘って管理装置に対して出力される。

【0311】

尚、これらエラーのうち優先順位が4位以下のエラーについては、発生するエラー毎に解除条件とセキュリティ信号の出力態様が異なっている。具体的には、始動口2異常入賞エラーが発生した場合は、発生から300秒の経過にもとづいて該始動口2異常入賞エラーが解除され、発生から4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。不正入賞エラーが発生した場合は、発生から30秒の経過にもとづいて該不正入賞エラーが解除され、発生からパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。コントローラ接続エラーが発生した場合は、発生から60秒の経過にもとづいて該コントローラ接続エラーが解除され、発生からパチンコ遊技機1の電源がOFFとなるまでと、パチンコ遊技機1に電源が再投入されてから4分間に亘ってセキュリティ信号の出力が行われる。ドア開放エラーが発生した場合は、ドア（遊技機用枠3）の閉鎖にもとづいて該ドア開放エラーが解除され、セキュリティ信号の出力は行われない。球切れエラーが発生した場合は、該球切れエラーの解除（補給球が供給されたこと）にもとづいて該球切れエラーが解除され、セキュリティ信号の出力は行われない。

【0312】

図8-12に戻り、CPU103は、判定した異常が遊技停止該当エラーであるか否か、つまり、判定したエラーが図8-15に示す電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかであるか否かを判定する（107SGS404）。判定した異常が遊技停止該当エラーでない場合（107SGS404；N）は107SGS407に進み、判定した異常が遊技停止該当エラーである場合（107SGS404；Y）は、既に遊技が停止されていることを示す遊技停止フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS405）。遊技停止フラグがセットされている場合（107SGS405；Y）は107SGS407に進み、遊技停止フラグがセットされていない場合（107SGS405；N）は、遊技球の発射を禁止することによって遊技を停止し、遊技停止フラグをセットして107SGS407に進む（107SGS406）。

【0313】

107SGS407においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に電波エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に電波エラーが含まれていない場合（107SGS407；N）は107SGS410に進み、特定した異常に電波エラーが含まれている場合（107SGS407；Y）は、既に電波エラーが発生していることを示す電波エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS408）。電波エラーフラグがセットされている場合（107SGS408；Y）は107SGS410に進み、電波エラーフラグがセットされていない場合（107SGS408；N）は、電波エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、電波エラーフラグをセットして107SGS410に進む（107SGS409）。

【0314】

107SGS410においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に磁石エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に磁石エラーが含まれていない場合（107SGS410；N）は107SGS413に進み、特定した異常に磁石エラーが含まれている場合（107SGS410；Y）は、既に磁石エラーが発生していることを示す磁石エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS411）。磁石エラーフラグがセットされている場合（107SGS411；Y）は107SGS413に進み、磁石エラーフラグがセットされていない場合（107SGS411；N）は、磁石エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、磁石エラーフラグをセットして107SGS413に進む（107SGS412）。

【0315】

107SGS413においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれているか否かを判定する。特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれていない場合(107SGS413;N)は107SGS416に進み、特定した異常に遊技球誘導蓋作動エラーが含まれている場合(107SGS413;Y)は、既に遊技球誘導蓋作動エラーが発生していることを示す遊技球誘導蓋作動エラーフラグがセットされているか否かを判定する(107SGS414)。遊技球誘導蓋作動エラーフラグがセットされている場合(107SGS414;Y)は107SGS416に進み、遊技球誘導蓋作動エラーフラグがセットされていない場合(107SGS414;N)は、遊技球誘導蓋作動エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、遊技球誘導蓋作動エラーフラグをセットして107SGS416に進む(107SGS415)。

10

【0316】

107SGS416においてCPU103は、始動口2入賞異常エラーの解除タイミングまでの期間を示す始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中であるか否かを判定する。始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中でない場合(107SGS416;N)は、更に107SGS403において特定した異常に始動口2入賞異常エラーが含まれているか否かを判定する(107SGS417)。始動口2入賞異常エラーが含まれていない場合(107SGS417;N)は107SGS422に進み、始動口2入賞異常エラーが含まれている場合(107SGS417;Y)は、始動口2入賞異常エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、始動口2入賞異常エラー解除タイマをセット

20

【0317】

また、始動口2入賞異常エラー解除タイマの動作中である場合(107SGS416;Y)は、該始動口2入賞異常エラー解除タイマの値を-1し(107SGS419)、始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS420)。始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS420;N)は107SGS422に進み、始動口2入賞異常エラー解除タイマがタイマアウトした場合(107SGS420;Y)は、始動口入賞異常エラー解除タイマをクリアして107SGS422に進む(107SGS421)。

【0318】

107SGS422においてCPU103は、不正入賞エラーの解除タイミングまでの期間を示す不正入賞エラー解除タイマの動作中であるか否かを判定する。不正入賞エラー解除タイマの動作中でない場合(107SGS422;N)は、更に、107SGS403において特定した異常に不正入賞エラーが含まれているか否かを判定する(107SGS423)。不正入賞エラーが含まれていない場合(107SGS423;N)は107SGS428に進み、不正入賞エラーが含まれている場合(107SGS423;Y)は、不正入賞エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、不正入賞エラー解除タイマをセットして107SGS428に進む(107SGS424)。

30

【0319】

また、不正入賞エラー解除タイマが動作中である場合(107SGS422;Y)は、不正入賞エラー解除タイマの値を-1し(107SGS425)、不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS426)。不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS426;N)は107SGS428に進み、不正入賞エラー解除タイマがタイマアウトした場合(107SGS426;Y)は、不正入賞エラー解除タイマをクリアして107SGS428に進む。

40

【0320】

107SGS428においてCPU103は、コントローラ接続エラーの解除タイミングまでの期間を示すコントローラ接続エラー解除タイマが動作中であるか否かを判定する。コントローラ接続エラー解除タイマが動作中でない場合(107SGS428;N)は、107SGS403において特定した異常にコントローラ接続エラーが含まれているか

50

否かを判定する（107SGS429）。コントローラ接続エラーが含まれていない場合（107SGS429；N）は107SGS434に進み、コントローラ接続エラーが含まれている場合（107SGS429；Y）は、コントローラ接続エラーをエラー指定コマンドの出力エラーとして特定し、コントローラ接続エラー解除タイマをセットして107SGS434に進む（107SGS430）。

【0321】

また、コントローラ接続エラー解除タイマが動作中である場合（107SGS428；Y）は、コントローラ接続エラー解除タイマの値を-1し（107SGS431）、コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（107SGS432）。コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトしていない場合（107SGS432；N）は107SGS434に進み、コントローラ接続エラー解除タイマがタイマアウトした場合（107SGS432；Y）は、コントローラ接続エラー解除タイマをクリアして107SGS434に進む（107SGS433）。

10

【0322】

107SGS434においてCPU103は、107SGS403において特定した異常にドア開放エラーが含まれているか否かを判定する。ドア開放エラーが含まれている場合（107SGS434；Y）は、既にドア開放エラーを検出していることを示すドア開放エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS435）。ドア開放エラーフラグがセットされている場合（107SGS435；Y）は107SGS439に進み、ドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS435；N）は、ドア開放エラーをエラー指定コマンドの出力対象エラーとして特定し、ドア開放エラーフラグをセットして107SGS439に進む（107SGS436）。

20

【0323】

また、判定した異常にドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS434；N）は、ドア開放エラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS437）。ドア開放エラーフラグがセットされていない場合（107SGS437；N）は107SGS439に進み、ドア開放エラーフラグがセットされている場合（107SGS437；Y）は、ドア開放エラーフラグをクリアして107SGS439に進む（107SGS438）。

【0324】

107SGS439においてCPU103は、107SGS403において特定した異常に球切れエラーが含まれているか否かを判定する。球切れエラーが含まれている場合（107SGS439；Y）は、既に球切れエラーを検出していることを示す球切れエラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS440）。球切れエラーフラグがセットされている場合（107SGS440；Y）は107SGS444に進み、球切れエラーフラグがセットされていない場合（107SGS440；N）は、球切れエラーをエラー指定コマンドの出力対象として特定し、球切れエラーフラグをセットして107SGS444に進む（107SGS441）。

30

【0325】

また、特定した異常に球切れエラーが含まれていない場合（107SGS439；N）は、球切れエラーフラグがセットされているか否かを判定する（107SGS442）。球切れエラーフラグがセットされていない場合（107SGS442；N）は107SGS444に進み、球切れエラーフラグがセットされている場合（107SGS442；Y）は、球切れエラーフラグをクリアして107SGS444に進む（107SGS443）。

40

【0326】

そして、107SGS444においてCPU103は、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが有るか否かを判定する。エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが無い場合（107SGS444；N）は、メイン側エラー処理を終了し、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーが有る場合（107SGS444；

50

Y)は、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーに応じたエラー指定コマンドの送信設定を行うとともに(107SGS445)、エラー指定コマンドの出力対象として特定したエラーに応じたセキュリティ信号の出力設定を行ってメイン側エラー処理を終了する(107SGS446)。尚、エラー指定コマンドは、CPU103がコマンド制御処理(図4参照)を実行することによって演出制御基板12に対して送信される。

【0327】

尚、本実施の形態の特徴部におけるエラー指定コマンドは、図8-14(A)に示すように、8ビットの2進数によって構成されている。このようなエラー指定コマンドでは、図8-14(A)に示すように、メイン側エラー処理において特定したエラーが1つのみである場合は、該エラーに対応する1つの桁のみが「1」にセットされる。つまり、メイン側エラー処理において特定したエラーが球切れエラーのみである場合は、エラー指定コマンドとして「00000001」が演出制御基板12に対して送信され、メイン側エラー処理において特定したエラーがコントローラ接続エラーのみである場合は、コントローラ接続として「00000010」が演出制御基板12に対して送信される。

【0328】

一方で、図8-14(B)に示すように、メイン側エラー処理において特定したエラーが複数である場合は、各エラーに対応する桁全てが「1」にセットされる。つまり、メイン側エラー処理において特定したエラーが球切れエラーと今トラ接続エラーの2つである場合は、エラー指定コマンドとして「00000011」が演出制御基板12に対して送信され、メイン側エラー処理において特定したエラーが電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー、始動口2異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切れエラー(全てのエラー)である場合は、エラー指定コマンドとして「11111111」が演出制御基板12に対して送信されるようになっている。

【0329】

尚、本実施の形態の特徴部におけるエラー指定コマンドは、実際には、該エラー指定コマンドの上位にエラーであることを示すヘッダ(例えば「11111111」を示すデータ)が付与された状態で演出制御基板12に対して送信されるようになっている。このため、本実施の形態の特徴部においては、1のエラー指定コマンドにおいて最大で8個までのエラーの発生を演出制御基板12に対して通知することが可能となっているが、エラー指定コマンドに付与されるヘッダを複数設けることで、エラー指定コマンドにおいて演出制御基板12に対して通知することが可能なエラー数を増加させてもよい。

【0330】

また、本実施の形態の特徴部では、異常判定処理において異常(エラー)が特定された場合、これら特定されたエラー内に既にエラー指定コマンドを用いて演出制御基板12に対して出力されたエラーが存在していても、該出力済のエラーを含めたエラー指定コマンドを演出制御基板12に対して改めて出力する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、異常判定処理において既にエラー指定コマンドによって演出制御基板12に対して出力されたエラーが存在する場合は、該出力済のエラーを除いたエラー指定コマンドを演出制御基板12に対して出力してもよい。

【0331】

図8-16は、特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄プロセス処理においてCPU103は、先ず、遊技停止フラグがセットされているか否かを判定する(107SGS091)。遊技停止フラグがセットされている場合(107SGS091;Y)は、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄が点灯中であるか否かを判定する(107SGS092)。尚、特別図柄の点灯中とは、特別図柄の変動表示中や、特別図柄が「ハズレ」や「大当たり」、「小当たり」の組み合わせで導出表示されている状態を含んでいる。

【0332】

特別図柄の点灯中である場合(107SGS092;Y)は、これら特別図柄を消灯して107SGS094に進み(107SGS093)、特別図柄が既に消灯している場合

10

20

30

40

50

(107SGS092;N)は、107SGS093を経由せずに107SGS094に進む。

【0333】

107SGS094においてCPU103は、大入賞口が開放中であるか否かを判定する。尚、大入賞口が開放中であるか否かは、ソレノイド82がONであるか否か、大入賞口扉センサ107SG091が大入賞口の開放を検出中であるか否か等によって判定すればよい。大入賞口が開放中である場合(107SGS094:Y)は、ソレノイド82をOFFとすることによって大入賞口を閉鎖して特別図柄プロセス処理を終了し(107SGS095)、大入賞口が閉鎖中、あるいは既に閉鎖した後(107SGS094;N)は、107SGS095を経由せずに特別図柄プロセス処理を終了する。尚、遊技停止フラグがセットされていない場合は、図5に示すS101の処理を実行した後、特図プロセスフラグの値に応じてS110~S120のいずれかの処理を実行する。

10

【0334】

以上のように本実施の形態の特徴部2においては、遊技停止フラグがセットされた場合、つまり、電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋入賞エラー等の遊技停止エラーが発生した場合は、前述したように遊技球の発射が禁止されるとともに、特別図柄の消灯と大入賞口の閉鎖が行われる。更に、S110~S120の処理が実行されることがなくなることによって、特別図柄の変動表示や大当り遊技、小当り遊技等が中断される。

【0335】

図8-17は、特別図柄通常処理として、図5のS110にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図8-17に示す特別図柄通常処理において、CPU103は、まず、第2特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する(107SGS141)。第2特図保留記憶数は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、107SGS141の処理では、遊技制御カウンタ設定部107SG154に記憶されている第2保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

20

【0336】

107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」以外であるときには(107SGS141;N)、第2特図保留記憶部107SG151Bにて保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データをそれぞれ読み出す(107SGS142)。このとき読み出された数値データは、例えば変動用乱数バッファなどに格納されて、一時記憶されればよい。

30

【0337】

107SGS142の処理に続いて、第2特図保留記憶数カウント値や合計保留記憶数カウント値を1減算して更新することなどにより、第2特図保留記憶数と合計保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第2特図保留記憶部107SG151Bのデータを更新する。具体的には、第2特図保留記憶部107SG151Bにて保留番号「1」より下位のエントリ(例えば保留番号「2」~「4」に対応するエントリ)に記憶された乱数値MR1~MR3を示す保留データを、1エントリずつ上位にシフトする(107SGS143)。

40

【0338】

その後、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「2」に更新した後(107SGS144)、107SGS149に移行する。

【0339】

一方、107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」であるときには(107SGS141;Y)、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する(107SGS145)。第1特図保留記憶数は、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、107SGS145の処理では、遊技制御カウンタ設定部154にて第1保留記憶数カウンタが記憶する第1保留記憶数カウント値を読み

50

出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。このように、107SGS145の処理は、107SGS141にて第2特図保留記憶数が「0」であると判定されたときに実行されて、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する。これにより、第2特図を用いた特図ゲームは、第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行が開始されることになる。

【0340】

尚、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるものに限定されず、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口を遊技球が進入（通過）して始動入賞が発生した順に、特図ゲームの実行が開始されるようにしてもよい。この場合には、始動入賞が発生した順番を特定可能なデータを記憶するテーブルを設けて、その記憶データから第1特図と第2特図のいずれを用いた特図ゲームの実行を開始するかを決定できればよい。

10

【0341】

107SGS145にて第1特図保留記憶数が「0」以外であるときには（107SGS145；N）、第1特図保留記憶部107SG151Aにて保留番号「1」に対応して記憶されている保留データとして、特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データをそれぞれ読み出す（107SGS146）。このとき読み出された数値データは、例えば変動用乱数バッファなどに格納されて、一時記憶されればよい。

【0342】

107SGS146の処理に続いて、第1特図保留記憶数カウント値や合計保留記憶数カウント値を1減算して更新することなどにより、第1特図保留記憶数と合計保留記憶数を1減算させるように更新するとともに、第1特図保留記憶部107SG151Aのデータを更新する。具体的には、第1特図保留記憶部107SG151Aにて保留番号「1」より下位のエントリ（例えば保留番号「2」～「4」に対応するエントリ）に記憶された乱数値MR1～MR3を示す保留データを、1エントリずつ上位にシフトする（107SGS147）。

20

【0343】

その後、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「1」に更新した後（107SGS148）、107SGS149に移行する。

30

【0344】

107SGS149においては、特別図柄の変動表示結果である特図表示結果を「大当り」と「ハズレ」のいずれとするかを決定するための使用テーブルとして、変動特図指定バッファの値に応じて図8-6に示す表示結果判定テーブルのどちらかを選択してセットする。例えば、変動特図指定バッファの値が「1」である場合は、図8-6（A）に示す表示結果判定テーブル1を選択し、変動特図指定バッファの値が「2」である場合は、図8-6（B）に示す表示結果判定テーブル2を選択する。続いて、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データを、選択した表示結果判定テーブルと比較し、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当するか否かを判定する（107SGS150a）。尚、この107SGS150aにおいては、その時点の遊技状態が、確変フラグがセットされている高確状態であれば、特図表示結果判定用の乱数値MR1が10000～12180の範囲に該当すれば「大当り」と判定する。また、確変フラグがセットされていない低確状態であれば、特図表示結果判定用の乱数値MR1が1～219の範囲に該当すれば「大当り」と判定し、該当しなければ「ハズレ」と判定する。

40

【0345】

このように、107SGS150で選択される特図表示結果判定テーブルにおいては、その時点の遊技状態（高確、低確）に対応して異なる判定値が「大当り」に割り当てられていることから、107SGS150aの処理では、特図ゲームなどの変動表示が開始されるときの遊技状態が高確状態であるか否かに応じて、異なる判定用データ（判定値）を

50

用いて特図表示結果を「大当り」とするか否かが決定されることで、遊技状態が高確状態である場合には、低確状態である場合よりも高確率で「大当り」と判定される。

【0346】

変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当する場合（107SGS150a；Y）は、遊技制御フラグ設定部107SGS152に設けられた大当りフラグをオン状態にセットする（107SGS152）。このときには、大当り種別を複数種類のいずれかに決定するための使用テーブルとして、図8-7（A）に示す大当り種別判定テーブルを選択してセットする（107SGS153）。こうしてセットされた大当り種別判定テーブルを参照することにより、変動用乱数バッファに格納された大当り種別判定用の乱数値MR2を示す数値データと、大当り種別判定テーブルにおいて「非確変」、「確変A」、「確変B」、「確変C」の各大当り種別に割り当てられた判定値のいずれと合致するかに応じて、大当り種別を複数種類のいずれとするかを決定する（107SGS154）。

10

【0347】

107SGS154の処理にて大当り種別を決定することにより、大当り遊技状態の終了後における遊技状態を、時短状態と、時短状態よりも遊技者にとって有利度が高い確変状態とのうち、いずれの遊技状態に制御するかが、変動表示結果としての確定特別図柄が導出される以前に決定されることになる。こうして決定された大当り種別に対応して、例えば遊技制御バッファ設定部107SGS155に設けられた大当り種別バッファの格納値である大当り種別バッファ値を設定することなどにより（107SGS155）、決定された大当り種別を記憶する。一例として、大当り種別が非確変大当りに対応する「非確変」であれば大当り種別バッファ値を「0」とし、確変大当りAに対応する「確変A」であれば「1」とし、確変大当りBに対応する「確変B」であれば「2」とし、確変大当りCに対応する「確変C」であれば「3」とすればよい。そして、107SGS156に進む。

20

【0348】

一方、107SGS150aにて変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが大当りの範囲に該当しない場合（107SGS150a；N）は、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当するか否かを判定する（107SGS150c）。尚、この107SGS150cにおいては、その時点の遊技状態が、通常状態、時短状態、確変状態のいずれであるかにかかわらず、表示結果判定テーブル1が選択されている場合は、特図表示結果判定用の乱数値MR1が54000～54651の範囲に該当すれば「小当り」と判定し、該当しなければ「ハズレ」と判定する。尚、表示結果判定テーブル2が選択されている場合は、該表示結果判定テーブル2において小当りに判定値が割り当てられていないので、「ハズレ」と判定する。

30

【0349】

変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当する場合（107SGS150c；Y）は、小当りフラグをセットして107SGS156に進む（107SGS151）。また、変動用乱数バッファに格納された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが小当りの範囲に該当しない場合（107SGS150c；N）、つまり、「ハズレ」と判定した場合は、107SGS151を経由せずに107SGS156に進む。

40

【0350】

1907SGS156においては、大当り遊技状態に制御するか否か（大当りフラグがセットされているか否か）や小当り遊技状態に制御するか否か（小当りフラグがセットされているか否か）の事前決定結果、更には、大当り遊技状態とする場合における大当り種別の決定結果に対応して、確定特別図柄を設定する。一例として、特図表示結果を「ハズレ」とする旨の事前決定結果に対応して、ハズレ図柄となる「ー」の記号を示す特別図柄を、確定特別図柄に設定する。また、107SGSS150aにて特図表示結果が「大当

50

り」であると判定された場合には、107SGSS154における大当り種別の決定結果に応じて、大当り図柄となる「1」、「3」、「5」、「7」の数字を示す特別図柄のいずれかを、確定特別図柄に設定する。即ち、大当り種別を「非確変」とする決定結果に応じて「1」の数字を示す特別図柄を、確定特別図柄に設定する。また、大当り種別を「確変A」とする決定結果に応じて「7」の数字を示す特別図柄を確定特別図柄に設定し、大当り種別を「確変B」とする決定結果に応じて「5」の数字を示す特別図柄を確定特別図柄に設定し、大当り種別を「確変C」とする決定結果に応じて「3」の数字を示す特別図柄を確定特別図柄に設定する。また、107SGSS150cにて特図表示結果が「小当り」であると判定された場合には、小当り図柄となる「2」の数字を住めす特別図柄を、確定特別図柄に設定する。

10

【0351】

107SGSS156にて確定特別図柄を設定した後は、特図プロセスフラグの値を変動パターン設定処理に対応した値である“1”に更新してから(107SGSS157)、特別図柄通常処理を終了する。

【0352】

尚、107SGSS145にて第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数が「0」である場合には(107SGSS145;Y)、所定のデモ表示設定を行ってから(107SGSS158)、特別図柄通常処理を終了する。このデモ表示設定では、例えば画像表示装置5において所定の演出画像を表示することなどによるデモンストレーション表示(デモ画面表示)を指定する演出制御コマンド(客待ちデモ指定コマンド)が、主基板11から演出制御基板12に対して送信済みであるか否かを判定する。このとき、既に、客待ちデモ指定コマンドを送信済みであれば、そのままデモ表示設定を終了する。これに対して、未送信であれば、客待ちデモ指定コマンドを送信するための設定を行ってから、デモ表示設定を終了する。

20

【0353】

図8-18は、特別図柄停止処理として、図5のS113にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU103は、S112の特別図柄変動処理で参照される終了フラグをセットして特別図柄の変動を終了させ、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bに停止図柄を導出表示する制御を行う(107SGSS181)。尚、変動特図指定バッファ値が第1特図を示す「1」である場合には、第1特別図柄表示装置4Aでの第1特別図柄の変動を終了させ、変動特図指定バッファ値が第2特図を示す「2」である場合には、第2特別図柄表示装置4Bでの第2特別図柄の変動を終了させる。また、演出制御基板12に図柄確定コマンドを送信する制御を行う(107SGSS182)。そして、大当りフラグがセットされているか否かを判定し(107SGSS183)、大当りフラグがセットされていない場合(107SGSS183;N)には、107SGSS183に移行する。

30

【0354】

一方、大当りフラグがセットされている場合(107SGSS183;Y)には、CPU103は、確変フラグや時短フラグがセットされていれば、確変フラグ及び時短フラグをクリアし(107SGSS184)、演出制御基板12に、記憶されている大当りの種別に応じて当り開始1指定コマンド(確変A)、当り開始2指定コマンド(確変B)、当り開始指定コマンド(確変C)、当り開始4指定コマンド(非確変)を送信するための設定を行う(107SGSS185)。

40

【0355】

更にCPU103は、演出制御基板12に通常状態を示す遊技状態指定コマンドを送信するための設定を行う(107SGSS186)。

【0356】

そして、大当り表示時間タイマに大当り表示時間(大当りが発生したことを、例えば、画像表示装置5において報知する時間)に相当する値を設定する(107SGSS187)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、非確変大当りや確変大当りAの

50

場合には16回、確変大当りBの場合には5回、確変大当りCの場合には2回)をセットする(107SGS188)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大当り開放前処理(S114)に対応した値である“4”に更新する(107SGS189)。

【0357】

一方、107SGS183においてCPU103は、小当りフラグがセットされているか否かを判定する。小当りフラグがセットされている場合(107SGS183;Y)は、演出制御基板12に、当り開始5指定コマンド(小当り)を送信するための設定を行う(107SGS190a)。

【0358】

そして、小当り表示時間タイマに大当り表示時間(小当りが発生したことを、例えば、画像表示装置5において報知する時間)に相当する値を設定する(107SGS190b)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、2回)をセットする(107SGS190c)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を小当り開放前処理(S118)に対応した値である“4”に更新する(107SGS189)。

10

【0359】

一方、107SGS190においてCPU103は、時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定する。時短回数カウンタの値が「0」である場合(107SGS190;Y)には、107SGS196に進む。

【0360】

一方、時短回数カウンタの値が「0」でない場合(107SGS190;N)、つまり、時短回数が残存している高ベース状態である場合には、該時短回数カウンタの値を-1する(107SGS191)。そして、減算後の時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し(107SGS193)、「0」でない場合(107SGS193;N)には107SGS196に進み、時短回数カウンタの値が「0」である場合(107SGS193;Y)には、時短制御を終了させるために、時短フラグをクリアした後(107SG107SGS194)、確変フラグまたは時短フラグのセット状態に対応した遊技状態(具体的には低確低ベース)に対応した遊技状態指定コマンドの送信設定を行った後(107SGS195)、107SGS196に進む。

20

【0361】

107SGS196では、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新してから、当該特別図柄停止処理を終了する。

30

【0362】

図8-19は、大当り終了処理として、図5のS117にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。

【0363】

大当り終了処理において、CPU103は、大当り終了表示タイマが動作中、つまりタイマカウント中であるか否かを判定する(107SGS201)。大当り終了表示タイマが動作中でない場合(107SGS201;N)には、大当り終了表示タイマに、画像表示装置5において大当り終了表示を行う時間(大当り終了表示時間)に対応する表示時間に相当する値を設定し(107SGS202)、大当り終了処理を終了する。

40

【0364】

一方、大当り終了表示タイマが動作中である場合(107SGS201;Y)には、大当り終了表示タイマの値を1減算する(107SGS203)。そして、CPU103は、大当り終了表示タイマの値が0になっているか否か、即ち、大当り終了表示時間が経過したか否か確認する(107SGS204)。経過していなければ処理を終了する。

【0365】

大当り終了表示時間が経過していない場合(107SGS204;N)は、大当り終了処理を終了し、大当り終了表示時間を経過していれば(107SGS204;Y)、CPU103は、記憶されている大当り種別が非確変大当りであるかを判定する(107SGS205)。

50

【0366】

大当り種別が非確変大当りでない場合（107SGS205；N）には、更に大当り種別が確変大当りCであるか否かを判定する（107SGS206）。大当り種別が確変大当りAまたは確変大当りBである場合（107SGS206；N）は、確変フラグと時短フラグをセットするとともに（107SGS207、107SGS208）、時短回数カウンタに「0」をセットして107SGS213に進む（107SGS209）。また、大当り種別が確変大当りCである場合（107SGS206；Y）は、確変フラグのみをセットして107SGS213に進む（107SGS210）。

【0367】

一方、大当り種別が非確変大当りである場合（107SGS205；Y）は、時短フラグをセットするとともに（107SGS211）、時短回数カウンタに「100」をセットして107SGS213に進む（107SGS212）。

【0368】

107SGS213では、大当りフラグをクリアし、大当り種別に応じた大当り終了指定コマンドの送信設定を行う（107SGS214）。そして、セットされた確変フラグや時短フラグに基づく遊技状態を演出制御基板12に通知するための遊技状態指定コマンドの送信設定を行った後（107SGS215）、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新して大当り終了処理を終了する（107SGS216）。

【0369】

次に、演出制御基板12の動作を説明する。図8-20は、演出制御基板12に搭載されている演出制御用CPU120が実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU120は、電源が投入されると、図6に示す演出制御メイン処理と同一の処理（S71～S77）を実行するとともに、演出用乱数更新処理（S77）の実行後に、パチンコ遊技機1においてエラーが発生したことを報知するエラー報知処理（107SGS78）と、パチンコ遊技機1が電断状態から復旧した際に該電断状態から復旧したことを示す電断復旧画像を画像表示装置5に表示するための電断復旧画像表示処理（107SGS79）を実行し、S73に移行する

【0370】

図8-21は、図7に示された演出制御プロセス処理における可変表示開始設定処理（S171）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、まず、107SGS271において第1変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS271）。第1変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（107SGS271；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aにおける第1特図保留記憶のバッファ番号「1-0」～「1-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（107SGS272）。尚、バッファ番号「1-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

【0371】

また、107SGS271において第1変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（107SGS271；N）、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS273）。第2変動開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は（107SGS273；N）、可変表示開始設定処理を終了し、第2変動開始コマンド受信フラグがセットされている場合は（107SGS273；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ107SG194Aにおける第2特図保留記憶のバッファ番号「2-0」～「2-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（107SGS274）。尚、バッファ番号「2-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

【0372】

107SGS272または107SGS274の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンド格納領域から変動パターン指定コマンドを読み出す(107SGS275)。

【0373】

次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ(即ち、受信した表示結果指定コマンド)に応じて飾り図柄及び小図柄の表示結果(停止図柄)を決定する(107SGS276)。この場合、演出制御用CPU120は、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた飾り図柄及び小図柄の停止図柄を決定し、決定した飾り図柄及び小図柄の停止図柄を示すデータを飾り図柄表示結果格納領域に格納する。

【0374】

尚、本実施の形態の特徴部2では、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当たりAに該当する第2変動表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が「7」で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当たりBに該当する第3変動表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として、「7」以外の奇数図柄の複数の組合せ(例えば「111」、「333」、「555」、「999」などの飾り図柄の組合せ)の中から決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが非確変大当たり

20

に該当する第5変動表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が偶数図柄で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが確変大当たりCに該当する第4変動表示結果指定コマンドや、小当たりに該当する第6変動表示結果指定コマンドである場合は、例えば、低図柄として3図柄が「123」や「456」等の他の大当たりやハズレの場合とは異なる特定の組み合わせ(特殊当たり図柄)を決定する。また、受信した変動表示結果指定コマンドが、ハズレに該当する第1変動表示結果指定コマンドである場合には、停止図柄として3図柄が不揃いとなる飾り図柄の組合せ(ハズレ図柄)を決定する。

【0375】

これら停止図柄の決定においては、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、飾り図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられている停止図柄判定テーブルを用いて、飾り図柄の停止図柄を決定すれば良い。即ち、抽出した乱数に一致する数値に対応する飾り図柄の組合せを示すデータを選択することによって

30

停止図柄を決定すれば良い。

【0376】

次いで、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに応じた演出制御パターン(プロセステーブル)を選択する(107SGS281)。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる(107SGS282)。

【0377】

尚、プロセステーブルには、画像表示装置5の表示を制御するための表示制御実行データ、各LEDの点灯を制御するためのランプ制御実行データ、スピーカ8L、8Rから出力する音の制御するための音制御実行データや、押しボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を制御するための操作部制御実行データ等が、各プロセスデータn(1~N番まで)に対応付けて時系列に順番配列されている。

40

【0378】

次いで、演出制御用CPU120は、プロセスデータ1の内容(表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音制御実行データ1、操作部制御実行データ1)に従って演出装置(演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ及び演出用部品としてのスピーカ8L、8R、操作部(押しボタン31B、スティックコントローラ31A等))の制御を実行する(107SGS283)。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDP107SG500に指令を出力する。また、各種ランプを点灯/消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に

50

対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ 8 L, 8 Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板 1 3 に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【0379】

尚、本実施の形態の特徴部 2 では、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドに 1 対 1 に対応する変動パターンによる飾り図柄の変動表示が行われるように制御するが、演出制御用 CPU 1 2 0 は、変動パターン指定コマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【0380】

そして、変動時間タイマに、変動パターン指定コマンドで特定される変動時間に相当する値を設定する（107SGS284）。また、変動制御タイマに所定時間を設定する（107SGS285）。尚、所定時間は例えば 30ms であり、演出制御用 CPU 1 2 0 は、所定時間が経過する毎に左中右の飾り図柄の表示状態を示す画像データを VRAM に書き込み、VDP 107SGS500 が VRAM に書き込まれた画像データに応じた信号を画像表示装置 5 に出力し、画像表示装置 5 が信号に応じた画像を表示することによって飾り図柄の変動が実現される。次いで、演出制御プロセスフラグの値を可変表示中演出処理（S172）に対応した値にする（107SGS286）。

【0381】

以降、演出制御用 CPU 1 2 0 が可変表示中演出処理（S172）や特図当り待ち処理（S173）を実行することにより、飾り図柄と小図柄とは同一のタイミングから変動表示を開始するとともに、同一のタイミングで変動表示を停止する。つまり、本実施の形態の特徴部における飾り図柄の変動表示と小図柄の変動表示とは、同期して実行されるようになっている。尚、前述したように、飾り図柄の変動表示は、特別図柄の変動表示と同期して実行されるため、小図柄の変動表示も、特別図柄の変動表示を同期して実行される。

【0382】

図 8-22 及び図 8-23 は、図 8-20 に示された演出制御メイン処理におけるエラー報知処理（107SGS78）を示すフローチャートである。エラー報知処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、後述するエラー報知再実行タイマが動作中であるか否かを判定する（107SGS501）。エラー報知再実行タイマが動作中でない場合（107SGS501; N）は、更に、始動口 2 異常入賞エラーの報知期間中であることを示す始動口 2 異常入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する（107SGS502）。始動口 2 異常入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合（107SGS502; N）は、コントローラ接続エラーの報知期間中であることを示すコントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する（107SGS503）。コントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされていない場合（107SGS503; N）は、更に不正入賞エラーの報知期間中であることを示す不正入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する（107SGS504）。

【0383】

不正入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合（107SGS504; N）は、演出制御用 CPU 1 2 0 は、エラー指定コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS505）。エラー指定コマンド受信フラグがセットされていない場合（107SGS505; N）は、107SGS516 に進み、エラー指定コマンド受信フラグがセットされている場合（107SGS505; Y）は、エラー指定コマンド格納領域に格納されているエラー指定コマンドからエラー種別を特定する（107SGS506）。そして、既にエラー報知中であることを示すエラー報知中フラグがセットされているか否かを判定する（107SGS507）。エラー報知中フラグがセットされていない場合（107SGS507; N）は、107SGS516 に進み、エラー報知中フラグがセットされている場合（107SGS507; Y）は、更に、既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかの報知中であるか否か、つまり、既に遊技停止エラーの報知中であるか否かを判定する（107SGS508）。

【0384】

既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれかの報知中である場合（107SGS508；Y）は、107SGS516に進み、既に電波エラー、磁石エラー遊技球誘導蓋作動エラーのいずれの報知中でもない場合（107SGS508；N）は、特定したエラー種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の高いエラー種別であるか否かを判定する（107SGS509）。特定したエラー種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の低いエラー種別である場合（107SGS509；N）は、107SGS516に進み、特定したエラー種別のうち最も優先順位が高いエラー種別が報知中のエラー種別よりも優先順位の高いエラー種別である場合（107SGS509；Y）は、特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが有るか否かを判定する（107SGS510）、

10

【0385】

特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが有る場合（107SGS510；Y）は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマに始動口2異常入賞エラー報知期間である300秒に応じた値をセットして107SGS512に進み（107SGS511）、特定したエラー種別内に始動口2異常入賞エラーが無い場合は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマをセットせずに107SGS512に進む。

【0386】

107SGS512において演出制御用CPU120は、特定したエラー種別内に不正入賞エラーが有るか否かを判定する。特定したエラー種別内に不正入賞エラーが有る場合（107SGS512；Y）は、不正入賞エラー報知期間タイマに不正入賞エラー報知期間である30秒に応じた値をセットして107SGS514に進み（107SGS513）、特定したエラー種別内に不正入賞エラーが無い場合（107SGS512；N）は、不正入賞エラー報知期間タイマせずに107SGS514に進む。

20

【0387】

107SGS514において演出制御用CPU120は、特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが有るか否かを判定する。特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが有る場合（107SGS514；Y）は、コントローラ接続エラー報知期間タイマにコントローラ接続エラー報知期間である60秒に応じた値をセットして107SGS516に進み、特定したエラー種別内にコントローラ接続エラーが無い場合（107SGS514；N）は、コントローラ接続エラー報知期間タイマをセットせずに107SGS516に進む。

30

【0388】

107SGS516において演出制御用CPU120は、特定したエラーのうち最も優先順位の高いエラーに対して設定されている報知態様を特定する。そして、該特定した報知態様におけるエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力する。このように演出制御用CPU120がVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対してエラー表示開始指定コマンドを出力することで、画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示、スピーカ8L、8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等によって発生したエラーに応じた報知を実行可能となっている。

40

【0389】

更に、演出制御用CPU120は、エラー報知中フラグをセットするとともに、エラー表示開始指定コマンドを再出力するためのタイマであるエラー報知再実行タイマに、該エラー表示開始指定コマンドを再出力するための期間である5秒に応じた値をセットし、エラー報知処理を終了する（107SGS518）。

【0390】

尚、107SGS501においてエラー報知再実行タイマが動作中である場合（107SGS501；Y）、演出制御用CPU120は、エラー報知再実行タイマの値を-1し

50

(107SGS519)、該エラー報知再実行タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS520)。エラー報知再実行タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS520;N)は、107SGS502に進み、エラー報知再実行タイマがタイマアウトした場合(107SGS520;Y)は、報知中のエラー種別を特定するとともに、該特定したエラー種別に応じたエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力する。このように演出制御用CPU120がVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対してエラー表示開始指定コマンドを出力することで、画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示、スピーカ8L、8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等によって発生したエラーに応じた報知を5秒毎に繰り返し実行可能となっている。

10

【0391】

また、107SGS502において、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS502;Y)、演出制御用CPU120は、始動口2入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS523)、該始動口2入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS524)。始動口2入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトした場合(107SGS524;Y)は、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマをクリアするとともに(107SGS525)、始動口2異常入賞エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することで始動口2異常入賞エラー報知を終了し、107SGS503に進む(107SGS526)。尚、始動口2異常入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS524;N)は、107SGS525及び107SGS526の処理を実行せずに107SGS503に進む。

20

【0392】

また、107SGS503においてコントローラ接続エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS503;Y)、演出制御用CPU120は、コントローラ接続エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS527)、該コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS528)。コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトした場合(107SGS528;Y)は、コントローラ接続エラー報知期間タイマをクリアするとともに(107SGS529)、コントローラ接続エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することでコントローラ接続エラー報知を終了し、107SGS504に進む(107SGS530)。

30

【0393】

尚、コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS528;N)、演出制御用CPU120は、不正入賞エラー報知期間タイマがセットされているか否かを判定する(107SGS531)。不正入賞エラー報知期間タイマがセットされていない場合(107SGS531;N)は、107SGS505に進み、不正入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS531;Y)は、不正入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS532)、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS533)。不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS533;N)は、107SGS505に進み、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしている場合(107SGS533;Y)は、不正入賞エラー報知期間タイマをクリアする(107SGS534)。そして、コントローラ接続エラーに対して設定されている報知態様を特定し(107SGS535)、該特定した報知態様におけるエラー報知画像の表示を含むエラー報知に応じたエラー表示開始指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することでコントローラ接続エラーに応じたエラー報知を開始する(107SGS536)。また、エラー報知再実行タイマをセットして107SGS505に進む。

40

50

【0394】

また、107SGS504において不正入賞エラー報知期間タイマがセットされている場合(107SGS504;Y)、演出制御用CPU120は、不正入賞エラー報知期間タイマの値を-1し(107SGS538)、該不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する(107SGS539)。不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしていない場合(107SGS539;N)は、107SGS505に進み、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトしている場合(107SGS539;Y)は、不正入賞エラー報知期間タイマをクリアするとともに(107SGS540)、不正入賞エラーに応じたエラー表示終了指定コマンドをVDP107SG500や音声制御基板13、ランプ制御基板14等に対して出力することで不正入賞エラー報知を終了し、107SGS505に進む。

10

【0395】

以上のようにメイン側エラー処理(図8-12参照)やエラー報知処理が実行されることによって、主基板11(CPU103)においてエラーが1つのみ検出された場合は、図8-24(A)に示すように、演出制御基板12(演出制御用CPU120)に対して1のエラーの発生のみを指定するエラー指定コマンドが出力される。そして、演出制御基板12は、該エラー指定コマンドが入力されたことにもとづいて、VDP107SG500に対して該エラー指定コマンドから特定したエラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力する。更に、VDP107SG500は、演出制御基板12からのエラー表示開始指定コマンドの入力にもとづいて画像表示装置107SG005を制御し、検出された

20

【0396】

尚、このように発生したエラーが1つのみである場合は、該発生したエラーに応じた報知期間タイマの値に応じた期間に亘ってエラー報知(画像表示装置107SG005におけるエラー報知画像の表示や、スピーカ8L, 8Rからの音出力、遊技効果ランプ9の発光等)が実行され、該報知期間タイマがタイマアウトしたことに応じてエラー報知が終了する。

【0397】

例えば、不正入賞エラーのみが発生した場合は、演出制御用CPU120によってエラー指定コマンドから不正入賞エラーが特定されたことにもとづいて不正入賞エラー報知期間タイマに30秒に応じた値がセットされ、該不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトするまで(30秒が経過するまで)に亘って不正入賞エラーのエラー報知が実行される。また、コントローラ接続エラーのみが発生した場合は、演出制御用CPU120によってエラー指定コマンドからコントローラ接続エラーが特定されたことにもとづいてコントローラ接続エラー報知期間タイマに60秒に応じた値がセットされ、該コントローラ接続エラー報知期間タイマがタイマアウトするまで(60秒が経過するまで)に亘ってコントローラ接続エラーのエラー報知が実行される。

30

【0398】

一方で、主基板11(CPU103)においてエラーが複数検出された場合は、図8-24(B)に示すように、演出制御基板12(演出制御用CPU120)に対して複数のエラーの発生を指定するエラー指定コマンドが出力される。また、演出制御基板12は、該エラー指定コマンドが入力されたことにもとづいて、該エラー指定コマンドから発生したエラーを特定する。そして、演出制御基板12は、VDP107SG500に対して、特定したエラーのうちから最も優先順位が高いエラーに応じたエラー表示指定コマンドを出力する。このため、VDP107SG500は、演出制御基板12からのエラー表示開始指定コマンドの入力にもとづいて画像表示装置107SG005を制御し、検出されたエラーのうち最も優先順位の高いエラーに応じたエラー報知画像の表示を画像表示装置107SG005において実行するようになっている。

40

【0399】

50

尚、演出制御用CPU120は、既に遊技停止エラーの報知中である場合は、主基板11から新たなエラー指定コマンドの入力があつたとしても、VDP107SG500に対して新たなエラー表示開始指定コマンドを出力しないようになっている。このため、遊技停止エラーが発生した場合は、画像表示装置107SG005に表示されているエラー報知画像が他のエラー報知画像に切り替わることが無いので、遊技者やパチンコ遊技機1が設置されている遊技場の店員等は、エラー報知画像を視認することによって遊技停止の契機となったエラーを容易に特定することができるようになっている。

【0400】

また、図8-25(A)に示すように、何らエラー報知が実行されていない状態で遊技を停止しないエラー（例えば不正入賞エラー）が発生した場合は、該発生したエラーに応じたエラー報知（不正入賞エラー）が開始されるが、該エラー報知中により優先順位の高いエラー（例えば始動口2入賞エラー）が発生した場合は、実行中のエラー報知がより優先順位の高いエラーのエラー報知に切り替わり、エラー報知の期間がリセットされる。

【0401】

更に、より優先順位の高いエラーとして遊技停止エラーが発生した場合には、再び実行中のエラー報知が遊技停止エラーのエラー報知に切り替わり、遊技が停止される。尚、このように、遊技停止エラーの報知中に更により優先順位の高いエラーとして遊技停止エラーが発生した場合は、実行中のエラー報知が継続されるようになっているので、上述したように、画像表示装置107SG005に表示されているエラー報知画像が他のエラー報知画像に切り替わることが無く、遊技者やパチンコ遊技機1が設置されている遊技場の店員等は、エラー報知画像を視認することによって遊技停止の契機となったエラーを容易に特定することができるようになっている。尚、セキュリティ信号は、始動口2異常入賞エラー等の出力対象のエラーが発生した時点から出力が開始され、より優先順位の高いエラーが発生しても変わりなく出力される。

【0402】

また、図8-25(B)に示すように、コントローラ接続エラーと不正入賞エラーとが同時に発生した場合（演出制御用CPU120がエラー指定コマンドからコントローラ接続エラーと不正入賞エラーとを特定した場合）は、これらコントローラ接続エラーと不正入賞エラーとが検出された時点からそれぞれ不正入賞エラー報知期間タイマとコントローラ接続エラー報知期間タイマとがセット（不正入賞エラー報知期間タイマには30秒に応じた値、コントローラ接続エラー報知期間タイマには60秒に応じた値がセット）され、これらタイマのカウントが開始される。また、セキュリティ信号の出力も開始される。

【0403】

不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとでは、不正入賞エラーの方が優先順位が高いので、最初の30秒間（不正入賞エラー報知期間タイマのカウント中）においては不正入賞エラーの報知が実行される。次に、不正入賞エラー報知期間タイマのタイマがタイマアウトして不正入賞エラー報知が終了すると、該不正入賞エラー報知の終了タイミングからコントローラ接続エラー報知期間タイマの残り30秒間に亘ってコントローラ接続エラー報知が実行される。

【0404】

また、図8-12に示すメイン側エラー処理や図8-22及び図8-23に示すエラー報知処理が実行されることで、遊技停止エラー（例えば、電波エラー）が発生すると、前述したように、遊技球の発射が停止されることによって遊技が停止する。更に、図8-26に示すように、遊技停止エラーが検出されたタイミングから特別図柄が消灯されることによって、特別図柄の変動表示が一旦停止（非実行）となる。このとき、画像表示装置5では、遊技停止エラーが検出されたタイミングから該遊技停止エラーに応じたエラー報知画像が小図柄や飾り図柄に重複して表示される。このため、遊技停止エラーの発生後は、飾り図柄や小図柄の変動表示は継続して実行されるが、これら飾り図柄や小図柄に対してエラー報知画像が重複表示されることにより、飾り図柄と小図柄とが不可視化される。つまり、本実施の形態の特徴部における遊技停止状態とは、遊技球の発射が停止されること

と、特別図柄の変動表示が停止すること、始動口や一般入賞口への入賞を無効とすることを含んでいる。

【0405】

図8-27は、図8-20に示された演出制御メイン処理における電断復旧画像表示処理(107SGS79)を示すフローチャートである。電断復旧画像表示処理において、演出制御用CPU120は、まず、電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する(107SGS551)。電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされている場合(107SGS551; Y)は、VDP107SG500に対して所定のコマンドを送信することによって、画像表示装置107SG005に電断復旧画像の表示を開始させて電断復旧画像表示処理を終了する(107SG552)。

10

【0406】

また、電断復旧通知コマンド受信フラグがセットされていない場合(107SGS551; N)は、更に、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされているか否かを判定する(107SGS553)。変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされている場合(107SGS553; Y)は、VDP107SG500に対して所定のコマンドを送信することによって、画像表示装置107SG005に電断復旧画像の表示を終了させて電断復旧画像表示処理を終了する(107SGS554)。尚、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグもセットされていない場合(107SGS554; N)は、107SGS554の処理を経由せずに電断復旧画像表示処理を終了する。

20

【0407】

以上のように電断復旧画像表示処理を実行することで、図8-28に示すように、特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合は、該電断が発生したタイミングにおいて特別図柄の変動表示、飾り図柄の変動表示、小図柄の変動表示が停止し、電断復旧タイミングから特別図柄の変動表示のみが再開される。また、電断復旧タイミングから、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示が開始される。

【0408】

尚、本実施の形態の特徴部では、図8-27の107SGS553に示すように、変動開始指定コマンド、当り開始指定コマンド、当り終了指定コマンドのいずれかの受信フラグがセットされていることにもとづいて電断復旧画像の表示を終了する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらコマンドに応じた受信フラグに加えて、図柄確定指定コマンド受信フラグがセットされていることにもとづいて電断復旧画像の表示を終了するようにしてもよい。

30

【0409】

そして、特別図柄の変動表示が終了した後、新たな特別図柄の変動表示が開始されると、演出制御基板12(演出制御用CPU120)が変動開始指定コマンドを受信したことにもとづいて、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄の表示が再開され、新たな飾り図柄の変動表示と小図柄の変動表示が開始される。つまり、特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して次の特別図柄の変動表示が開始されるタイミングまで表示されないようになっている。

40

【0410】

また、特に図示はしないが、変動表示結果が大当たりとなる特別図柄の変動表示中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して大当たり遊技が開始されるタイミングまで表示されないようになっている。更に、大当たり遊技中に電断が発生した場合、画像表示装置107SG005における飾り図柄と小図柄は、パチンコ遊技機1が電断から復旧して大当たり遊技が終了されるタイミングまで表示されないようになっている。

【0411】

50

つまり、本実施の形態の特徴部においては、飾り図柄や小図柄を大当り遊技中も表示する形態となっているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら飾り図柄と小図柄との少なくとも一方は、大当り遊技中においては非表示としてもよい。

【0412】

次に、特別図柄の変動表示中にエラーが発生した場合の画像表示装置107SG005の表示態様について説明する。先ず、図8-30(A)に示すように、変動表示中にドア開放エラー等の遊技を停止しないエラーが発生した場合、画像表示装置107SG005の画面中央には、発生したエラーに応じたエラー報知画像が演出図柄の一部に重複した状態で表示される。このとき、演出図柄や小図柄の変動表示自体は遊技者から視認可能に継続される。

10

【0413】

そして、該エラー報知画像の表示中に電波エラー等の遊技停止エラーが発生した場合は、図8-30(B)に示すように、小図柄が表示されている常時表示エリア107SG005Aや演出図柄を含む画像表示装置107SG005の画面全体に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を重複表示し、遊技者から演出図柄や小図柄を視認不能な状態とする。

【0414】

次に、パチンコ遊技機1が電断から復旧する際の画像表示装置107SG005の表示態様について説明する。先ず、図8-31(A)に示すように、パチンコ遊技機1に電源が投入されることによって主基板11側が起動すると、画像表示装置107SG005の画面全体に、「復旧中」等のメッセージを含む電断復旧画像が表示される。尚、電断が発生した際に特別図柄の変動表示中であった場合は、パチンコ遊技機1に電源が投入されたこと（主基板11が起動したこと）にもとづいて、特別図柄の変動表示が再開される。

20

【0415】

そして、新たな特別図柄の変動表示が開始されるか、大当り遊技の開始、大当り遊技の終了のいずれかにもとづいて画像表示装置107SG005における電断復旧画像の表示が終了し、画像表示装置107SG005における演出図柄と小図柄の表示が再開される。尚、新たな特別図柄の変動表示が介される場合は、演出図柄と小図柄の表示の再開に加えて、これら演出図柄と小図柄の変動表示が開始される。

【0416】

以上、本実施の形態の特徴部におけるパチンコ遊技機1にあっては、演出制御用CPU120は、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生したことにもとづいてパチンコ遊技機1における遊技が停止されたときに、図8-30(B)に示すように、画像表示装置107SG005に遊技停止エラーが発生したことを示すエラー報知画像をさせることによって遊技者に対して遊技が停止されたことを報知可能であり、該エラー報知画像は、画像表示装置107SG005に表示されている飾り図柄や小図柄に重複して表示される、つまり、飾り図柄や小図柄は、画像表示装置107SG005に遊技停止エラーが発生したことを示すエラー報知画像が表示されることによって画像表示装置107SG005に表示されなくなるので、遊技が停止されている間において飾り図柄や小図柄が特別図柄の変動表示と同期しなくなるといった意図しない表示動作（例えば、変動表示）をしてしまうことを防止できる。

30

40

【0417】

また、演出制御用CPU120は、図8-2に示す変動パターン指定コマンドを受信したことに基づいて演出図柄及び小図柄の変動表示を開始し、図柄確定コマンドを受信したことに基づいて演出図柄及び小図柄の変動表示を停止するようになっているので、これら演出図柄及び小図柄の変動表示中にCPU103が遊技停止状態となった場合（遊技停止エラーが発生した場合）は、演出図柄及び小図柄の変動表示は停止されることなく継続してしまい、特別図柄の変動表示と演出図柄及び小図柄の変動表示との整合性がとれなくなってしまう。そこで本実施の形態の特徴部においては、演出制御用CPU120は、CPU103が遊技停止状態となった場合にVDP107SG500を制御することで、画像

50

表示装置 107SG005 に飾り図柄及び小図柄に重複する形でエラー報知画像を表示することによって飾り図柄及び小図柄を遊技者から隠蔽し、特別図柄の変動表示と演出図柄及び小図柄の変動表示との整合性がとれなくなってしまうことを防止している。

【0418】

また、演出制御用 CPU 120 は、パチンコ遊技機 1 が電断から復旧した際に、電断から復旧したことを示す電断復旧画像を画像表示装置 107SG005 に表示させることによって、遊技者に対してパチンコ遊技機 1 が電断から復旧したことを報知可能であり、該電断復旧画像の表示中は、図 8-31 (A) に示すように、画像表示装置 107SG005 に飾り図柄や小図柄が表示されることがないので、電断復旧画像の表示中において飾り図柄や小図柄が意図しない表示動作（例えば、変動表示）をしてしまうことを防止できる。

10

【0419】

また、CPU 103 は、図 8-12 に示すメイン側エラー処理において始動口 2 異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切エラー等の遊技を停止しないエラーが発生したと判定した場合は、第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B における特別図柄の変動表示を継続して実行する一方で、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生したと判定した場合（遊技停止フラグをセットした場合）、図 8-16 に示すように、第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B における特別図柄を消灯するので、遊技低エラーが発生した場合は、特別図柄が消灯されることによって、本来であれば該特別図柄の変動表示と同期する小図柄の変動表示が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

20

【0420】

また、演出制御用 CPU 120 は、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合には、図 8-30 (B) に示すように、画像表示装置 107SG005 において該遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させることで、画像表示装置 107SG005 に演出図柄や小図柄が表示されないようする一方で、始動口 2 異常入賞エラー、不正入賞エラー、コントローラ接続エラー、ドア開放エラー、球切エラー等の遊技を停止しないエラーが発生した場合は、図 8-30 (A) に示すように、画像表示装置 107SG005 において該遊技を停止しないエラーに応じたエラー報知画像を表示させるとともに、演出図柄や小図柄を継続して表示させるので、遊技者は、画像表示装置 107SG005 において遊技を停止しないエラー報知画像が表示され場合は、画像表示装置 107SG005 において小図柄や飾り図柄が表示されていることを視認することで、変動表示の実行中であるか否かを把握することができる。

30

【0421】

尚、本実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機 1 において遊技を停止しないエラーが発生した場合、画像表示装置 107SG005 に該遊技を停止しないエラーが発生したことを示すエラー報知画像を表示させる一方で、画像表示装置 107SG005 における飾り図柄や小図柄の表示を継続する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、画像表示装置 107SG005 において遊技を停止しないエラーが発生したことを示すエラー報知画像を表示させる場合は、飾り図柄と小図柄とのいずれか一方を表示させないようにしてもよい。

40

【0422】

また、図 8-28 に示すように、演出制御用 CPU 120 は、特別図柄の変動表示中及び該特別図柄の変動表示に連動する飾り図柄や小図柄の変動表示中に電断が発生した場合、パチンコ遊技機 1 が該電断から復旧して特別図柄の変動表示が再開されたとしても、新たな特別図柄の変動表示が開始される迄は画像表示装置 107SG005 に飾り図柄や小図柄を表示させないので、小図柄と特別図柄の可変表示の同期が不適切となってしまうことを防ぐことができる。

【0423】

また、本実施の形態の特徴部では、CPU 103 は、図 8-12 に示すメイン側エラー

50

処理を実行することで、発生している複数の異常（エラー）を1のエラー指定コマンドを用いて演出制御基板12（演出制御用CPU120）に対して出力可能であり、演出制御用CPU120は、図8-22に示すエラー報知処理を実行することで、CPU103から受信したエラー指定コマンドから特定した1のエラーについては、画像表示装置107SG005に該エラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して出力するが、PU103から受信したエラー指定コマンドから特定した他のエラーについては、エラー報知画像を表示させるためのコマンドをDP107SG500に対して出力しないので、画像表示装置107SG005にエラー報知画像を表示させる際のVDP107SG500の処理負荷を低減することができる。

10

【0424】

また、CPU103が図8-12に示すメイン側エラー処理において発生していることを判定可能なエラーには優先順位が設定されており（図8-15参照）、演出制御用CPU120は、図8-22に示すように、CPU103から受信したエラー指定コマンドから特定したエラーのうち、最も優先順位の高いエラーに応じたエラー報知画像を画像表示装置107SG005に表示させるためのコマンドをVDP107SG500に対して出力するので、パチンコ遊技機1のセキュリティ性を確保しつつ、画像表示装置107SG005にエラー報知画像を表示させる際のVDP107SG500の処理負荷を低減することができる。

【0425】

20

また、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して出力した後、5秒間隔で繰り返し画像表示装置107SG005に該エラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンドをVDP107SG500に対して出力するようになっているので、例えば、画像表示装置107SG005に不具合が生じてエラー報知画像の表示が中断されてしまったり、前述したエラー表示開始指定コマンドにノイズが混じる等して画像表示装置107SG005に誤表示が表示される等の不具合が発生した場合であっても、該誤表示が継続されて正しいエラー報知画像が表示されなくなってしまうことを防ぐことができる。

【0426】

30

また、本実施の形態の特徴部では、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して5秒間隔で繰り返し出力する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120は、5秒未満または5秒よりも長い間隔で前記コマンドをVDP107SG500に対して出力するようにしてもよい。

【0427】

また、本実施の形態の特徴部では、演出制御用CPU120は、画像表示装置107SG005にエラーに応じたエラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）をVDP107SG500に対して出力を5秒間隔で繰り返し出力する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120は、スピーカ8L、8Rにエラーが発生していることを報知する音声を出力させるためのコマンドを音声制御基板13に対して5秒間隔で繰り返し出力してもよい。更に、演出制御用CPU120は、遊技効果ランプ9にエラーが発生していることを報知するよう発光させるためのコマンドをランプ制御基板14に対して5秒間隔で繰り返し出力してもよい。

40

【0428】

また、図8-23（B）及び図8-25（B）に示すように、遊技を停止しないエラーとして、例えば、不正入賞エラーと該不正入賞エラーよりも優先順位が低いエラー報知画像が画像表示装置107SG005に表示される期間が長いコントローラ接続エラーとが同時に発生した場合は、不正入賞エラーの報知期間を計測するための不正入賞エラー報

50

知期間タイマと、コントローラ接続エラーの報知期間を計測するためのコントローラ接続エラー報知期間タイマとが同時に作動する。

【0429】

そして、画像表示装置107SG005には、先ず、優先順位が高い不正入賞エラーに応じたエラー報知画像表示がされる。次に、不正入賞エラー報知期間タイマがタイマアウトする（不正入賞エラー報知画像の表示期間が終了する）と、画像表示装置107SG005には、残りのコントローラ接続エラー報知期間タイマに応じた期間（本実施の形態の特徴部においては30秒）に亘ってコントローラ接続エラー報知画像が表示されるので、これらエラーの種類に応じたエラー報知画像をエラーの種類に応じた期間に亘って画像表示装置107SG005に表示することができるとともに、CPU103によって不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が判定されてからコントローラ接続エラー報知画像の表示が終了するまでの期間を一定とすることができる。

10

【0430】

尚、本実施の形態では、不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が同時に判定された場合、画像表示装置107SG005において、不正入賞エラー報知画像の表示終了後、残りのコントローラ接続エラー報知期間タイマに応じた期間（本実施の形態の特徴部においては30秒）に亘ってコントローラ接続エラー報知画像が表示される形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、不正入賞エラーとコントローラ接続エラーとの発生が同時に判定された場合は、画像表示装置107SG005において、不正入賞エラー報知画像の表示終了後に、コントローラ接続エラー報知画像を本来の表示期間（例えば、図8-15に示す60秒）に亘って表示してもよい。

20

【0431】

また、図8-23（B）及び図8-25（B）に示すように、遊技を停止しないエラーとして、例えば、不正入賞エラーと該不正入賞エラーよりも優先順位が低いエラー報知画像が画像表示装置107SG005に表示される期間が長いコントローラ接続エラーとが同時に発生した場合、演出制御用CPU120は、VDP107SG500に対して画像表示装置107SG005に不正入賞エラー報知画像を表示させるためのコマンド（エラー表示開始指定コマンド）を出力し、画像表示装置107SG005において不正入賞エラー報知画像の表示が終了してコントローラ接続エラー報知画像の表示が開始される場合は、VDP107SG500に対して画像表示装置107SG005における不正入賞エラー報知画像の表示を終了させるためのコマンド（エラー表示終了指定コマンド）を送信せず、コントローラ接続エラー報知画像を表示させるためのコマンドを出力するので、画像表示装置107SG005にて表示される画像を不正入賞エラー報知画像からコントローラ接続エラー報知画像に切り替える際に、VDP107SG500にかかる負荷を低減できる。

30

【0432】

以上、本発明の実施の形態を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施の形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【0433】

例えば、前記実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機1に発生したエラーに応じて異なるエラー報知を実行する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらエラー報知に加え、特定の操作手段の操作に応じてパチンコ遊技機1から出力される音量を変化させる他、消費電力を抑えたり、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの状態を確認できるようにしてもよい。

40

【0434】

具体的には、変形例1として図32～図34に示すように、演出制御基板12上に操作手段としての回動式の設定切替スイッチ107SG400を設け、遊技機用枠3を開放した状態において、演出制御基板12が収納されている基板収納ケース107SG270に形成された切欠部107SG270aを介して該設定切替スイッチ107SG400を操

50

作可能とすればよい。

【0435】

尚、設定切替スイッチ107SG400は、図8-34に示すように、「0」～「F」までの計16個のチャンネルを備えており、これらチャンネルを、ツマミ107SG401を回動操作することで切り替えるスイッチになっている。本変形例1では、例えば、チャンネルを「0」～「9」のいずれかに切り替えることによって、スピーカ8L、8Rから出力される音量を変更可能とする。また、例えば、チャンネルを「A」～「F」のいずれかに切り替えること、または、チャンネルを切り替えた後に更に特定操作を行うことによって、パチンコ遊技機1の消費電力を抑えたり（節電モードへの移行）、可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の状態を確認可能とする。

10

【0436】

具体的には、図8-35（A）及び図8-35（B）に示すように、遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400を操作するために遊技機用枠3を開放すると、先ず、画像表示装置107SG005において、ドア開放エラーに応じたエラー報知画像が表示される。この状態において遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400のチャンネルを「F」にセットすることで、画像表示装置107SG005において、エラー報知画像に替えてパチンコ遊技機1の消費電力を抑える節電モードへ移行するか否かの確認画像が表示される。このとき、例えばプッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aを用いて節電モードへの移行に応じた操作（図8-35（B）の例であればスティックコントローラ31Aの操作によって「はい」の選択肢にカーソルを合わせてプッシュボタ

20

【0437】

また、図8-36（A）及び図8-36（B）に示すように、遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400を操作するために遊技機用枠3を開放すると、先ず、画像表示装置107SG005において、ドア開放エラーに応じたエラー報知画像が表示される。この状態において遊技場の店員等が設定切替スイッチ107SG400のチャンネルを「C」にセットした後、更にプッシュボタン31Bを所定回数（例えば、5回）押下操作することによって、演出制御用CPU120が可動体32、プッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の動作チェック（実際に可動体32を所定の位置まで動作させたり、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作をプッシュセンサ

30

35Bやコントローラセンサユニット35Aで正確に検出できるか否かの確認等）を実行し、該動作チェック結果の画像（図8-36（B）に示す役物チェックリストの画像）をドア開放エラーの報知画像、飾り図柄、小図柄に重複して表示すればよい。

【0438】

特に、本変形例1においては、設定切替スイッチ107SG400を操作する（図8-34に示す状態から時計回りあるいは反時計回りに回動させる）際にチャンネル「C」を通過する（一瞬のみチャンネルが「C」に設定される）ことによって、前述した動作チェックとして可動体32等が一瞬のみ動作してしまうこと等を防ぐために、設定切替スイッチ107SG400がチャンネル「C」に設定された際には、特定操作としてプッシュボタン31Bが所定回数押下操作されなければ動作チェックが実行されないようになっている。

40

【0439】

このように、本変形例1においては、動作チェック結果の画像が、エラー報知画像や飾り図柄、小図柄、ドア開放エラー報知画像等に重複して画像表示装置107SG005に表示させることによって、該動作チェック結果の画像が遊技場の店員等から優先して視認されるようになるので、エラー報知画像の表示中であっても可動体32やプッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等の動作チェック結果を確認することができる。

【0440】

また、本実施の形態における特徴部での特定表示とは、可動体32を所定の位置まで動作させる等の動作検証結果（動作チェック結果）を確認するための表示であるので、エラ

50

一報知画像の表示中であっても可動体 3 2 の動作チェック結果を確認することができる。

【0441】

また、前記実施の形態の特徴部においては、パチンコ遊技機 1 の遊技性として、主に大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入賞することによって持ち玉を増加させていく形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、第 2 特別図柄の変動表示において小当りが頻出するようにするとともに、大当り種別に応じて小当り遊技における大入賞口への遊技球の入賞し易さを異ならせる（例えば、大当り種別が「確変 B」や「非確変」である場合は、該大当り遊技終了後に小当り遊技における大入賞口への遊技球が入賞し難い第 1 K T 状態に制御する一方で、大当り種別が「確変 A」である場合は、該大当り遊技終了後に小当り遊技における大入賞口への遊技球が入賞し易い第 2 K T 状態に制

10

【0442】

尚、このように、パチンコ遊技機 1 を第 2 K T 状態においても持ち玉を増加させていく遊技性とする場合は、変形例 2 として図 8-37~図 8-39 に示すように、大当り遊技中、第 1 K T 状態、第 2 K T 状態において画像表示装置 107 S G 005 に賞球数表示 107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305 を表示してもよい。

【0443】

更に、大当り遊技中においては、図 8-37 (A)~図 8-37 (C) に示すように、画像表示装置 107 S G 005 に、賞球数表示 107 S G 300 とともにキャラクタ 107 8 S G 301 や「大当り中！」等の文字表示 107 S G 302 を表示し、大入賞口に遊技球が入賞した場合には、賞球数表示 107 S G 300 の表示を第 1 速度にて更新（例えば、賞球数表示 107 S G 300 の表示を 0.1 秒に亘って更新）してもよい。

20

【0444】

また、第 1 K T 状態においては、図 8-38 (A)~図 8-38 (C) に示すように、画像表示装置 107 S G 005 に、賞球数表示 107 S G 303 を表示するとともに、小当りが発生した場合には、「小当り発生！」等の文字表示 107 S G 304 を表示し、該第 1 K T 状態における小当り遊技中において大入賞口に遊技球が入賞した場合は、賞球数表示 107 S G 303 の表示を大当り遊技中と同じく第 1 速度にて更新してもよい。

【0445】

30

そして、第 2 K T 状態においては、図 8-39 (A)~図 8-39 (C) に示すように、画像表示装置 107 S G 005 に、賞球数表示 107 S G 305 を表示するとともに、小当りが発生した場合には、「小当り発生！」等の文字表示 107 S G 306 を表示してもよい。更に、該第 2 K T 状態における小当り遊技中において大入賞口に遊技球が入賞した場合は、入賞演出として、画像表示装置 107 S G 005 にキャラクタ 107 S G 308 や賞球増加表示としての「+15」などの文字表示 107 S G 309、及び賞球数表示 107 S G 305 の周囲にエフェクト画像 107 S G 307 を表示してもよい。そして、賞球数表示 107 S G 305 の表示を第 1 速度よりも低速である第 2 速度にて更新（例えば、賞球数表示 107 S G 305 の表示を 0.5 秒に亘って更新）する、つまり、大当り遊技中、第 1 K T 状態、第 2 K T 状態のいずれで遊技球が大入賞口に入賞したかに応じて賞球数表示 107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305 の更新速度を異ならせることで遊技者をこれら賞球数表示 107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305 の更新速度に注目させ、遊技興趣を向上させてもよい。

40

【0446】

このように、本変形例 2 においては、賞球数表示 107 S G 300、107 S G 303、107 S G 305 を更新表示するパターンとして 2 つのパターン（賞球数表示 107 S G 300、107 S G 303 を第 1 速度で更新表示するパターンと、賞球数表示 107 S G 305 を第 2 速度で更新表示するパターン）を備えることで、賞球数の更新表示を行う場合に遊技に対する興趣を向上できる。特に、本変形例 2 において、第 2 K T 状態における小当り確率を所定確率（例えば、50%等）とした場合、該第 2 K T 状態中は

50

技中よりも大入賞口への遊技球の入賞頻度が低くなる。このため、第1速度よりも低速である第2速度において賞球数表示107SG305の表示を更新することによって、大入賞口への入賞頻度が当たり遊技中より低くとも遊技球が大入賞口に途切れなく入賞しているかのように遊技者を錯覚させることができるので、小当たり間の間を持たせることができ、遊技興趣を向上できる。

【0447】

尚、本変形例2においては、当たり遊技中と小当たり遊技中とで共通の大入賞口を開放してもよいが、パチンコ遊技機1に複数の大入賞口を設け、当たり遊技中に開放する大入賞口と小当たり遊技中に開放する大入賞口とを異ならせてもよい。

【0448】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は、上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があってもこの発明に含まれる。

【0449】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示した構成のうち、全部又は一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

【0450】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。この発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等な意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【0451】

本発明の遊技機としては、他にも、遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報（例えば、小図柄）の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、異常が発生したときに、該異常が発生したことを示す異常表示（例えば、発生した異常に応じたエラー報知画像）を前記表示手段に表示させて異常を報知する異常報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-22、図8-23に示すエラー報知処理を実行する部分）と、を備え、前記異常報知手段は、特定異常が発生して遊技停止状態となったときに、該遊技停止状態であることを示す異常表示を前記表示手段に表示させて報知することが可能であり（例えば、電波エラー、磁石エラー、遊技球誘導蓋作動エラー等の遊技停止エラーが発生した場合に、VDPに対して該遊技停止エラーに応じたエラー表示開始指定コマンドを出力して画像表示装置107SG005に遊技停止エラーに応じたエラー報知画像を表示させる部分）、前記表示手段は、前記特定異常が発生して遊技停止状態となったときには、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図8-30（B）に示すように、画像表示装置107SG005の画面全体に亘ってエラー報知画像が表示されることによって飾り図柄と小図柄とが表示されなくなる部分）、さらに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば当たり遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図9-2（D）、（F））遊技機が挙げられる。

【0452】

このような構成によれば、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

10

20

30

40

50

【0453】

また、本発明の遊技機としては、他にも、遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、画像を表示可能な手段であって、複数の演出用可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア107SG005L, 107SG005C, 107SG005R）の各々において演出用識別情報（例えば、飾り図柄）の可変表示を実行可能であるとともに、前記演出用識別情報の可変表示の開始と終了とに同期して前記演出用可変表示部の数と同数の縮小可変表示部（例えば、「左」、「中」、「右」の小図柄表示エリア）において縮小識別情報の可変表示を実行可能な表示手段（例えば、画像表示装置107SG005）と、電断から復旧したときに、該電断から復旧したことを示す電断復旧表示を前記表示手段に表示させて復旧を報知する復旧報知手段（例えば、演出制御用CPU120が図8-27に示す電断復旧画像表示処理を実行して画像表示装置107SG005に電断復旧画像を表示させる部分）と、を備え、前記表示手段は、前記電断復旧表示の表示中においては、前記縮小可変表示部に縮小識別情報を表示せず（例えば、図8-28及び図8-31に示すように、画像表示装置107SG005において電断復旧画像の表示中である場合は、演出制御用CPU120がCPU103から変動開始指定コマンドを受信するまで飾り図柄と小図柄を表示しない部分）、さらに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図9-2（D）、（F））遊技機が挙げられる。

10

20

【0454】

このような構成によれば、電断復旧表示の表示中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止できる。また、演出効果を高めることができる。

【0455】

さらに、遊技停止状態中において縮小識別情報が意図しない表示動作をしてしまうことを防止でき、また、演出効果を高めることができる遊技機の形態の一例として、遊技者にとって有利な有利状態（例えば大当り遊技状態）に制御可能な遊技機（例えばパチンコ遊技機1）であって、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えばリーチ演出）を実行可能な示唆演出実行手段（例えば演出制御用CPU120）と、前記示唆演出に対応したタイトルを報知可能なタイトル報知手段（例えば演出制御用CPU120）と、を備え、前記タイトル報知手段は、前記示唆演出の開始から所定期間経過したときに当該示唆演出に対応したタイトルを報知可能である（例えば図9-2（D）、（F））遊技機が挙げられる。以下に、この遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

30

【0456】

（他の形態例）

以下、他の形態例の特徴部31AKについて説明する。図9-1は、この実施の形態のパチンコ遊技機1における変動パターンやリーチの種類を説明するための図である。図9-1（A）に示すように、この実施の形態では、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに表示結果が「ハズレ」となる非リーチハズレの変動パターンPA1-1、PA1-2、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となって表示結果が「ハズレ」となるリーチハズレの変動パターンPA2-1～PA2-6、PA3-1～PA3-4等、表示結果が「大当り」となる変動パターンPB2-1～PB2-6、PB3-1～PB3-4等が用意されている。

40

【0457】

また、図9-1（B）に示すように、この実施の形態では、ノーマルリーチ、スーパーリーチA～Eといったリーチ演出が実行されるようになっている。この実施の形態では、リーチ演出は、大当り状態に制御されることを示唆する示唆演出とも称される。各リーチが実行されたときの信頼度（大当り信頼度）は、図9-1（B）の黒色の星の数で表すよ

50

うに、ノーマルリーチ<スーパーリーチE<スーパーリーチD<スーパーリーチC<スーパーリーチB<スーパーリーチAの順番に高くなっている。なお、大当たりとなることが確定するリーチを設けてもよい。

【0458】

この実施の形態では、スーパーリーチはノーマルリーチを経由して実行されるようになっている。また、スーパーリーチのリーチ演出中に、より信頼度の高いリーチに発展（昇格）する発展演出が実行される場合がある。図9-1（A）に示す変動パターンPA3-1～PA3-4等、変動パターンPB3-1～PB3-4等が、発展演出が実行されることに対応した変動パターンとなっている。なお、図9-1（A）では、信頼度が一段階上のスーパーリーチに発展する変動パターンが示されているが、信頼度が二段階以上発展する変動パターンも設けられる。また、発展演出が複数回実行される変動パターンを設けてもよい。

10

【0459】

この実施の形態では、信頼度が最も低いノーマルリーチ以外では、リーチ成立後の所定タイミングにおいて、そのリーチのタイトルが報知されるようになっている。図9-1（B）に示すように、リーチの種類によってタイトルの報知態様が異なっている。具体的には、スーパーリーチの中で最も信頼度の低いスーパーリーチEは、表示のみでリーチのタイトルが報知され、それ以外のスーパーリーチは、表示及び音声によりタイトルが報知される。このように、信頼度の高いリーチの方が信頼度の低いリーチより多くの演出装置によりタイトルの報知が実行されるようになっている。これにより、遊技者の期待感を効果的に煽ることができ演出効果が向上する。なお、タイトルの報知態様は、信頼度によってまたは信頼度によらず任意に変更してもよい。また、同じリーチ演出においても、実際の表示結果等に応じて報知態様を異ならせてもよい。また、リーチの種類によってタイトル文字のフォント（ゴシック体、明朝体等）や書体（行書、楷書等）を異ならせてもよい。

20

【0460】

リーチのタイトルの報知（タイトル報知）とは、リーチの名称といったタイトルそのものを示すものに限定されず、リーチ演出で登場するキャラクタの名称、リーチ演出の演出内容等を示すものであってもよい。

【0461】

（特徴部31AKの演出動作例）

30

続いて、この実施の形態における演出動作例について説明する。以下の演出動作は、主基板11から送信される演出制御コマンドに基づいて、演出制御用CPU120が演出制御プロセス処理を実行することで実行される。図9-2、図9-3は、この実施の形態におけるスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図9-2（A）は、画像表示装置5の「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄の可変表示が実行されていることを示している。その後、例えば、図9-2（B）に示すように、「左」及び「右」に7の数字を示す飾り図柄が停止してリーチ態様となる。その後はリーチの種類に応じて演出が分岐する。

【0462】

（スーパーリーチA）

40

スーパーリーチAとなる場合には、図9-2（C）に示すように、画像表示装置5に味方キャラであるキャラクタ31AK001が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは、例えばキャラクタ31AK001を使用したアニメーション等が表示される。スーパーリーチのリーチ演出（スーパーリーチ演出ともいう）の導入部分が終了する等、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図9-2（D）に示すように、画像表示装置5の画面全体にスーパーリーチAのタイトル31AK002（ここでは「SPリーチA」の文字）が表示されるとともに、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声（ここでは「スーパーリーチA」）が出力されることで、スーパーリーチAのタイトルが報知される。その後、スーパーリーチAのタイトル31AK002が消去され、図9-2（E）に示すように、敵キャラであるキャラクタ31AK003が表示され、キャラ

50

クタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 0 3 とが対決するスーパーリーチ A のリーチ演出の後続部分が実行される。キャラクタ同士が対決する演出をバトル演出ともいい、バトル演出において味方キャラが勝利すると大当たりとなり、味方キャラが敗北するとハズレとなる。

【0463】

なお、スーパーリーチ演出中に画像表示装置 5 にセリフを表示するときに、スピーカ 8 からセリフに対応する音声出力されるようにしてもよい。また、セリフは図 9-2 (E) に示すように吹き出しに表示することに限定されず、画像表示装置 5 の下部等に字幕で表示するようにしてもよい。

【0464】

(スーパーリーチ B)

スーパーリーチ B となる場合には、図 9-2 (C) に示すように、画像表示装置 5 にキャラクタ 3 1 A K 0 0 1 が表示されてリーチ演出が開始される。ここでは、例えばキャラクタ 3 1 A K 0 0 1 を使用したアニメーション等が表示される。スーパーリーチ演出の導入部分が終了する等、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過すると、図 9-2 (F) に示すように、画像表示装置 5 の画面全体にスーパーリーチ B のタイトル 3 1 A K 0 0 5 (ここでは「S P リーチ B」の文字) が表示されるとともに、スピーカ 8 からリーチのタイトル名に対応する音声 (ここでは「スーパーリーチ B」) が出力されることで、スーパーリーチ B のタイトルが報知される。その後、スーパーリーチ B のタイトル 3 1 A K 0 0 5 が消去され、図 9-2 (G) に示すように、敵キャラであるキャラクタ 3 1 A K 0 0 6 が表示され、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 0 6 とが対決するスーパーリーチ B のリーチ演出の後続部分が実行される。

【0465】

このように、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B とでは、スーパーリーチ演出が開始されてから所定期間経過したときにリーチのタイトルが報知されるようになっている。このようにすることで、スーパーリーチ演出の導入部分等を遊技者に見せた後にタイトルを報知できるので、タイトル報知の演出効果を高めることができる。

【0466】

また、スーパーリーチ A (図 9-2 (C) → (D) → (E) ...) とスーパーリーチ B (図 9-2 (C) → (F) → (G) ...) とでは、タイトルが報知されるまでの導入部分においては、共通の演出態様でスーパーリーチ演出が実行されるようになっている (図 9-2 (C))。このようにすることで、スーパーリーチ演出が開始されてからいずれのスーパーリーチとなるか、いずれのタイトルが報知されるかに遊技者を注目させることができる。スーパーリーチ A とスーパーリーチ B とにおいて、タイトルが報知されるまでの演出態様を完全に共通にすることに限定されず、演出を注視すればいずれのスーパーリーチとなるかを判別できる等、少なくとも一部を共通の演出態様にするようにしてもよい。例えば、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B との導入部分において、その後に報知されるタイトルに関連する態様でスーパーリーチ演出 (例えば敵キャラを表示したり敵キャラを示唆するような演出) を実行するようにしてもよい。このようにすることで、演出効果が向上し、遊技者が演出に注目するようになる。このように、いずれのスーパーリーチとなるかを特定可能にしてからタイトル報知を実行するようにしてもよい。

【0467】

(スーパーリーチ D)

スーパーリーチ D となる場合には、図 9-2 (H) に示すように、画像表示装置 5 の中央の一部にスーパーリーチ D のタイトル 3 1 A K 0 0 7 (ここでは「S P リーチ D」の文字) が表示されるとともに、スピーカ 8 からリーチのタイトル名に対応する音声 (ここでは「敵を倒せ」) が出力されることで、スーパーリーチ D のタイトルが報知される。このように、スーパーリーチ D では、スーパーリーチ演出の開始時にタイトルが報知されるようになっている。また、タイトル 3 1 A K 0 0 7 の下には、当該リーチの期待度を示唆す

10

20

30

40

50

る期待度示唆表示 3 1 A K 0 0 8 が表示される。期待度は、図 9-2 (H) に示すように、黒い星の数で表される。ここで、期待度とは大当たりとなる期待度であるが、リーチの大当たり信頼度と完全に一致していなくてもよい。

【0468】

なお、スーパーリーチ D の音声による報知は、タイトル名をそのまま報知するのではなく、リーチの内容を報知するようになっている。このように、この実施の形態では、リーチの種類によって音声によるタイトル報知の報知態様を異ならせている。これにより、タイトル報知の報知態様が多彩になり、興味が向上する。

【0469】

スーパーリーチ D においてタイトルが報知された後には、図 9-2 (I) に示すように、画像表示装置 5 にキャラクタ 3 1 A K 0 0 1 が表示される。このとき、タイトル 3 1 A K 0 0 7 及び期待度示唆表示 3 1 A K 0 0 8 は、画像表示装置 5 の右上部分等に縮小して表示され続ける。このようにすることで、リーチ演出中にも遊技者がリーチの期待度を把握することができる。なお、図 9-2 (I) では、図 9-2 (C) (スーパーリーチ A、スーパーリーチ B) と共通の演出内容が示されているが、スーパーリーチ D 専用のスーパーリーチ演出が実行されてもよい。

【0470】

その後、図 9-2 (J) に示すように、敵キャラであるキャラクタ 3 1 A K 0 0 9 が表示され、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 0 9 とが対決するスーパーリーチ D のリーチ演出が実行される。

【0471】

(スーパーリーチ E)

スーパーリーチ E となる場合には、図 9-3 (A) に示すように、画像表示装置 5 の左上の一部にスーパーリーチ E のタイトル 3 1 A K 0 1 0 (ここでは「SPリーチ E」の文字) が表示されることで、スーパーリーチ E のタイトルが報知される。なお、スーパーリーチ E では、音声によるタイトルの報知が行われない。また、タイトル 3 1 A K 0 1 0 の表示と合わせて、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 と敵キャラであるキャラクタ 3 1 A K 0 1 1 とが表示され、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 のセリフ 3 1 A K 0 0 4 が表示されたり、キャラクタ 3 1 A K 0 0 1 とキャラクタ 3 1 A K 0 1 1 とが対決するスーパーリーチ E のリーチ演出が実行される。このように、スーパーリーチ E では、リーチ演出の進行と合わせてタイトルが報知されるようになっている。スーパーリーチ E では、リーチ演出中にタイトル 3 1 A K 0 1 0 が表示され続ける。

【0472】

大当たり信頼度の低いスーパーリーチ E のリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うことで、遊技者に過度な期待感を与えることを防止できる。これに対して、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ D のリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようになっている (図 9-2 (D)、(F)、(H))。このようにすることで、スーパーリーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ D といったスーパーリーチ演出においてもリーチの進行を停止せずにタイトル報知を行うようにしてもよい。また、この実施の形態とは逆に、大当たり信頼度の高いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を止めずにタイトル報知を行うようにしてもよい。大当たり信頼度の低いスーパーリーチのリーチ演出では、リーチ演出の進行を停止してタイトル報知を行うようにしてもよい。

【0473】

(タイトルの報知タイミング)

以上のように、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知され

るようになっている。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、スーパーリーチ演出開始後所定期間経過してからタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いスーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知されるようになっていたが、大当たり信頼度の高いリーチの場合にスーパーリーチ演出開始時にタイトルが報知され、大当たり信頼度の低いリーチの場合にスーパーリーチ演出後所定期間経過してからタイトルが報知されるようにしてもよい。

【0474】

(タイトルの表示領域)

10

また、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、画像表示装置 5 の画面全体（第 1 領域）においてタイトルが報知され、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、画像表示装置 5 の画面の一部（第 2 領域）においてタイトルが報知される。このようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。特に、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも広い表示領域でタイトル報知が実行されるので効果的なタイトル報知が可能になる。なお、画像表示装置 5 の画面全体におけるタイトル報知とは、画面いっぱいに収まるサイズでタイトルが表示されるものであってもよいし、背景全体をタイトル報知用の背景としてそこにタイトルが表示されるもの（画面全体を使用したタイトル報知）等であってもよい。また、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B とでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよいし、スーパーリーチ D とスーパーリーチ E とでタイトル報知を行う表示領域を異ならせてもよい。

20

【0475】

リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる方法は、この実施の形態の例に限定されず、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を任意に異ならせてもよい。例えば、大当たり信頼度の高いリーチである場合には、信頼度の低いリーチである場合よりも狭い表示領域でタイトル報知が実行されてもよい。また、リーチ演出に応じてタイトル報知を行う表示領域を異ならせる場合において、この実施の形態のように表示面積を異ならせてもよいし、表示させる場所を異ならせてもよい。

【0476】

30

(期待度示唆表示)

この実施の形態では、大当たり信頼度の高いスーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示せずに、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B よりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチ D におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示するようにしていた。このようにすることで、演出がくどくなることを防止できる。また、スーパーリーチ D よりも大当たり信頼度の低いスーパーリーチ E におけるタイトル報知では、期待度示唆表示を表示しないようになっていた。このようにすることで、信頼度の低いリーチにおいて信頼度が低いことを示す期待度示唆表示が表示されることで遊技者が期待感を失うことを防止できる。なお、スーパーリーチ A、スーパーリーチ B、スーパーリーチ E の少なくとも一部において期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。

40

【0477】

なお期待度示唆表示は、図 9-2 (H) 等に応示するように、黒い星の数によって示すものに限定されず、メーターやゲージにより期待度を示唆するようにしてもよいし、期待度に対応した数値を表示するようにしてもよい。また、図 9-2 (H) 等に応示するように、黒い星の数によって示す場合において、半個相当（半分）の黒い星を表示可能ようにして、期待度の段階数を増やしてもよい。

【0478】

(タイトルの表示終了タイミング)

また、この実施の形態では、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、タイ

50

トルが表示された後、タイトルが消去されてスーパーリーチ演出が実行される。これにより、スーパーリーチ A 及びスーパーリーチ B においては、リーチ演出に注目させることができる。また、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、タイトルが表示された後、後述の決め演出が実行されるまでタイトルが表示され続ける。これにより、スーパーリーチ D 及びスーパーリーチ E においては、スーパーリーチ演出中もリーチの種類を把握することができる。また、以上のようにすることで、リーチ演出に応じたタイトル報知を実行でき演出効果が向上する。なお、タイトルの表示終了タイミングは、いずれであっても演出効果の向上を図れるため、任意に変更してもよい。

【0479】

なお、ここではスーパーリーチ C のリーチ演出の演出動作については省略するが、例えば大当り信頼度に応じたタイトル報知や期待度示唆表示が実行されればよい。

【0480】

(決め演出)

各リーチ演出が実行されてから、表示結果を導出するタイミング(可変表示の終盤)になると、表示結果が「大当り」となるか否かを報知するための決め演出が実行される。決め演出には、表示結果が「大当り」となることを示す決め演出と、表示結果が「ハズレ」となることを示す決め演出と、が含まれる。この実施の形態では、図9-3(B)に示すように、画像表示装置5に画像31AK012が表示される決め演出が実行される。その後、表示結果が「大当り」であれば、図9-3(C)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK013が表示され、図9-3(D)に示すように、大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、表示結果が「ハズレ」であれば、味方キャラが敗北したことを示す画像が表示され、リーチハズレ組合せとなる確定飾り図柄が導出される。

【0481】

この実施の形態では、リーチ演出中も継続してタイトルを報知する場合でも、決め演出が実行される前にタイトルの報知を終了するようになっている。これにより、決め演出に注目させることができ、また、メリハリのあるタイトル報知を実行できる。

【0482】

図9-2、図9-3に示した演出動作例では、スーパーリーチのリーチ演出中は画像表示装置5の右下部分で飾り図柄を縮小して可変表示を実行するようになっていたが、リーチ演出中の飾り図柄の表示のさせ方は任意でよい。例えば、リーチ演出中は飾り図柄が表示されなくてもよいし、リーチ演出の種類によって表示態様(大きさ、位置、濃淡、数等)を異ならせてもよい。

【0483】

なお、画像表示装置5に保留表示、アクティブ表示、可変表示中に常駐表示されるキャラクタ、携帯連動関連の表示を表示する場合、スーパーリーチのリーチ演出中はリーチ演出に注目させるために適宜非表示としてもよい。その際に、スーパーリーチ E といった低信頼度のリーチ演出中には、これらの表示を表示したままにするようにしてもよい。このようにすることで、低信頼度のリーチ演出により遊技者を過度に期待させてしまうことを防止できるとともに、高信頼度のリーチ演出ではリーチ演出に注目させることができる。

【0484】

(発展演出)

続いて、発展演出が実行される場合の演出動作例について説明する。図9-4(A)に示すように、スーパーリーチ D のリーチ演出が実行されている(スーパーリーチ D のタイトル報知が実行されている)ときに発展演出が実行される場合、図9-4(B)に示すように、リーチ演出が中断して画面が裂けるような演出が実行される。その後、スーパーリーチ A に発展する場合には、図9-4(C)に示すように、スーパーリーチ A のタイトルが報知され、スーパーリーチ A のリーチ演出が実行される。スーパーリーチ B に発展する場合には、図9-4(D)に示すように、スーパーリーチ B のタイトルが報知され、スーパーリーチのリーチ演出が実行される。このように、発展演出が実行された場合には、発

展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。図9-4に示すように、発展先のリーチが表示及び音声によりタイトル報知を行うリーチである場合には、表示及び音声によるタイトル報知が改めて実行される。

【0485】

なお、発展演出は図9-4(B)に示すような例に限定されず、画面に徐々にヒビが入って割れるような演出であってもよいし、砂嵐（故障したような表示）を表示するようにしてもよい。このような演出とすることで、意外性のある演出を実行できる。なお、画面に徐々にヒビが入るがリーチが発展しない演出といった、ガセの発展演出があってもよい。

10

【0486】

（期待度示唆演出）

図9-2(H)に示す演出動作例では、期待度示唆表示31AK008が期待度を示す黒い星が最初から表示されるようになっていたが、最初に5つの白い星を表示し、段階的に黒い星となることで期待度示唆する期待度示唆演出を実行するようにしてもよい。

【0487】

例えば、図9-5(A)に示すように、スーパーリーチDのタイトルを報知する際に、最初に5つの白い星の期待度示唆表示31AK021が表示される。そして、図9-5(B)に示すように、期待度示唆表示31AK021の星より大きな黒い星31AK022が表示され、図9-5(C)に示すように、黒い星31AK022が移動して期待度示唆表示31AK021の白い星の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い星が増加したことを示す「ピン」という音声が出力される。図9-5(D)、(E)に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。このときに、繰り返される毎（星の数毎）にスピーカ8から出力される音声（音量、音階、音質等）を段階的に変化させるようにしてもよい。期待度示唆表示31AK021に期待度に対応した数の黒い星が収まった段階で、図9-5(F)に示すように、その黒い星が光るといったように強調表示される。このようにすることで、期待度示唆演出が終了したことがわかりやすくなる。

20

【0488】

図9-5(A)～(F)に示す例では、黒い星が1つずつ表示されて期待度示唆表示により示される期待度が1段階ずつ上がるようになっていたが、黒い星が2つ以上表示されて期待度が2段階以上上がるようにしてもよい。また、半分の黒い星が表示されて期待度が半段階上がるようにしてもよい。この場合において、表示される星の数（上昇する期待度の段階数）に応じて、異なる音声を出力するようにしてもよいし、同じ音声を出力するようにしてもよい。例えば、半分の黒い星が表示されるときと1つの黒い星が表示されるときとで同じ音声を出力するようにしてもよい。2つ半の黒い星が表示されるときと3つの黒い星が表示されるときとで同じ音声を出力するようにしてもよい。また、音声を出力しない場合があってもよい。このようにすることで、期待度示唆演出が多彩になり、演出効果が向上する。なお、一度に増加する期待度の段階数によらず、同じ黒い星の画像が表示されて、期待度示唆表示の白い星に収まって、増加する期待度の段階数に応じた黒い星が増加するような演出を実行するようにしてもよい。

30

40

【0489】

（演出モード）

画像表示装置5、スピーカ8、遊技効果ランプ9といった演出装置における演出モードが複数あってもよい。異なる演出モードでは、主基板11から同じコマンド（例えば変動パターンを指定するコマンド）が送信された場合でも、当該コマンドに基づく演出が異なる演出態様で実行される。各演出モードでは、画像表示装置5に表示される背景、キャラクタ、モチーフ、スピーカ8から出力される音声等が異なっていればよい。演出モードは、可変表示の回数や遊技状態に応じて自動的に変更されるようにしてもよいし、遊技者の操作により変更可能にしてもよい。

50

【0490】

図9-5 (G) ~ (L) は、演出モードとして通常モード及び特別モードが設けられる場合において、特別モードとなっている場合のタイトル報知及び期待度示唆演出の演出動作例である。通常モードでは、図9-5 (A) ~ (F) に示すようタイトル報知及び期待度示唆演出が実行される。特別モードでは、スーパーリーチDの変動パターンに基づくリーチ演出は、スーパーリーチDのリーチ演出とは演出態様の異なるスーパーリーチD2のリーチ演出となる。従って、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合、図9-5 (G) に示すように、スーパーリーチD2のタイトル3 1 A K 0 2 3が表示される。このとき、スピーカ8からリーチのタイトル名に対応する音声が出力されるが、通常モードとは異なる音声（例えば声色が異なる音声）が出力される。また、スーパーリーチD2における期待度示唆表示3 1 A K 0 2 4は、星型ではなく菱形となっている。

10

【0491】

その後、図9-5 (H) に示すように、期待度示唆表示3 1 A K 0 2 4の星より大きな黒い菱形3 1 A K 0 2 5が表示され、図9-5 (I) に示すように、黒い菱形3 1 A K 0 2 5が移動して期待度示唆表示3 1 A K 0 2 4の白い菱形の一つに収まるような演出が実行される。このとき、スピーカ8から期待度を示す黒い菱形が増加したことを示す「ポン」という音声が出力される。図9-5 (J)、(K) に示すように、リーチの期待度に対応した回数同じ演出が繰り返される。期待度示唆表示3 1 A K 0 2 4に期待度に対応した数の黒菱形が収まった段階で、図9-5 (L) に示すように、その黒い菱形が光るといったように強調表示される。このように、遊技者の選択や遊技状態等に応じて決定される演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、タイトルの報知態様を異ならせることで演出が多彩になり演出効果が向上する。

20

【0492】

図9-5では、スーパーリーチDの変動パターンが指定された場合の演出動作例を示したが、演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって他のリーチ演出（タイトル報知、期待度示唆演出を含む）の演出態様を異ならせるようにしてもよい。演出モード（リーチ演出が実行されるときの状態）によって、リーチのタイトルを報知するか否かやタイトル報知の実行割合を異ならせてもよい。例えば、所定の演出モードが選択された場合には、リーチのタイトルが報知されないようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の好みに応じた演出を実行でき演出効果が向上する。

30

【0493】

なお、この実施の形態では、期待度示唆表示における黒い星の数によって期待度を示唆し、黒い星の数を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行するようになっていたが、期待度を示唆する表示の数を段階的に減少させる期待度示唆演出を実行するようによい。そのような期待度示唆演出をこの実施の形態の期待度示唆演出に加えて実行するようによいし、代えて実行するようによい。

【0494】

（発展演出の他の例）

期待度示唆表示の期待度を示す表示を段階的に増加させる期待度示唆演出を実行する場合において、期待度を示す表示を増加させた後に発展演出を実行するようによい。この場合において、発展演出後に期待度を示す表示を増加させる場合、増加させる表示については段階的ではなく一度に表示するようによい。例えば図9-6 (A) に示すように、スーパーリーチDのタイトルが報知され、黒い星を段階的に増加させる演出が完了した後に、図9-6 (B) に示すように、画像表示装置5にボタン画像3 1 A K 0 3 1が表示される発展演出が実行される。ここで、プッシュボタン3 1 Bへの操作が検出されると、図9-6 (C) に示すように、スーパーリーチCのタイトル3 1 A K 0 3 2（ここでは「S PリーチC」の文字）が表示されることで、スーパーリーチCのタイトルが報知される。このように、発展演出が実行された場合には、発展元のリーチのタイトル報知から発展先のリーチのタイトル報知に切り替えられるで、いずれのリーチに発展したかがわかりやすくなる。また、タイトル3 1 A K 0 3 2の下には、黒い星の数が3個である期待

40

50

度示唆表示 3 1 A K 0 3 3 が強調表示される。なお、黒い星の数が 2 個以上増加する場合でも一度に表示される。なお、可動体 3 2 が動作した後に、タイトルや期待度示唆表示が変化する発展演出を実行するようにしてもよい。

【0495】

(予告演出)

この実施の形態では、予告演出として、タイトルの報知態様（例えばタイトルの表示色等）によって、大当たり信頼度を予告するタイトル予告を実行するようになっている。例えば図 9-7 (A) に示すように、スーパーリーチ A のタイトル 3 1 A K 0 3 6 が黒色で表示されるとともに、スピーカ 8 からリーチのタイトル名に対応する音声が出力されることで、スーパーリーチ A のタイトルが報知された後、図 9-7 (B) に示すようにタイトル 3 1 A K 0 3 6 の表示色が赤色に変化するタイトル予告を実行するようになっている。このように、タイトル予告が実行されない場合はタイトルが黒色で表示され、タイトル予告が実行される場合はタイトルが黒色以外の色で表示される。図 9-7 に示すタイトル予告では、音声によりリーチのタイトルが報知された後に、タイトルの表示態様（表示色）が変化する場合がある。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。なお、タイトルが黒色以外で表示されるタイミングはこれに限定されず、タイトルの表示開始時から黒色以外で表示されるようにしてもよい。

【0496】

また、タイトルの表示態様（表示色）が変化するタイトル予告が実行された場合には、タイトルの表示態様に変化した後に、変化後の表示態様に応じた音声を出力するようにしてもよい。このようにすることで、予告演出の演出効果を高めることができる。また、音声によるタイトル報知は、タイトルの表示態様（表示色）が変化した後に実行されるようにしてもよい。この場合、変化後のタイトルの表示態様（表示色）に応じた音声が出力するようにしてもよい。

【0497】

(タイトル報知の実行タイミング)

リーチ中のタイトルの報知は、予告演出や発展演出といった、大当たり有利状態に制御される期待度が向上する演出（特定演出）の実行タイミング以外で実行することが好ましい。このようにすることで、一旦タイトルが報知された場合、期待度が向上する演出が実行され得るので、遊技者の期待感を維持することができる。

【0498】

図 9-8 は、予告演出の実行の有無や演出態様を決定するための予告演出決定処理の一例を示すフローチャートである。予告演出決定処理は、演出制御用 CPU 120 が図 7 のステップ S 171 の可変表示開始設定処理内で実行する。予告演出決定処理では、演出制御用 CPU 120 は、まず、主基板 11 から送信されるコマンドから特定される変動パターンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かを判定する（ステップ 3 1 A K S 0 0 1）。

【0499】

スーパーリーチの変動パターンである場合には（ステップ 3 1 A K S 0 0 1 ; Y e s）、スーパーリーチのタイトルの表示色（タイトル予告の実行の有無）を決定する（ステップ 3 1 A K S 0 0 2）。

【0500】

ステップ 3 1 A K S 0 0 2 では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図 9-9 (A) に示す決定割合で、スーパーリーチのタイトルの表示色を決定する。スーパーリーチのタイトルの表示色は、図 9-9 (A) に示すように、「黒」、「赤」、「黒」から「赤」に変化するもの、「黒」から「フルーツ柄」に変化するもの、「赤」から「フルーツ柄」に変化するものが設けられており、この順番（昇順）で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、タイトルの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がタイトルの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。

【0501】

なお、「フルーツ柄」は、タイトルの文字が太字で表示され文字そのものが「フルーツ柄」であってもよいし、タイトルの表示領域の背景部分が「フルーツ柄」となるものであってもよい。最初から「フルーツ柄」で表示されるパターンがあってもよい。表示色に変化するものについては、図9-7に示したように、タイトル報知が実行された後に表示色に変化すればよい。表示色に変化するものについて、表示色に変化するタイミングが複数あってもよい。そして、表示色に変化するタイミングに応じて大当たり信頼度を異ならせてもよい。また、スーパーリーチの種類によって、タイトルの表示期間が異なるため、スーパーリーチの種類によって表示色に変化するタイミングが異なるようにしてもよい。タイトルの表示期間が長いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチDやスーパーリーチE）の場合には、変化するタイミングを複数設けて、変化タイミングをいずれかに決定するようにしてもよい。そして、タイトルの表示期間が短いスーパーリーチ（例えばスーパーリーチAやスーパーリーチB）の場合には、変化するタイミングの数を1つ又はタイトルの表示期間が長いスーパーリーチよりも少数にしてもよい。

【0502】

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、通常モードでは図9-9（A）に示す決定割合でタイトルの表示色を決定し、特別モードでは図9-9（B）に示すような通常モードと異なる割合でタイトルの表示色を決定する。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。このように、演出モードによってタイトル予告の実行態様（表示色や表示色の変化タイミング）を異ならせることで、演出が多彩になり演出効果が向上する。

【0503】

この実施の形態では、予告演出として、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示態様（例えばセリフの表示色等）によって、大当たり信頼度を予告するセリフ予告を実行するようになっている。

【0504】

スーパーリーチのタイトルの表示色を決定した後は、スーパーリーチのリーチ演出におけるキャラクタのセリフの表示色（セリフ予告の実行の有無）を決定する（ステップ31AKS003）。

【0505】

ステップ31AKS003では、表示結果が「大当たり」となるか「ハズレ」となるかに応じて、例えば図9-9（C）に示す決定割合で、リーチ演出におけるセリフの表示色を決定する。リーチ演出におけるセリフの表示色は、図9-9（C）に示すように、「白」、「赤」、「白」から「赤」に変化するものが設けられており、この順番（昇順）で大当たり信頼度が高くなっている。即ち、セリフの表示色の変化タイミングに応じて大当たり信頼度が異なっている。このようにすることで、遊技者がセリフの表示色の変化タイミングに注目するようになり、演出効果が向上する。なお、表示色に変化するものについては、セリフが表示された後に表示色に変化すればよい。表示色に変化するものについて、表示色に変化するタイミングが複数あってもよい。そして、表示色に変化するタイミングに応じて大当たり信頼度を異ならせてもよい。

【0506】

また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、タイトル予告とセリフ予告とで同じ演出態様（表示色）が含まれる場合、同じ演出態様となった場合には大当たり信頼度が高くなるようにしてもよい。また、タイトル予告とセリフ予告との演出態様の変化タイミングの組み合わせで、大当たり信頼度が異なるようにしてもよい。例えば、変化タイミングが同じ場合に変化タイミングが異なる場合より大当たり信頼度が高くなるようにしたり、いずれの変化が先かで大当たり信頼度を異ならせてもよい。このようにすることで、タイトル予告とセリフ予告とのそれぞれの変化タイミングに注目させることができる。

【0507】

演出モードとして、通常モードと特別モードとがある場合、特別モードでは通常モードと異なる割合でセリフの表示色を決定するようにしてもよい。なお、特別モードでは、表示色のパターンや信頼度の順位が通常モードと異なるようにしてもよい。

【0508】

なお、セリフ予告に代えてリーチ演出の演出態様の変化によって大当り信頼度を予告する予告演出を実行するようにしてもよい。その場合、その予告演出において、演出態様の変化タイミングを複数設けて、変化タイミングに応じて大当り信頼度が異なるようにすればよい。

【0509】

リーチ演出におけるセリフの表示色を決定した後や、スーパーリーチの変動パターンでないと判定された場合（ステップAK31S001；No）、その他の予告演出に実行有無や演出態様を決定する（ステップAK31S004）。その後、31AKS002～31AKS004における決定結果をRAM122の所定領域に保存し（ステップAK31S005）、予告演出決定処理を終了する。

【0510】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチである場合に、タイトル予告及びセリフ予告を実行可能となっているが、特定のスーパーリーチ（例えば信頼度の低いスーパーリーチ以外）である場合に、タイトル予告及びセリフ予告のうち少なくとも一方を実行可能にしてもよい。また、タイトル予告及びセリフ予告については、図9-9に示す決定割合で決定されるものとして説明したが、決定割合は任意であり、例えばスーパーリーチの種類に応じて決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで、リーチの種類に応じた予告演出を実行でき、演出効果が向上する。

【0511】

この実施の形態では、タイトル予告とセリフ予告とでは、実行可能な演出態様の数（表示可能な表示色の数）が異なっている。このようにすることで、演出が多彩になり演出効果が高まる。タイトル予告とセリフ予告とにおいて、実行可能な演出態様の数は任意に変更してもよく、実行可能な演出態様の数や種類が同じであってもよい。このようにすることで、統一感ある予告演出が実行でき、遊技者は大当り信頼度を把握しやすくなる。

【0512】

（作用演出）

このタイトル予告とセリフ予告との演出態様が変わるときに、演出態様が変わることを示す演出を実行するようにしてもよい。例えば、画像表示装置5に作用演出画像を表示し、その画像がタイトル及びセリフのうち少なくとも1つに作用する作用演出を実行するようにしてもよい。そして、作用演出が実行された後に、タイトルやセリフの演出態様（表示色）が変わるようにしてもよい。作用演出の演出態様（作用演出画像等）はタイトル及びセリフにいずれに作用する場合でも共通としてもよい。なお、作用演出が実行されたにも関わらず、タイトルやセリフの演出態様が変わらない場合があってもよい。作用演出を実行する場合には、タイトル予告とセリフ予告に係る決定結果に基づいて、作用演出の実行の有無や実行タイミング、演出態様を決定するようにすればよい。そのような決定はステップAK31S004の処理で実行されればよい。例えば、作用演出の演出態様に応じて、タイトル予告とセリフ予告との少なくとも一方の演出態様が変わる割合（作用演出により演出態様が変わる割合）が異なるようにしてもよいし、タイトル予告とセリフ予告といずれの演出態様が変わるかの割合（いずれに作用するかの割合）が異なるようにしてもよいし、何色に（何段階）変化するかの割合が異なるようにしてもよい。このような作用演出を実行することで、遊技者はいずれ作用演出画像が表示されたときに、タイトルとセリフのいずれに作用するか注目するようになり演出効果が向上する。なお、複数の演出モードがある場合、演出モードに応じて異なる割合で作用演出の実行有無や演出態様を決定するようにしてもよい。このようにすることで、演出モードに応じた作用演出を実行でき、演出効果が向上する。

【0513】

このような作用演出の他の例として、リーチ演出の演出内容（例えばキャラクタの動作やバトル演出における演出内容等）に応じて、タイトル及びセリフのいずれかのうち少なくとも1つの演出態様（表示色）が変化するようにしてもよい。このようにすることで、遊技者はリーチ演出の演出内容に注目するようになる。

【0514】

この発明は、上記特徴部31AKで説明したパチンコ遊技機1に限定されず、この発明の趣旨を逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。例えば、上記実施の形態で説明した特徴部分は、全てが必須構成ではなく、適宜省略可能である。

【0515】

（サブ液晶）

画像表示装置5とは異なるサブ表示装置として、遊技盤2または遊技機用枠3にサブ液晶が設けられていてもよい。ここではサブ液晶と表現するが、サブ表示装置は、有機ELやドットマトリクスLEDにより構成されてもよい。サブ液晶装置は、例えば画像表示装置5の近傍等に固定されるものであってもよいし、可動式または収納式であってもよい。サブ液晶においては、予告演出や保留表示の表示といった各種演出を実行する。例えば、サブ液晶においてタイトル報知を実行するようにしてもよい。上記実施の形態のスーパーリーチD及びスーパーリーチEのように、タイトル報知後にも継続してタイトルを表示する場合に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。この場合、画像表示装置5においてタイトルを報知した後に、サブ液晶においてタイトルや期待度示唆表示を表示するようにしてもよい。このようにすることで、画像表示装置5におけるスーパーリーチ演出を阻害することなくタイトルや期待度示唆表示を表示することができる、タイトルや期待度示唆表示もわかりやすくなる。

【0516】

上記実施の形態では、示唆演出としてのリーチ演出のタイトルの報知について、この発明を適用した例を説明したが、他の演出に関するタイトル報知（主に文字を表示する報知）にこの発明を適用してもよい。例えば、予告演出（例えば先読み予告演出）として、画像表示装置5における背景画像や演出態様がそれぞれ異なる複数のゾーン（ステージ、演出モード等）に移行させる先読みゾーン演出を実行する場合において、移行したゾーンのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。ミッション（「7でリーチをかけろ」、「スティックコントローラを使って敵を全滅させろ」等）を提示し、当該ミッションを達成したときに遊技者に有利な状態となるミッション演出を実行する場合に、ミッションのタイトル報知にこの発明を適用してもよい。

【0517】

（特徴部31AKの変形例1）

上記実施の形態では、表示結果を導出するタイミングになると、表示結果が「大当り」となるか否かを報知するための決め演出が実行され、その後、表示結果が示されるようになっていた（図9-3（B）～（D））。このような決め演出に代えて、表示結果を導出する前の所定タイミングになると、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bの操作を促す操作演出が実行され、操作有効期間に所定の操作が検出されるとバトル演出の勝敗が表示されたり、表示結果が仮停止される等により、表示結果が示されるようにしてもよい。このようにすることで、遊技者の操作に応じて表示結果が示されるため、遊技者の遊技参加意欲を高めることができ、興味が向上する。

【0518】

図9-10、図9-11は、操作演出が実行され、その操作に応じて表示結果が示される変形例におけるスーパーリーチの演出動作例を示す図である。図9-10（A）に示すように、画像表示装置5においてリーチ態様となった後、例えば図9-10（B）に示すように、味方キャラであるのキャラクタ31AK041と敵キャラであるキャラクタ31AK042とが表示され、図9-10（C）～（F）、図9-11（G）～（I）に示すように、キャラクタ31AK041とキャラクタ31AK042とが対決するリーチ演出が実行される。

【0519】

リーチ演出に伴い、図9-10(C)に示すように、画像表示装置5の右下に小ボタン画像31AK043と小ボタン画像31AK043に重畳する規制線31AK044とが表示される。これにより、押しボタン31Bを使用する操作演出が実行されるが、現状は操作の受付が規制されていることが示唆される。

【0520】

この変形例では、操作演出が実行されることを示す操作演出画像が複数種類用意されている。そして、いずれの操作演出画像が表示されて操作演出が実行されるかによって大当たり信頼度が異なるようになっている。また、リーチ演出中に操作演出が実行されることを示す画像がより信頼度の高い態様に変化する場合があるようになっている。

10

【0521】

例えば、図9-10(D)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が表示され、図9-10(E)に示すように、祈るキャラクタ31AK045が喜ぶキャラクタ31AK046に変化するとともに、小ボタン画像31AK043が大ボタン画像31AK047に変化する。

【0522】

その後、図9-11(H)に示すように、大砲31AK048が表示され、図9-11(I)に示すように、大砲31AK048から弾が発射されるエフェクト31AK049が表示され、大ボタン画像31AK047に弾が命中するエフェクト31AK050が表示される。そして、大ボタン画像31AK047がスティック画像31AK051に変化する。

20

【0523】

このように、この変形例では、操作演出画像が変化する場合には操作演出画像が変化することを示す作用演出が実行される。なお、作用演出を伴わずに操作演出画像が変化する場合があってもよい。また、作用演出が実行されたにも関わらず操作演出画像が変化しない場合があってもよい。作用演出の種類によって、操作演出画像が変化する割合が異なっている。

【0524】

その後、表示結果が導出される所定時間前に、図9-11(J)に示すように、規制線31AK044が消去され、図9-11(K)に示すように、スティック画像31AK051が中央部に拡大表示され、スティックコントローラ31Aを引く操作を促す表示がされる。また、このときスティックコントローラ31Aへの操作が有効な操作有効期間となる。

30

【0525】

ここで、スティックコントローラ31Aを引く操作が検出されると、図9-11(L)に示すように、味方キャラが勝利したことを示す画像31AK052が表示される。その後、変動時間の終了するタイミングで、図9-11(M)に示すように、大当たり組合せとなる確定飾り図柄が導出される。なお、予め定められた操作有効期間内に操作が検出されなかった場合には、自動的に図9-11(L)に示す画像が表示される。

【0526】

この変形例では、操作演出画像として、小ボタン画像、大ボタン画像、スティック画像とがあり、小ボタン画像<大ボタン画像<スティック画像の順でこれらの画像を用いた操作演出が実行された場合の大当たり信頼度が高くなっている。信頼度の低い操作演出画像が表示された場合であっても、リーチ演出中に信頼度の高い操作演出画像に変化する場合があるので、演出効果が向上し、また、遊技者の期待感を維持することができる。

40

【0527】

なお、図9-10、図9-11に示した演出動作例では、リーチのタイトル報知や、期待度示唆表示は省略しているが、図9-10、図9-11に示したリーチ演出や操作演出と並行して適宜実行されるようにしてもよい。操作演出や操作演出画像に係る決定(操作演出の有無、表示する操作演出画像、作用演出の有無等)は、図9-8のステップ31A

50

K S O O 4にて実行されればよい。

【0528】

(特徴部31AKの変形例2)

大当り遊技状態等の有利状態への制御の期待度を示唆する示唆表示を行なうようにしてもよい。例えば、第1示唆表示を行うシャッター演出と、第2示唆表示を行うリーチタイトル演出と、実行するようにしてもよい。シャッター演出では、可変表示開始後に画面上をシャッター表示で覆う演出が実行される。また、リーチタイトル演出では、リーチ後にリーチ演出の発展先を示すリーチタイトル表示をする演出が実行される。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれを表示するときにも特定画像が含まれて表示される場合がある。リーチタイトル演出は、上記実施の形態のタイトル予告と同じであってもよいし、別の処理で決定される別の演出であってもよい。

10

【0529】

特定画像とは、画像内に複数種類の要素を含んで表示される大当り信頼度の高い画像のことである。複数種類の要素としては、要素E1のバナナ画像、要素E2のメロン画像、要素E3のリンゴ画像、要素E4のスイカ画像、要素E5のイチゴ画像が含まれる。これら要素E1～E5を含んで構成されたフルーツ柄画像が特定画像である。シャッター表示およびリーチタイトル表示のいずれにおいても、要素E1～E5の全てが視認可能となるように表示される。また、特定画像を構成する要素E1～E5の表示サイズは、シャッター表示とリーチタイトル表示との表示サイズの違いに応じて変更して表示される。また、要素E1～E5のすべてがシャッター表示およびリーチタイトル表示のそれぞれに収まるように表示される。

20

【0530】

可変表示開始後にシャッター演出が実行された場合に、フルーツ柄画像が表示されるときには、フルーツ柄画像が表示されないときよりも大当り信頼度が高い。また、リーチ演出実行中に、リーチタイトル表示をする際に、フルーツ柄画像で表示がされるときには、フルーツ柄画像で表示がされないときよりも大当り信頼度が高い。フルーツ柄が表示されないときには、たとえば、各要素E1～E5を含まない無地の画像が表示される。なお、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されたときの大当り信頼度を示す画像として、フルーツ柄画像以外の画像のパターンが用意されていてもよい。たとえば、大当り信頼度の順に白画像<青画像<赤画像<フルーツ柄画像が用意されていてもよい(たとえば、赤色のシャッターや赤文字のリーチタイトル等)。そして、可変表示の表示結果が大当りとなるか否かにより、所定の乱数抽選でいずれか1つの画像パターンが選択されるようにしてもよい。

30

【0531】

シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際に、フルーツ柄が表示される際においても、スピーカ8による共通音(メロディ)を出力する報知を行なうとともに遊技効果ランプ9の発光による報知を行なう。共通音および遊技効果ランプ9の発光制御により、フルーツ柄が特別な画像であることが遊技者に示される。このような、シャッター表示およびリーチタイトル表示を行なう際には、フルーツ柄に対する共通報知が実行される。また、リーチタイトル表示では、共通報知の後に、特定音(ボイス)がさらに出力される。なお、共通音と特定音とは、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

40

【0532】

図9-12は、シャッター演出およびリーチタイトル演出が実行されるときに表示画面図である。図9-12(a)に示すように、シャッター演出が実行される場合、画像表示装置5において可変表示の開始時にシャッター画像31AK061が表示される。シャッター画像31AK061には、要素E1～E5全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、シャッター演出実行時には、スピーカ8による共通音(メロディ)を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ9の発光による報知が実行される。閉じていたシャッターが開くと、図9-12(b)に示すように、飾り図柄の可変表示が開始される。下向きの矢印が左、中、右図柄の可変表示を示している。左図柄および右図柄の可変表示

50

が仮停止すると、図 9-12 (c) に示すように、リーチ状態となる。

【0533】

次いで、図 9-12 (d) に示すように、スーパーリーチ演出が開始される。可変表示は例えば画面右上に小さく表示され、画面左側にキャラクタが表示される。画面右下には、リーチタイトル画像 31AK062 が表示され、これから実行されるスーパーリーチの内容がリーチタイトル表示として示される。リーチタイトル画像 31AK062 には、要素 E1～E5 全てを含むフルーツ柄の画像が表示される。また、リーチタイトル画像 31AK062 には、バトル演出を伴うリーチ演出が実行されることを示す「バトルリーチ」の文字が表示される。

【0534】

また、リーチタイトル演出実行時には、スピーカ 8 による共通音（メロディ）を出力する報知が実行されるとともに遊技効果ランプ 9 の発光による報知が実行される。さらに、共通音を出力後に、キャラクタが「アツイアツイ」のような大当たり信頼度が高いことを示す特定音（ボイス）を発する演出が実行される。ここで、リーチタイトル演出ではシャッター演出に比べ表示する示唆表示のサイズが小さい。しかし、このように、リーチタイトル演出においては、特定音を出力することで、フルーツ柄画像が表示されたことを遊技者により認識させやすくすることができる。なお、共通音と特定音とは、出力期間が完全に分かれている場合を説明したが、出力期間が一部重なるようにしてもよい。

【0535】

その後、図 9-12 (e) に示すような、バトルリーチ演出が実行される。画面左には敵キャラクタが表示され、画面右には味方キャラクタが表示される。味方キャラクタが敵キャラクタとのバトルに勝利すると、画面左上には「バトル勝利！」の文字が表示される。バトルに勝利したことで大当たりが確定したことが報知される。バトル演出が終了すると元の数字図柄による可変表示画面に戻る。図 9-12 (f) に示すように、全ての図柄が停止し、「777」の大当たり図柄が表示される。

【0536】

図 9-12 (a)、(d) に示すように、シャッター画像 31AK061 およびリーチタイトル画像 31AK062 のいずれにもフルーツ柄画像を構成する全ての要素 E1～E5 を含んで表示される。このようにすれば、表示サイズの異なるシャッター画像 31AK061 とリーチタイトル画像 31AK062 とのいずれにおいても、フルーツ柄画像を好適に表示することができる。これにより、大当たり信頼度の高いフルーツ柄画像が表示されたことを正確に伝えることができる。

【0537】

また、図 9-12 (a) に示すシャッター画像 31AK061 の表示サイズは、図 9-12 (d) に示すリーチタイトル画像 31AK062 の表示サイズよりも大きく表示される。よって、シャッター画像 31AK061 の表示サイズとリーチタイトル画像 31AK062 の表示サイズとの違いに注目させることができる。

【0538】

また、図 9-12 (a) に示すシャッター画像 31AK061 と図 9-12 (d) に示すリーチタイトル画像 31AK062 とは異なるタイミングで表示される。このようにすれば、実行タイミングが重なることにより特定画像であるフルーツ柄画像が見えづらくなってしまうことを防止することができる。

【0539】

シャッター演出に係る決定（シャッター演出の有無や演出態様）は、図 9-8 のステップ 31AKS004 にて実行されればよい。その際には、図 9-8 のステップ 31AKS002 におけるタイトルの表示色の決定結果に基づいてシャッター演出に係る決定を行うようにしてもよい。例えば、タイトルの表示色がフルーツ柄になるものが決定されている場合は、フルーツ柄のシャッター演出が実行されやすくしてもよい。また、リーチタイトル演出に係る決定もシャッター演出に係る決定と合わせて図 9-8 のステップ 31AKS004 にて実行されるようにしてもよい。

【0540】

[特徴部21TMに関する説明]

次に、特徴部21TMに関して説明する。パチンコ遊技機1には、例えば図10-1に示すような主基板11、演出制御基板12、ターミナル基板（情報出力基板）21TM016といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機1には、主基板11と演出制御基板12との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板15なども搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1における遊技盤2などの背面には、例えば払出制御基板、発射制御基板、インタフェース基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0541】

なお、前述した図2に示すように、主基板11には、第1始動口スイッチ22A及び第2始動口スイッチ22B、並びに、第1特別図柄表示装置4A及び第2特別図柄表示装置4B等の各種部品が接続されており、演出制御基板12には、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の各種演出装置が接続されているが、図10-1では、これらを省略している。

【0542】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、図10-3に示すように、基板ケース21TM201に収納された状態でパチンコ遊技機1の背面に搭載され、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板11は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板12などからなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能などを備えている。また、主基板11は、第1特別図柄表示装置4Aと第2特別図柄表示装置4Bを構成する各LED（例えばセグメントLED）などの点灯／消灯制御を行って第1特図や第2特図の変動表示を制御することや、普通図柄表示器20の点灯／消灯／発色制御などを行って普通図柄表示器20による普通図柄の変動表示を制御することといった、所定の表示図柄の変動表示を制御する機能も備えている。

【0543】

また、主基板11には、図10-3及び図10-5（A）に示すように、パチンコ遊技機1の背面側から視認可能な表示モニタ21TM029が設けられており、該表示モニタ21TM029に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。尚、表示モニタ21TM029の左側方には表示切替スイッチ21TM030が設けられており、該表示切替スイッチ21TM030の操作によって表示モニタ21TM029に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

【0544】

主基板11には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ100や、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号の他、電源断信号、クリア信号、リセット信号等の各種信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送するスイッチ回路110、ターミナル基板21TM016からセキュリティ信号等の各種の信号の出力を行うための情報出力回路112が搭載されている。

【0545】

また、図10-1に示す主基板11は、図10-3及び図10-5（A）に示すように、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース21TM201に封入されており、主基板11の中央には表示モニタ21TM029（例えば、7セグメント）が配置され、表示モニタ21TM029の右側には表示切替スイッチ21TM030が配置されている。表示モニタ21TM029及び表示切替スイッチ21TM030は、主基板11を視認する際の正面に配置されている。主基板11の背面中央下部には、後述する設定変更モードまたは設定確認モードに切り替えるための錠スイッチ21TM051（図10-1参照）が設けられている。主基板11は、遊技機用枠3を開放していない状態では視認できないの

10

20

30

40

50

で、主基板 1 1 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 1 1 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

【0546】

また、主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）は、各入賞口（大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、第 1～第 4 一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、該集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。つまり、パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、あらかじめ定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。そこで、この実施例のパチンコ遊技機 1 では、当該パチンコ遊技機 1 において、設置後にどのような調整を加えられたかを認識できるようになっている。

【0547】

また、電源基板は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケースに封入されており、電源基板の背面右側下部には、後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能するクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 と、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 が設けられている。遊技場の店員等が、パチンコ遊技機 1 に電源電圧が供給されていない状態で、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を操作することで、主制御基板 1 1、遊技制御基板 1 2、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 等の各基板に所定の動作電圧が供給される。さらに、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 が操作されるタイミングで、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が操作されていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 にクリア信号が入力され、後述する初期化处理（R A M クリア）が実行される。同じ電源基板上において、電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 とクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 を近くに配置することで、電源投入操作及び初期化操作を行い易いようにしている。

【0548】

尚、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされており、所定のキーを所持する店員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 はキー操作を要することから、遊技店の店員のなかでも、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の操作を行うキーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、所定のキーによって O N と O F F の切替操作を実行可能なスイッチであるが、該切替操作を実行可能であると共に該切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチであっても良い。

【0549】

なお、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O N 状態又は O F F 状態を維持可能である。即ち、遊技場の店員等により力を加えられなくても、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O N 状態又は O F F 状態を維持可能である。また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は、O F F 状態でのみキーを挿抜可能な構成とする。このような構成によれば、遊技場の店員等は、キーを回収するために錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O F F 状態としなければならないので、遊技場の店員等が錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態としたまま放置してしまうことを防ぐことができる。

【0550】

尚、図 1 0 - 3 に示すように、パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられており、該ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球

を検出する（発射された遊技球を検出する）ための排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 が設けられている。該排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 は、図 2 に示すように、前述したスイッチ回路 1 1 0 に接続されている。

【0551】

主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に向けて伝送される制御信号は、中継基板 1 5 によって中継される。中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置 5 における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、遊技効果ランプ 9 や装飾用 L E D の点灯動作などを制御するために用いられる L E D 制御コマンドが含まれている。

10

【0552】

図 1 0 - 2 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 および球払出装置 2 1 T M 0 9 7 などの払出に関連する構成要素を示すブロック図である。図 1 0 - 2 に示すように、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 には、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 を含む払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が搭載されている。この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、1 チップマイクロコンピュータであり、少なくとも R A M が内蔵されている。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0、R A M（図示せず）、払出制御用プログラムを格納した R O M（図示せず）および I / O ポート等は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 を構成する。すなわち、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 は、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1、R A M および R O M を有する払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 と、I / O ポートとで実現される。また、I / O ポートは、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に内蔵されていてもよい。

20

【0553】

球切れスイッチ 2 1 T M 1 8 7、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 および払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される。なお、この実施の形態では、払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に入力されたあと、I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 a および出力回路 2 1 T M 3 7 3 B を介して主基板 1 1 に出力される。

30

【0554】

また、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 には、図 1 0 - 2 に示すように、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠 3 の開放を検知する遊技機枠開放センサと、遊技盤 2 の前面を開閉可能に覆うガラス扉枠 3 a の開放を検知する扉枠開放センサと、を備える遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づいて、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。なお、遊技機用枠 3 の開放が検知されたときの検知信号と、ガラス扉枠 3 a の開放が検知されたときの検出信号とは、異なる端子に入力されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3 a の開放状態とを、区別して認識可能となっている。

40

【0555】

また、払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 e に入力される。払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の回転位置を検出するための発光素子（L E D）と受光素子とによるセンサであり、遊技球が詰まったこと、すなわちいわゆる球噛みを検出するために用いられる。払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球切れスイッチ 2 1 T M 1 8 7 からの検出信号が球切れ状態を示していたり、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 からの検出信号が満タン状態を示していると、球払出処理を停止する。

【0556】

50

さらに、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 からの検出信号が満タン状態を示していると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、打球発射装置からの球発射を停止させるために、発射基板 2 1 T M 0 9 0 に対してローレベルの満タン信号を出力する。発射基板 2 1 T M 0 9 0 の A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 が出力する発射モータ 2 1 T M 0 9 4 への発射モータ信号は、発射基板 2 1 T M 0 9 0 から発射モータ 2 1 T M 0 9 4 に伝えられる。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの満タン信号は、発射基板 2 1 T M 0 9 0 に搭載された A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 の入力側の一方に入力され、駆動信号生成回路 2 1 T M 0 9 2 からの駆動信号（発射モータ 2 1 T M 0 9 4 を駆動するための信号であって、電源基板からの電源を供給する役割を果たす信号である。）は、A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 の入力側の他方に入力される。そして、A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 の発射モータ信号が発射モータ 2 1 T M 0 9 4 に入力される。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が満タン信号を出力している間は、発射モータ 2 1 T M 0 9 4 への発射モータ信号の出力が停止される。

10

【0557】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 とシリアル通信で信号を入出力（送受信）するためのシリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 が内蔵されている。この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 とは、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5, 2 1 T M 3 8 0 を介して、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間の接続確認を行うために、一定の間隔（例えば 1 秒）で信号（賞球要求信号、受信 A C K 信号）をやり取り（送受信）している。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 を介して、一定の間隔で接続確認を行うための信号（この実施の形態における賞球要求信号）を送信し、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 からの賞球要求信号を受信した場合、その旨を通知する信号（受信 A C K 信号）を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。この実施の形態では、賞球要求信号や受信 A C K 信号に特定のデータを乗せることにより、賞球要求信号や受信 A C K 信号を送受信するタイミングにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間で特定のデータをやり取りするように構成している。例えば、入賞が発生した場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、払い出すべき賞球個数を示すデータを、賞球要求信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた賞球要求信号を払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信する。そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、賞球払出動作が終了すると、賞球終了を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。また、所定のエラー（球貸し、満タン、球切れなどのエラー）が発生した場合には、エラーの内容を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 におけるシリアル通信による具体的な信号のやり取りについては、図 1 0 - 2 2、図 1 0 - 3 4 ~ 3 6 において詳述する。

20

30

40

【0558】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、賞球払出数を示す賞球情報信号および貸し球数を示す球貸し個数信号をターミナル基板（枠用外部端子基板と盤用外部端子基板とを含む）2 1 T M 1 6 0 に出力する。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b の外側に、ドライバ回路が設置されているが、図 1 0 - 2 では記載省略されている。

【0559】

また、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 c を介して、7 セグメント L E D によるエラー表示用 L E D 2 1 T M 3 7 4 にエラー信

50

号を出力する。さらに、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、点灯／消灯を指示するための信号を賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 および球切れ L E D 2 1 T M 0 5 4 に出力する。なお、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f には、エラー状態を解除するためのエラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 からの検出信号が入力される。エラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 は、ソフトウェアリセットによってエラー状態を解除するために用いられる。

【0 5 6 0】

さらに、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの払出モータ 2 1 T M 2 8 9 への駆動信号は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a および中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して球払出装装置 2 1 T M 0 9 7 の払出機構部分における払出モータ 2 1 T M 2 8 9 に伝えられる。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a の外側に、ドライバ回路（モータ駆動回路）が設置されているが、図 1 0 - 3 では記載省略されている。

10

【0 5 6 1】

遊技機に隣接して設置されているカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、カードユニット制御用マイクロコンピュータが搭載されている。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、使用可表示ランプ、連結台方向表示器、カード投入表示ランプおよびカード挿入口が設けられている。インタフェース基板（中継基板） 2 1 T M 0 6 6 には、度数表示 L E D 2 1 T M 0 6 0、球貸し可 L E D 2 1 T M 0 6 1、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が接続される。

【0 5 6 2】

インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 からカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、遊技者の操作に応じて、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されたことを示す球貸スイッチ信号および返却スイッチ 2 1 T M 0 6 3 が操作されたことを示す返却スイッチ信号が与えられる。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からインタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 には、プリペイドカードの残高を示すカード残高表示信号および球貸し可表示信号が与えられる。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間では、接続信号（V L 信号）、ユニット操作信号（B R D Y 信号）、球貸し要求信号（B R Q 信号）、球貸し完了信号（E X S 信号）およびパチンコ機動作信号（P R D Y 信号）が入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f および出力ポート 2 1 T M 3 7 2 d を介して送受信される。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間には、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 が介在している。よって、接続信号（V L 信号）等の信号は、図 1 0 - 2 に示すように、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 を介してカードユニット 2 1 T M 0 5 0 と払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の間で送受信されることになる。

20

30

【0 5 6 3】

パチンコ遊技機 1 の電源が投入されると、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に P R D Y 信号を出力する。また、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、電源が投入されると、V L 信号を出力する。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、V L 信号の入力状態によってカードユニット 2 1 T M 0 5 0 の接続状態／未接続状態を判定する。カードユニット 2 1 T M 0 5 0 においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力する。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力する。

40

【0 5 6 4】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を立ち上げ、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R Q 信号の立ち下がりを検出すると、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動し、所定個の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出が完了したら、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を立ち下げる。その後、

50

カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R D Y 信号がオン状態でないことを条件に、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から払出指令信号を受けると賞球払出制御を実行する。

【 0 5 6 5 】

カードユニット 2 1 T M 0 5 0 で用いられる電源電圧 A C 2 4 V は払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 から供給される。すなわち、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する電源基板からの電力供給は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 およびインタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 を介して行われる。この例では、インタフェース基板 2 1 T M 0 6 6 内に配されているカードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する A C 2 4 V の電源供給ラインに、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 を保護するためのヒューズが設けられ、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に所定電圧以上の電圧が供給されることが防止される。

10

【 0 5 6 6 】

この実施例のパチンコ遊技機 1 は、設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当りの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は 1 ～ 6 の 6 段階からなり、6 が最も出玉率が高く、6, 5, 4, 3, 2, 1 の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として 6 が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、5, 4, 3, 2, 1 の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。

【 0 5 6 7 】

図 1 0 - 4 (A) ～ (F) は、各設定値に対応する表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、R O M 1 0 1 に記憶されているデータの集まりであって、M R 1 と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。各表示結果判定テーブルは、変動特図指定バッファが 1 (第 1) である、つまり、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが 2 (第 2) である、つまり、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値が設定されている。

20

【 0 5 6 8 】

図 1 0 - 4 (A) に示すように、設定値 1 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合、つまり、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」、「4」、「5」、「6」である場合よりも低い確率（1 / 3 0 0）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1 / 3 0 0）で大当りに当選するようになっている。

30

【 0 5 6 9 】

また、図 1 0 - 4 (B) に示すように、設定値 2 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合には、設定値が「1」である場合よりも高い確率（1 / 2 8 0）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第 1 特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（1 / 2 8 0）で大当りに当選するようになっている。

40

【 0 5 7 0 】

また、図 1 0 - 4 (C) に示すように、設定値 3 に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第 1 である場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも高い確率（1 / 2 8 0）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第 2 である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第 1 である場合と同様の判定値が設定されており、第 2 特別図柄が変動表示の

50

対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/280$ ）で大当りに当選するようになっている。

【0571】

また、図10-4（D）に示すように、設定値4に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」である場合よりも高い確率（ $1/250$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/250$ ）で大当りに当選するようになっている。

10

【0572】

また、図10-4（E）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」である場合よりも高い確率（ $1/235$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/235$ ）で大当りに当選するようになっている。

【0573】

また、図10-4（F）に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」、「5」である場合よりも高い確率（ $1/220$ ）で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率（ $1/220$ ）で大当りに当選するようになっている。

20

【0574】

つまり、CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が図10-4（A）～（F）に示す大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り（大当りA～大当りF）とすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当りの当選を決定する。尚、図10-4（A）～（F）に示す「確率」は、大当りになる確率（割合）を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。

30

【0575】

また、この実施例では、CPU103は、図10-4（A）～（F）に示す表示結果判定テーブルを用いて大当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

40

【0576】

尚、この実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1～6の計6個の設定値を設けているが、この発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個、3個、4個、5個、または7個以上であってもよい。

【0577】

ここで、この実施例の主基板11における遊技球の集計及び役物比率等の表示について説明する。

【0578】

主基板11には、遊技の入賞に関する情報、例えば、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞

50

による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、発射球数が集計され、表示モニタ21TM029は、賞球合計数のうち大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である連比（％）、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が占める割合である役比（％）、打ち出した遊技球数に対する賞球合計数が占める割合であるベース（％）を表示するようになっている。連比とは、賞球合計数のうち大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の連続役物獲得球数）が占める割合である。役比とは、賞球合計数のうち第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数（下記の役物獲得球数）が占める割合である。ベースとは、賞球合計数に対する打ち出した遊技球数が占める割合である。賞球合計数（下記の総獲得球数）は、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数と、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）への入賞による賞球数と、の総和である。なお、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）は、可変役物であり、遊技球の通過可能幅が変動することで、遊技球の入賞想定割合が変動する役物である。また、大入賞口（アタッカー）及び第2始動入賞口（電チュー）以外の入賞口（第1始動入賞口、一般入賞口）は、固定役物であり、遊技球の通過可能幅が固定されており、遊技球の入賞想定割合は一定の役物である。

10

【0579】

20

遊技の入賞に関する情報の集計、計算方法としては、連比と役比については、6000個の賞球数における第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数である普通電役賞球数（電チュー賞球数）、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数である特別電役賞球数（アタッカー賞球数）を集計する。その集計を1セットとし、10セット分、すなわち60000個分の連比（％）、役比（％）を算出する。なお、集計する第1始動入賞口（ヘソ）及び一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球数（一般賞球数）、普通電役賞球数（電チュー賞球数）、特別電役賞球数（アタッカー賞球数）は、設定値毎に設けられたリングバッファに記録されるようになっており、少なくとも11セット分の記録容量があり、1セット毎に更新するようになっている。つまり、6000個の11セット分の記憶を相当数量（例えば、数バイト分）記憶しており、それらの累計の連比（％）、役比（％）を算出することができる。また、ベースについては、60000個の賞球数に対する打ち出した遊技球数を集計する。その集計を1セットとし、打ち出した遊技球数に対する60000個の賞球の占める割合（ベース（％））を算出する。

30

【0580】

表示モニタ21TM029は、6000個分の連比（％）、役比（％）、及び累計の連比（％）、役比（％）及び前回の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース1（％））、直前の賞球60000個に基づいて算出されたベース（ベース2（％））を所定時間（例えば、5秒）毎に切り替えて表示することができる。すなわち、一つの表示手段で6つの表示を切り替えて表示するようになっている。この場合、全て表示を行うのに30秒要するが、遊技が進行することで集計される第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数が変化することになる。とすると、例えば、6000個分の連比（％）を表示した後に入賞した賞球数を、その後に表示される60000個分の役比（％）に反映してしまうと、6000個分の連比（％）と60000個分の役比（％）とで食い違いが生じてしまうおそれがある。そこで、第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球数、第2始動入賞口（電チュー）の入賞による賞球数、大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数、賞球合計数が入力、集計は、切替表示における所定のタイミング（例えば、6000個分の連比（％）の表示タイミングなど）で行うようにすれば、このような食い違いを防ぐことができる。

40

50

【0581】

尚、この実施例における遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域は、設定値毎に設けられており、一般入賞賞球や第1始動入賞口賞球、普通電役賞球、特別電役賞球、賞球合計、打込合計は、設定されている設定値に応じた記憶領域（リングバッファ）に記憶されるようになっている。このため、この実施例の連比、役比、ベースは、設定値毎に個別に算出可能となっている。

【0582】

以下に計算方法の一例として、賞球合計数が60000個であり、第2始動入賞口（電チュー）への入賞による賞球数と大入賞口（アタッカー）への入賞による賞球数との合計である役物獲得球数が42000個である場合の役物比率（役比（%））の計算方法を説明する。なお、以下の説明において、総獲得球数とは、パチンコ遊技機1から払い出された遊技媒体（賞球）の総累計数をいう。また、役物獲得球数とは、アタッカー及び電チューに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。また、連続役物獲得球数とは、アタッカーに遊技媒体が入賞することによって払い出された遊技媒体の累計数をいう。打込合計とは、賞球数が60000個に達するまでにパチンコ遊技機1に打ち込まれた遊技媒体の累計数をいう。このため、連比は、下記（1）式で求めることができる。また、役比は、下記（2）式で求めることができる。また、ベースは下記（3）式で求めることができる。

【0583】

連比＝〔連続役物獲得球数／総獲得数〕×100・・・（1）

【0584】

役比＝〔（連続役物獲得球数＋役物獲得球数）／総獲得数〕×100・・・（2）

【0585】

ベース＝〔60000（賞球合計数）／打込合計〕×100・・・（3）

【0586】

賞球合計数が60000個であり、役物獲得球数が42000個である場合の役物比率は、42000を60000で除算することにより0.70（小数点以下3桁切り捨て）として求められる。しかしながら、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは小数点以下の演算を行うことができないため、以下の手法での演算が必要となる。

【0587】

まず、第1の演算方法を説明する。第1の演算方法において、まず、役物獲得球数を100倍して420000とする。そしてこの420000を60000で除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、被除数を100倍することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000倍すればよい。

【0588】

次に、第2の演算方法を説明する。第2の演算方法において、まず、賞球合計数を100で除算して600とする。そしてこの600で42000を除算する。これにより商として70が求められる。ここで求められた70より役物比率が70%として求められる。つまり、除数を100で除算することにより、小数点以下2桁までの演算結果を求められるようにしている。ここで、小数点以下3桁までの演算結果を求める場合1000で除算すればよい。

【0589】

上記した例で賞球合計数は60000個であるが、長い期間の役物比率を算出するために、賞球合計数を格納するための領域として3バイトの領域が設けられている。つまり本例では3バイトの格納領域に00EA60hとして格納される。また、同様に役物獲得球数も3バイトの格納領域に00A410hが格納される。

【0590】

ここで、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは最大2バイトの値同士

10

20

30

40

50

の演算しか行うことができない。従って、演算を容易にするために、下位1バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【0591】

ここで上記第2の演算方法を簡略化して行う第3の演算方法を説明する。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の00EA60hに対し、下位1バイトの60hを切り捨て、賞球合計数を00EAh、つまり10進数表記で234を算出する。同じく、役物獲得球数の00A410hに対し、下位1バイトの10hを切り捨て、役物獲得球数を00A4h、つまり10進数表記で164を算出する。

【0592】

そして、上記第2の演算方法と同様に、賞球合計数を100で除算(273/100)して2を算出する。そして、この2で156を除算して、商として78が求められる。ここで求められた78より役物比率が78%として求められる。

【0593】

第3の演算方法ではパチンコ遊技機1で用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になる一方、+12%の誤差が生じる。ただし、賞球合計数および役物獲得球数がともに10倍の場合の誤差は+1%となる。つまり、役物比率を算出するための期間が長くなることにより誤差は縮小され、本来の数値に近似する。

【0594】

また、基板ケース21TM201は、透光性を有する材質で形成されており、主基板11、及び表示モニタ21TM029が視認可能になっている。基板ケース21TM201には主基板11に接続される配線コネクタが挿通する図示しない孔部と、主基板11の電気部品の熱を放出するための放熱孔とが形成されている。主基板11に設けられた表示モニタ21TM029は、放熱孔が真正面にはない位置に配置されている。このため放熱孔によって表示モニタ21TM029の視認性が遮られないようにされている。なお、ここでの「真正面」とは、主基板11を視点としての真正面を意味し、主基板11を視認しようとする従業員等と主基板11との間を意味する。

ここで、パチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータは最大2バイトの値同士の演算しか行うことができない。従って、演算を容易にするために、下位1バイトについて切り捨てを行ってもよい。

【0595】

ここで上記第2の演算方法を簡略化して行う第3の演算方法を説明する。第3の演算方法ではパチンコ遊技機1に用いられるマイクロコンピュータでの演算が容易になるように、賞球合計数の00EA60hに対し、下位1バイトの60hを切り捨て、賞球合計数を00EAh、つまり10進数表記で234を算出する。同じく、役物獲得球数の00A410hに対し、下位1バイトの10hを切り捨て、役物獲得球数を00A4h、つまり10進数表記で164を算出する。

【0596】

そして、上記第2の演算方法と同様に、賞球合計数を100で除算(273/100)して2を算出する。そして、この2で156を除算して、商として78が求められる。ここで求められた78より役物比率が78%として求められる。

【0597】

また、遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領域(リングバッファ、10セット合計バッファ(最大2バイトのカウンタを10個備えるリングバッファに記憶された遊技の入賞に関する情報を合計したもの)、賞球合計数バッファ)はリセットボタンが操作された場合に初期化は行われず、継続して記憶されてもよい。リングバッファについては後にさらに説明する。なお、記憶された値のチェックサムを算出し、異常が検出された場合に初期化を行ったり、記憶された賞球合計数の値よりも役物獲得球数の値が大きかったり、役物獲得球数の値よりも連続役物獲得球数の値が大きかったりした場合など、状況として起こりえない事象が検知された場合などには遊技の入賞に関する情報が記憶される記憶領

10

20

30

40

50

域の初期化処理を行ってもよい。また、初期化処理を行うことなく、エラー表示や警告表示などを行ってもよいし、エラー表示や警告表示を行うとともに、あるいは行った後に初期化処理を行ってもよい。エラー表示や警告表示については後にさらに説明する。

【0598】

役比(%)の計算は、例として総獲得球数を34321個、役物獲得球数を19876個とすると、19876個に対して34321個を除数として除算し、割合を計算する。 $19876 / 34321 = 0.57912 \dots$ となり約57.9%の役比(%)であることが算出される。遊技制御用マイクロコンピュータ100において演算を行う場合には小数点での計算を避けなければならないため、以下のような計算式に置き換える。 $19876 / 34321$ の除算において分母の34321を100で除算し、小数点を切り捨て、 $19876 / 343 = 57.9475 \dots$ となる。小数点以下は切り捨てられるため57%の役比(%)であることが算出され、表示モニタ21TM029に表示されることとなり、この例の場合には正確な計算によって算出した値とは表示上では誤差がないものとなる。

10

【0599】

16ビットにおける最小値は32768(最上位ビットの値以外が0)で誤差が最大となる値は総獲得球数および役物獲得球数がそれぞれ32799であるときである。これを上記の方法で計算すると、 $32799 / 32799 = 100\%$ 、遊技制御用マイクロコンピュータ100での計算に置き換えると $32799 / 327 = 100.3\%$ で+0.3%の誤差となる。小数点を切り捨てて計算を行った場合に、例えば、正確な値が69.9%、遊技制御用マイクロコンピュータの計算による値が70.1%となった場合に69%→70%で表示上1%の誤差が表示されることが考えられるが、1%の誤差という表示上においても非常に小さい誤差で役比(%) (又は連比(%))が表示できる。

20

【0600】

また、上記の計算方法を用いる場合に、総獲得球数を100で除算するため、総獲得球数が100未満の場合には計算を行うことができない。さらに、32768未満である場合にも徐々に誤差が大きくなる。10000未満である場合には誤差が1%を超え、さらに大きな誤差となる場合がある。つまり、総獲得球数が少ないほど誤差が大きくなってしまふ。このため特定の数以上の総獲得球数(例えば16ビットの最小値である32768)をカウンタによって集計するまでは、表示モニタに役比(%)、連比(%)の表示を行わなかったり、表示を行ったとしても誤差が大きい可能性があることを専用のLEDの発光や、報知音を出力したり、表示された値を点滅表示させるなどして報知してもよい。

30

【0601】

また、表示モニタ21TM029は役比(%)と、連比(%)と、ベース(%)を7セグメント上に表示するものであり、それぞれの値を所定期間毎(例えば5秒毎)に切り替えて表示する。この場合に、例えば役比(%)を5秒間表示している間に、電チューやアタッカーへ新たに遊技媒体が入賞するという事象が発生し、それに従い計算した値を5秒後に連比(%)の値として表示してしまうと、役比(%)と連役(%)との値が乖離してしまう虞がある。このため、役比(%)と連比(%)は同一割込み内で計算し算出された値を順次表示していくことが好ましい。

40

【0602】

また、7セグメントに表示可能な数値を2ケタとした場合(例えば7セグメントが2つ設けられている場合)に100%を100として表示ができなくなる。この場合には100の代わりに99を表示するようにしてもよい。図10-5(A)に示す表示モニタ21TM029では、下位2桁に数値を表示可能としているが、この場合でも、上位2桁を使用することなく、数値を表示してもよい。あるいは、特定の条件の下で、上位2桁の一部に数値を表示してもよい。

【0603】

尚、この実施例では、アタッカーと電チューのそれぞれに設けられたセンサによって遊技媒体が入賞したことを検出し、その検出結果に基づいてそれぞれの賞球数を個別に集計

50

する形態を例示したが、この発明はこれに限定されるものではなく、アタッカーに入賞した遊技媒体と電チューに入賞した遊技媒体とが排出される排出通路が合流した後に設けられたセンサとを使い、その検出結果に基づいて役物獲得球数、連続役物獲得球数を集計するようにしてもよい。

【0604】

以下、連比、役比、ベースの表示について、より具体的に説明する。この実施例において主基板11は、遊技盤2（図10-3参照）の裏面側に設けられている。遊技盤2の裏面側には、主基板11以外の他、演出制御基板12などの各周辺基板も設けられている。

【0605】

主基板11におけるRAM102には、ゲート通過数カウンタ、第1始動入賞数カウンタ、第2始動入賞数カウンタ、第1一般入賞数カウンタ、第2一般入賞数カウンタ、第3一般入賞数カウンタ、第4一般入賞数カウンタ、大入賞数カウンタが設けられている。尚、この実施例では、大入賞口（アタッカー）の入賞数を大入賞数カウンタにて集計する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、これら第1大入賞口への入賞数を集計する第1大入賞数カウンタと、第2大入賞口への入賞数を集計する第2大入賞数カウンタとを個別に設けて、第1大入賞口への入賞数と第2大入賞口への入賞数とを個別に集計し、これらの各入賞数を合計してアタッカーへの入賞数とするようにしてもよい。

【0606】

ゲート通過数カウンタは、ゲートスイッチ21が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1始動入賞数カウンタは、第1始動口スイッチ22Aが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第2始動入賞数カウンタは、第2始動口スイッチ22Bが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。第1一般入賞数カウンタ～第4一般入賞数カウンタは、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチが遊技球を検出した数を計数するカウンタである。大入賞数カウンタが、カウントスイッチ23が遊技球を検出した数を計数するカウンタである。

【0607】

尚、図10-3に示す、電源基板には、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が接続されている。クリアスイッチ21TM052は、遊技盤2の裏側面において、従業員等が容易に操作できない位置に配置されている。クリアスイッチ21TM052を操作することにより、後に説明するRAM102に記憶された連比や役比に用いるデータがクリアされる。クリアスイッチは21TM052、連比や役比の算出などに障害が生じた場合など、連比や役比の算出をやり直さざるを得ない状態に陥った時に操作されるスイッチである。このため、通常の連比や役比の算出を行うためのデータの収集を行っている際には、操作する必要がないスイッチである。また、クリアスイッチ21TM052を操作すると、データのクリアのほかにクリアスイッチ操作信号が主基板11に送信される。

【0608】

尚、主基板11には、前述したように、RTC106が設けられおり、RTC106によって現在時刻を検出できる。RTC106は、初期設定を行うことで所定の時刻や経過時間などを測定できるが、この実施例においてRTC106は、遊技場の営業可能時間を計測可能とされている。

【0609】

主基板11は、図10-5（A）に示すように、基板ケース21TM201に収容されている。基板ケース21TM201には、かしめピン21TM011Bが取り付けられている。このかしめピン21TM011Bが設けられていることにより、主基板11が基板ケース21TM201に完全に封入された状態となり、主基板11に対する不正行為を防止するようになっている。基板ケース21TM201は、かしめられた基板ケース（以下「かしめ基板ケース」ともいう）である。

【0610】

また、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、主基板 1 1 上に設けられている。また、基板ケース 2 1 T M 2 0 1 には、主基板 1 1 が封入されたことを証明するための封印シール 2 1 T M 0 1 1 S が貼られている。封印シール 2 1 T M 0 1 1 S は例えば基板ケース 2 1 T M 2 0 1 における取り外し部分をまたいで貼られている。封印シール 2 1 T M 0 1 1 S は、主基板 1 1 からは離れた位置に配置されており、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の真正面など、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の視認性が遮られる位置とは異なる位置に配置されている。このように、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、封印シール 2 1 T M 0 1 1 S によって隠されない位置に配置されている。

【0611】

表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 は、第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B、第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E を備えている。第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A ～ 第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E は、いずれも「8」の字を描く 7 つのセグメントによって構成される 7 セグメントと、7 セグメントの右側方下部に配置されたドットによって構成されている。これらの第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A ～ 第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E は、それぞれ種々の色、例えば赤色、青色、緑色、黄色、白色等で点灯、点滅可能とされている。また、これらの色を極短周期で変化させながら異なる色やいわゆるレインボーで表示させることもできる。

【0612】

表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 には、図 10-5 (B) に示す表示 N o 1 ～ 6 の各項目が表示される。1 桁目の第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A には集計させた設定値 (1 ～ 6)、及び C P U 1 0 3 が設定変更モードの処理の後に実行する R A M クリアが完了したことを報知する R A M クリア報知 (「C」) が表示され、2 桁目の第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B と 3 桁目の第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C には集計期間が表示され、4 桁目の第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D と 5 桁目の第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には数値が百分率で表示される。表示 N o 1 では、短期の連比が表示され、表示 N o 2 では、短期の役比が表示される。表示 N o 3 では、総累計の連比が表示され、表示 N o 4 では、総累計の役比が表示される。また、表示 N o 5 では、前回の賞球 6 0 0 0 0 個に基づいて算出されたベース (ベース 1) が表示され、表示 N o 6 では、直前の賞球 6 0 0 0 0 個に基づいて算出されたベース (ベース 2) が表示される。

【0613】

ここでの短期とは、払い出された賞球数 (獲得球数) が 6 0 0 0 個であった期間を意味する。総累計を求める期間は、連比、役比の算出を開始してからの通算、又は連比、役比の計算を一旦リセットしてからの通算の期間を意味する。

【0614】

なお、上記の例では、連比や役比、ベースは、遊技状態によらずに算出するが、遊技状態を考慮して算出してもよい。例えば、連比は、賞球合計数のうち、大当たり遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、役比は、賞球合計数のうち、高ベース状態中の第 2 始動入賞口への入賞による賞球数と大当たり遊技状態中の大入賞口への入賞による賞球数が占める割合としてもよい。また、ベースは、低ベース状態と高ベース状態とで個別に算出してもよい。

【0615】

表示 N o 1 の短期連比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「y 6 .」が表示され、表示 N o 2 の短期役比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「y 7 .」が表示される。また、表示 N o 1 の短期連比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、短期連比が百分率表示 (% 表示) され、表示 N o 2 の短期役比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、短期役比が百分率表示 (% 表示) される。

【0616】

表示 N o 3 の総累計連比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3

10

20

30

40

50

表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「A 6 . 」が表示され、表示 N o 4 の総累計役比が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「A 7 . 」が表示される。また、表示 N o 3 の総累計連比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計連比が百分率表示（% 表示）され、表示 N o 4 の総累計役比が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計役比が百分率表示（% 表示）される。

【0 6 1 7】

表示 N o 5 のベース 1 が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「b L . 」が表示され、表示 N o 4 のベース 2 が表示される場合には、第 2 表示部 2 1 T M 0 2 9 B 及び第 3 表示部 2 1 T M 0 2 9 C に「B 6 . 」が表示される。また、表示 N o 5 のベース 1 が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計連比が百分率表示（% 表示）され、表示 N o 6 のベース 2 が表示される場合には、第 4 表示部 2 1 T M 0 2 9 D 及び第 5 表示部 2 1 T M 0 2 9 E には、総累計役比が百分率表示（% 表示）される。

【0 6 1 8】

主基板 1 1 は、連比、役比及びベースを算出するにあたり、大入賞口（アタッカー）、第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口、及び第 1 一般入賞口から第 4 一般入賞口に進出した遊技球の進出数と、排出口から排出された遊技球数の集計を行っている。C P U 1 0 3 は、メイン処理において、ゲートスイッチ 2 1、第 1 始動口スイッチ 2 2 A 及び第 2 始動口スイッチ 2 2 B、カウントスイッチ 2 3、並びに、第 1 一般入賞口スイッチ～第 4 一般入賞口スイッチ、排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を行っている。

【0 6 1 9】

このスイッチ処理において、各スイッチから出力される検出信号に基づいて、いずれの進入領域に遊技球が進出したのかを特定する。そして、ゲートスイッチ 2 1 から検出信号が出力された場合には、ゲート通過数カウンタの値を加算し、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B から検出信号が出力された場合には、第 1 始動入賞数カウンタ、第 2 始動入賞数カウンタの値を加算し、カウントスイッチ 2 3 から検出信号が出力された場合には、大入賞数カウンタの値を加算し、第 1 一般入賞口スイッチ、第 2 一般入賞口スイッチ、第 3 一般入賞口スイッチ、第 4 一般入賞口スイッチから検出信号が出力された場合には、第 1 一般入賞数カウンタ、第 2 一般入賞数カウンタ、第 3 一般入賞数カウンタ、第 4 一般入賞数カウンタの値を加算し、排出口スイッチ 2 1 T M 0 7 0 から検出信号が出力された場合には、打込数カウンタの値を加算することで、各進入領域への遊技球の進入数（各入賞口への遊技球の入賞数）を集計する。なお、各カウンタの値は R A M 1 0 2 に記憶されている。

【0 6 2 0】

このように、各進入領域への遊技球の進入数を集計するためのステップを、各進入領域に対応したスイッチの状態を確認する一連の処理において併せて実行する（スイッチの状態確認処理であるスイッチ処理に含める）ことにより、別途の集計プログラムを実行させることなく、即ち、実行プログラムが増加することによる容量不足という問題を生じさせることなく、各進入領域への遊技球の進入数を集計可能となっている。

【0 6 2 1】

主基板 1 1 の C P U 1 0 3 は、集計した各入賞口への遊技球の入賞数に基づいて、各入賞口への入賞による賞球数を算出し、算出した賞球数を入賞口ごとに R A M 1 0 2 に記憶させる。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口に対する 1 回の入賞で払い出される遊技球数と、当該入賞口への入賞回数を乗じた数で算出される。遊技球の入賞による賞球数は、入賞口毎にあらかじめ定められている。

【0 6 2 2】

ここで区分される入賞口ごとの賞球数は、図 1 0 - 6 に示すように、一般入賞口賞球（第 1 一般入賞口～第 4 一般入賞口（ソデ）への入賞による賞球）、第 1 始動入賞口賞球（

10

20

30

40

50

第1始動入賞口（ヘソ）への入賞による賞球）、普通電役賞球（電チューへの入賞による賞球）、特別電役賞球（アタッカーへの入賞による賞球）の賞球数である。また、RAM 102は、総賞球数や打ち込まれた遊技球数も記憶している。なお、CPU 103では、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数を個別に集計しているが、一般入賞口への遊技球の入賞数及び第1始動入賞口への遊技球入賞数をまとめて集計してもよい。また、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とを個別に算出しているが、一般入賞口賞球の賞球数と、第1始動入賞口賞球の賞球数とをまとめて算出してもよい。

【0623】

RAM 102は、これらの賞球数や打込数を記憶するためのリングバッファとアクティブバッファを備えている。リングバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる10個の第1記憶領域～第10記憶領域を備えている。このように、リングバッファでは、所定単位（最大2バイト）の記憶領域を備えている。また、アクティブバッファは、6000個の賞球数ごとの各入賞口への入賞による賞球数を記憶する最大2バイトのカウンタからなる第0記憶領域を備えている。第0記憶領域には、遊技の進行によって増加する入賞口毎の賞球数が加算される。第0記憶領域～第10記憶領域の11個の記憶領域は、 $256 \times 256 = 65536$ のデータを記憶可能であり、6000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0624】

また、RAM 102には、入賞口毎に、第1記憶領域～第10記憶領域に記憶された賞球数（10セット分）や打込数の総和と、総累計との記憶領域が設けられている。10セット分の総和及び総累計の記憶領域は、最大3バイトのカウンタで構成されている、このため、 $256 \times 256 \times 256 = 16777216$ のデータを記憶可能であり、60000個までのデータは余裕をもって記憶できる。

【0625】

また、RAM 102には、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域と、10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分のベース（ベース1）を記憶するベース記憶領域と、を備えている。主基板11のCPU 103では、10セット分及び総累計の各入賞口への遊技球の入賞数に基づく賞球数によって、10セット分及び総累計の役比及び連比を算出し、10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域に記憶させる。10セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域は、いずれも最大1バイトのカウンタで構成されている。10セット分及び総累計の役比及び連比は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

【0626】

また、主基板11のCPU 103では、10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって、10セット分のベースを算出し、該10セット分のベース（ベース2）と前回の10セット分の各入賞口への遊技球の入賞数に対する打込数によって算出したベース（ベース1）とをベース記憶領域に記憶させる。ベース1とベース2は、例えば整数で記憶させる場合には、最大1バイトのカウンタで余裕をもって記憶できる。

【0627】

ここで、主基板11のCPU 103のメモリ空間について説明する。図10-7は主基板におけるCPUのメモリマップを示した図である。CPU 103は、上述の内蔵レジスタ、ROM 101、RAM 102などにアクセスするためのメモリ空間を有している。具体的には、図10-7のメモリマップに示すように、ROM 101のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のROM領域（この実施形態では、0000H～2FFFFH（Hは16進数を示す。以下、同じ）のうち、0000H～2FBFH。2FC0H～2FFFFHはプログラム管理エリア）に割り当てられ、CPU 103は、このROM領域を指定してROM 101からのデータの読み出しを行う。また、この実施例では、ROM領域を第一領域～第八領域の8つの領域に分けて管理を行っており、第一領域は0000Hから始ま

10

20

30

40

50

る領域としている。

【0628】

また、内蔵レジスタのアドレス／データ信号線は、メモリ空間のレジスタエリア（この実施形態では、F E 0 0 H～F E B F H）に割り当てられ、C P U 1 0 3 は、このレジスタエリアを介して内蔵レジスタからのデータの読み出しやレジスタへのデータの書き込みを行う。

【0629】

また、R A M 1 0 2 のアドレス／データ信号線は、メモリ空間のR W M領域（この実施形態では、F 0 0 0 H～F 3 F F H）に割り当てられ、C P U 1 0 3 は、このR W M領域を指定してR A M 1 0 2 からのデータの読み出しやR A M 1 0 2 へのデータの書き込みを行う。なお、メモリ空間の他の領域（この実施形態では、3 0 0 0 H～E F F F H、F 4 0 0 H～F D F F H、F E C 0 H～F F F F H）は非使用領域とされている。

【0630】

また、R A M 1 0 2 の記憶領域に対応するR A M領域（この実施形態では、0 0 0 0 H～2 F F F Hの16 Kバイト領域）は、図10-8に示すように、R A M制御領域、非使用領域、R A Mデータ領域及びその他領域で構成されている。このR A M制御領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、C P U 1 0 3 が実行する複数種類の命令それぞれに対応する命令データ（オペコード）やC P U 1 0 3 がそれぞれの命令を実行するために必要な補足データ（オペランド）によって構成される制御プログラム用のデータ（単に、制御プログラムデータと称する場合がある）が一時的に記憶され、R A Mデータ領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、上記の制御プログラムによって参照される参照データ（例えば、上述の各種抽選データ）が一時的に記憶される。

【0631】

また、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域及びその他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、連比や役比の表示に用いるデータが一時的記憶される。例えば、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、入賞口毎の賞球数の総累計を記憶する記憶領域及び総累計の連比役比記憶領域が設けられている。またその他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、入賞口毎の第0記憶領域を備えるアクティブバッファ、第1記憶領域～第10記憶領域を備えるリングバッファ、入賞口毎の賞球数（10セット分）の総和の記憶領域、及び10セット分の連比役比記憶領域が設けられている。なお、非使用領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域と、その他領域に対応するR A M 1 0 2 の記憶領域とには、サブルーチンの先頭アドレスが互いに異なるデータがそれぞれ記憶されている。

【0632】

なお、この実施形態では、R A M領域の各々のアドレスに対応するR A M 1 0 2 の記憶領域には、1バイト（8ビット）のデータが記憶可能であり、上述の各データ（命令データ、補足データ、参照データ、管理データ）が1バイトを超えるバイト数（例えば、2バイト）のデータである場合には、R A M制御領域の連続する複数のアドレスに対応するR A M 1 0 2 の記憶領域に1バイト毎に分割して記憶している。

【0633】

また、主基板11は、表示モニタ21 T M 0 2 9 に対して、連比、役比、ベースを表示する制御を行う。ここで、主基板11は、複数の項目を順次表示する制御を行う。図10-9（A）は、役物比率表示装置に表示される項目の表示時間を示すタイムチャートである。図10-9（A）に示すように、表示モニタ21 T M 0 2 9 に対する表示を開始すると、まず表示N o 1 の短期連比が表示される。表示N o 1 の短期連比の表示は、緑字で表示される。表示N o 1 の短期連比の表示では、図10-9（B-1）に示すように、第1表示部21 T M 0 2 9 A に設定値である「1」が表示され、第2表示部21 T M 0 2 9 B に「y」の文字が表示され、第3表示部21 T M 0 2 9 C に「6 .」の文字が表示される。また、第4表示部21 T M 0 2 9 D 及び第5表示部21 T M 0 2 9 E には、短期連比が表示される。例えば、短期連比が41 % の場合、第4表示部21 T M 0 2 9 D に「4 .」

の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「1.」の文字が表示される。

【0634】

表示No1の表示が5秒間継続すると、表示No2の短期役比が表示される。表示No2の短期連比の表示は、赤字で表示される。表示No2の短期役比の表示では、図10-9(B-2)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「y」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、短期役比が表示される。例えば、短期役比が63%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「3.」の文字が表示される。

10

【0635】

表示No2の表示が5秒間継続すると、表示No3の総累計連比が表示される。表示No3の総累計連比の表示は、赤字で表示される。表示No3の総累計連比の表示では、図10-9(B-3)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「A」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、総累計連比が表示される。例えば、総累計連比が58%の場合、第4表示部21TM029Dに「5.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「8.」の文字が表示される。

【0636】

20

表示No3の表示が5秒間継続すると、表示No4の総累計役比が表示される。表示No4の総累計役比の表示は、赤字で表示される。表示No4の総累計役比の表示では、図10-9(B-4)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「A」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「7.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、総累計役比が表示される。例えば、総累計役比が68%の場合、第4表示部21TM029Dに「6.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「8.」の文字が表示される。

【0637】

表示No4の表示が5秒間継続すると、図10-9(B-5)に示すように、表示No5のベース1が表示される。表示No5のベース1の表示は、赤字で表示される。表示No5のベース1の表示では、図10-9(B-5)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「b」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「L.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、前回の賞球60000個に基づいて算出したベース1が表示される。例えば、ベース1が40%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「0.」の文字が表示される。

30

【0638】

表示No5の表示が5秒間継続すると、図10-9(B-6)に示すように、表示No6のベース2が表示される。表示No6のベース2の表示は、赤字で表示される。表示No6のベース2の表示では、図10-9(B-6)に示すように、第1表示部21TM029Aに設定値である「1」が表示され、第2表示部21TM029Bに「b」の文字が表示され、第3表示部21TM029Cに「6.」の文字が表示される。また、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eには、直前の賞球60000個に基づいて算出したベース2が表示される。例えば、ベース2が42%の場合、第4表示部21TM029Dに「4.」の文字が表示され、第5表示部21TM029Eに「2」の文字が表示される。

40

【0639】

そして、表示No5の表示が5秒間継続すると図10-9(B-1)に示すように、表

50

示N o 1の短期連比が表示される。表示N o 1の短期連比が表示される。以後、表示N o 1の短期連比～表示N o 6のベース2の表示が5秒毎に順次表示される。また、その表示の色は、表示N o 1の短期連比のみが緑色とされ、表示N o 2の短期役比～表示N o 5のベース2は赤色とされる。このように、表示モニタ21TM029は、短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2を5秒ごとに切り替えて表示する。

【0640】

更に、これら短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示は、図18(A)～図18(B)に示すように、表示切替スイッチ21TM030の操作に基づいて、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示、設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示、設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示に順次変更することが可能となっている。尚、設定値が「1」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「2」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「2」の値に切り替わる。

10

【0641】

また、設定値が「2」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「3」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「3」の値に切り替わる。

20

【0642】

また、設定値が「3」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「4」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「4」の値に切り替わる。

【0643】

また、設定値が「4」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「5」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「5」の値に切り替わる。

30

【0644】

また、設定値が「5」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「6」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「6」の値に切り替わる。

40

【0645】

そして、設定値が「6」の場合の短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の表示中に表示切替スイッチ21TM030が操作された場合は、第1表示部21TM029Aに表示される数値が「1」に更新されるとともに、第4表示部21TM029D及び第5表示部21TM029Eに表示される短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース1、ベース2の数値が設定値「1」の値に切り替わる。

【0646】

尚、この実施例の表示モニタ21TM029においては、各設定値における連比、役比、ベースを表示可能な形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく

50

、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 においてはこれら連比、役比、ベースのうち、1 の数値のみ、或いはいずれか 2 の数値のみ表示可能であってもよい。

【0 6 4 7】

また、この実施例では、付与された賞球数に基づく情報である連比、役比、ベースを算出し、これら連比、役比、ベースを表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 にて表示する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、連比、役比、ベースを算出せずに、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 には、付与された賞球数の履歴を表示するようにしてもよい。

【0 6 4 8】

また、この実施例では、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 において、短期連比のみ赤色で表示し、短期役比、総累計連比、総累計役比、ベース 1、ベース 2 については緑色にて表示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、短期連比と短期役比、総累計連比及び総累計役比を同色にて表示し、ベース 1 とベース 2 とについては短期連比、短期役比、総累計連比、総累計役比とは異なる同一の色にて表示してもよい。

【0 6 4 9】

また、主基板 1 1 では、アクティブバッファにおける第 0 記憶領域の賞球合計が所定の容量である 6 0 0 0 個に到達すると、リングバッファにおける第 0 記憶領域～第 1 0 記憶領域の記憶を更新する。さらには、1 0 セット分の総和及び総累計の記憶領域、1 0 セット分及び総累計の役比及び連比を記憶する連比役比記憶領域の記憶をそれぞれ更新する。

【0 6 5 0】

アクティブバッファ及びリングバッファにおける更新では、アクティブバッファの第 0 記憶領域に記憶されている数値をリングバッファの第 1 記憶領域に移動させる。また、リングバッファの第 1 記憶領域～第 9 記憶領域に記憶されている数値をそれぞれ第 2 記憶領域～第 1 0 記憶領域に移動させる。例えば、図 1 0 - 1 0 に示すように、第 0 記憶領域～第 9 記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数がそれぞれ「2 7」「8 1」「1 2 0」「3 6」「2 2 5」「8 7」「6 6」「1 1 7」「4 5」「2 1」であったとする。このときに、アクティブバッファの第 0 記憶領域における賞球合計が 6 0 0 0 個に到達すると、第 1 記憶領域～第 1 0 記憶領域における一般入賞口賞球の賞球数をそれぞれ「2 7」「8 1」「1 2 0」「3 6」「2 2 5」「8 7」「6 6」「1 1 7」「4 5」「2 1」に更新する。また、第 0 記憶領域の賞球数を「0」とし、第 1 0 記憶領域の賞球数を消去する。

【0 6 5 1】

第 0 記憶領域～第 1 0 記憶領域に記憶される賞球数を更新する際には、記憶している賞球数を一旦消去してから新たな賞球数を記憶させてもよい。あるいは、記憶されている賞球数に上書きする形で新たな賞球数を記憶させてもよい。

【0 6 5 2】

次に、この実施例におけるパチンコ遊技機 1 の動作（作用）を説明する。主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。図 1 0 - 1 1 に示すように、遊技制御メイン処理を開始すると、C P U 1 0 3 は、プログラムの内容が正当か否か確認するための処理であるセキュリティチェック処理を実行した後、ステップ S 2 1 T M 1 0 1 0 以降の遊技制御メイン処理を開始する。遊技制御メイン処理において、C P U 1 0 3 は、まず、必要な初期設定を行う。

【0 6 5 3】

初期設定処理において、C P U 1 0 3 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S 2 1 T M 1 0 1 0）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S 2 1 T M 1 0 2 0）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S 2 1 T M 1 0 3 0）。次いで、演出制御基板 1 2 が動作を開始するまでのウェイトを行う（ステップ S 2 1 T M 1 0 4 0）。

【0 6 5 4】

そして、C P U 1 0 3 は、内蔵デバイスの初期化（内蔵デバイス（内蔵周辺回路）であ

10

20

30

40

50

るCTC（カウンタ／タイマ）およびPIO（パラレル入出力ポート）の初期化など）を行った後（ステップS21TM1050）、RAM102をアクセス可能状態に設定する（ステップS21TM1060）。なお、割込モード2は、CPU103が内蔵する特定レジスタ（Iレジスタ）の値（1バイト）と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ（1バイト：最下位ビット0）とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

【0655】

また、図10-12に示すように、CPU103は、錠スイッチ21TM051がONとなっているか否かを判定する（ステップS21TM1110）。錠スイッチ21TM051がONとなっていない場合（ステップS21TM1110；NO）は、ステップS21TM1310に進む。錠スイッチ21TM051がONとなっている場合（ステップS21TM1110；YES）は、CPU103は、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（電源基板に搭載されている設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップS21TM1120）。 10

【0656】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、ON状態を検出した場合には（ステップS21TM1120でYES）、CPU103は、設定値を変更可能な設定変更モードに移行する。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件が成立しており、且つ、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件が成立していることに基づいて、処理状態を設定変更モードに制御する。 20

【0657】

CPU103は、設定変更モードに移行することに伴い、情報出力回路112から設定変更対応信号を出力すると共に、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM1130）。これにより、各遊技機の遊技情報を管理するホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更対応信号及びセキュリティ信号が入力されていることに基づいて、これらの信号の出力元である遊技機が設定変更モード又は後述する設定確認モードに制御されていることを特定可能である。従って、当該外部装置が備える表示装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機（例えば台番号等）を特定可能に報知することが可能となる。

【0658】

また、CPU103は、演出制御基板12に対する演出制御コマンドとして、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信する（ステップS21TM1140）。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5において当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。 30

【0659】

そして、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM1150）。そして、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作を待機する（ステップS21TM1160）と共に、錠スイッチ21TM051のOFF操作を待機する（ステップS21TM1180）。 40

【0660】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作待機状態において、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作される毎に（ステップS21TM1160でYES）、表示モニタ21TM029に表示している設定値を変更する（ステップS21TM1170）。例えば、後述するように、設定変更操作を受け付ける毎に、表示している設定値を1ずつ増加させ、6まで達した後は1に戻す表示制御を実行する。

【0661】

また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を待機している状態において、C P U 1 0 3 は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を検出すると（ステップ S 2 1 T M 1 1 8 0 で Y E S）、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示している設定値に変更する（ステップ S 2 1 T M 1 1 9 0）。即ち、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を、表示している設定値で上書きすることにより、設定値を確定させる。そして、確定した設定値（R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値）を表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示させる（ステップ S 2 1 T M 1 1 9 0）。

【0662】

なお、ステップ S 2 1 T M 1 1 6 0 において、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が操作されることなく（ステップ S 2 1 T M 1 1 6 0 で Y E S と判定されることなく）、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作が行われた場合（ステップ S 2 1 T M 1 1 8 0 で Y E S と判定された場合）には、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値と、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示している設定値が一致している状態のため、結果として、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されない。

【0663】

ステップ S 2 1 T M 1 2 0 0 の処理が実行されると、設定変更モードが終了し、C P U 1 0 3 は、後述する図 1 0 - 1 3 に示すステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理に移行する。

【0664】

前述したステップ S 2 1 T M 1 1 2 0 におけるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の出力信号（クリア信号）の状態確認において、O F F 状態を検出した場合には（ステップ S 2 1 T M 1 1 2 0 で N O）、C P U 1 0 3 は、設定値を確認可能な設定確認モードに移行する。即ち、C P U 1 0 3 は、電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N であるという第 1 条件は成立しているが、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O N であるという第 2 条件は成立していないに基づいて、処理状態を設定確認モードに制御する。

【0665】

C P U 1 0 3 は、設定確認モードに移行することに伴い、情報出力回路 1 1 2 から設定変更対応信号を出力すると共に、セキュリティ信号を出力する（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0）。これにより、各遊技機の遊技情報を管理するホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更対応信号及びセキュリティ信号が入力されていることに基づいて、これらの信号の出力元である遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御されていることを特定可能である。従って、当該外部装置が備える表示装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機（例えば台番号等）を特定可能に報知することが可能となる。

【0666】

また、C P U 1 0 3 は、演出制御基板 1 2 に対する演出制御コマンドとして、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信する（ステップ S 2 1 T M 1 2 2 0）。演出制御用 C P U 1 2 0 は、設定確認モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置 5 において当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

【0667】

そして、C P U 1 0 3 は、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示させる（ステップ S 2 1 T M 1 2 3 0）。そして、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を待機する（ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0）。

【0668】

また、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を待機している状態において、C P U 1 0 3 は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を検出すると（ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 で Y E S）、設定確認モードが終了し、C P U 1 0 3 は、後述する図 1 0 - 1 3 に示すステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 の、電源断検出処理が実行されたか否かの判定処理に移行する。

【0669】

前述したステップ S 2 1 T M 1 1 1 0 で、錠スイッチが O F F の状態であると判定された場合には（ステップ S 2 1 T M 1 1 1 0 で N O）、C P U 1 0 3 は、図 1 0 - 1 3 に示すように、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（電源基板に搭載されている設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0）。 10

【0670】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の出力信号（クリア信号）の状態確認において、O N 状態でない場合には（ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0 で N O）、C P U 1 0 3 は、電源断検出処理（図 1 0 - 1 4 参照）を実行したか否かを、所定のバックアップ領域にチェックデータが格納されているか否かに基づいて判定する（ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0）。

【0671】

本例において、このステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 の処理が実行されるケースとして、（1）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 も O F F であったことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 の処理が実行される場合と、（2）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O F F であったことに基づいて、設定確認モードに移行し、その設定確認モードの終了後にステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 の処理が実行される場合と、が存在する。 20

【0672】

バックアップデータが格納されている場合、C P U 1 0 3 は、バックアップ R A M 領域のデータチェックを行う（ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0）。この実施例では、データチェックとしてパリティチェックを行う。よって、ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 では、算出したチェックサムと、電源断検出処理で同一の処理によって算出され保存されているチェックサムとを比較する。不測の停電等の電力供給停止が生じた後に復旧した場合には、バックアップ R A M 領域のデータは保存されているはずであるから、チェック結果（比較結果）は正常（一致）になる。チェック結果が正常でないということは、バックアップ R A M 領域のデータが、電力供給停止時のデータとは異なっていることを意味する。そのような場合には、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、電力供給の停止からの復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 で N O と判定されてステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 に移行する）。 30

【0673】

チェック結果が正常であれば（ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 で Y E S）、C P U 1 0 3 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 を電力供給停止時の状態に戻すための遊技状態復旧処理（ステップ S 2 1 T M 1 3 4 0 及びステップ S 2 1 T M 1 3 5 0 の処理）を行う。具体的には、R O M 1 0 1 に格納されているバックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップ S 2 1 T M 1 3 4 0）、バックアップ時設定テーブルの内容を順次作業領域（R A M 1 0 2 内の領域）に設定してステップ S 2 1 T M 1 3 6 0 に進む（ステップ S 2 1 T M 1 3 5 0）。作業領域はバックアップ電源によって電源バックアップされている。バックアップ時設定テーブルには、作業領域のうち初期化してもよい領域についての初期化データが設定されている。ステップ S 2 1 T M 1 3 4 0 及びステップ S 2 1 T M 1 3 5 0 の処理によって、作業領域のうち初期化してはならない部分については、保存されていた内容がそのまま残る。初期化してはならない部分とは、例えば、 40 50

電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、規制部材状態指定フラグ、初期化済フラグなど）、出力ポートの出力状態が保存されている領域（出力ポートバッファ）、未払出賞球数を示すデータが設定されている部分などである。設定値格納領域（確定した設定値が格納されている領域）も、初期化してはならない部分に含まれる。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、初期化してはならない部分に含まれる。

【0674】

次いで、CPU 1 0 3 は、RAM 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップ S 2 1 T M 1 3 6 0）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理（ステップ S 2 1 T M 1 6 9 0）における大当たり判定が実行される。次いで、CPU 1 0 3 は、電力供給復旧時のコマンドとしてのバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を送信する（ステップ S 2 1 T M 1 3 7 0）。演出制御用 CPU 1 2 0 では、このバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基づいて、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを認識する。演出制御用 CPU 1 2 0 は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R、遊技効果ランプ 9 等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたことを報知することが可能である。次いで、CPU 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 1 4 7 0 の設定コマンド送信処理を実行する。

【0675】

尚、ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0 で、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 がオンの状態である場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 1 0；YES）や、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 でバックアップデータが格納されていない場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0；NO）、ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 でパリティチェックの結果が正常でない場合（ステップ S 2 1 T M 1 3 3 0；NO）場合は、初期化処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0）。

【0676】

本例において、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行されるケースとして、（１）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が OFF であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が ON であったことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（２）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が OFF であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 も OFF であったことに基づいて、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 の何れかで NO と判定されたことを条件として、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなく直ちにステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（３）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 も ON であったことに基づいて、設定変更モードに移行し、その設定変更モードの終了後にステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、（４）電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON であり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が OFF であったことに基づいて、設定確認モードに移行し、その設定確認モードの終了後にステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 の何れかで NO と判定されたことを条件として、ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の初期化処理が実行される場合と、が存在する。

【0677】

初期化処理では、CPU 1 0 3 は、まず、RAM クリア処理を行う（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0）。RAM クリア処理では、RAM 1 0 2 の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ等）はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM 1 0 2 の設定値格納領域

に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する（ステップS21TM1420）。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM102の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。また、ROM101に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1430）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS21TM1440）。

10

【0678】

また、ステップS21TM1430およびステップS21TM1440の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0679】

尚、この実施例では、錠スイッチ21TM051がONとなっていることを条件に設定変更モード、設定確認モードに移行する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、更に遊技機用枠3が開放されていること（遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により遊技機用枠3が開放状態となっていることが検出されていること）を条件として設定変更モード、設定確認モードに移行可能としてもよい。

20

【0680】

ステップS21TM1430、ステップS21TM1440の実行後、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップS21TM1450）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理（ステップS21TM1690）における大当り判定が実行される。次いで、CPU103は、電源投入時（あるいは、設定変更モード又は設定確認モードの終了時）に初期化処理が行われたことを指定する初期化コマンドを送信する（ステップS21TM1460）。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたことを認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたことを報知することが可能である。次いで、CPU103は、ステップS21TM1470の設定コマンド送信処理を実行する。

30

【0681】

CPU103は、ステップS21TM1360又はステップS21TM1450で読み出した設定値を指定する設定コマンドを、演出制御用CPU120に送信する（ステップS21TM1470）。設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

40

【0682】

そして、CPU103は、シリアル通信回路21TM505の設定処理を実行する（ステップS21TM1480）。この設定処理では、主基板11の出力回路21TM067から払出制御基板21TM037の入力回路21TM373Aに接続確認信号が出力される（図10-19及び図10-21を参照）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ1

50

00のシリアル通信回路21TM505と、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のシリアル通信回路21TM380との通信を実行可能な状態に設定する。

【0683】

次に、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS21TM1490）。CPU103は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路104に特図表示結果判定用の乱数値MR1の値を更新させるための設定を行う。

【0684】

そして、ステップS21TM1500において、CPU103は、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行う。すなわち、初期値として例えば2msに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施例では、2ms毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【0685】

次いで、CPU103は、表示用乱数更新処理（ステップS21TM1520）および初期値用乱数更新処理（ステップS21TM1530）を繰り返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS21TM1510）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS21TM1540）。この実施例では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施例では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当たりとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当たり判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ100が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当たり判定用乱数のカウント値が1周（普通図柄当たり判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

【0686】

図10-12及び図10-13に示した例では、設定変更モードに制御された場合、CPU103は、設定変更モードコマンド（ステップS21TM1140）を送信した後に、電源投入時の初期化コマンドを送信し（ステップS21TM1460）、設定コマンドを送信する（ステップS21TM1470）。また、設定確認モードに制御された場合、CPU103は、設定確認モードコマンド（ステップS21TM1220）を送信した後に、電源断復旧時のバックアップコマンド又は電源投入時の初期化コマンドを送信し（ステップS21TM1370又はステップS21TM1460）、設定コマンドを送信する（ステップS21TM1470）。従って、演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信した後に初期化コマンドを受信したに基づいて、設定変更モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定変更モードの終了を報知することが可能である。また、演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信した後にバックアップコマンド又は初期化コマンドを受信したに基づいて、設定確認モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定確認モードの終了を報知することが可能である。

【0687】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号

を受信して割込み要求を受付けると、図10-14のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図10-14に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、電源断検出処理を実行する（ステップS21TM1610）。そして、遊技停止エラーが発生しているか否かを判定し（ステップS21TM1615）、遊技停止エラーが発生していないことを条件として（ステップS21TM1615でNO）、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、排出口スイッチ21TM070といった各種スイッチから入力される検出信号の状態を判定する（ステップS21TM1620）。一方、遊技停止エラーが発生している場合には（ステップS21TM1615でYES）、ステップS21TM1620のスイッチ処理は実行されず、結果として遊技が停止される。

10

【0688】

例えば、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されていること、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されていること、不図示の磁気センサにより異常と判定されるレベルの磁気が検出されていること、不図示の振動センサにより異常と判定されるレベルの振動が検出されていること、不図示の電波センサにより異常と判定されるレベル及び周波数帯の電波が検出されていることに基づいて、遊技停止エラーが発生していると判定される。

【0689】

続いて、第1始動入賞口、第2始動入賞口、大入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口、のいずれかに遊技球が入賞した場合、つまり、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチからの検出信号の入力があった場合には、各検出信号による入賞に対応した賞球個数の設定などを行う賞球処理（ステップS21TM1630）を実行する。

20

【0690】

次いで、CPU103は、役比、連比、ベース等の入賞情報を算出する入賞情報処理（ステップS21TM1640）、該入賞情報処理にて算出された役比、連比、ベース等の入賞情報を表示モニタ21TM029に表示する入賞情報表示制御処理（ステップS21TM1650）を行う。その後、所定のメイン側エラー処理（ステップS21TM1660）を実行することにより、パチンコ遊技機1の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を実行可能とする。なお、ステップS21TM1660において、ステップS1615の説明で述べた各種センサによる異常（遊技停止エラー）の検出を行い、異常を検出した場合には、異常検出フラグをセットして、次のタイマ割込におけるステップS21TM1615において遊技停止させる（スイッチ処理を実行させない）ようにしても良い。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報、始動情報、確率変動情報、払出情報などのデータを出力する（ステップS21TM1670）。

30

【0691】

情報出力処理に続いて、主基板11の側で用いられる乱数値MR1や乱数値MR1～MR4といった遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップS21TM1680）。この後、CPU103は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップS21TM1690）。特別図柄プロセス処理では、遊技制御フラグ設定部に設けられた特図プロセスフラグの値をパチンコ遊技機1における遊技の進行状況に応じて更新し、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおける表示動作の制御や、特別可変入賞球装置7における大入賞口の開閉動作設定などを、所定の手順で行うために、各種の処理が選択されて実行される。

40

【0692】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップS21TM1700）。CPU103は、普通図柄プロセス処理を実行することにより、普通図柄表示器20における表示動作（例えばセグメントLEDの点灯、消灯など）を制御して

50

、普通図柄の変動表示や可変入賞球装置 6 B における可動翼片の傾動動作設定などを可能にする。

【0693】

普通図柄プロセス処理を実行した後、CPU 103 は、コマンド制御処理を実行することにより、主基板 11 から演出制御基板 12 などのサブ側の制御基板に対して制御コマンドを送送させる（ステップ S 21 TM 1710）。これらの一例として、コマンド制御処理では、遊技制御バッファ設定部に設けられた送信コマンドバッファの値によって指定されたコマンド送信テーブルにおける設定に対応して、I/O 105 に含まれる出力ポートのうち、演出制御基板 12 に対して演出制御コマンドを送信するための出力ポートに制御データをセットした後、演出制御 INT 信号の出力ポートに所定の制御データをセットして演出制御 INT 信号を所定時間にわたりオン状態としてからオフ状態とすることなどにより、コマンド送信テーブルでの設定に基づく演出制御コマンドの伝送を可能とする。コマンド制御処理を実行した後は、割込み許可状態に設定してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

10

【0694】

尚、ステップ S 21 TM 1710 のコマンド制御処理においては、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を通知するためのコマンドを送信すること、または、変動パターンや変動表示が終了したことを通知するためのコマンド等の既存コマンドにパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値の情報を含ませて送信することによって、演出制御基板 12 に対して定期的に設定値を通知するようにしてもよい。更に、演出制御基板 12（演出制御用 CPU 120）は主基板 11 からこれらコマンドを受信することによって、設定されている設定値を示唆する演出を変動表示中や大当り遊技中等、様々タイミングにて実行してもよい。

20

【0695】

次に、設定変更モード（メイン処理のステップ S 21 TM 1130 からステップ S 21 TM 1200）、及び、RAM クリア（メイン処理のステップ S 21 TM 1410 からステップ S 21 TM 1420）に関連した処理における表示モニタ 21 TM 029 の表示態様について説明する。先ず、図 10-15（A）に示すように、遊技場の店員等の操作によって電源が OFF となる（電源断させる）と、パチンコ遊技機 1 への電力の供給が停止することによって表示モニタ 21 TM 029 での表示が終了する。

30

【0696】

次に、図 10-15（B）に示すように、錠スイッチ 21 TM 051 が ON となっていること（メイン処理のステップ S 21 TM 1110 で Y）を条件に、遊技場の店員等がクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM 052 を操作しつつ電源を投入すると（メイン処理のステップ S 21 TM 1120 で Y の場合）、CPU 103 によってステップ S 21 TM 1130 及びステップ S 21 TM 1140 の処理が実行され、RAM 102 の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「1」）が、RAM 102 の設定情報一時記憶領域にコピーされ、表示モニタ 21 TM 029（より正確には第 1 表示部 21 TM 029 A）において該設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（この例では、設定値「1」）が表示される（ステップ S 21 TM 1150）。

40

【0697】

このように第 1 表示部 21 TM 029 A にて設定値が表示されている状態において、図 10-15（C）に示すように、CPU 103 は、遊技場の店員等によるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM 052 の操作を検出する毎に、第 1 表示部 21 TM 029 A に表示している数値（設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値）を順次更新表示していく（ステップ S 21 TM 1170）。例えば、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM 052 が操作される毎に、第 1 表示部 21 TM 029 A に表示している数値（設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値）を、1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 1 → ・ ・ ・ のように更新表示していく。ここで、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21 TM 052 が操作されても、その操作によっては RAM 102 の設定値格納領域に格納されてい

50

る設定値（この例では、設定値「1」）自体は変更されず、後述する錠スイッチ21TM051のOFF操作が実行されたときに、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「1」）が、第1表示部21TM029Aに表示されている数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」）に変更される（上書きされる）。

【0698】

次いで、図10-15（D）に示すように、CPU103は、遊技場の店員等による錠スイッチ21TM051のOFF操作を検出（ステップS21TM1180でYES）したことにともづいて、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値（この例では、設定値「1」）が、第1表示部21TM029Aに表示されている数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」）に変更され（上書きされ）、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「2」）が確定する（ステップS21TM1190）。このとき、CPU103は、第1表示部21TM029Aを点滅表示させることによって、遊技場の店員等に新たな設定値がRAM102の設定値格納領域に格納され、設定変更モードの制御が終了したことを報知（設定完了報知）する（ステップS21TM1200）。

【0699】

なお、一旦錠スイッチ21TM051がOFF操作された後は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されても、第1表示部21TM029Aに表示されている数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「2」）、及び、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「2」）は何れも変更されない。仮に、設定値が確定した後も第1表示部21TM029Aに表示される数値が変更可能であると、錠スイッチ21TM051がOFFの状態でも設定値が変更可能であると誤解させてしまうおそれがある。そのため、この実施形態では、一旦錠スイッチ21TM051がOFF操作された後は、第1表示部21TM029Aに表示される数値を変更させないようにしている。

【0700】

そして、設定変更モード（ステップS21TM1130からステップS21TM1200）を終了し、CPU103は、RAMクリアの処理を実行する（ステップS21TM1410）。RAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電源断発生時の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ等）がクリアされて、初期値が設定されることにより、遊技状態が初期化されるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、RAM102のバックアップ領域に保留記憶が記憶されている場合は、該保留記憶がクリアされる。RAMクリアの処理が終了した後、CPU103は、第1表示部21TM029Aに「C」を表示させることによって、遊技場の店員等にRAMクリアの処理が実行されたことを報知（RAMクリア報知）する（ステップS21TM1420）。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モードが終了して（設定値が確定して）、初期化処理が実行されたことを把握する。そして、ステップS21TM1430以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態、つまり、変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出等が実行可能な状態となる。

【0701】

尚、この実施例の設定変更モードでは、表示モニタ21TM029に表示する初期表示として、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を表示する形態を例示しているが、この発明はこれに限定されるものではなく、設定変更モードにおいて表示モニタ21TM029に表示する初期表示としては、遊技者にとって最も有利な設定値（この実施例であれば「6」）、或いは、遊技者にとって最も不利な設定値（この実施例であれば「1」）を表示するようにしてもよい。

【0702】

また、CPU103は、設定変更モードの終了に伴い、RAMクリア報知後に、表示モ

ニタ 2 1 T M 0 2 9 に、確定した設定値（R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値）に対応した、連比、役比、及びベース等の各集計値を表示させるようにしても良い。また、設定値毎に、各設定値に対応した連比、役比、及びベース等の各集計値を、順番（設定値の昇順又は降順）に表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示させるようにしても良い。

【0703】

なお、設定変更モードに制御されているときに、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態とされることなく電源断が発生した場合には、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態とされていないことにより、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されていた設定値は、電源投入時から変更されておらず、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は削除される。

10

【0704】

次に、設定確認モード（ステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 からステップ S 2 1 T M 1 2 4 0）の処理における表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の表示態様について説明する。先ず、図 1 0 - 1 6（A）に示すように、遊技場の店員等の操作によって電源が O F F となる（電源断させる）と、パチンコ遊技機 1 への電力の供給が停止することによって表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 での表示が終了する。

【0705】

次に、図 1 0 - 1 6（B）に示すように、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N となっていること（メイン処理のステップ S 2 1 T M 1 1 1 0 で Y）を条件に、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O F F の状態で電源を投入すると（メイン処理のステップ S 2 1 T M 1 1 2 0 で N の場合）、C P U 1 0 3 によってステップ S 2 1 T M 1 2 1 0 及びステップ S 2 1 T M 1 2 2 0 の処理が実行され、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「1」）が、R A M 1 0 2 の設定情報一時記憶領域にコピーされ、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9（より正確には第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A）において該設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（この例では、設定値「1」）が表示される（ステップ S 2 1 T M 1 2 3 0）。

20

【0706】

なお、設定変更モードに制御されているときと異なり、設定確認モードに制御されているときには、遊技場の店員等によりクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の操作が行われても、第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A に表示している数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」）は更新表示されない。仮に、設定確認モードに制御されているときに、遊技場の店員等によりクリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の操作が行われたことにより、第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A に表示している数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」）が更新表示されてしまうと、設定確認モードにおいて、設定値が変更可能であると誤解させてしまうおそれがある。そのため、この実施形態では、設定確認モードに制御されているときには、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 の操作が行われても、第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A に表示している数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」）は更新表示されないようにしている。

30

40

【0707】

そして、C P U 1 0 3 は、遊技場の店員等による錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O F F 操作を検出（ステップ S 2 1 T M 1 2 4 0 で Y E S）したことにともづいて、設定確認モードを終了する。ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 以降の処理を実行することによって遊技が可能な状態、つまり、変動表示結果や大当たり種別、変動パターンの決定抽選や、賞球の払出等が実行可能な状態となる。すなわち、設定確認モードの処理を実行した場合、C P U 1 0 3 は、ステップ S 2 1 T M 1 3 2 0 又はステップ S 2 1 T M 1 3 3 0 で N O と判定された場合を除き、R A M クリアに関連した処理を実行しない。

【0708】

なお、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 操作された後は、前述したように、クリアス

50

イッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されても、第1表示部21TM029Aに表示されている数値（この例では、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値「1」）、及び、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（この例では、設定値「1」）は何れも変更されない。

【0709】

以上に示したように、パチンコ遊技機1への電力供給が開始されるときに、（1）錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052もON状態である、という、設定変更モードに制御するための条件が成立している場合には、遊技機が設定変更モードに制御され、（2）錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052はOFF状態である、という、設定確認モードに制御するための条件が成立している場合には、遊技機が設定確認モードに制御されることになる。

【0710】

遊技場の店員等は、設定値を変更又は表示させるため（設定変更モード又は設定確認モードに移行させるため）には、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とするが、このとき、設定変更モードに移行させるためには、さらに初期化処理を実行させるための操作（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作）を行い、設定確認モードに移行させるためには、当該初期化処理を実行させるための操作を行わない。このように、遊技場の店員等は、電源投入時に遊技機を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのか（あるいは何れにも制御させないか）を選択可能であると共に、初期化処理を実行させるか否かについても選択可能となっている。

【0711】

また、この実施形態では、遊技機を設定確認モードに移行させるために初期化処理が必要とはならない（ステップS21TM1320又はステップS21TM1330でNOと判定された場合を除いてRAMクリアが実行されない）。そのため、遊技者が遊技を行っているときに遊技場の店員等が設定値を確認したい場合等に、一旦電源を落として、その後の電源投入時に設定確認モードに移行させても、遊技状態が初期化されず、遊技者の不利益となることがない。遊技場側では、設定確認モードによって、設定値の確認を支障無く行うことが可能となる。

【0712】

また、CPU103は、設定確認モードの終了に伴い、表示モニタ21TM029に、表示した設定値（RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値）に対応した、連比、役比、及びベース等の各集計値を表示させるようにしても良い。また、設定値毎に、各設定値に対応した連比、役比、及びベース等の各集計値を、順番（設定値の昇順又は降順）に表示モニタ21TM029に表示させるようにしても良い。

【0713】

図10-17は、設定変更モード、設定確認モードに制御されたときに、パチンコ遊技機1の演出装置（画像表示装置5、スピーカ8L、8R、及び、遊技効果ランプ9）により設定変更モード、設定確認モードに移行したことの報知が行われる例を示している。図10-17（1）は、設定変更モードに制御されたときに画像表示装置5に表示される画像の例、図10-17（2）は、設定確認モードに制御されたときに画像表示装置5に表示される画像の例を、それぞれ示している。

【0714】

図10-17（1）の（A）に示すように、電源投入時（特にステップS21TM1040の演出制御基板動作待ちのウェイトが完了する前）は、演出制御基板12の起動が完了していない。よって、画像表示装置5には画像が表示されておらず、スピーカ8L、8Rから音は出力されず、遊技効果ランプ9は発光していない状態となっている。

【0715】

次に、図10-17（1）の（B）に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1140でCPU103から演出制御基板12に送信される設定変更モードコマンド

を受信したことに基づいて、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定変更中」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから設定変更モードに移行したことを報知する音声（例えば「設定変更中です」という音声）を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様（例えば白色の点滅態様）で発光させることにより、設定変更モードに移行したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定変更モードに移行されていることを報知することが可能であるため、設定変更モードに制御されていることを明確に把握可能となる。ここで、図10-17(1)の(B)に示す状態では、画像表示装置5におけるその他の表示情報（例えば、演出図柄や小図柄、第4図柄、右打ち表示等）を表示しない。

10

【0716】

なお、演出制御用CPU120が設定変更モードコマンドを受信したときに、VDP（Video Display Processor）により、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となっていなければ（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となっていないときには）、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となるまで（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となるまで）、画像表示装置5による報知は行わず、音声報知及び発光報知を先行して実行する。即ち、スピーカ8L, 8Rから設定変更モードに移行したことを報知する音声（例えば「設定変更中です」という音声）を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様（例えば白色の点滅態様）で発光させることにより、設定変更モードに移行したことを報知する。その後、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となったときに（即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となったときに）、上記音声報知及び上記発光報知に加えて、画像表示装置5による報知を開始する。即ち、画像表示装置5において「設定変更中」の文字を表示する。

20

【0717】

そして、図10-17(1)の(C)に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1470でCPU103から演出制御基板12に送信される設定コマンドを受信したことに基づいて（あるいは、ステップS21TM1460でCPU103から演出制御基板12に送信された電源投入時の初期化コマンドを受信したことに基づいて）、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードを終了したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定変更終了」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから出力されていた設定変更モードに移行したことを報知する音声（例えば「設定変更中です」という音声）の出力を停止し、遊技効果ランプ9による所定の発光態様（例えば白色の点滅態様）での発光を停止することにより、設定変更モードが終了したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定変更モードが終了したことを報知することが可能であるため、設定変更モードが終了したことを明確に把握可能となる。

30

【0718】

そして、図10-17(1)の(D)に示すように、CPU103は、メイン処理のステップS21TM1480以降の処理を実行し、遊技可能な状態になったこと（遊技制御用タイマ割込処理が実行されたこと）に伴って、画像表示装置5においてデモ画面を表示するための演出制御用コマンドを送信し、これを受信した演出制御用CPU120は、画像表示装置5にデモ画面を表示する。

40

【0719】

図10-17(2)の(A)に示すように、電源投入時（特にステップS21TM1040の演出制御基板動作待ちのウェイトが完了する前）は、演出制御基板12の起動が完了していない。よって、画像表示装置5には画像が表示されておらず、スピーカ8L, 8Rから音は出力されず、遊技効果ランプ9は発光していない状態となっている。

50

【0720】

次に、図10-17(2)の(B)に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1220でCPU103から演出制御基板12に送信される設定確認モードコマンドを受信したに基づいて、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定確認中」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから設定確認モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定確認中です」という音声)を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)で発光させることにより、設定確認モードに移行したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定確認モードに移行されていることを報知することが可能であるため、設定確認モードに制御されていることを明確に把握可能となる。ここで、図10-17(2)の(B)に示す状態では、画像表示装置5におけるその他の表示情報(例えば、演出図柄や小図柄、第4図柄、右打ち表示等)を表示しない。

10

【0721】

なお、演出制御用CPU120が設定確認モードコマンドを受信したときに、VDP(Video Display Processor)により、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となっていなければ(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となっていないときには)、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となるまで(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となるまで)、画像表示装置5による報知は行わず、音声報知及び発光報知を先行して実行する。即ち、スピーカ8L, 8Rから設定確認モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定変更中です」という音声)を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)で発光させることにより、設定確認モードに移行したことを報知する。その後、映像信号を画像表示装置5に供給可能な状態となったときに(即ち、表示制御部123により画像表示装置5の制御が可能となったときに)、上記音声報知及び上記発光報知に加えて、画像表示装置5による報知を開始する。即ち、画像表示装置5において「設定確認中」の文字を表示する。

20

【0722】

そして、図10-17(2)の(C)に示すように、メイン処理におけるステップS21TM1470でCPU103から演出制御基板12に送信される設定コマンドを受信したに基づいて(あるいは、ステップS21TM1370またはステップS21TM1460でCPU103から演出制御基板12に送信された電源断復旧時のバックアップコマンドまたは電源投入時の初期化コマンドを受信したに基づいて)、演出制御用CPU120は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードを終了したことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、画像表示装置5において「設定確認終了」の文字を表示し、スピーカ8L, 8Rから出力されていた設定確認モードに移行したことを報知する音声(例えば「設定確認中です」という音声)の出力を停止し、遊技効果ランプ9による所定の発光態様(例えば白色の点滅態様)での発光を停止することにより、設定確認モードが終了したことを報知する。このような構成によれば、パチンコ遊技機1の中で最も大きな表示領域を備えた画像表示装置5等において、設定確認モードが終了したことを報知することが可能であるため、設定確認モードが終了したことを明確に把握可能となる。

30

40

【0723】

そして、図10-17(2)の(D)に示すように、CPU103は、メイン処理のステップS21TM1480以降の処理を実行し、遊技可能な状態になったこと(遊技制御用タイマ割込処理が実行されたこと)に伴って、画像表示装置5においてデモ画面を表示するための演出制御用コマンドを送信し、これを受信した演出制御用CPU120は、画像表示装置5にデモ画面を表示する。

【0724】

設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に

50

応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。図10-18(1)、(2)、及び(3)は、設定示唆演出の例を示している。図10-18(1)は、大当り終了画面において「晴れ」態様のエンディング画像が選択された例、図10-18(2)は、大当り終了画面において「曇り」態様のエンディング画面が選択された例、図10-18(3)は、大当り終了画面において「雨」態様のエンディング画像が選択された例を示している。また、図10-18(4)は、設定示唆演出の態様を、設定コマンドが指定した設定値に基づいて決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。

【0725】

CPU103は、メイン処理のステップS21TM1470において、設定値を指定する設定コマンドを演出制御用CPU120に送信している。また、CPU103は、大当り遊技状態が終了したときに、画像表示装置5においてエンディング演出を実行するための演出制御用コマンドを演出制御用CPU120に送信する。演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドにより指定された設定値をRAM102に記憶することにより、記憶した設定値に基づいてエンディング演出の態様を決定可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに送信される演出制御用コマンドに基づいて、画像表示装置5に、大当り遊技状態が終了したことを報知する文字(「BONUS終了」の文字)と共に、記憶している設定値に基づいて決定された態様(晴れの態様、曇りの態様、雨の態様)のエンディング画像を表示することが可能となる。

【0726】

図10-18(4)に示すテーブルには、設定コマンドで指定された設定値が「1, 2」である場合、「3, 4」である場合、及び「5, 6」である場合について、それぞれ、設定示唆演出の態様を、図10-18(1)に示す「晴れ」態様に決定する場合、図10-18(2)に示す「曇り」態様に決定する場合、及び図10-18(3)に示す「雨」態様に決定する場合、の判定値が割り振られている。

【0727】

演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「1」又は「2」である場合には、低い割合(例えば20%)で(1)に示す「晴れ」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば40%)で(2)に示す「曇り」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば40%)で(3)に示す「雨」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「3」又は「4」である場合には、低い割合(例えば20%)で(1)に示す「晴れ」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、高い割合(例えば50%)で(2)に示す「曇り」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば30%)で(3)に示す「雨」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「5」又は「6」である場合には、高い割合(例えば50%)で(1)に示す「晴れ」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、低い割合(例えば20%)で(2)に示す「曇り」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定し、中程度の割合(例えば30%)で(3)に示す「雨」態様の設定示唆演出(エンディング演出)を実行することに決定する。

【0728】

このように、設定値に応じて設定示唆演出の各態様の決定割合を異ならせることにより、遊技者は設定示唆演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。本例では、遊技者は、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、特に、「晴れ」態様でエンディング演出が実行されることに期待することにな

10

20

30

40

50

る。

【0729】

次に、メイン処理における賞球処理（ステップS21TM1630）を説明する。まず、主基板11と払出制御基板21TM037との間で送受信される払出制御信号（接続確認信号）および賞球要求信号（払出制御コマンド）について説明する。

【0730】

図10-19は、遊技制御用マイクロコンピュータ100から払出制御基板21TM037に対して出力される制御信号の内容の一例を示す説明図である。この実施の形態では、払出制御等に関する各種の制御を行うために、主基板11と払出制御基板21TM037との間で制御信号として接続確認信号が送受信される。図10-19に示すように、接続確認信号は、主基板11の立ち上がり時（遊技制御用マイクロコンピュータ100が遊技制御処理を開始したとき）に出力され、払出制御基板21TM037に対して主基板11が立ち上がったことを通知するための信号（主基板11の接続確認信号）である。また、接続確認信号は、賞球払出が可能な状態であることを示す。なお、接続確認信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のI/Oポート21TM057および出力回路21TM067を介して出力され、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370の入力回路21TM373AおよびI/Oポート21TM372eを介して払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される。接続確認信号は、それぞれ1ビットのデータであり、1本の信号線によって送信される。なお、接続確認信号は、電源投入時に実行されるステップS21TM1350、S21TM1440の処理によって出力ポート0の接続確認信号に対応するビットに初期値が設定されることによって出力可能な状態となる（具体的にはステップS21TM2080の処理によって出力されるが、ステップS21TM1350、S21TM1440のタイミングで出力されるようにしてもよい）。

【0731】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と同様に、シリアル通信回路21TM380を内蔵する。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505と、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380との間で、各種払出制御コマンドが送受信される。なお、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380の構成及び機能は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505の構成及び機能と同様である。

【0732】

図10-20は、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御基板21TM037との間で送受信される制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。この実施の形態では、払出制御等に関する各種の制御を行うために、主基板11と払出制御基板21TM037とのマイクロコンピュータの間で各種制御コマンド（賞球要求信号）が送受信される。

【0733】

上述したように、賞球要求信号および受信ACK信号は、8ビットのデータ（2進8桁のデータ）によって構成され、設定された8ビットのデータの内容によって所定の内容を示す制御コマンドとして出力される。

【0734】

接続確認コマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の接続状態が正常であるか否かを確認するために一定間隔（1s）毎に遊技制御用マイクロコンピュータ100から送信される制御コマンドである。接続確認コマンドのデータの内容は「A0（H）」すなわち「1010000」とされている。

【0735】

接続OKコマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコ

ンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間の接続状態が正常であることを通知するための制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が接続確認コマンドの受信に応じて応答信号として送信する制御コマンドである。接続 OK コマンドのデータの内容は「8 x (H)」すなわち「1 0 0 0 0 x x x」とされている。ここで、賞球エラー（入賞にもとづく賞球払出動作や球貸し要求にもとづく球貸払出動作が正常に行えない状態になった異常状態）が発生した場合には、1 ビット目の「x」に「1」が設定される。また、満タンエラーが発生した場合には、2 ビット目の「x」に「1」が設定される。また、球切れエラーが発生した場合には、3 ビット目の「x」に「1」が設定される。また、ドア開放エラーが発生した場合には、4 ビット目の「x」に「1」が設定される。このようにして、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間の接続確認を行っている最中に、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における所定のエラーの発生を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に通知することができる。

【0 7 3 6】

賞球個数コマンドは、払出要求を行う遊技球の個数（0～14個）を通知するための制御コマンドであって、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が入賞の発生に基づいて送信する制御コマンドである。賞球個数コマンドのデータの内容は「5 x (H)」すなわち「0 1 0 1 x x x x」とされている。この実施の形態では、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B で遊技球が検出されると 3 個の賞球払出を行い、一般入賞口 1 0 に対応した入賞口スイッチで遊技球が検出されると 1 0 個の賞球払出を行い、カウントスイッチ 2 3 で遊技球が検出されると 1 4 個の賞球払出を行う。よって、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B で遊技球が検出された場合、賞球数 3 個を通知するための賞球個数コマンド「0 1 0 1 0 0 1 1」が送信され、一般入賞口 1 0 に対応した入賞口スイッチで遊技球が検出された場合、賞球数 1 0 個を通知するための賞球個数コマンド「0 1 0 1 1 0 1 0」が送信され、カウントスイッチ 2 3 で遊技球が検出された場合、賞球数 1 4 個を通知するための賞球個数コマンド「0 1 0 1 1 1 1 0」が送信される。なお、接続確認コマンド及び賞球個数コマンドは賞球要求信号として、何れかが送信されるように構成されている。なお、賞球個数コマンドは、賞球の払出条件（入賞等の発生）が成立したことにもとづいて、接続確認コマンドが送信されるタイミングで、接続確認コマンドに代えて送信されるものである。この実施の形態では、上述したように、上位 4 ビットに賞球個数に対応したデータを設定しているが、上位 4 ビットを共通にして下位 4 ビットに賞球個数に対応したデータを設定するようにしてもよい。

【0 7 3 7】

賞球終了コマンドは、賞球動作（賞球払出動作）が終了したことを示す制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が賞球動作の終了にもとづいて送信する制御コマンドである。賞球終了コマンドのデータの内容は「5 0 (H)」すなわち「0 1 0 1 0 0 0 0」とされている。なお、賞球終了コマンドは、賞球動作が終了したことにもとづいて、接続 OK コマンドが送信されるタイミングで、接続 OK コマンドに代えて送信されるものである。この実施の形態では、賞球終了コマンドにエラー情報を示すデータを設定するように構成してない。これは、賞球終了コマンドは賞球動作が終了したときに 1 回だけ送信されるので、そのタイミングでエラー情報を送らなくても次の接続 OK コマンドにエラー情報を示すデータを設定して送ることができるからである。なお、賞球終了コマンドの下位 4 ビットにエラー情報を示すデータを設定するようにしてもよい。

【0 7 3 8】

賞球準備中コマンドは、所定のエラーが発生し賞球動作が終了していないことを通知する制御コマンドであって、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が賞球動作の実行中に所定のエラーが発生したことにもとづいて送信する制御コマンドである。接続 OK コマンドのデータの内容は「8 x (H)」すなわち「1 0 0 0 0 x x x」とされている。ここで、賞球エラーが発生した場合には、1 ビット目の「x」に「1」が設定される。

また、満タンエラーが発生した場合には、2ビット目の「x」に「1」が設定される。また、球切れエラーが発生した場合には、3ビット目の「x」に「1」が設定される。また、ドア開放エラーが発生した場合には、4ビット目の「x」に「1」が設定される。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から遊技制御用マイクロコンピュータ100に賞球動作の実行中に所定のエラーが発生し賞球動作が終了していないことを遊技制御用マイクロコンピュータ100に通知することができるとともに、エラーの内容も遊技制御用マイクロコンピュータ100に通知することができる。賞球準備中コマンドは、接続OKコマンドと同様に、下位4ビットの内容をエラー状態に応じて異ならせる（所定ビットを異ならせる）ことによって所定のエラーが発生したことを通知している。また、接続OKコマンド、賞球準備中コマンド、賞球終了コマンドは、受信ACK信号として、何れかのコマンドが送信されるように構成されている。なお、賞球準備中コマンドは、エラーが発生して賞球動作が実行できない状態のみならず、賞球動作の実行中の状態においても出力されるコマンド（信号）である。

10

【0739】

なお、賞球準備中コマンドは、エラーが発生して賞球動作が行えない状態になったことにもとづいて、接続OKコマンドが送信されるタイミングで、接続OKコマンドに代えて送信されるものである。

【0740】

図10-21は、図10-19に示す制御信号および図10-20に示す制御コマンドの送受信に用いられる信号線等を示すブロック図である。図10-21に示すように、接続確認信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ100によって出力回路21TM067を介して出力され、入力回路21TM373Aを介して払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される。また、制御コマンドのうちの接続確認コマンドおよび賞球個数コマンドは、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505から出力され、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380に入力される。制御コマンドのうちの接続OKコマンド、賞球終了コマンドおよび賞球準備中コマンドは、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が内蔵するシリアル通信回路21TM380から出力され、遊技制御用マイクロコンピュータ100が内蔵するシリアル通信回路21TM505に入力される。なお、図10-21では、シリアル通信を行うための信号線として2本の信号線（賞球要求信号を送信するための信号線と受信ACK信号を送信するための信号線）を示しているが、実際は1本の信号線で賞球要求信号と受信ACK信号を送受信する。

20

30

【0741】

次に、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータと払出制御用マイクロコンピュータとの信号（賞球要求信号、受信ACK信号；制御コマンド）の送受信について説明する。賞球要求信号は、接続確認コマンドと賞球個数コマンドからなり、受信ACK信号は、接続OKコマンドと賞球終了コマンドと賞球準備中コマンドからなる。

【0742】

図10-22は、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すシーケンス図である。図10-22に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の信号線の接続が切れていないかどうかを確認するために、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての接続確認コマンドをシリアル通信回路21TM380を介して受信すると、受信ACK信号としての接続OKコマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状

40

50

態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

【0743】

次に、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の動作について説明する。図 1 0 - 2 3 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が実行するメイン処理を示すフローチャートである。メイン処理では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、まず、必要な初期設定を行う。すなわち、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S 2 1 T M 1 8 1 0）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S 2 1 T M 1 8 2 0）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S 2 1 T M 1 8 3 0）。また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、内蔵デバイスレジスタの設定を行い（ステップ S 2 1 T M 1 8 4 0）、C T C および P I O の設定を行う（ステップ S 2 1 T M 1 8 5 0）を行った後に、R A M をアクセス可能状態に設定する（ステップ S 2 1 T M 1 8 6 0）。また、賞球未払出個数カウンタ初期値として 0 0 0 0（H）をセットする（ステップ S 2 1 T M 1 8 7 0）。10

【0744】

この実施の形態では、内蔵 C T C のうちの一つのチャンネルがタイマモードで使用される。従って、ステップ S 2 1 T M 1 8 4 0 の内蔵デバイスレジスタの設定処理およびステップ S 2 1 T M 1 8 5 0 の処理において、使用するチャンネルをタイマモードに設定するためのレジスタ設定、割込発生を許可するためのレジスタ設定および割込ベクタを設定するためのレジスタ設定が行われる。そして、そのチャンネルによる割込がタイマ割込として用いられる。タイマ割込を例えば 2 m s 毎に発生させたい場合は、初期値として 2 m s に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。20

【0745】

なお、タイマモードに設定されたチャンネル（この実施の形態ではチャンネル 3）に設定される割込ベクタは、タイマ割込処理の先頭アドレスに相当するものである。具体的は、I レジスタに設定された値と割込ベクタとでタイマ割込処理の先頭アドレスが特定される。タイマ割込処理では、払出手段を制御する払出制御処理（少なくとも主基板からの賞球払出に関する指令信号に応じて払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動する処理を含み、球貸し要求に応じて払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動する処理が含まれていてもよい。）が実行される。30

【0746】

この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 でも割込モード 2 が設定される。従って、内蔵 C T C のカウントアップにもとづく割込処理を使用することができる。また、C T C が送出した割込ベクタに応じた割込処理開始アドレスを設定することができる。C T C のチャンネル 3（C H 3）のカウントアップにもとづく割込は、C P U の内部クロック（システムクロック）をカウントダウンしてレジスタ値が「0」になったら発生する割込であり、タイマ割込として用いられる。30

【0747】

次に、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、まず、R A M クリア処理を行う（ステップ S 2 1 T M 1 8 8 0）。また、R A M 領域のフラグやカウンタなどに初期値を設定する（ステップ S 2 1 T M 1 8 9 0）。ステップ S 2 1 T M 1 8 9 0 の処理には、賞球未払出個数カウンタ初期値を賞球未払出個数カウンタにセットする処理が含まれる。40

【0748】

また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を初期設定するシリアル通信回路設定処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 1 9 0 0）。この場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 が行うシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 2 5 6 0 参照）と同様の処理に従って、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 に遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 とシリアル通信させるための設定を行う。50

【0749】

シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を初期設定すると、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1

は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 の割り込み要求に応じて実行する割込処理の優先順位を初期設定する（ステップ S 2 1 T M 1 9 1 0）。この場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 が行う優先順位の初期設定処理と同様の処理に従って、割込処理の優先順位を初期設定する。

【 0 7 5 0 】

そして、定期的にタイマ割込がかかるように払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に設けられている C T C のレジスタの設定を行う（ステップ S 2 1 T M 1 9 2 0）。すなわち、初期値としてタイマ割込発生間隔に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。そして、初期設定処理のステップ S 2 1 T M 1 8 1 0 において割込禁止とされているので、初期化処理を終える前に割込が許可される（ステップ S 2 1 T M 1 9 3 0）。その後、タイマ割込の発生を監視するループ処理に入る。

10

【 0 7 5 1 】

上記のように、この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の内蔵 C T C が繰り返しタイマ割込を発生するように設定される。そして、タイマ割込が発生すると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、タイマ割込処理を実行する。

【 0 7 5 2 】

図 1 0 - 2 4 は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が実行するタイマ割込処理の例を示すフローチャートである。タイマ割込処理にて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、払出制御処理として以下の処理を実行する。まず、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、入力判定処理を行う（ステップ S 2 1 T M 2 0 1 0）。入力判定処理は、入力ポート 0 のビット 4 ~ 6 および入力ポート 1 のビット 3 ~ 6 の状態を検出して検出結果を R A M の所定の 1 バイト（入力状態フラグと呼ぶ。）に反映する処理である。なお、払出制御処理において、入力ポート 0 のビット 4 ~ 6 および入力ポート 1 のビット 3 ~ 6 の状態にもとづいて制御を行う場合には、直接入力ポートの状態をチェックするのではなく、入力状態フラグの状態をチェックする。

20

【 0 7 5 3 】

次に、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、払出モータ制御処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 2 0）。払出モータ制御処理では、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動すべきときには、払出モータ $\phi 1 \sim \phi 4$ のパターンを出力ポート 0 に出力するための処理を行う。

30

【 0 7 5 4 】

また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と通信を行うプリペイドカードユニット制御処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 3 0）。また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、後述する主制御通信処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 3 5）。さらに、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの球貸し要求に応じて貸し球を払い出す制御を行い、また、主基板からの賞球個数コマンドが示す個数の賞球を払い出す制御を行う賞球球貸し制御処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 4 0）。

【 0 7 5 5 】

そして、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、各種のエラーを検出するエラー処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 5 0）。また、遊技機外部に出力される賞球情報や球貸し情報を出力するための情報出力処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 6 0）。また、エラー処理の結果に応じてエラー表示用 L E D 2 1 T M 3 7 4 に所定の表示を行うとともに、賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 および球切れ L E D 2 1 T M 0 5 4 を点灯するための表示制御処理を実行する（ステップ S 2 1 T M 2 0 7 0）。

40

【 0 7 5 6 】

この実施の形態では、後述するエラー処理において各種エラー（例えば、満タンエラーや球切れエラー、プリペイドカードユニット未接続エラー）が検出されると、検出されたエラーに対応するエラービットがセットされる。そして、ステップ S 2 1 T M 2 0 7 0 の表示制御処理において、エラービットがセットされていることに基づいて、払出制御用 C

50

P U 2 1 T M 3 7 1 は、エラー表示用 L E D 2 1 T M 3 7 4 に所定の表示を行う。また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、表示制御処理において、賞球払出を行っている状態であるときに、賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 を点灯するための制御を行う。また、賞球払出を終了したら、賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 を消灯するための制御を行う。

【0757】

また、この実施の形態では、出力ポートの出力状態に対応した R A M 領域（出力ポート 0 バッファ、出力ポート 1 バッファ、出力ポート 2 バッファ）が設けられているのであるが、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、出力ポート 0 バッファ、出力ポート 1 バッファおよび出力ポート 2 バッファの内容を出力ポートに出力する（ステップ S 7 6 0：出力処理）。出力ポート 0 バッファ、出力ポート 1 バッファおよび出力ポート 2 バッファは、払出モータ制御処理（ステップ S 2 1 T M 2 0 2 0）、プリペイドカード制御処理（ステップ S 2 1 T M 2 0 3 0）、主制御通信処理（ステップ S 2 1 T M 2 0 3 5）、情報出力処理（ステップ S 2 1 T M 2 0 6 0）および表示制御処理（ステップ S 2 1 T M 2 0 7 0）で更新される。

【0758】

次に、ステップ S 2 1 T M 2 0 3 5 の主制御通信処理において、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 の払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 が各種コマンドを送受信する動作を説明する。図 1 0 - 2 1 に示すように、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と各種コマンドをシリアル通信するシリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を内蔵している。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を用いて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から図 1 0 - 2 0 に示す賞球個数コマンドを受信する。また、賞球個数コマンドを受信すると、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 を用いて、賞球 A C K コマンド「D 2」を受信確認信号として送信する。

【0759】

また、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 と同様に、割り込み許可状態である間にシリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 からの割り込み要求があると、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 が割り込み要求を行った割り込み原因に応じた割り込み処理を実行する。この実施の形態では、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、割り込み原因が、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 が受信データを受信したことであると特定すると、受信時割込処理を実行する。この場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 が受信データを受信していることを示す受信時割込フラグをセットする。なお、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、受信時割込処理において、受信時割込フラグをセットするのではなく、シリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 の受信データレジスタからデータを読み込んでもよい。この場合、例えば、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、受信時割込処理において、読み込んだ受信データが賞球個数コマンドであるか否かを判断する。また、受信データが賞球個数コマンドである場合、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1 は、賞球個数コマンドが示す賞球数を賞球未払出個数カウンタに加算してもよい。そのようにすれば、後述する主制御通信処理において、受信時割込フラグがセットされていることにもとづいて受信データが賞球個数コマンドであるか否かを判定し、賞球数を賞球未払出個数カウンタに加算する処理を実行する必要がなくなる。

【0760】

図 1 0 - 2 5 は、主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7（払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0）及び払出モータ 2 1 T M 2 8 9、並びに、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 の間で実行される球貸のための通信処理を説明するためのブロック図である。ここで、後述するように、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 による球貸を制限する方法として、以下に示す第 1 の球貸制限方法～第 4 の球貸制限方法が存在する。

【0761】

まず、(1)第1の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、主基板11(遊技制御用マイクロコンピュータ100)から払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)に対しての接続確認信号の出力を停止する方法である。また、(2)第2の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)からカードユニット21TM050に対してのPRDY信号の出力を停止する方法である。また、(3)第3の球貸制限方法は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を備える払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している期間は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)から払出モータ21TM289に対しての払出モータ21TM289を駆動させるための信号の出力を停止する方法である。また、(4)第4の球貸制限方法は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御基板21TM037(払出制御用マイクロコンピュータ21TM370)からカードユニット21TM050に対してのEXS信号の出力を停止する方法である。

10

【0762】

設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行は、電源断(電源スイッチ21TM055をOFFとすることを含む)、及び、その後の電源投入を伴うものであるため、遊技機の状態として不安定になる可能性があり、このような不安定な状態において球貸処理に対応する払出制御を実行してしまうと、貸出要求に対応した適正な数量の遊技媒体を払い出せない可能性がある。このような状況における遊技者の不利益を防止するために、以下の実施形態では、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技機における球貸を制限するようにしている。以下、これら第1の球貸制限方法～第4の球貸制限方法に関して、具体的に説明する。

20

【0763】

図10-26は、遊技機の主基板11、払出制御基板21TM037、及びカードユニット21TM050の間の通信を説明するためのタイミング図である。遊技機への電力供給が開始され、主基板11からの接続確認信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。接続確認信号は、図10-13に示す、ステップS21TM1480におけるシリアル通信回路設定処理でON状態となる(図10-19参照)。カードユニット21TM050は、電力供給が開始されると、接続信号としてのVL信号をON状態にする。

30

【0764】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

40

【0765】

そして、払出制御基板21TM037は、PRDY信号がON状態であり、かつ、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がり(OFF)を検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個(例えば25個)の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出制御基板21TM037は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち下げる。すなわちEXS信号をOFF状態にする。

【0766】

(設定変更モードにおける第1の球貸制限方法)

50

設定変更モードに制御されている期間において、球貸を制限する方法として、前述した第1の球貸制限方法～第4の球貸制限方法がある。まず、第1の球貸制限方法に関して、図10-27を用いて具体的に説明する。

【0767】

図10-27は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。CPU103が、図10-13に示すシリアル通信回路設定処理（ステップS21TM1480）を実行するまでは、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がOFF状態であるので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。

10

【0768】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号がOFF状態であるため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

20

【0769】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

30

【0770】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、接続確認信号がOFF状態であるときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

40

【0771】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認信号をON状態としないことにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、PRDY信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

【0772】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図10-13に示す、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ

50

2 1 T M 3 7 0 は、払出動作が可能なときには P R D Y 信号を O N 状態にする。

【0 7 7 3】

カードユニット 2 1 T M 0 5 0 においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、P R D Y 信号が O N 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力する。すなわち、B R D Y 信号を O N 状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、B R D Y 信号が O N 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力する。すなわち、B R Q 信号を O N 状態にする。

【0 7 7 4】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、B R D Y 信号及び B R Q 信号が何れも O N 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を O N 状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0 7 7 5】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図 1 0 - 2 7 に示した第 1 の球貸制限方法を適用可能である。即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことに基づいて、接続確認信号の出力を停止する（O N 状態から O F F 状態に切り替える）。これにより、接続確認信号が入力されなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、P R D Y 信号を O F F 状態とすることにより、あるいは、E X S 信号を O N 状態としないことにより、球貸が実行されないようにする。

【0 7 7 6】

（設定変更モードにおける第 2 の球貸制限方法）

次に、第 2 の球貸制限方法に関して、図 1 0 - 2 8 を用いて具体的に説明する。なお、図 1 0 - 2 8 に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号は O N 状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号は O N 状態であるものとする。即ち、接続確認信号は、図 1 0 - 1 2 及び図 1 0 - 1 3 に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングで O N 状態となり、設定変更モード期間中も O N 状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図 1 0 - 1 2 及び図 1 0 - 1 3 に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングで O N 状態となり、設定確認モード期間中も O N 状態が維持されるものとする。

【0 7 7 7】

図 1 0 - 2 8 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板 1 1 （遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 ）、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 （払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 ）、及びカードユニット 2 1 T M 0 5 0 の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O N 状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

【0 7 7 8】

図 1 0 - 2 8 の例では、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号は O N 状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、設定変更モード又は設定確認モードに制御したことに基づいて、接続確認コマンドの送信を停止する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 を介して、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

【0779】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、PRDY信号をON状態としない。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態からOFF状態に切り替える。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であっても、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（接続確認コマンドを受信していない間）は、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態とする。

10

【0780】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

20

【0781】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、接続確認信号がON状態であるときでも、接続確認コマンドが送信されないときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

【0782】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより、接続確認コマンドを受信していない払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で、PRDY信号をON状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、PRDY信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

30

【0783】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、接続確認コマンドの送信を再開する。遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を再開したことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

40

【0784】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

50

【0785】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0786】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-28に示した第2の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に接続確認信号が入力されているか否か（ON状態であるか又はOFF状態であるか）にかかわらず、PRDY信号を出力する（ON状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図10-28に示した第2の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、ON状態となっているPRDY信号をOFF状態に切り替える。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが可能となる。

【0787】

（設定変更モードにおける第3の球貸制限方法）

次に、第3の球貸制限方法に関して、図10-29を用いて具体的に説明する。なお、この実施形態では、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052は、パチンコ遊技機1の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠3を開放しない限り操作不可能とされているので、当該パチンコ遊技機1を設定変更モード又は設定確認モードに制御させるには、遊技機用枠3を開放しなければならない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技機用枠3が開放されていることが通常である。即ち、設定変更モード及び設定確認モードに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3の開放を検知していることになる。このように、遊技機用枠3の開放状態が検出されている期間には、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間が含まれる。

【0788】

図10-29は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知しているときに、主基板11、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。

【0789】

図10-29の例では、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知していることに基づいて、PRDY信号をON状態としない。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態からOFF状態に切り替える。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であっても、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（遊技機用枠3が開放状態となっている期間）は、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態とする。

【0790】

その結果、カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21T

M062が操作されて球貸スイッチ信号が入力されたとしても、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

【0791】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。すなわち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知しているときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

10

【0792】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知していることにより、PRDY信号をON状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、PRDY信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

20

【0793】

そして、遊技場の店員等が、錠スイッチ21TM051をOFF状態とする操作を行うことによって、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了する。さらに、遊技場の店員等が、当該パチンコ遊技機1を遊技可能な状態とするために遊技機用枠3を閉鎖することで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3の開放状態を検知しなくなる。遊技機用枠3の閉鎖に伴い、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なきにはPRDY信号をON状態にする。

30

【0794】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

40

【0795】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0796】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-29に示した第3の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ21T

50

M370に接続確認信号が入力されているか否か（ON状態であるか又はOFF状態であるか）にかかわらず、PRDY信号を出力する（ON状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図10-29に示した第3の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知していることに基づいて、PRDY信号をON状態としない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが可能となる。

【0797】

なお、この実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、払出制御基板21TM037に設けられている（開放状態の検出信号が払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に入力される）例を示したが、このような形態に限らず、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300は、主基板11に設けられる（開放状態の検出信号が遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される）ようにしても良い。このような構成とした場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3（又はガラス扉枠3a）の開放状態を検知したことに基づいて、接続確認信号の出力を停止する（ON状態からOFF状態に切り替える）。これにより、接続確認信号が入力されなくなったことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、PRDY信号をOFF状態とすることにより、あるいは、EXS信号をON状態としないことにより、球貸が実行されないようにする。

【0798】

（設定変更モードにおける第4の球貸制限方法）

次に、第4の球貸制限方法に関して、図10-30を用いて具体的に説明する。なお、図10-30に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号はON状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号はON状態であるものとする。即ち、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定変更モード期間中もON状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定確認モード期間中もON状態が維持されるものとする。

【0799】

図10-30は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がON状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

【0800】

図10-30の例では、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号はON状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御したことに基づいて、接続確認コマンドの送信を停止する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

【0801】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であるこ

とに基づいて、PRDY信号をON状態とする。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態のまま維持する。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であるときは、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードに制御されているか否かにかかわらず、PRDY信号をON状態とする。

【0802】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

【0803】

ここで、払出制御基板21TM037は、PRDY信号がON状態であり、かつ、BRDY信号及びBRQ信号が何れもON状態であるが、遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にしない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であり、PRDY信号がON状態（即ち、払出制御基板21TM037による、払出動作が可能な状態）であり、BRDY信号がON状態（即ち、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力された状態）であり、BRQ信号がON状態（即ち、BRDY信号がON状態となつてから所定の遅延時間が経過した状態）であっても、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間（接続確認コマンドを受信していない間）は、EXS信号をON状態とせず、OFF状態とする。このように、接続確認信号、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号がON状態であるときでも、接続確認コマンドが送信されないときには、EXS信号がOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動されないの、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、球貸スイッチ21TM062が操作されても球貸（遊技媒体の払出）が実行されない。

【0804】

このように、設定変更モード、設定確認モードに制御されている期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを送信しないことにより、接続確認コマンドを受信していない払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で、EXS信号をON状態としないようになっている。このようにして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることができる。また、カードユニット21TM050においては、EXS信号がON状態とならないことに基づいて、球貸が実行されないこと（球貸エラーが発生したこと）を報知することが可能である。

【0805】

そして、カードユニット21TM050は、BRQ信号をON状態としてから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過すると（予め定められた値にセットされたタイマがタイムアウトすると）、BRQ信号の出力を停止する。即ち、BRQ信号をOFF状態にする。そして、カードユニット21TM050は、BRQ信号がOFF状態となったことに基づいて、BRDY信号の出力を停止する。即ち、BRDY信号をOFF状態にする。

【0806】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、接続確認コマンドの送信を再開する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態に維持している。

【0807】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であること

10

【0808】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を再開したこと、並びに、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、以降の球貸の払出制御を実行する。

【0809】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-30に示した第4の球貸制限方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に接続確認信号が入力されているか否か（ON状態であるか又はOFF状態であるか）にかかわらず、PRDY信号を出力する（ON状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図10-30に示した第4の球貸制限方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認コマンドを受信していないことに基づいて、EXS信号をON状態にしない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、球貸が実行されないようにすることが

20

30

【0810】

また、図10-30では、BRQ信号がON状態となってから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過すると（予め定められた値にセットされたタイマがタイムアウトすると）、カードユニット21TM050がBRQ信号をOFF状態に戻し、さらに、BRDY信号もOFF状態に戻す例を示しているが、このような形態に限らず、BRQ信号がON状態となってから、EXS信号がOFF状態のまま所定の時間が経過しても、BRQ信号をON状態のまま維持し、BRDY信号もON状態のまま維持するようにしても良い。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を再開したこと（設定変更モード又は設定確認モードが終了したこと）、並びに、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であることに基づいて、EXS信号をON状態にしても良い。ここで、EXS信号をON状態としたときに、（1）球貸スイッチ21TM062が改めて操作されることなく、BRQ信号がOFF状態となり球貸が自動的に実行される（即ち、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに、当該設定変更モード又は当該設定確認モードの期間内に受け付けられた球貸操作に応じた球貸処理が実行される）ようにしても良く、（2）球貸スイッチ21TM062が改めて操作されたことを契機として、BRQ信号がOFF状態となり、球貸が実行されるようにしても良い。

40

【0811】

（設定変更モード中に球貸制限を実行しない方法）

次に、設定変更モード中に球貸制限を実行しない方法に関して、図10-31を用いて

50

具体的に説明する。なお、図10-31に示す例では、設定変更モードに制御されている期間は、接続確認信号はON状態であり、設定確認モードに制御されている期間も、接続確認信号はON状態であるものとする。即ち、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定変更モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定変更モード期間中もON状態が維持されるものとする。また、接続確認信号は、図10-12及び図10-13に示した例とは異なり、設定確認モードに制御される前のタイミングでON状態となり、設定確認モード期間中もON状態が維持されるものとする。

【0812】

図10-31は、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。そして、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がON状態となった後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行する。

【0813】

図10-31の例では、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間も接続確認信号はON状態である。ここで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間も、接続確認コマンドの送信を継続する。接続確認コマンドは、前述したように、シリアル通信回路21TM505を介して、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との間の通信状態を確認するためのコマンドである。

【0814】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続確認信号がON状態であること、及び、接続確認コマンドを受信していることに基づいて、PRDY信号をON状態とする。また、PRDY信号が既にON状態となっている場合には、PRDY信号をON状態のまま維持する。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態（即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態）であり、接続確認信号がON状態（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100と電氣的に接続されている状態）であり、且つ、接続確認コマンドを受信している状態であるときは、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードに制御されているか否かにかかわらず、PRDY信号をON状態とする。

【0815】

カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間に、球貸スイッチ21TM062が操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット21TM050は、PRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。すなわち、BRDY信号をON状態にする。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット21TM050は、BRDY信号がON状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。すなわち、BRQ信号をON状態にする。

【0816】

そして、払出制御基板21TM037は、PRDY信号、BRDY信号、及び、BRQ信号が何れもON状態であり、且つ、接続確認コマンドを受信している状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態にし、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がり（OFF）を検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個（例えば25個）の遊技媒体を遊技者に払い出す。

【0817】

このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間でも、遊技制御用マイクロコンピュータ100が接続確認コマンドを継続して送信することにより、接続確認コマンドを継続して受信している払出制御用マイクロコンピュータ21TM370側で、PRDY信号、及び、EXS信号をON状態とするようになっている。このようにして、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間でも、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370による遊技媒体の払出制御を実行させるようにすることができ、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間に払出制御を実行させないようするための制御負担を軽減することができる。また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、カードユニット21TM050とパチンコ遊技機1との間の通信機能についての点検等も併せて行うことができ、作業性を向上させることができる。

10

【0818】

CPU103は、設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了しても、接続確認コマンドを継続して送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100からの接続確認コマンドの受信を継続していることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号のON状態を維持する。

【0819】

なお、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、所定個の遊技媒体の払出が終了し、払出モータ21TM289の駆動が停止すると、払出制御基板21TM037は、EXS信号の出力を停止する。即ち、EXS信号をOFF状態にする。そして、カードユニット21TM050は、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、BRDY信号の出力を停止する。即ち、BRDY信号をOFF状態にする。このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、EXS信号がON状態からOFF状態になり、これに伴いBRDY信号がON状態からOFF状態になる場合がある。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、所定個の遊技媒体の払出が終了し、払出モータ21TM289の駆動が停止すると、払出制御基板21TM037は、EXS信号の出力を停止する。即ち、EXS信号をOFF状態にする。そして、カードユニット21TM050は、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、BRDY信号の出力を停止する。このように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、EXS信号がON状態からOFF状態になり、これに伴いBRDY信号がON状態からOFF状態になる場合がある。

20

30

【0820】

（設定変更モード終了後に球貸を再開する方法）

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したことにより払出が中断され、その後の電源投入時に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合の処理に関して、図10-32を用いて具体的に説明する。図10-32に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したことに基づいて、遊技媒体の払出を中断し、電源投入後に設定変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に中断されていた払出を再開する。

40

【0821】

図10-32は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

【0822】

50

払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板 1 1 からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 からの P R D Y 信号の出力が停止される。即ち、P R D Y 信号は O F F 状態となる。そして、P R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 からの B R D Y 信号、及び、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 からの E X S 信号の出力が停止される。即ち、B R D Y 信号、及び、E X S 信号は O F F 状態となる。そして、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止し、遊技媒体の払出を中断する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 における R A M 内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータが格納される。

10

【 0 8 2 3 】

この未払出個数は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号に基づいて更新される。具体的には、未払出個数は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から指定された払出個数であり、例えば 2 5 個）から、払出個数カウントスイッチ 2 1 T M 3 0 1 によりカウントされた個数（即ち、実際に払出モータ 2 1 T M 2 8 9 により払い出された遊技媒体数）を減算することにより算出される。

【 0 8 2 4 】

その後、主基板 1 1 では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が起動し、C P U 1 0 3 によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。C P U 1 0 3 が、図 1 0 - 1 3 に示すシリアル通信回路設定処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 8 0）を実行するまでは、主基板 1 1 から払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に出力される接続確認信号が O F F 状態であるので、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板 1 1 からの接続確認信号は O F F 状態である。

20

【 0 8 2 5 】

C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板 1 1 からの接続確認信号が O F F 状態であるため、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、P R D Y 信号を O N 状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、V L 信号が O N 状態であっても、即ち、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 と電氣的に接続されている状態であっても、P R D Y 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持する。

30

【 0 8 2 6 】

その結果、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、P R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、球貸スイッチ 2 1 T M 0 6 2 が操作されても払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R D Y 信号を出力しない。すなわち、B R D Y 信号は O F F 状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 は、B R D Y 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に B R Q 信号を出力しない。すなわち、B R Q 信号は O F F 状態のままである。

40

【 0 8 2 7 】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、B R D Y 信号及び B R Q 信号が何れも O F F 状態であることに基づいて、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 に対する E X S 信号を O N 状態とせず、O F F 状態に維持する。そして、E X S 信号が O F F 状態であることに基づいて、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号が O F F 状態であるときには、P R D Y 信号、B R D Y 信号、B R Q 信号、及び E X S 信号が何れも O F F 状態であり、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 は駆動しないので、C P U 1 0 3 が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、遊技媒体の払出が実行されない。

50

【0828】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図10-13に示す、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。

【0829】

そして、電力供給が再開され、電源投入時に制御された設定変更モード又は設定確認モードが終了したこと（接続確認信号がON状態となり、PRDY信号がON状態となったこと）に基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAMに保存されている未払出個数格納バッファの内容に基づいて、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数のデータが0になるまで1個ずつ払出動作を行う。これにより、電源断、及び、その後の設定変更モード又は設定確認モードへの移行により中断されていた遊技媒体の払出が完了する。このように、球貸の実行中に電源断が発生して遊技媒体の払出が中断されたときには、その後の電源復旧時に設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合であっても、当該設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた遊技媒体の払出を再開して、球貸を完了させることが可能である。

【0830】

ここで、図10-32に示す例では、払出処理中に電源断が発生したことにより払出処理が中断され、電源復旧時に設定変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた払出処理が再開される例を示したが、この電源断は、遊技場の店員が、設定値を変更又は確認するために電源スイッチ21TM055をOFF状態としたことにより発生した電源断であっても良く、遊技場の営業終了に伴い電源スイッチ21TM055をOFF状態としたことにより発生した電源断であっても良い。また、電源断が発生した場合に限らず、払出処理中に、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により、遊技機用枠3の開放状態が検出されたこと、又は、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことに応じて、実行中の払出処理が中断され、その後に設定変更モード又は設定確認モードに制御され、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、中断されていた払出処理が再開されるようにしても良い。

【0831】

（電源断に伴う球貸の強制終了方法）

次に、球貸が実行されている途中で電源断が発生したときに払出が強制終了（中止）され、電源復旧後に払出が再開されない場合の処理に関して、図10-33を用いて具体的に説明する。図10-33に示す例では、遊技媒体の払出を実行中に電源断が発生したときに、実行中の払出を停止し、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、払出を再開せず、また、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にも払出を再開しない。

【0832】

図10-33は、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）が遊技媒体の払出を実行しているときの、主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）、払出制御基板21TM037（払出制御用マイクロコンピュータ21TM370）、及びカードユニット21TM050の間で行われる通信処理を説明するためのタイミング図である。払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間は、主基板11からの接続確認信号はON状態であり、払出制御基板21TM037からのPRDY信号、及び、EXS信号、並びに、カードユニット21TM050からのBRDY信号はON状態であるものとする。

【0833】

払出制御基板21TM037が遊技媒体の払出を実行している期間において、電源断が発生すると、主基板11からの接続確認信号の出力が停止され、払出制御基板21TM037からのPRDY信号の出力が停止される。即ち、PRDY信号はOFF状態となる。

そして、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050からのBRDY信号、及び、払出制御基板21TM037からのEXS信号の出力が停止される。即ち、BRDY信号、及び、EXS信号は何れもOFF状態となる。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、EXS信号がOFF状態となったことに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止し、遊技媒体の払出を強制終了（中止）する。このとき、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370におけるRAM内のバックアップ領域に形成されている未払出個数格納バッファに、未払出個数のデータを格納しない（あるいは、未払出個数格納バッファ自体が設けられていない）ため、以下に示すように、電源復旧後に、未払出個数相当の遊技媒体の払出は実行されない。

【0834】

その後、主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。CPU103が、図10-13に示すシリアル通信回路設定処理（ステップS21TM1480）を実行するまでは、主基板11から払出制御基板21TM037に出力される接続確認信号がOFF状態であるので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。

【0835】

その後、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、主基板11からの接続確認信号はOFF状態である。そのため、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、PRDY信号をON状態としない。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号がON状態であっても、即ち、カードユニット21TM050と電氣的に接続されている状態であっても、PRDY信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。

【0836】

その結果、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、カードユニット21TM050は、PRDY信号がOFF状態であることに基づいて、球貸スイッチ21TM062が操作されても払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力しない。すなわち、BRDY信号はOFF状態のままである。この時点から所定の遅延時間が経過しても、カードユニット21TM050は、BRDY信号がOFF状態であることに基づいて、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力しない。すなわち、BRQ信号はOFF状態のままである。

【0837】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、BRDY信号及びBRQ信号が何れもOFF状態であることに基づいて、カードユニット21TM050に対するEXS信号をON状態とせず、OFF状態に維持する。そして、EXS信号がOFF状態であることに基づいて、払出モータ21TM289の駆動を停止させた状態を維持する。すなわち、接続確認信号がOFF状態であるときには、PRDY信号、BRDY信号、BRQ信号、及びEXS信号が何れもOFF状態であり、払出モータ21TM289は駆動しないので、CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している間は、遊技媒体の払出が実行されない。

【0838】

CPU103が設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了し、図10-13に示す、ステップS21TM1480のシリアル通信回路設定処理を実行すると、主基板11からの接続確認信号がON状態となることに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出動作が可能なときにはPRDY信号をON状態にする。なお、未払出個数のデータをバックアップしていないため、電源断発生前（電源復旧に伴い設定変更モード又は設定確認モードに制御される前）に実行されていた球貸処理において払い出すべき所定の遊技媒体数（即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100から指定された払出個数であり、例えば25個）のうち、払出の中止（強制終了）により払い出されな

10

20

30

40

50

った未払出個数分に関しては、払出が行われない。このように、球貸の実行中に電源断が発生すると、払出を強制終了（中止）し、その後、電源復旧時、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間、設定変更モード又は設定確認モードの終了後、に未払出個数分の払出を実行しないことにより、未払出個数のデータをバックアップして払出を再開する制御が不要となり、球貸処理を簡略化することができる。

【0839】

なお、図10-33に示す例では、払出中に電源断が発生したときに、未払出個数のデータをバックアップしないことにより、実行中の払出を途中で強制終了（中止）させているが、このような形態に限らず、図10-32に示した例のように、電源断が発生したときに、未払出個数のデータをバックアップしておき、電源復旧後に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されないことを条件として、バックアップされていた未払出個数のデータに基づいて未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行する（バックアップデータに基づいて払出を再開する）一方、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときには、未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行せず（バックアップデータに基づく払出を再開せず）、設定変更モード又は設定確認モードの終了後も未払出個数相当の遊技媒体の払出を実行しない、ようにしても良い。

【0840】

なお、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-33に示した設定変更モードへの移行に伴う球貸の強制終了方法を適用可能である。また、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に接続確認信号が入力されているか否か（ON状態であるか又はOFF状態であるか）にかかわらず、PRDY信号を出力する（ON状態とする）ことが可能な構成を採用した場合であっても、図10-33に示した設定変更モードへの移行に伴う球貸の強制終了方法を適用可能である。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から接続確認信号を受信していないことに基づいて、PRDY信号をON状態にしない。これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、払出（球貸）が実行されないようにすることが可能となる。

【0841】

（賞球払出制御）

図10-34は、通常動作時における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。図10-34に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを再び送信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100および払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、接続状態が正常である限り、上記のような接続確認の通信処理を繰り返し実行する。

【0842】

接続確認の通信処理を実行していないとき（受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信してから賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行い、賞球の払い出し（賞球払出動作）が終了すると、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送

信する。遊技制御用マイクロコンピュータ100は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを受信すると、受信した時点から1s（1秒）経過後に賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信する。

【0843】

尚、図示していないが、接続確認の通信処理の実行中（賞球要求信号としての接続確認コマンドを送信してから受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信するまでの間）に入賞があった場合は、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球個数を示すデータを賞球要求信号に設定し、当該設定した賞球要求信号としての賞球個数コマンドを、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370からの受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信した後に払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信すると、賞球個数コマンドで指定された個数の賞球の払い出しを行い、賞球の払い出し（賞球払出動作）が終了すると、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。なお、賞球の払い出し（賞球払出動作）の実行中は、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドが遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信される。

【0844】

（設定変更モード又は設定確認モード中の入賞無効）

図10-35は、設定変更モード又は設定確認モード中における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。主基板11では、所定の電源基板からの電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理となる所定の処理が実行される。

【0845】

前述したように、CPU103が、図10-13に示す割込許可（ステップS21TM1540）を実行するまでは、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、第1一般入賞口スイッチ～第4一般入賞口スイッチ、及び、カウントスイッチ23の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理（図10-14に示すステップS21TM1620）が実行されず、大当たり判定処理等を含む特別図柄プロセス処理（図10-14に示すステップS21TM1690）等も実行されない。そのため、CPU103が、設定変更モード又は設定確認モードの処理を実行している期間は、各スイッチから出力される検出信号を検知せず、大当たり判定処理等も実行しない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技媒体が各入賞口を通過しても入賞が無効とされる。さらに、スイッチ処理が実行されないことにより、排出口スイッチ21TM070による遊技球の検出も実行されず、ベースの集計も実行されないことになる。即ち、割込許可が実行されるまでは、連比、役比、及びベース等の各項目の集計が不要となるため、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、これら各項目の集計期間外となり、CPU103の処理負担を軽減することができる。

【0846】

設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、スイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行しないことで各入賞口を遊技媒体が通過したことに基づく入賞を無効とする。即ち、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に賞球個数コマンドを送信せず、大当たり判定処理等を実行しない。そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からの賞球個数コマンドを受信していないことに基づいて、払出モータ21TM289を駆動させない。即ち、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、遊技媒体が各入賞口を通過しても、賞球の払出制御は実行されない。

【0847】

CPU103が、設定変更モード又は設定確認モードの処理を終了すると、第1始動口

スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B、第 1 一般入賞口スイッチ～第 4 一般入賞口スイッチ、及び、カウントスイッチ 2 3 の各スイッチの状態（検出信号の有無）を確認するスイッチ処理を実行可能となり、遊技媒体が各入賞口を通過したことを検知可能となり、賞球個数コマンド（及び接続確認コマンド）の送信が可能となる。また、大当たり判定処理を含む特別図柄プロセス処理を実行可能となる。

【0848】

遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信し、賞球要求信号としての接続確認コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、受信 A C K 信号としての接続 O K コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。このとき、遊技媒体が何れかの入賞口を通過すると（入賞が発生すると）、C P U 1 0 3 は、スイッチ処理を実行することにより入賞を検知し、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信し、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを受信した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 を駆動させ所定個（例えば 3 個）の遊技媒体を払い出す。そして、所定個の遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、受信 A C K 信号としての賞球終了コマンドを送信する。

10

【0849】

仮に、設定値が変更される可能性がある設定変更モード期間内に、スイッチ処理が実行されることにより大当たり判定用乱数が抽出され、その大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうと、変更前の設定値では大当たりとなるが変更後の設定値（確定後の設定値）では大当たりとはならない大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうケースや、逆に変更前の設定値では大当たりとはならないが変更後の設定値（確定後の設定値）では大当たりとなる大当たり判定用乱数に基づいて大当たり判定が実行されてしまうケース等が発生しうる。即ち、これらのケースでは、大当たり判定の実行タイミングと設定値との関係が複雑化し、遊技者又は遊技場が不利益を被る可能性がある。

20

【0850】

この実施形態では、設定変更モードに制御されているときには、各入賞口を遊技球が通過したことに基づく賞球の払出を実行せず、大当たり判定処理も実行しないようにすることで、大当たり判定の実行タイミングと設定値との関係が複雑化することを防止すると共に、遊技者又は遊技場の不利益を防止するようにしている。

30

【0851】

また、この実施形態では、設定値を変更可能な設定変更モードのみならず、設定値が表示されるものの変更はできない設定確認モードにおいても、同様に入賞を無効とし、大当たり判定処理を実行しないようにしている。仮に、設定確認モードに関して、設定変更モードとは異なり、電源投入時ではなく遊技制御用タイマ割込処理を実行しているときに制御可能であり、設定確認モードに制御されている期間もスイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行可能とすると、設定変更モードとは全く異なる制御が必要となり、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の制御負担が増加してしまうという問題が生じる。

40

【0852】

そこで、この実施形態では、設定確認モードにおいても、設定変更モードと同様に電源投入時にのみ制御可能とし、各入賞口を遊技球が通過したことに基づく賞球の払出を実行せず、大当たり判定処理も実行しないようにすることで、処理を共通化して、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 の制御負担を軽減している。

【0853】

この実施形態では、図 1 0 - 1 2 及び図 1 0 - 1 3 に示すように、設定変更モード又は設定確認モードの処理が終了した後に、タイマ割込の設定が行われるようになっていく（ステップ S 2 1 T M 1 5 0 0）。従って、遊技制御用タイマ割込処理自体が実行されないことにより、遊技制御用タイマ割込処理内のスイッチ処理及び特別図柄プロセス処理が実

50

行されず、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間における入賞が無効化されている。これに対して、磁気エラー、電波エラー、振動エラー等によって遊技が停止される場合は、遊技制御用タイマ割込処理が実行されている期間、即ち遊技中において、遊技停止エラーが発生しているか否かが判定されて（ステップS 2 1 T M 1 6 1 5）、遊技停止エラーが発生していると判定されると（ステップS 2 1 T M 1 6 1 5）、同一の割込処理における以降のスイッチ処理（ステップS 2 1 T M 1 6 2 0）及び特別図柄プロセス処理（ステップS 2 1 T M 1 6 9 0）が実行されないことにより、入賞が無効化されている。このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御された場合と、遊技停止エラーが発生した場合とでは、入賞を無効化する（遊技を停止させる）方式が異なる。

【0854】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370への賞球要求信号としての接続確認コマンドの送信を停止することにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての接続OKコマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信しない。従って、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間において、接続OKコマンドを受信していないことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に賞球要求信号としての賞球個数コマンドを送信しないことで、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に遊技媒体の払出制御を実行させないようにすることが可能である。このように、遊技制御用マイクロコンピュータ100が、賞球要求信号としての接続確認コマンド及び賞球個数コマンドの出力を行わないことに基づいて、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に払出制御を実行させず、入賞を無効とすることが可能となる。

【0855】

尚、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード又は設定確認モードに制御可能な構成としても良い。このような構成を採用した場合であっても、図10-35に示した方法を適用可能であり、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、スイッチ処理及び特別図柄プロセス処理を実行しないようにすると良い。

【0856】

また、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100がスイッチ処理を実行可能な構成（遊技媒体が各入賞口を通過したことの検出自体は可能な構成）としても良い。このような構成を採用した場合には、上述したように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに、賞球個数コマンド及び接続確認コマンドの送信を停止することにより、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に払出制御を実行させず入賞を無効とすると共に、特別図柄プロセス処理は実行しないようにする。そして、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときに、当該スイッチ処理を実行可能な状態で賞球個数コマンド及び接続確認コマンドの送信を再開すると共に、特別図柄プロセス処理を実行する。

【0857】

（遊技機枠・扉枠開放検知中の払出制限方法）

図10-36は、遊技機枠・扉枠開放検知中における遊技制御用マイクロコンピュータ100と払出制御用マイクロコンピュータ21TM370との信号の送受信を示すタイミング図である。前述のように、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての接続確認コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信すると、通常動作時は、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370から送信される受信ACK信号としての接続OKコマンドを受信する。このとき、遊技場の店員等が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aを開放すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3a

10

20

30

40

50

の開放状態を検知する。

【0858】

遊技機用枠3が開放されている状態（及び、ガラス扉枠3aと上皿が一体化されている構成であれば、ガラス扉枠3aが開放されている状態）では、払い出されるべき賞球が流下する経路と、流下してきた賞球が貯留される上皿とが物理的に接続されていないため、仮に、この状態で賞球が払い出されてしまうと、遊技媒体が上皿に到達せずに落下してしまう。ここで、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放されている状態で、第1始動入賞口、第2始動入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口、及び、大入賞口の何れかの入賞口で遊技媒体の通過を検出したときに、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、賞球要求信号としての賞球個数コマンドを払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に送信するが、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知している払出制御用マイクロコンピュータ21TM370では、遊技媒体の払出制御を実行せず、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。この賞球準備中コマンドは、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知しなくなるまで、即ち、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが閉鎖状態となるまで、遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信し続けられる。

10

【0859】

このように、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態である期間は、遊技媒体が各入賞口を通過して入賞を検知しても、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させずに賞球の払出制御を実行しない。そして、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。

20

【0860】

払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態の検知を終了すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させ、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検知されている期間内の入賞に応じた所定数（賞球個数コマンドにより指定された数）の賞球の払出制御を実行する。そして、所定数の遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを送信する。

30

【0861】

なお、賞球の払出を実行中に遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態を検知した場合には、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、当該賞球の払出を中断して、賞球個数コマンドにより指定された個数のうち未払出個数のデータを、RAM内のバックアップ領域に記憶しておく。そして、受信ACK信号としての賞球準備中コマンドを遊技制御用マイクロコンピュータ100に送信する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が備える遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300が、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態の検知を終了すると、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、払出モータ21TM289を駆動させ、未払出個数相当の遊技媒体の払出制御を実行する。そして、遊技媒体を払い出した払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、受信ACK信号としての賞球終了コマンドを送信する。

40

【0862】

尚、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作により設定変更モード、設定確認モードに制御可能な構成を採用した場合であっても、図10-36に示した遊技機枠・扉枠開放検知中の払出制限方法を適用可能である。この実施形態では、錠スイッチ21TM051及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052は、パチンコ遊技機1の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠3を開放しない限り操作不可能とされている。そのため、当該パチンコ遊技機1を設定変更モード又は設定確認モードに制御させるには、遊技機用枠3を開放しなければならず、設定

50

変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、遊技機用枠 3 が開放されていることが通常である。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が、遊技機用枠 3 が開放状態であることを検知している期間は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の駆動を制限して、賞球の払出が実行されないようにすることで、結果として、設定変更モードに制御されている期間、設定確認モードに制御されている期間における賞球の払出が制限されることになる。

【0863】

次に、設定変更モード中に電源断が発生した場合の制御について、図 1 0 - 3 7 (1) 及び (2) に基づき説明する。

【0864】

図 1 0 - 3 7 (1) 及び (2) は、電源断に係るパターンを、電源断発生時の状況の違いに基づき、それぞれ別な図表に分けて示している。図 1 0 - 3 7 (1) に示す電源断に係るパターンは、「設定値変更中」に「設定値確定」が行われない状況で電源断が発生した場合の制御を示しており、電源断復帰時の設定値は前回の電源投入時の設定値となる。また、図 1 0 - 3 7 (2) に示す電源断に係るパターンは、「設定値変更中」に「設定値確定」が行われた状況で電源断が発生した場合の制御を示しており、電源断復帰時の設定値は電源断発生時の設定値となる。

【0865】

すなわち、図 1 0 - 3 7 (1) は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に操作される「設定値確定」の操作がない状態（錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態のまま）で電源断が発生した場合の設定値に関する制御を示しており、図 1 0 - 3 7 (2) は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態に操作される「設定値確定」の操作があった後に電源断が発生した場合の設定値に関する制御を示している。

【0866】

また、図 1 0 - 3 7 (1) 及び (2) は、設定変更の作業における各種の状況を、発生の順番に沿って上段から下段に示している（「順番」欄及び「状況」欄を参照）。また、図 1 0 - 3 7 (1) 及び (2) 中においては、「錠スイッチ」の欄に、各状況（順番 1 ～ 8）における錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の O N / O F F の状態が示されており、「設定値」の欄には、それぞれの状況における設定値のデータ（R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値）が示されている。また、図中の「設定値表示」の欄には、それぞれの状況における表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 （第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A）の表示内容（設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値）が示されている。

【0867】

設定変更の作業が行われる際には、図 1 0 - 3 7 (1) における「状況」の欄の最上段に示すように、パチンコ遊技機 1 の電源投入（順番 1）があり、図中右側の「錠スイッチ」の欄に示すように、このときの錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 の状態は O N 状態となっている。また、図 1 0 - 3 7 (1) 中において、順番 1 の「電源投入」のときの「設定値」は、このとき R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値が「1」であるため、「1」となっている。

【0868】

また、「設定値表示」の欄に示す表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 （第 1 表示部 2 1 T M 0 2 9 A）の表示内容が空白（ブランク）となっているのは、この段階では、電源投入がされたばかりであり、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出して表示する処理（ステップ S 2 1 T M 1 1 5 0）が行われる前であるため、設定値の表示が開始されていないことを表している。

【0869】

「電源投入」の状況の後には、「設定変更モード開始」の状況（順番 2）となる。そして、この「設定変更モード開始」においては、図 1 0 - 3 7 (1) 中に示すように、「錠スイッチ」の欄は、「O N」となっており、「設定値」の欄は、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値から変更していないことに基づいて、「1」となっており

10

20

30

40

50

、「設定値表示」の欄は、前述したように、RAM102の設定値格納領域から読み出して設定情報一時記憶領域に記憶している設定値を表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示していることに基づいて、「1」となっている。

【0870】

続いて、「設定値変更中」の状況（順番3）となった際には、「錠スイッチ」の欄は「ON」のままであり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作があると、図10-37（1）に示すように、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されないため「設定値」の欄は「1」のままであるが、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値は「1」から「2」に変更されることにより、「設定値表示」の欄（表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示する設定値）については、選択された新たな値である「2」に変化する。

10

【0871】

さらに、「設定値変更中」の状況（順番4）となった際には、「錠スイッチ」の欄は「ON」のままであり、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作があると、図10-37（1）に示すように、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は変更されないため「設定値」の欄は「1」のままであるが、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値は「2」から「3」に変更されることにより、「設定値表示」の欄（表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示する設定値）については、選択された新たな値である「3」に変化する。

20

【0872】

そして、図10-37（1）に示すように、「設定値変更中」に電源断が発生すると（順番5）、設定値を確定させる操作が行われておらず、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を上書きする処理（設定値を確定させるステップS21TM1190の処理）が実行されていないので、「設定値」の欄は「1」のままである。つまり、電源断発生時は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は電源投入時の「1」の状態を維持している。ここで、電源断が発生したことにより、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は消去される。

【0873】

さらに、図10-37（1）に示すように、錠スイッチ21TM051がON状態のままで、かつクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態で、電源投入が行われると（順番6）、その後の「設定変更モード開始」の状況（順番7）においては、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（本例では「1」）が読み出されて設定情報一時記憶領域に記憶され、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されるため、「設定値」の欄は「1」のままであり、「設定値表示」の欄も「1」となる。なお、順番7において、設定変更モードではなく設定確認モードに制御された場合も同様である。

30

【0874】

このように、電源投入に伴い設定変更モードに移行し、設定変更操作が完了することなく（錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられることなく）、電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が変更されていないため、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示される設定値は、前回の電源投入時（電源断発生前）にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値となる。このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合の設定値を適切に定めることができる。

40

【0875】

次に、設定値の確定後に電源断が発生した場合の制御について、図10-37（2）を用いて説明する。設定値の確定前に電源断が発生した場合と共通する処理部分については説明を省略する。設定値の確定後に電源断が発生する場合において、順番4で示す「設定値変更中」の後に、順番5に示す「設定値確定」が行われるものとする。ここで、設定値

50

を確定させるための操作が行われる直前は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は「1」であり、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されている設定値）は「3」の状態である。そして、設定変更モード中において、錠スイッチ21TM051をOFF状態にすることに基づいて「錠スイッチ」欄は「OFF」となっている。

【0876】

即ち、設定変更モード中において、錠スイッチ21TM051をOFF状態にする（ステップS21TM1180でYES）と、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値である「1」が、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されている設定値）である「3」により上書きされ、これにより設定値が確定する（ステップS21TM1190）。結果として、RAM102の設定値格納領域には設定値として「3」が格納される。

10

【0877】

そして、この状態で電源断が発生すると（順番6）、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を上書きする処理（設定値を確定させるステップS21TM1190の処理）が実行されたことにより、「設定値」の欄は「3」となっている。つまり、電源断発生時は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は電源投入時とは異なる「3」に変更されている。ここで、電源断が発生したことにより、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は消去される。

【0878】

20

さらに、図10-37（2）に示すように、錠スイッチ21TM051がOFF状態からON状態に切りかえられて、電源投入が行われると（順番7）、その後の「設定変更モード開始」の状況（順番8）においては、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値（本例では「3」）が読み出されて設定情報一時記憶領域に記憶され、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されるため、「設定値」の欄は「3」となり、「設定値表示」の欄も「3」となる。なお、順番8において、設定変更モードではなく設定確認モードに制御された場合も同様である。

【0879】

なお、前述したように、設定変更モードに制御されているときに、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることがなく電源断が発生した場合には、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされていないことにより、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値は、電源投入時から変更されておらず、設定情報一時記憶領域に記憶されていた設定値は削除される。従って、遊技場の店員等は、仮に、電源投入時に誤って遊技機を設定変更モードに移行させてしまい、さらに設定変更操作（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の操作）を行った場合であっても、その後に電源スイッチ21TM055をOFFにすることで、設定値の変更を中止させて、設定変更モードに移行させる前の状態に戻すことができる。

30

【0880】

設定変更モードへの移行、設定確認モードへの移行は、電源断（電源スイッチ21TM055をOFFとすることを含む）、及び、その後の電源投入を伴うものであるため、遊技機の状態として不安定になる可能性があり、このような不安定な状態における設定値の取り扱いが問題となるが、図10-37（1）に示したように、錠スイッチ21TM051がOFF状態とされることがなく電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が、電源投入時から変更されないことにより、設定値を適切に定めることができると共に、設定値に関する制御の不安定化を回避でき、設定値に関する適切な制御を実行させることができる。

40

【0881】

図10-38は、遊技中（遊技制御用タイマ割込処理が実行可能な状態）に、錠スイッチ21TM051又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたときに、パチンコ遊技機1の演出装置（画像表示装置5、スピーカ8L、8R、及び、遊

50

技効果ランプ9)により、設定値を変更させるための操作が行われたことの報知が実行される例を示している。

【0882】

図10-38(1)は、遊技中に画像表示装置5において飾り図柄が変動表示されている状態を示している。このとき遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、遊技制御用タイマ割込処理を実行している。主基板11(CPU103)は、遊技中(例えば、特別図柄の可変表示を実行中)に、錠スイッチ21TM051が操作されたこと(OFF状態からON状態に切り替えられたこと)を検知すると(遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1660)、錠スイッチ21TM051が操作されたことを示す錠スイッチ操作コマンドを、演出制御基板12(演出制御用CPU120)に送信し(遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1710)、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されたことを検知すると(遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1660)、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052が操作されたことを示す設定切替スイッチ操作コマンドを、演出制御基板12(演出制御用CPU120)に送信する(遊技制御用タイマ割込処理のステップS21TM1710)。即ち、設定値を変更するための操作が行われたことを報知するために、錠スイッチ操作コマンド、及び/又は、設定切替スイッチ操作コマンドを送信する。

10

【0883】

図10-38(2)に示すように、演出制御基板12(演出制御用CPU120)は、錠スイッチ操作コマンド、及び/又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置5において「錠スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。

20

【0884】

本例では、演出制御用CPU120は、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドの両方を受信したことに基づいて、異常操作警告報知として「錠スイッチ、設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を画像表示装置5に表示させている。異常操作警告報知は、表示優先度が背景画像及び飾り図柄よりも高い(表示されるレイヤが背景画像及び飾り図柄よりも上位である)ので、図10-38(2)に示すように、飾り図柄の可変表示中であっても、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。尚、スピーカ8L, 8Rから設定値変更のための操作が検出されたことを報知する音声(例えば「錠スイッチ、設定切替スイッチの操作を検出しました」という音声)を出力し、遊技効果ランプ9を所定の発光態様(例えば赤色の点滅態様)で発光させることにより、設定値変更のための操作が検出されたことを報知してもよい。

30

【0885】

この実施形態では、電源投入時(遊技制御用タイマ割込み処理が実行される前)においてのみ、設定変更モード又は設定確認モードに制御可能な構成としており、通常であれば、設定値を変更又は確認するための操作(錠スイッチ21TM051、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作)は、遊技制御用タイマ割込み処理を実行可能な期間内には行われなくなっている。従って、特別図柄及び飾り図柄の可変表示が実行されている期間内、あるいは、普通図柄の可変表示が実行されている期間内に、錠スイッチ21TM051、クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052の操作が行われた場合には、設定値が不正に変更されようとしているおそれがある。

40

【0886】

この実施形態では、電源投入時、又は、設定変更モード若しくは設定確認モードに制御

50

されている期間、以外のタイミングで、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作された場合には、パチンコ遊技機 1 が備える最大の表示装置である画像表示装置 5 において、設定値を変更するための操作、設定値を確認するための操作、が行われたことを報知して、不正を抑止するようにしている。

【0887】

また、前述したように、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作される場合には、通常、遊技機用枠 3 が開放状態となるため、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により、遊技機用枠 3 の開放状態が検知されて、その旨が報知されるようになってい

10

また、前述したように、球貸が中断又は中止され、賞球払出も中断又は中止される。しかしながら、遊技島の所定位置に設置されているパチンコ遊技機 1 に関しては、その遊技島において、所定位置に対向する位置に設置されているパチンコ遊技機 1 の遊技機用枠 3 が開放状態となることにより、所定位置に対向する位置から、所定位置に設置されているパチンコ遊技機 1 の遊技盤 2 の裏側面を見ることが可能であり、その裏面側の錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 を操作することが可能となる。即ち、所定位置のパチンコ遊技機 1 の遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 が、遊技機用枠 3 の開放状態を検出していない状態でも、当該所定位置のパチンコ遊技機 1 の錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作が可能となる場合がある。

【0888】

そのためこの実施形態では、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により遊技機用枠 3 の開放状態が検知されているか否かにかかわらず、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 及び／又はクリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作された場合には、設定値を変更するための操作、設定値を確認するための操作、が行われたことを報知することで、不正の抑止を強化するようにしている。

【0889】

（設定変更対応信号）

次に、主基板 1 1 の情報出力端子から出力される各種信号について具体的に説明する。図 1 0 - 3 9 に示すように、この実施形態における情報出力回路 1 1 2 には、第 1 端子～第 1 0 端子までの 1 0 の情報出力端子が設けられており、各情報出力端子に対応した信号

30

【0890】

図 1 0 - 3 9 （ 1 ） に示すパターン 1 の例において、第 1 端子からは賞球信号が出力される。賞球信号は、1 0 個の賞球が払い出される毎に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0 . 1 秒となっている。第 2 端子からは遊技機枠・扉枠開放信号が出力される。遊技機枠・扉枠開放信号は、遊技機枠・扉枠開放センサ 2 1 T M 3 0 0 により遊技機用枠 3 の開放状態が検出されているときに ON 状態となり、ガラス扉枠 3 a の開放状態が検出されているときにも ON 状態となる。

【0891】

第 3 端子からは全図柄確定回数信号が出力される。全図柄確定回数信号は、第 1 特別図柄の可変表示が実行されて表示結果が導出表示されたとき（確定したとき）に出力され、第 2 特別図柄の可変表示が実行されて表示結果が導出表示されたとき（確定したとき）に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0 . 5 秒となっている。第 4 端子からは全始動口信号が出力される。全始動口信号は、第 1 始動入賞口への遊技球の入賞が発生したときに出力され、第 2 始動入賞口への遊技球の入賞が発生したときにも出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は 0 . 1 秒となっている。

【0892】

第 5 端子からは大当たり 1 信号が出力される。大当たり 1 信号は、大当たり遊技状態に制御されているときに ON 状態となる。第 6 端子からは大当たり 2 信号が出力される。大当たり 2 信号は、大当たり遊技状態に制御されているときに ON 状態となり、高ベース状態に制御され

40

50

ているときにもON状態となる。即ち、大当たり1信号がOFF状態であり、大当たり2信号がON状態である期間は、高ベース状態として特定可能である。

【0893】

第7端子からは設定変更対応信号が出力される。設定変更対応信号は、設定変更モードに制御されている期間にON状態となり、設定確認モードに制御されている期間にもON状態となる信号である。また、設定変更対応信号は、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、パルス状（特殊態様）で出力可能であり、そのときのパルス数により設定値を外部装置側で特定可能となっている。

【0894】

第8端子からはアウト信号が出力される。アウト信号は、10個のアウト球（遊技領域に発射されて排出口に導かれた遊技球）が排出口スイッチ21TM070により検出される毎に出力されるパルス状の信号であり、パルス幅は0.1秒となっている。第9端子からは入賞信号が出力される。入賞信号は、各入賞口（第1始動入賞口、第2始動入賞口、大入賞口、第1一般入賞口～第4一般入賞口）に遊技球が入賞する毎（各入賞口に対応したスイッチにより入賞が検出される毎）に出力され、また、10個の賞球が払い出される毎に出力されるパルス状の信号である。入賞信号のパルス幅は0.1秒となっている。

【0895】

第10端子からはセキュリティ信号が出力される。セキュリティ信号は、電源投入時に初期化处理（ステップS21TM1410のRAMクリア）が実行されたときに、30秒間ON状態となる信号である。また、不正行為が検出された場合に4分間ON状態となる。不正行為が検出される場合には、例えば、異常入賞が発生した場合が含まれ、各入賞口に異常な頻度（例えば、第1始動入賞口に30秒間あたり15回以上の頻度で遊技球が入賞した場合等）で遊技球が入賞していることに基づいて、異常入賞と判定される。また、スイッチ異常検出が発生した場合も含まれ、各入賞口に対応したスイッチが入賞検出状態となっている期間が異常である（例えば、遊技制御用タイマ割込み処理で10回以上連続して第1始動口スイッチがON状態となっている場合等）ことに基づいて、スイッチ異常検出と判定される。また、磁気センサにより異常磁気を検出されたときには、遊技停止対象エラーが発生したことに基づいて、電源がOFFになるまでON状態が継続し、電源再投入後に異常磁気を検出されなくなったとき（エラー解除後）には4分間ON状態となる。

【0896】

さらに、図10-39（1）に示すパターン1の例では、セキュリティ信号は、設定変更モードに制御されている期間にON状態となり、設定確認モードに制御されている期間にもON状態となる。

【0897】

このように、第10端子からセキュリティ信号を出力可能であり、第7端子からは設定変更対応信号を出力可能であることにより、不正行為が行われた可能性を外部に通知可能であると共に、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたこと（設定変更に関連した処理が実行されたこと）を外部に通知可能となっている。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、一旦は、第7端子から出力される設定変更対応信号がOFF状態となり、その後と同じ第7端子から、RAM102の設定値格納領域に格納されている現在の設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるため、設定値を外部に通知可能となっている。

【0898】

具体的には、図10-40（1）に示すように、電源投入時に設定変更モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、RAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【0899】

10

20

30

40

50

また、図10-40(2)に示すように、電源投入時に設定確認モードに移行した場合には、第7端子から設定変更対応信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、RAMクリアが実行されないことに基づいて、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号及びセキュリティ信号が同時にOFF状態となる。ここで、電源投入時に設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行された場合(ステップS21TM1320においてNO、又は、ステップS21TM1330においてNOの場合)には、図10-40(1)に示した例と同様に、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【0900】

なお、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなくRAMクリアが実行された場合には、電源投入時から30秒間はセキュリティ信号がON状態となるが、設定変更対応信号はON状態とはならない。

【0901】

このように、セキュリティ信号は、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間もON状態となる。従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であっても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを認識可能となっている。

【0902】

設定変更対応信号は、設定変更モード又は設定確認モードが終了したときにOFF状態となるが、セキュリティ信号に関しては、RAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更モード(又は設定確認モードにおいてパリティチェックの結果が正常でない場合)が終了した後も30秒間はON状態となる。一方、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された場合には、セキュリティ信号は電源投入時から30秒間、ON状態となる。従って、セキュリティ信号が入力される外部装置側では、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された可能性があることを認識可能である。一方、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒に達しなかった場合には、設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行されなかった可能性があることを認識可能である。つまり、セキュリティ信号の入力期間が30秒程度である場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されることなくRAMクリアが実行された可能性があることをホールコンピュータ等の管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒未満である場合には、一時的に設定確認モードに制御された可能性があることを管理装置において認識可能であり、セキュリティ信号の入力期間が30秒を超えている場合には、設定変更モードに制御された可能性があることを管理装置において認識可能である。したがって、遊技機のセキュリティ信号の出力期間によって、外部側で遊技機がどのような制御を実行したかを区別することができる。

【0903】

従って、外部装置が、設定変更対応信号の入力を想定しておらず、設定変更対応信号の入力に基づく処理が実行されないように構成されている場合であっても、少なくともセキュリティ信号の入力に基づいて、RAMクリアが実行された可能性と、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性とを、区別して認識可能となっている。

【0904】

なお、図10-40(3)に示すように、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成としても良い。この構成には、設定変更モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力する一方で、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成と、設定変更モードに制御されている期間はセキ

10

20

30

40

50

リティ信号を出力せず、設定確認モードに制御されている期間もセキュリティ信号を出力しない構成と、が含まれる。具体的には、電源投入時に設定確認モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力されるが、第10端子からはセキュリティ信号が出力されないものとする。そして、設定確認モードの終了に伴い設定変更対応信号がOFF状態になると、RAMクリアが実行されないことに基づいてセキュリティ信号のOFF状態を維持する。即ち、設定確認モードに移行された場合には、RAMクリアが実行されないことを条件としてセキュリティ信号が出力されない。

【0905】

このように、設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成において、図10-40(5)に示すように、電源投入時に設定確認モードに制御された後にRAMクリアが実行された場合(ステップS21TM1320においてNO、又は、ステップS21TM1330においてNOの場合)には、設定確認モードの終了(設定変更対応信号のOFF状態)から30秒間はセキュリティ信号がON状態となる。

【0906】

また、図10-40(4)に示すように、設定変更モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成としても良い。即ち、電源投入時に設定変更モードに移行した場合には、第7端子から設定対応変更信号が出力されるが、第10端子からはセキュリティ信号が出力されない。そして、設定変更モードの終了に伴いRAMクリアが実行されたことに基づいて、設定変更対応信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態となる。なお、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間はセキュリティ信号を出力しない構成において、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れにも移行することなくRAMクリアが実行された場合には、電源投入時から30秒間はセキュリティ信号がON状態となるが、設定変更対応信号はON状態とはならない。

【0907】

このように、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間は、設定変更対応信号をON状態とする一方でセキュリティ信号はOFF状態としておき、RAMクリアが実行されたときには、設定変更モード又は設定確認モードが終了してから(設定変更対応信号がOFF状態となってから)30秒間はセキュリティ信号をON状態とすることで、一方の信号がON状態のときには、他方の信号がOFF状態となる関係となる。このような関係により、信号出力制御が簡素化され(同時に両方の信号がON状態とはならないため出力制御が簡素化され)、外部装置において、設定変更モード又は設定確認モードへの制御期間を明確に認識可能であると共に、設定変更モード又は設定確認モードの終了を契機として初期化処理が実行されたことを明確に認識可能となる。

【0908】

また、図10-40(6)に示すように、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態が検知された場合には、第2端子から遊技機枠・扉枠開放信号が出力され、これと同時に、第10端子からはセキュリティ信号が出力される。そして、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの閉鎖に伴い遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300による遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの開放状態の検知が終了したことに基づいて、遊技機枠・扉枠開放信号がOFF状態となった後も、30秒間はセキュリティ信号がON状態とされる。

【0909】

ここで、図10-39(1)に示したパターン1の例では、第7端子から設定変更対応信号を出力し、第10端子からセキュリティ信号を出力するようにしているが、通常は出力端子の割り当てに制約があるため、設定変更対応信号専用の出力端子を割り当てることが困難な場合がある。図10-39(2)に示すパターン2の例では、セキュリティ信号が出力される第10端子から設定変更対応信号も出力される例を示している。

【0910】

パターン2において、第1端子～第6端子、第8端子、及び、第9端子に関しては、パ

10

20

30

40

50

ターン 1 における信号の割り当てと同様である。パターン 2 においては、パターン 1 と異なり、第 7 端子からは、高ベース信号が出力される。高ベース信号は、高ベース状態に制御されているときに ON 状態となる。第 10 端子からはセキュリティ信号が出力される。セキュリティ信号は、電源投入時に初期化処理（ステップ S 2 1 T M 1 4 1 0 の R A M クリア）が実行されたときに、30 秒間 ON 状態となる信号である。また、不正行為が検出された場合に 4 分間 ON 状態となる。不正行為が検出される場合には、例えば、異常入賞が発生した場合が含まれ、各入賞口に異常な頻度（例えば、第 1 始動入賞口に 30 秒間あたり 15 回以上の頻度で遊技球が入賞した場合等）で遊技球が入賞していることに基づいて、異常入賞と判定される。また、スイッチ異常検出が発生した場合も含まれ、各入賞口に対応したスイッチが入賞検出状態となっている期間が異常である（例えば、遊技制御用タイマ割込み処理で 10 回以上連続して第 1 始動口スイッチが ON 状態となっている場合等）ことに基づいて、スイッチ異常検出と判定される。また、磁気センサにより異常磁気を検出されたときには、遊技停止対象エラーが発生したことに基づいて、電源が OFF になるまで ON 状態が継続し、電源再投入後に異常磁気を検出されなくなったとき（エラー解除後）には 4 分間 ON 状態となる。

10

【0911】

さらに、図 10-39 (2) の例では、第 10 端子から、設定変更対応信号が出力される。設定変更対応信号は、設定変更モードに制御されている期間に ON 状態となり、設定確認モードに制御されている期間にも ON 状態となる信号である。また、設定変更対応信号は、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に、パルス状（特殊態様）で出力可能であり、そのときのパルス数により設定値を外部装置側で特定可能となっている。従って、第 10 端子からは、セキュリティ信号及び設定変更対応信号が出力されている。即ち、セキュリティ信号及び設定変更対応信号は、共通端子から出力されている。

20

【0912】

このように、第 10 端子からセキュリティ信号及び設定変更対応信号を出力可能であることにより、不正行為が行われた可能性を外部に通知可能であると共に、設定変更対応信号専用の出力端子を設けることなく、設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があること（設定変更に関連した処理が実行された可能性があること）を外部に通知可能となっている。また、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、一旦は、第 10 端子から出力される設定変更対応信号が OFF 状態となり（R A M クリアが実行された場合には設定変更モード又は設定確認モードの終了から 30 秒後に第 10 端子から出力される信号が OFF 状態となり）、その後と同じ第 10 端子から、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている現在の設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信号が出力されるため、設定値を外部に通知可能となっている。そして、遊技機島に設けられた中継装置を介して遊技機番号（台番号）とともに設定変更対応信号が管理装置へ送信されるため、管理装置において、台番号と設定変更対応信号に基づく設定値と事前に決定された設定値とを対応付けて表示することにより対比可能に表示するような処理が可能となる。この結果、複数の遊技機の実際の設定値を遊技店の管理者が管理装置を介して容易に管理することができ、管理者が事前に決定した設定値と設定変更作業において変更された設定値との不整合を管理者が把握することができる。そして、このような不整合が生じている場合には、当該遊技機について設定確認又は再度の設定変更作業を行うことによって、遊技店における複数の遊技機における設定に関する管理の適正化を図ることができる。

30

40

【0913】

前述したように、設定変更対応信号は、設定変更モードの終了、設定確認モードの終了に伴い一旦は OFF 状態となるが、その後、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した特殊態様で出力される。具体的には、図 10-41 に示すように、特殊態様の設定変更対応信号として、設定値に相当する数のパルスが出力される。本例では、設定値の数と同じパルスが出力される。パルスの幅は例えば 0.1 秒であり、例えば、設定値が 3 である場合には、0.1 秒の幅のパルスが所定間隔（例えば 0.5 秒間隔）

50

で3回出力される。これにより、ホールコンピュータ等の外部装置において、各遊技機の設定値を容易に特定可能となる。

【0914】

図10-42(1)に示すように、電源投入時に設定変更モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定変更モードにおいて、設定値の変更が行われることなく設定変更モードが終了したものとする。設定変更モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1であることに基づいて、特殊態様の設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。

10

【0915】

このように、設定変更対応信号により、設定変更モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、設定変更モード終了時における設定値(設定値が変更された場合には変更後の設定値)を外部に通知することが可能となり、設定変更モードに制御されているか否かを通知する信号と、設定値を通知する信号とを、共通の情報出力端子から出力させることが可能となる。

【0916】

さらに、この実施形態では、設定変更モード、設定確認モードが終了したときに限らず、予め定められた所定契機に、特殊態様の設定変更対応信号として、設定値に相当する数のパルスが出力される。具体的には、大当り遊技状態に制御されたこと、大当り遊技状態が終了したこと、高ベース状態が終了したこと、払い出された賞球数が1000増加したこと、といった遊技状態に関連した事象や、遊技機用枠3の開放を検知したこと、ガラス扉枠3aの開放を検知したこと、磁気異常を検知したこと等の遊技機エラーに関連した事象を契機として、その時点(所定事象が発生したとき)におけるRAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した特殊態様の設定変更対応信号を出力する。図10-42(1)に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。

20

【0917】

これにより、外部装置において、各遊技機の設定値を把握する機会を確保することが可能となり、例えば、設定変更モードの終了時に設定変更対応信号が適切に入力されなかったこと等により、外部装置側で設定値を特定できなかった場合でも、その後の所定契機に設定値を特定可能となり、設定値を不適切な方法により変更する不正の防止を強化することができる。

30

【0918】

また、図10-42(2)に示す例では、電源投入時に設定変更モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定変更モードにおいて、設定値の変更が行われた結果、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1から3に変更されたものとする。この場合には、設定変更モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となり、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が3となったことに基づいて、設定変更対応信号として3のパルスが出力されている。また、図10-42(2)に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号として3のパルスが出力されている。

40

【0919】

ここで、図10-41(1)に示すように、設定変更モードに制御されているときに設定値を変更する操作(設定切替スイッチ21TM052の操作)が行われず、設定値が変更されなかった場合と、図10-41(2)に示すように、設定変更モードに制御されているときに設定値を変更する操作(設定切替スイッチ21TM052の操作)が行われて、設定値が変更された場合とで、何れの場合にも設定変更モードの終了後には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値に対応した数のパルス状の設定変更対応信

50

号が出力されるようになっている。このように、設定変更モードに制御されたときには、実際に設定変更操作や設定値の変更が行われたか否かにかかわらず、設定変更モードの終了に伴い共通の信号出力処理を実行することで、信号出力処理を簡素化することができる。

【0920】

また、図10-42(3)に示す例では、電源投入時に設定確認モードに制御されたことに伴い、設定変更対応信号がON状態となる。ここでは、電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値が1であったものとする。そして、設定確認モードにおいては、設定値の変更が行われなため、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は1のまま変更されない。この場合には、設定確認モードの終了に伴い、設定変更対応信号が一旦はOFF状態となり、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が1であることに基づいて、設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。また、図10-42(3)に示す例では、大当りの発生を契機として、特殊態様の設定変更対応信号として1のパルスが出力されている。

10

【0921】

このように、設定変更対応信号により、設定確認モードに制御されているか否かを外部に通知することが可能であると共に、設定確認モードにおいて報知された設定値（電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値であり、表示モニタ21TM029に表示されていた設定値）を外部に通知することが可能となり、設定確認モードに制御されているか否かを通知する信号と、設定値を通知する信号とを、共通の情報出力端子から出力させることが可能となる。

20

【0922】

なお、前述した図10-39(2)に示した情報端子の割り当てパターン2では、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴いRAMクリアが実行された場合、第10端子から出力される信号が、設定変更モード又は設定確認モードの終了から30秒経過後にOFF状態となり、その後、同じ第10端子から、RAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値に対応した数のパルス状（特殊態様）の設定変更対応信号が出力されることになる。

【0923】

（遊技制御メイン処理の変形例）

30

次に、前述した図10-11～図10-13の遊技制御メイン処理に関する他の形態に関して、図10-43及び図10-44を用いて説明する。図10-11～図10-13では、設定変更モード又は設定確認モードが終了した後に初期化处理（RAMクリア）が実行される例を示したが、このような形態に限らず、図10-43及び図10-44に示すように、初期化处理（RAMクリア）が実行された後に、設定変更モード又は設定確認モードに移行するようにしても良い。

【0924】

図10-11に示した遊技制御メイン処理において、CPU103は、RAM102をアクセス可能状態に設定する（ステップS21TM1060）と、図10-43のステップS21TM2110に移行し、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップS21TM2110）。

40

【0925】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、ON状態を検出した場合には（ステップS21TM2110でYES）、CPU103は、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたことを示すRAMクリアフラグをセットして（ステップS21TM2210）、初期化处理を実行する（ステップS21TM2220）。初期化处理に伴う一連の処理（ステップS21TM2220～ステップS21TM2270に示す処理）に関しては、図10-13に示したステップS21TM1410～ステップS21TM1460に示した

50

処理と同様であり、説明を省略する。

【0926】

一方、ステップS21TM2110におけるクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052の出力信号（クリア信号）の状態確認において、OFF状態を検出した場合には（ステップS21TM2110でNO）、CPU103は、ステップS21TM2120以降の処理を実行する。ステップS21TM2120～ステップS2170に示す処理に関しては、図10-13に示したステップS21TM1320～ステップS21TM1370に示した処理と同様であり、説明を省略する。

【0927】

そして、CPU103は、ステップS21TM2170で電源断復旧時のバックアップコマンドを送信した後、又は、ステップS21TM2270で電源投入時の初期化コマンドを送信した後、錠スイッチ21TM051がONとなっているか否かを判定する（図10-44のステップS21TM2310）。錠スイッチ21TM051がONとなっていない場合（ステップS21TM2310；NO）は、ステップS21TM2550に進む。錠スイッチ21TM051がONとなっている場合（ステップS21TM2310；YES）は、CPU103は、RAMクリアフラグがセットされているか否か、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されたか否かを確認する（ステップS21TM2320）。 10

【0928】

RAMクリアフラグがセットされている場合、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されていた場合には（ステップS21TM2320でYES）、CPU103は、設定値を変更可能な設定変更モードに移行する（ステップS21TM2330～ステップS21TM2400）。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件が成立しており、且つ、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件が成立していることに基づいて、処理状態を設定変更モードに制御する。設定変更モードに関連したステップS21TM2330～ステップS21TM2400に示す処理は、図10-12のステップS21TM1130～ステップS21TM1200に示した処理と同様であり、説明を省略する。そして、ステップS21TM2400の処理を実行した後に、セットされていたRAMクリアフラグを消去して（ステップS21TM2410 30）、ステップS21TM2550に進む。

【0929】

RAMクリアフラグがセットされていない場合、即ち、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されていなかった場合には（ステップS21TM2320でNO）、CPU103は、設定値を確認可能な設定確認モードに移行する（ステップS21TM2510～ステップS21TM2540）。即ち、CPU103は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がONであるという第1条件は成立しているが、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件は成立していないことに基づいて、処理状態を設定確認モードに制御する。設定確認モードに関連したステップS21TM2510～ステップS21TM2540に示す処理は、図10-12のステップS21TM1210～ステップS21TM1240に示した処理と同様であり、説明を省略する。そして、ステップS21TM2540において、錠スイッチ21TM051がOFFとなったことを確認すると（ステップS21TM2540でYES）、ステップS21TM2550に進む。 40

【0930】

ここで、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052が操作されていなかった場合には、仮に、図10-43のステップS21TM2120又はステップS21TM2130でNOと判定されて、初期化処理（ステップS21TM2220以降の処理）が実行された場合であっても、RAMクリアフラグがセットされていない。その結果、ステップS21TM2320でNOと判定されて、設定変更モードには移行しない 50

ようになっている。このように、初期化処理（RAMクリアによる遊技状態の初期化）が実行される場合でも、電源投入時にクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がONであるという第2条件が成立していない場合には、設定変更モードには制御されないようになっている。

【0931】

設定変更モード若しくは設定確認モードが終了した後、又は、電源投入時に錠スイッチ21TM051がOFF状態であった場合における、ステップS21TM2550～ステップS21TM2620に関する一連の処理は、図10-13に示したステップS21TM1470～ステップS21TM1540に示した一連の処理と同様であり、説明を省略する。

10

【0932】

図10-43及び図10-44に示した例では、設定変更モードに制御された場合、CPU103は、電源投入時の初期化コマンド（ステップS21TM2270）を送信した後に、設定変更モードコマンド（ステップS21TM2340）を送信し、設定コマンドを送信する（ステップS21TM2550）。また、設定確認モードに制御された場合、CPU103は、電源断復旧時のバックアップコマンド又は電源投入時の初期化コマンド（ステップS21TM2170又はステップS21TM2270）を送信した後に、設定確認モードコマンドを送信し（ステップS21TM2520）を送信し、設定コマンドを送信する（ステップS21TM2550）。従って、演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信した後に設定コマンドを受信したに基づいて、設定変更モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定変更モードの終了を報知することが可能である。また、演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信した後に設定コマンドを受信したに基づいて、設定確認モードの終了を特定可能であり、画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等の演出装置により設定確認モードの終了を報知することが可能である。このような構成によれば、設定変更モード又は設定確認モードが終了したことを指定するための専用のコマンド（設定変更モード終了コマンド又は設定確認モード終了コマンド）を設けること無く、設定コマンドの受信によって、演出制御用CPU120側で設定変更モード又は設定確認モードが終了したことを特定可能であるため、コマンド数を抑制することができる。即ち、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減し、コマンド数を記憶させるための容量を抑制することができる。

20

30

【0933】

（特徴部21TMに関する他の変形例）

上記の実施形態では、設定値を変更するためのスイッチが、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチと共通である例を示したが、このような形態に限らず、設定値を変更するためのスイッチは、主基板11に設けられており（遊技制御用マイクロコンピュータ100が操作を検知可能であり）、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチとは異なるスイッチであっても良い。このような構成とすることによって、設定値を切り替えるためのスイッチが電源基板に設けられる場合と比較して、設定値を切り替えるためのスイッチと、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）との位置が近くなるため、設定値を変更する際に、設定値の確認と、設定値の確認に応じた切替操作が容易になり、作業性を向上させることができる。

40

【0934】

また、上記の実施形態では、集計されたベース等の遊技情報が表示される表示モニタ21TM029の一部表示領域（第1表示部21TM029A）に、設定値が表示される例を示したが、このような形態に限らず、集計された遊技状態が表示される表示モニタ21TM029とは異なる表示装置、例えば、設定値を表示させるための専用の表示装置であって、主基板11に設けられている7セグメント表示器等に、設定値を表示させるようにしても良い。このような構成によれば、集計された遊技情報、及び、設定値を、個別に、より明確に把握することができるため、集計された遊技情報に応じて設定値を変更する作

50

業が容易になり、作業性を向上させることができる。

【0935】

また、遊技機を初期化（RAMクリア）させるためのクリアスイッチを備える一方で、設定値を変更するためのスイッチを備えていない構成としても良い。このような構成において、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されているときに、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示させる設定値を自動的に順番に変更し（例えば1→2→3→4→5→6の順序で5秒毎に変更し）、錠スイッチ21TM051がON状態からOFF状態となったときに、表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されている設定値（設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値）が、設定値格納領域に格納される（設定値格納領域に格納されていた設定値が、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値により上書きされる）ことにより設定値が確定するようにしても良い。遊技場の店員は、確定させたい設定値が表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示されているタイミングで、錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替えることで、そのとき表示されていた設定値を、当該遊技機の設定値として確定させることが可能である。

10

【0936】

上記の実施形態では、遊技機が、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を上皿又は下皿に払い出すパチンコ遊技機1である例を示したが、このような形態に限らず、遊技機に遊技媒体を封入しておき、入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。この封入式遊技機において、主基板11から払出制御基板21TM037を介してカードユニット21TM050に定期的送信される情報の中に、設定変更モード又は設定確認モードに関する情報が含まれていても良く、例えば、設定変更モードに制御されたこと、設定確認モードに制御されたこと、設定変更モードに制御されている期間内であること、設定確認モードに制御されている期間内であること、設定値を変更するための操作が行われたこと、設定変更モードが終了したこと、設定確認モードが終了したこと、等を示す情報が含まれていても良い。また、情報出力回路112から、これらの情報がホールコンピュータ等の管理装置に送信され、ホールコンピュータにおいて、各遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御されていること等を特定可能としても良い。

20

【0937】

上記の実施形態では、演出制御基板12に接続される画像表示装置5等によって、設定変更モードに制御されている期間内であること、設定確認モードに制御されている期間内であること、等が報知される例を示したが、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モードに制御されていることに基づいて、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20等により、設定変更モードに制御されていることを報知する（例えば、7セグメント表示器を第1報知態様で発光させる）ようにしても良く、設定確認モードに制御されていることに基づいて、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20等により、設定確認モードに制御されていることを報知する（例えば、7セグメント表示器を第1報知態様とは異なる第2報知態様で発光させる）ようにしても良い。更に、パチンコ遊技機1に大当り遊技中のラウンド数を表示する表示器（ラウンド数表示器）や、遊技者に対して遊技領域の特定領域（例えば右側の遊技領域）に遊技球を打ち出すよう指示するための表示器（右打ち表示器）等を設ける場合は、これら表示器を、設定変更モードの処理を実行中である旨を示す態様、設定確認モードの処理を実行中である旨を示す態様、にて発光させるようにしてもよい。

30

40

【0938】

上記の実施形態では、設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに、セキュリティ信号がON状態となり、その後、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にRAMクリアが実行される場合には、セキュリティ信号がOFF状態となることなく、設定変更モード又は設定確認モードの終了後から30秒間、セキュリティ信号が継続してON状態となる例を示したが、このような形態に限らず、設定変更モード又は設定確認モード

50

に制御されたときに、セキュリティ信号がON状態となり、その後、設定変更モード又は設定確認モードの終了後にRAMクリアが実行される場合には、設定変更モード又は設定確認モードの終了に伴い、セキュリティ信号が一旦、所定期間（例えば0.5秒間）OFF状態となり、その後に、セキュリティ信号が所定期間（例えば、30秒間）ON状態となるようにしても良い。このような信号出力方式とすることにより、ホールコンピュータ等の外部装置において、設定変更モード又は設定確認モードに制御されている期間を明確に特定可能となると共に、RAMクリアが実行されたことを明確に特定可能となる。

【0939】

図9-5に示される期待度示唆演出に関して、当該遊技機の設定値（RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値）と、大当り期待度とに応じて、各演出態様（黒い星の数）の選択割合が変化するようにしても良い。例えば、大当り期待度が低い場合であっても、当該パチンコ遊技機1の設定値が高い場合（例えば、5又は6の場合）には、当該パチンコ遊技機1の設定値が低い場合（例えば、1又は2の場合）よりも、高い割合で、黒い星の数が3以上の期待度示唆演出が実行されるようにしても良い。このような演出構成とすることにより、表示結果がハズレとなった場合でも、黒い星の数が3以上の期待度示唆演出が実行されたことにより、当該パチンコ遊技機1の設定値が高いことを遊技者に期待させることができ、期待度示唆演出が実行されるときに演出態様（黒い星の数）に遊技者を注目させることができる。また、大当り期待度が低いリーチであっても、これに伴い、黒い星の数が多（例えば3以上の）期待度示唆演出が実行されることにより、遊技者は、当該パチンコ遊技機1の設定値が高いことを期待することができるため、大当り期待度が低いときにも興趣を向上させることができる。

【0940】

上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ART、CZ（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にもこの発明を適用可能である。このようなスロット機では、設定値に応じてボーナスが成立する割合が異なり、スロット機を設定変更モードに制御させることにより設定値を変更可能であり、設定確認モードに制御させることにより設定値を確認可能である。

【符号の説明】

【0941】

- 1 … パチンコ遊技機
- 2 … 遊技盤
- 3 … 遊技機用枠
- 4 A … 第1特別図柄表示装置（特別図柄表示装置）
- 4 B … 第2特別図柄表示装置（特別図柄表示装置）
- 5 … 画像表示装置
- 6 A … 入賞球装置
- 6 B … 可変入賞球装置
- 7 … 特別可変入賞球装置
- 8 L、8 R … スピーカ
- 9 … 遊技効果ランプ
- 10 … 一般入賞口
- 11 … 主基板
- 12 … 演出制御基板
- 13 … 音声制御基板
- 14 … ランプ制御基板
- 15 … 中継基板

10

20

30

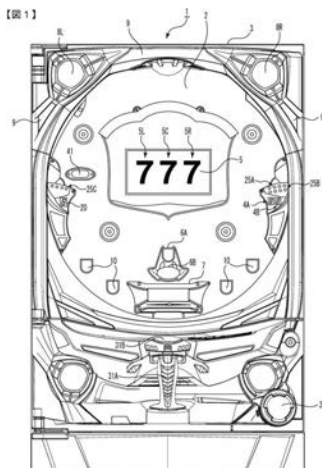
40

50

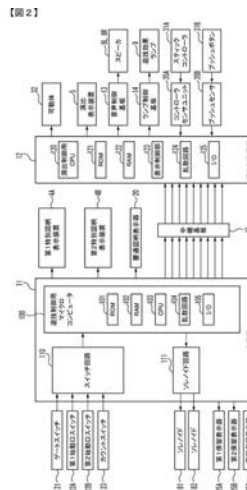
- 20 … 普通図柄表示器
- 21 … ゲートスイッチ
- 22 A、22 B … 始動口スイッチ
- 23 … カウントスイッチ
- 30 … 打球操作ハンドル
- 31 A … スティックコントローラ
- 31 B … プッシュボタン
- 32 … 可動体
- 100 … 遊技制御用マイクロコンピュータ
- 101、121 … ROM
- 102、122 … RAM
- 103 … CPU
- 104、124 … 乱数回路
- 105、125 … I/O
- 120 … 演出制御用CPU
- 123 … 表示制御部

10

【図1】



【図2】



【図 3】

【図 3】



【図 4】

【図 4】



【図 5】

【図 5】



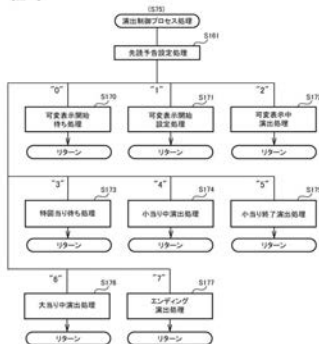
【図 6】

【図 6】



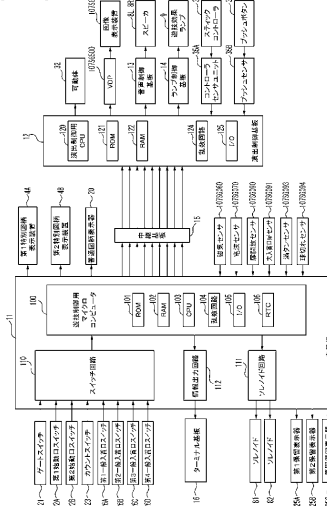
【図 7】

【図 7】



【図 8 - 1】

【図 8 - 1】



【図 8 - 2】

【図 8 - 2】

(A)

MODE	EXT	名称	内容
80	D1	第1変動開始	第1特図の変動開始を指定
80	D2	第2変動開始	第2特図の変動開始を指定
B1	XX	変動パターン指定	変動パターン(指定表示時間)を指定
8C	XX	変動表示結果指定	変動表示結果を指定
8F	00	図解確定	演出図解の更新表示の停止指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
98	XX	エラー指定	XXで示すエラーの発生を指定
AD	XX	当り開始指定	大当りまたは小当りの開始指定
A1	XX	大入賞口開放指定	大入賞口の開放を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口の開放後を指定
AX	XX	当り終了指定	大当りまたは小当りの終了指定
B1	00	第1増設口入賞指定	第1増設口入賞口への入賞を通知
B2	00	第2増設口入賞指定	第2増設口入賞口への入賞を通知
C1	XX	第1増設口回数通知	第1増設口回数を通知
C2	XX	第2増設口回数通知	第2増設口回数を通知
CX	XX	図解指定	特図入賞時の入賞時判定結果(表示結果)を指定
08	XX	変動パターン	変動パターン(指定表示時間)を指定
C1	00	変動後図通知	変動後の図通知

(B)

MODE	EXT	名称	指定内容
80	X0	第1変動表示結果指定	はずれ
80	X1	第2変動表示結果指定	大当り(確変A)
80	X2	第3変動表示結果指定	大当り(確変B)
8C	X3	第4変動表示結果指定	大当り(確変C)
8C	X4	第5変動表示結果指定	大当り(非確変)
8C	X5	第6変動表示結果指定	小当り

【図 8 - 3】

【図 8 - 3】

乱数値	範囲	用途
MR1	1~65536	特図表示結果判定用
MR2	1~100	大当り種別判定用
MR3	1~997	変動パターン判定用
MR4	3~13	普通表示結果判定用

【図 8 - 4】

【図 8 - 4】

変動パターン	演出変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-2	5750	同様に短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-3	3750	同様に短縮なし(通常状態)→ multiplier (ハズレ)
PA1-4	3000	短縮(短縮状態)→ multiplier (ハズレ)
PA2-1	20000	multiplier (ハズレ)
PA2-2	50000	multiplier (ハズレ)
PB1-1	20000	multiplier (大当り)
PB1-2	50000	multiplier (大当り)
PC1-1	3000	特殊演出(小当りまたは変動大当り)

【図 8 - 7】

【図 8 - 7】

(A) 大当り種別判定テーブル

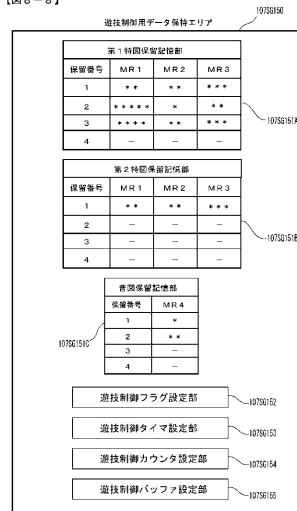
変動特図	判定値(MR2)	大当り種別
第1特図	1~50	非確変
	51~80	確変A
	81~95	確変B
	96~100	確変C
第2特図	1~50	非確変
	51~100	確変A

(B) 大当り種別

大当り種別	確定制御	短縮制御	ラウンド数
確変A	次回大当りまで	次回大当りまで	16(通常開放ラウンド)
確変B	次回大当りまで	次回大当りまで	5(通常開放ラウンド)
確変C(突確)	次回大当りまで	なし	2(通常開放ラウンド)
非確変	なし	100回(100回開放ラウンド)	16(通常開放ラウンド)

【図 8 - 8】

【図 8 - 8】



【図 8 - 5】

【図 8 - 5】

変動パターン	変動表示時間(A)	変動表示時間(B)	変動表示時間(C)	変動表示時間(D)	変動表示時間(E)	変動表示時間(F)	変動表示時間(G)
PA1-1(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	60%	—	—	—
PA1-2(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	70%	—	—	—
PA1-3(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	80%	—	—	—
PA1-4(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	90%	—	—	—
PA2-1(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	30%	20%	10%	10%
PA2-2(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	40%	30%	20%	10%
PA2-3(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	50%	40%	30%	20%
PA2-4(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	60%	50%	40%	30%
PA2-5(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	70%	60%	50%	40%
PA2-6(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	80%	70%	60%	50%
PA2-7(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	90%	80%	70%	60%
PA2-8(通常ハズレ短縮なし)	—	—	—	100%	90%	80%	70%

【図 8 - 6】

【図 8 - 6】

(A) 表示結果判定テーブル1(第1特別図柄用)

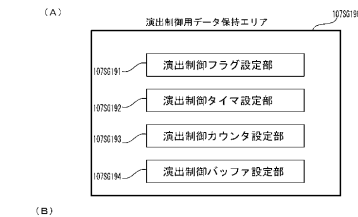
遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態 または時短状態	1~219(1/300)	大当り
	54000~54651(1/100)	小当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	10000~12180(1/30)	大当り
	54000~54651(1/100)	小当り
	上記数値以外	ハズレ

(A) 表示結果判定テーブル2(第2特別図柄用)

遊技状態	判定値(MR1)	特図表示結果
通常状態 または時短状態	1~219(1/300)	大当り
	—	小当り
	上記数値以外	ハズレ
確変状態	10000~12180(1/30)	大当り
	—	小当り
	上記数値以外	ハズレ

【図 8 - 9】

【図 8 - 9】



(B)

始動入賞時変動コマンドバッファ

10750194

コマンド	変動表示時間(A)	変動表示時間(B)	変動表示時間(C)	変動表示時間(D)	変動表示時間(E)	変動表示時間(F)	変動表示時間(G)
1-0	8100(H)	C400(H)	C600(H)	C102(H)	0	0	0
1-1	8100(H)	C400(H)	C600(H)	C102(H)	0	0	0
1-2	8100(H)	C410(H)	C601(H)	C102(H)	0	0	1
1-3	8100(H)	C400(H)	C600(H)	C103(H)	1	—	—
1-4	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—
2-0	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—
2-1	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—
2-2	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—
2-3	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—
2-4	0000(H)	0000(H)	0000(H)	0000(H)	—	—	—

10750194

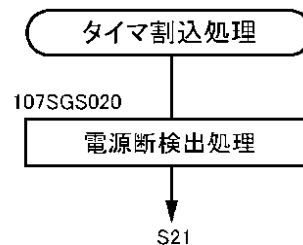
変動表示フラグ '0' = ○

変動表示フラグ '1' = ◇

変動表示フラグ '2' = ☆

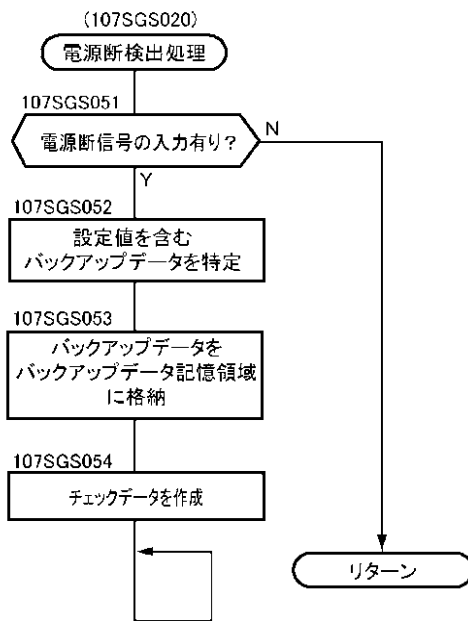
【図 8 - 10】

【図 8 - 10】

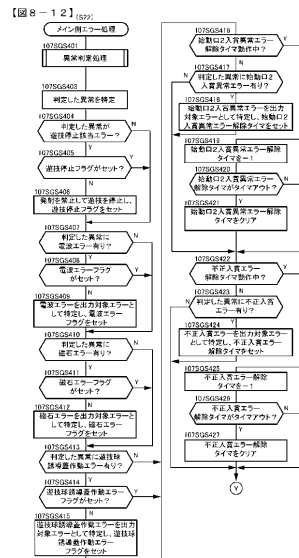


【図 8 - 1 1】

【図 8 - 1 1】

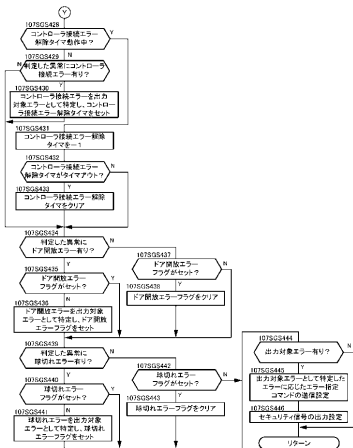


【図 8 - 1 2】



【図 8 - 1 3】

【図 8 - 1 3】



【図 8 - 1 4】

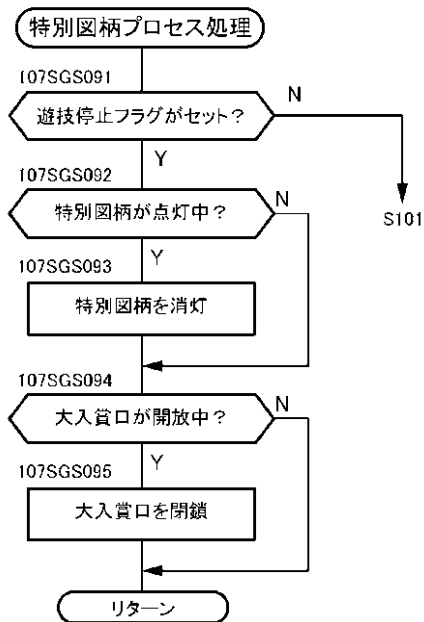
【図 8 - 1 4】

(A) 単エラー

EXTデータ

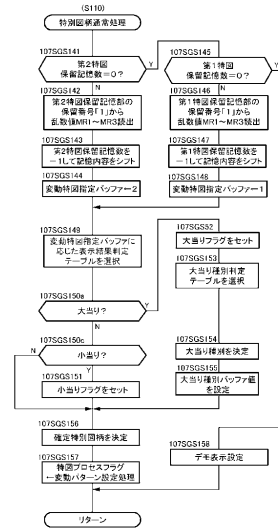
01 (H)	0	0	0	0	0	0	0	1
02 (H)	0	0	0	0	0	0	1	0
04 (H)	0	0	0	0	0	1	0	0
08 (H)	0	0	0	0	1	0	0	0
10 (H)	0	0	0	1	0	0	0	0
20 (H)	0	0	1	0	0	0	0	0
40 (H)	0	1	0	0	0	0	0	0
80 (H)	1	0	0	0	0	0	0	0

【图 8-16】



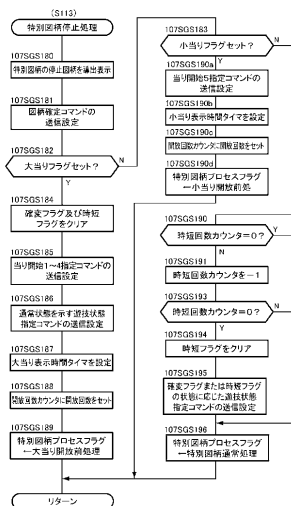
【図 8-17】

【图 8-17】



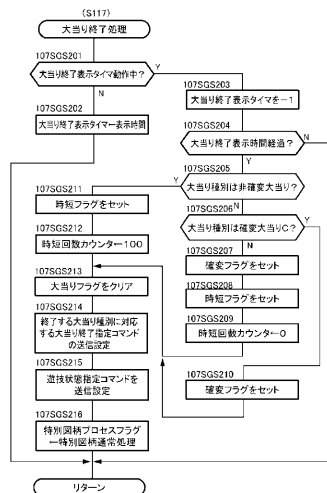
【图 8-18】

【图 8-18】



【図 8-19】

【图 8-19】



```

graph TD
    S70[演出制御メイン処理] --> S71[S71  
初期化処理]
    S71 --> S72[S72  
初期動作制御処理]
    S72 --> S73{S73  
タイマ割込フラグオン?}
    S73 -- N --> S74[S74  
タイマ割込フラグをクリア]
    S73 -- Y --> S75[S75  
コマンド解析処理]
    S74 --> S75
    S75 --> S76[S76  
演出制御プロセス処理]
    S76 --> S77[S77  
演出用乱数更新処理]
    S77 --> S78[1075GS78  
エラー監視処理]
    S78 --> S79[1075GS79  
電灯・音・映像表示処理]
    S79 --> S70
  
```

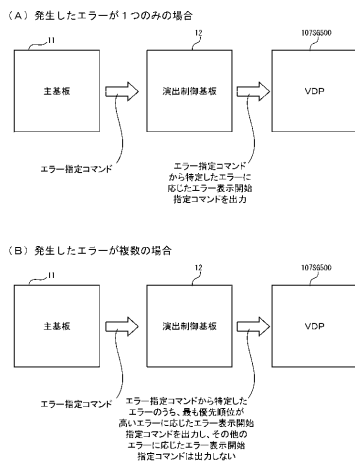
```

graph TD
    Start([可変表示制御決定処理]) --> J1{107565271  
第1変数開始コマンド  
受信フラグあり?}
    J1 -- N --> J2{107565273  
第2変数開始コマンド  
受信フラグあり?}
    J1 -- Y --> P1[107565272  
参加人異時受信コマンド  
バックスラッシュを異時  
特約保留記号にシフト]
    J2 -- N --> J3{107565274  
参加人異時受信コマンド  
バックスラッシュを異時  
特約保留記号にシフト}
    J2 -- Y --> P2[107565273  
参加人異時受信コマンド  
バックスラッシュを異時  
特約保留記号にシフト]
    P1 --> J4{107565275  
変数パターン指定コマンド  
格納領域から変数パターン  
番号をコンマで通知}
    P2 --> J4
    J4 --> J5{107565276  
変数格納指定コマンド格納領域  
に格納されているデータに  
応じて印刷及び印刷時の  
停止印刷を決定}
    J5 --> J6{107565281  
変数パターンに応じた  
プロセステーブルを選択}
    J6 --> J7{107565282  
プロセステーブルスタート}
    J7 --> J8{107565283  
プロセステーブル1の内容に  
従って演出装置を制御}
    J8 --> J9{107565284  
変数時間タイマー変数時間}
    J9 --> J10{107565285  
変数制御タイマー変数時間}
    J10 --> J11{107565286  
演出制御プロセスフラグ  
可変表示中演出処理}
    J11 --> Return([リターン])
  
```

[illegible][illegible]

【図 8-24】

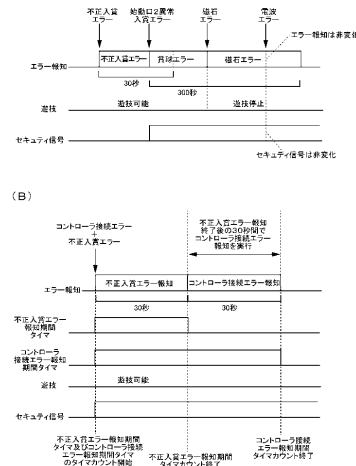
【图 8-24】



※いずれの場合の競技停止エラーの観戦中である場合はエラー表示開始時定コマンド出力せず

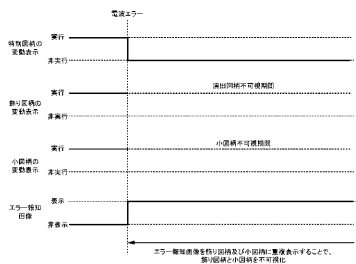
【図 8-25】

【图 8-25】



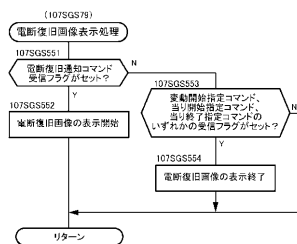
【図 8-26】

【图 8-26】



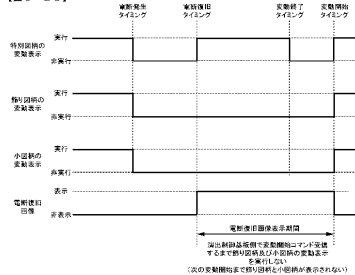
【図 8-27】

【图 8-27】



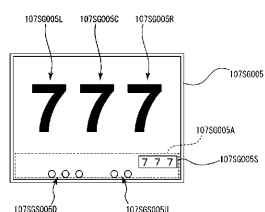
【図 8-28】

【图 8-28】



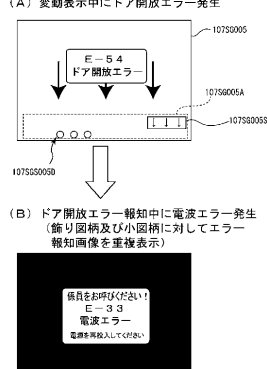
【图 8-29】

【图 8-29】



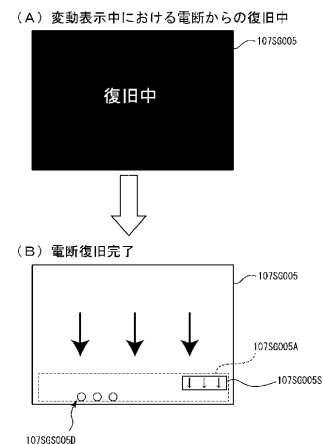
【図 8-30】

【圖 8-30】



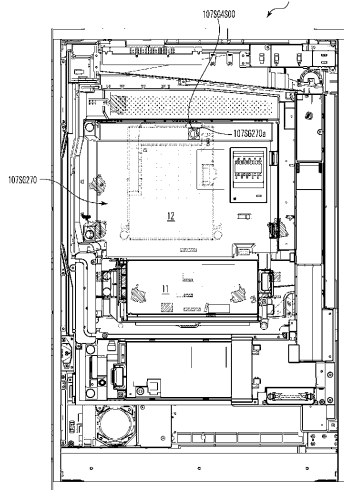
【図 8-3 1】

【图 8-3 1】



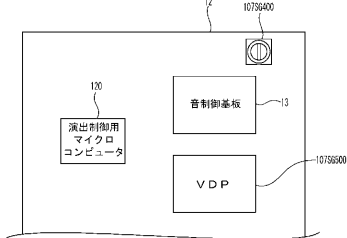
【図 8-32】

【図 8-32】変形例 1



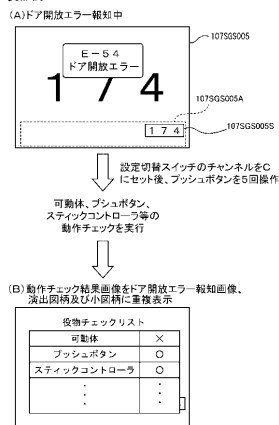
【図 8-33】

【図 8-33】変形例 1



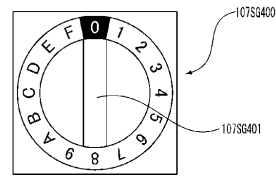
【図 8-36】

【図 8-36】変形例 1



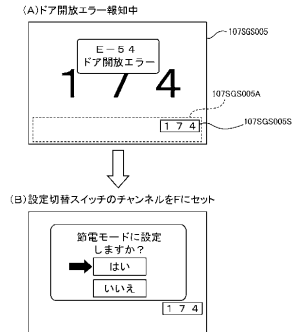
【図 8-34】

【図 8-34】変形例 1



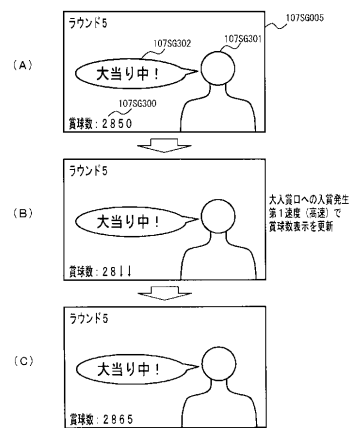
【図 8-35】

【図 8-35】変形例 1



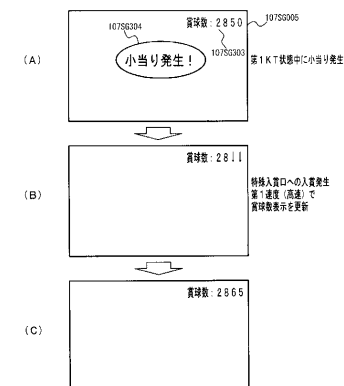
【図 8-37】

【図 8-37】変形例 2



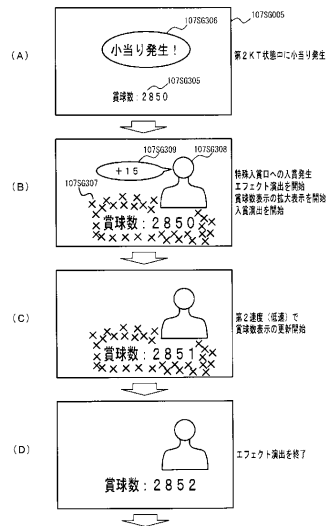
【図 8-38】

【図 8-38】変形例 2



【図 8 - 39】

【図 8 - 39】変形例 2



【図 9 - 1】

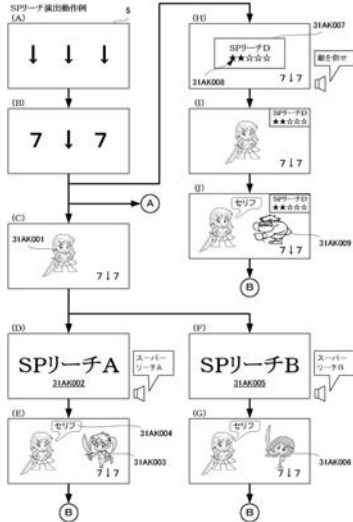
【図 9 - 1】

変動パターン	内容
PA1-1	連リーチハズレ
PA1-2	連リーチハズレ(初回用)
PA2-1	ノーマルリーチハズレ
PA2-2	スーパーリーチEハズレ
PA2-3	スーパーリーチDハズレ
PA2-4	スーパーリーチCハズレ
PA2-5	スーパーリーチBハズレ
PA2-6	スーパーリーチAハズレ
PA3-1	スーパーリーチE→Dハズレ
PA3-2	スーパーリーチD→Cハズレ
PA3-3	スーパーリーチC→Bハズレ
PA3-4	スーパーリーチB→Aハズレ
...	...
PB2-1	ノーマルリーチ大当り
PB2-2	スーパーリーチE大当り
PB2-3	スーパーリーチD大当り
PB2-4	スーパーリーチC大当り
PB2-5	スーパーリーチB大当り
PB2-6	スーパーリーチA大当り
PB3-1	スーパーリーチE→D大当り
PB3-2	スーパーリーチD→C大当り
PB3-3	スーパーリーチC→B大当り
PB3-4	スーパーリーチB→A大当り
...	...

リーチ種類	煩雑度	タイトル欄
ノーマルリーチ	☆☆☆☆	なし
スーパーリーチE	☆☆☆☆	表示
スーパーリーチD	☆☆☆☆	表示+音声
スーパーリーチC	☆☆☆☆	表示+音声
スーパーリーチB	☆☆☆☆	表示+音声
スーパーリーチA	☆☆☆☆	表示+音声

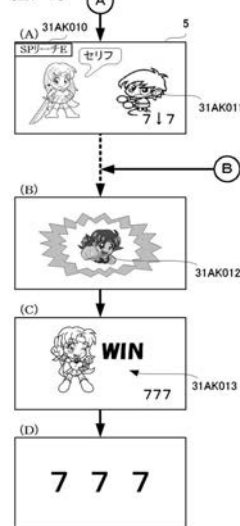
【図 9 - 2】

【図 9 - 2】



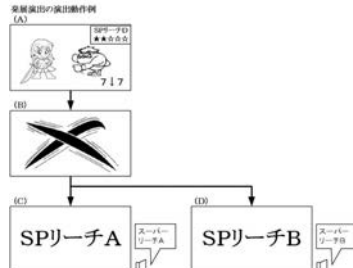
【図 9 - 3】

【図 9 - 3】

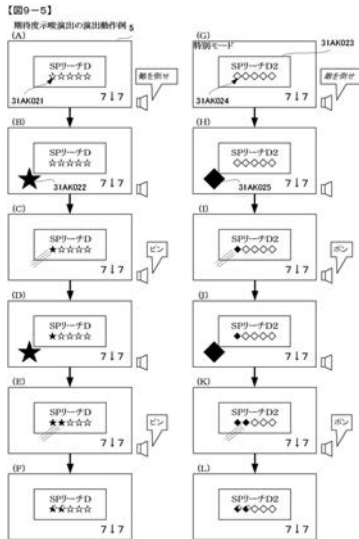


【図 9 - 4】

【図 9 - 4】



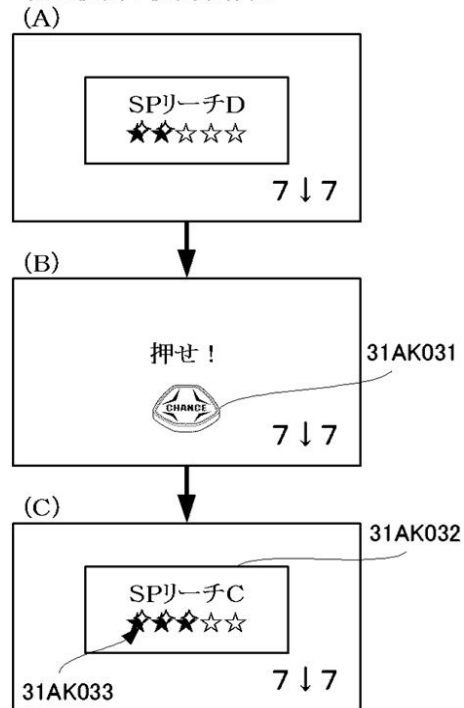
【図 9 - 5】



【図 9 - 6】

【図9-6】

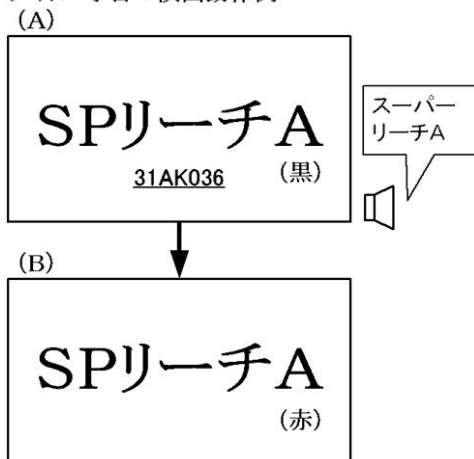
発展演出の演出動作例



【図 9 - 7】

【図9-7】

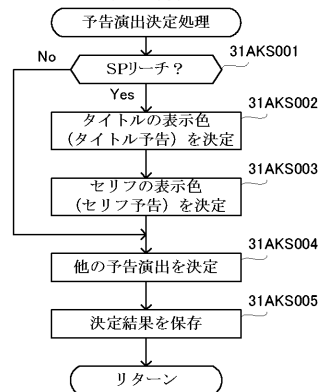
タイトル予告の演出動作例



【図 9 - 8】

【図9-8】

(S171内)



【図 9 - 9】

【図9-9】

(A)31AKS002における決定割合

タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	10%	80%	最低
赤	15%	10%	低
黒→赤	20%	9%	中
黒→フルーツ柄	35%	1%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

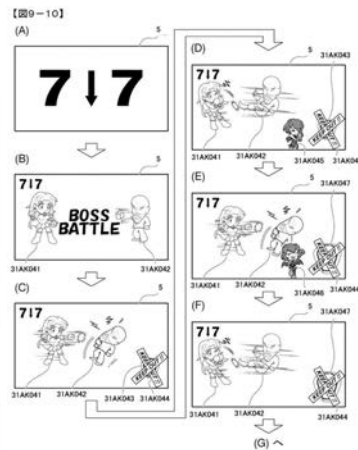
(B)31AKS002における決定割合(特別モード)

タイトル 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
黒	5%	70%	最低
赤	10%	16%	低
黒→赤	25%	12%	中
黒→フルーツ柄	40%	2%	高
赤→フルーツ柄	20%	0%	最高

(C)31AKS003における決定割合

台詞 表示色	決定割合		信頼度
	大当たり時	ハズレ時	
白	10%	90%	低
赤	30%	9%	中
白→赤	60%	1%	高

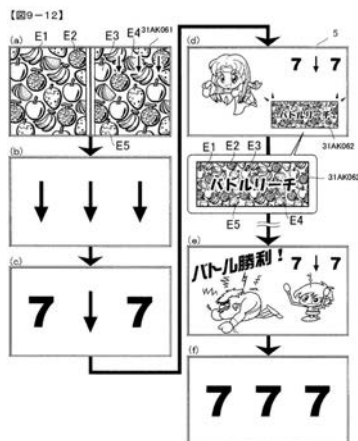
【図 9 - 10】



【図 9 - 11】

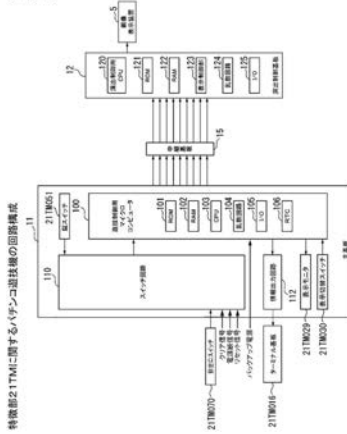


【図 9 - 12】



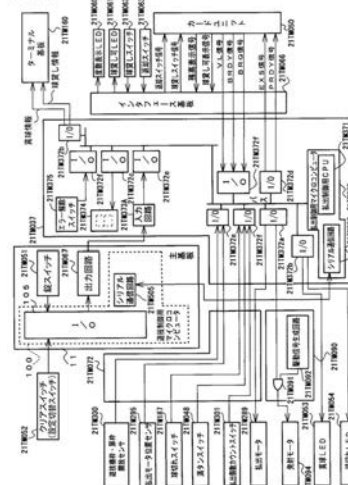
【図 10-1】

【図 10-1】



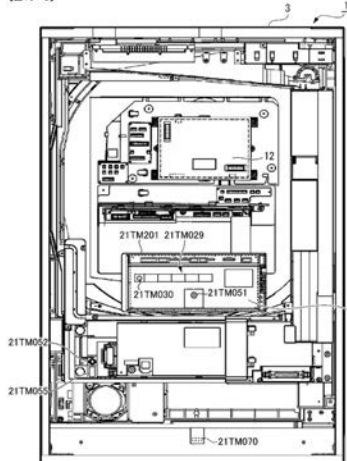
【図 10-2】

【図 10-2】



【図 10-3】

【図 10-3】

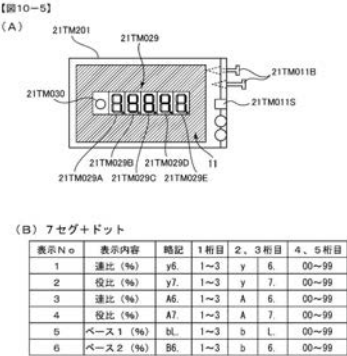


【図 10-4】

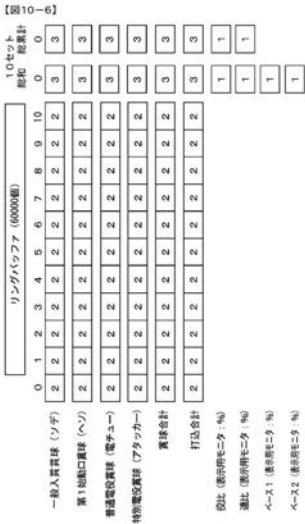
【図 10-4】

(A)表示結果判定テーブル(指定値1)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13477(確率: 1/300)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13477(確率: 1/300)	
(B)表示結果判定テーブル(指定値2)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13493(確率: 1/280)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13493(確率: 1/280)	
(C)表示結果判定テーブル(指定値3)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13506(確率: 1/265)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13506(確率: 1/265)	
(D)表示結果判定テーブル(指定値4)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13521(確率: 1/250)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13521(確率: 1/250)	
(E)表示結果判定テーブル(指定値5)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13538(確率: 1/235)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13538(確率: 1/235)	
(F)表示結果判定テーブル(指定値6)			
変動特図指定パッチャム第1 (第1特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13557(確率: 1/220)	
変動特図指定パッチャム第2 (第2特別図柄)	大当り	1020~1079, 13320~13557(確率: 1/220)	

【図 10－5】



【図 10－6】



【図 10－7】



【図 10－8】



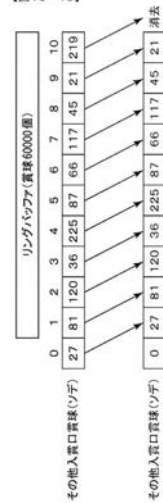
【図10-9】

【図10-9】



【図10-10】

【図10-10】



【図10-11】

【図10-11】

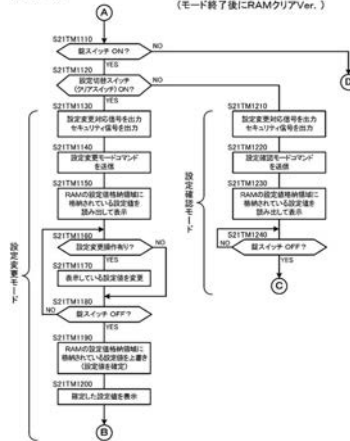
遊技制御メイン処理



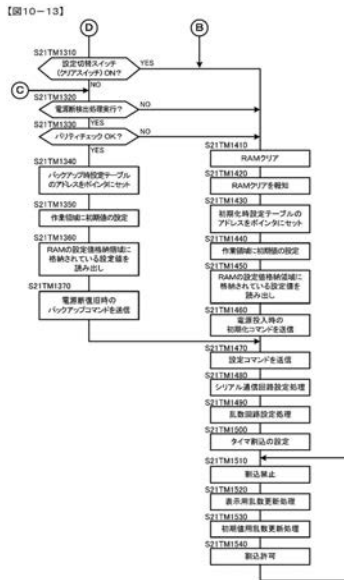
【図10-12】

【図10-12】

(モード終了後にRAMクリアVer.)



【図 10-13】

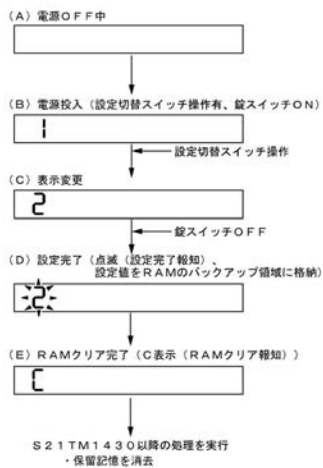


【図 10-14】



【図 10-15】

【図10-15】
設定変更モードにおける表示モニタの表示態様

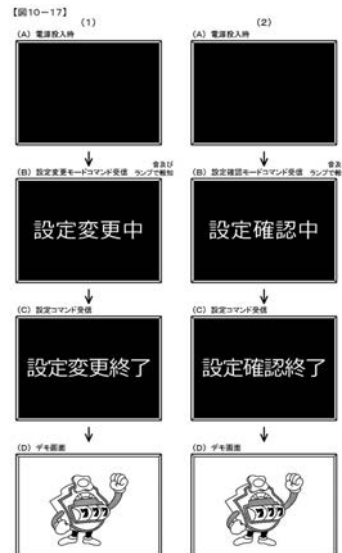


【図 10-16】

【図10-16】
設定確認モードにおける表示モニタの表示態様

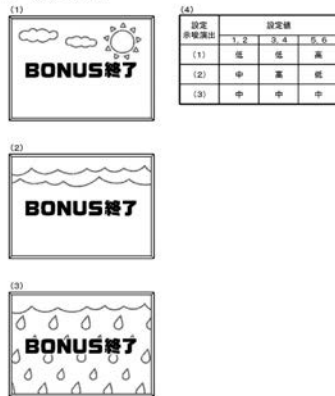


【図 10-17】



【図 10-18】

【図10-18】設定半端演出



【図 10-19】

【図10-19】

名称	内容
接続確認番号	オン 遊技制御用マイクロコンピュータが立上っている（制御可能な）状態 オフ 遊技制御用マイクロコンピュータが制御可能でない状態

【図 10-20】

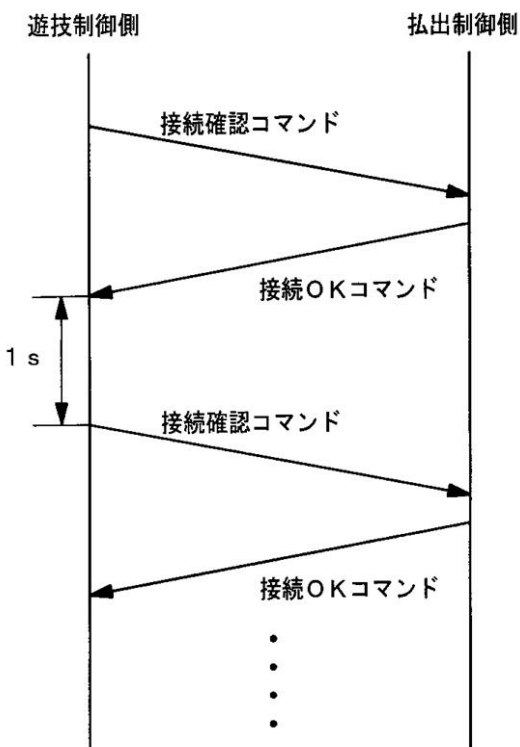
【図10-20】

コマンド	名称	内容
A 0	接続確認コマンド	接続状態が正常であるか否かを確認（1 s 毎）
8 x	接続OKコマンド	接続状態が正常であることを通知
5 x	賞球開始コマンド	賞球開始を通知
5 0	賞球終了コマンド	賞球動作の終了を通知
4 x	賞球準備中コマンド	エラーが発生し賞球動作が終了していないことを通知（1 s 毎）

【図 10-22】

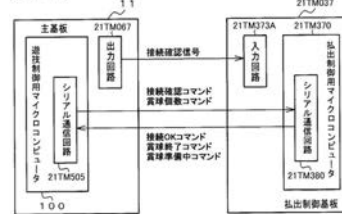
【図10-22】

[通常動作時（接続確認）]



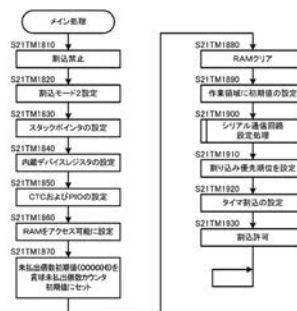
【図 10-21】

【図10-21】



【図 10-23】

【図10-23】払出制御メイン処理



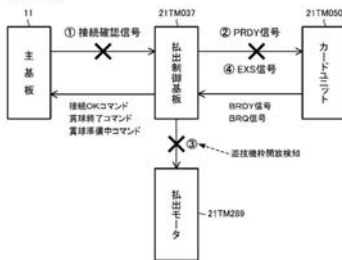
【図10-24】

【図10-24】 払出制御タイマ割込処理



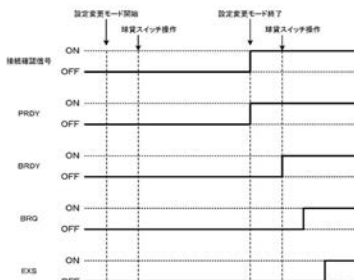
【図10-25】

【図10-25】



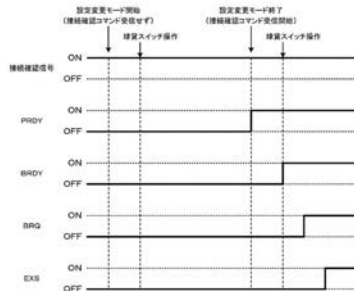
【図10-27】

【図10-27】 第1の球貸制御方法



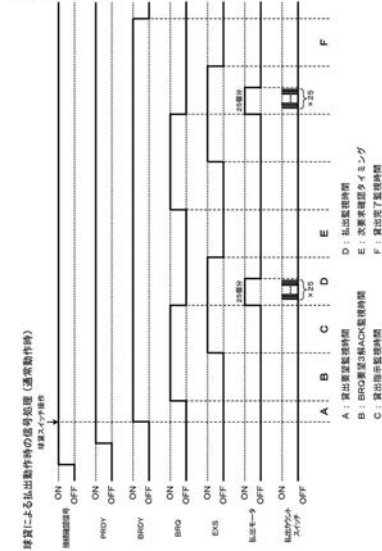
【図10-28】

【図10-28】 第2の球貸制御方法



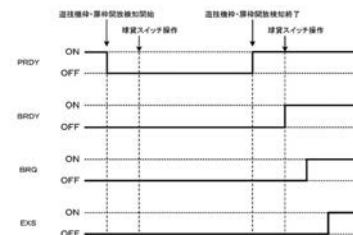
【図10-26】

【図10-26】



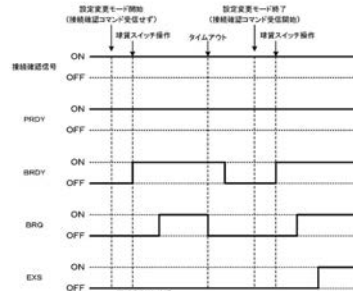
【図10-29】

【図10-29】 第3の球貸制御方法



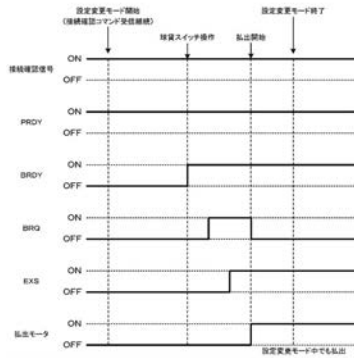
【図10-30】

【図10-30】 第4の球貸制御方法



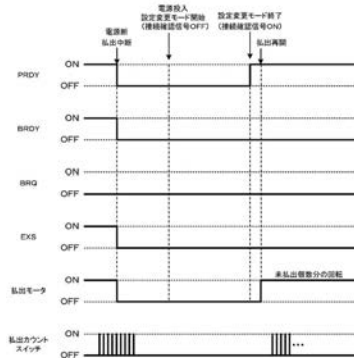
【図10-31】

【図10-31】 設定変更モード中に球貸制限せず



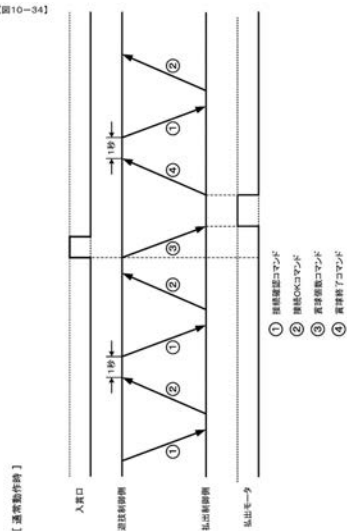
【図10-32】

【図10-32】 設定変更モード終了後に球貸を再開



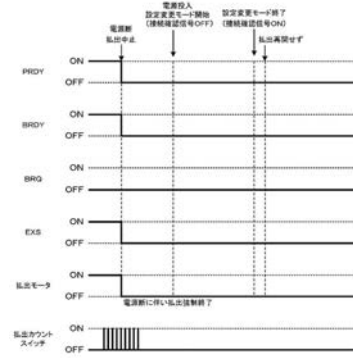
【図10-34】

【図10-34】



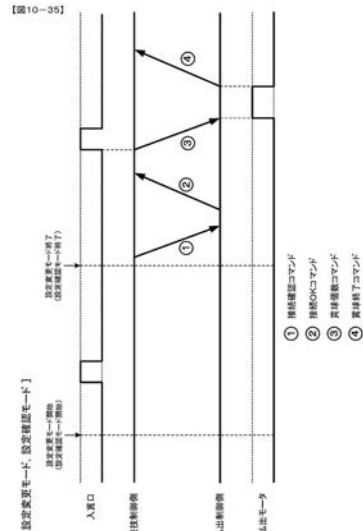
【図10-33】

【図10-33】 電源断に伴い球貸を強制終了

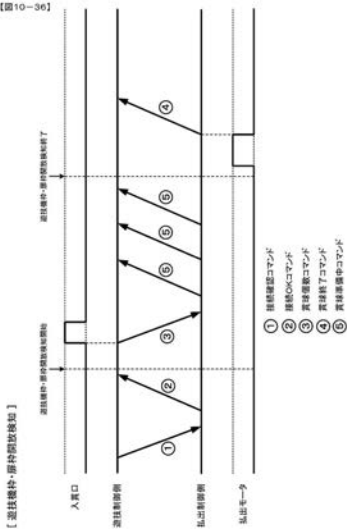


【図10-35】

【図10-35】



【図 10-36】



【図 10-37】

【図10-37】

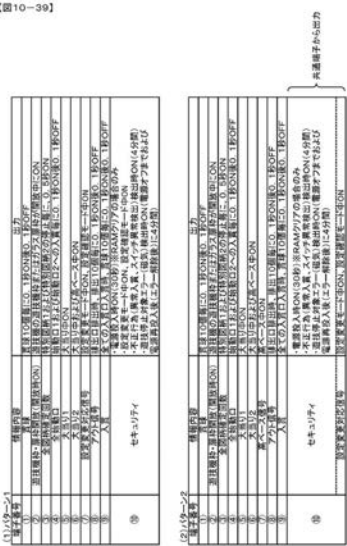
(1) 設定変更モード中の設定値確認前に電源断した場合

順	状況	暗号入力コマンド	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	1	
2	設定変更モード開始	ON	1	1
3	設定値確認中	ON	1	2
4	設定値確認中	ON	1	3
5	電源断	ON	1	
6	電源投入	ON	1	
7	設定変更モード開始	ON	1	1

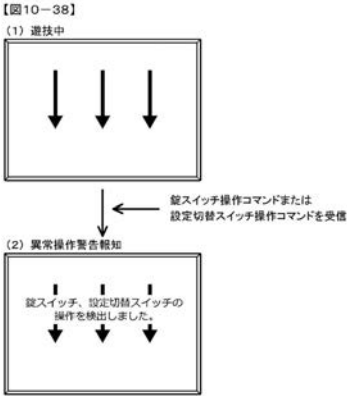
(2) 設定変更モード中の設定値確認後に電源断した場合

順	状況	暗号入力コマンド	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	1	
2	設定変更モード開始	ON	1	1
3	設定値確認中	ON	1	2
4	設定値確認中	ON	1	3
5	設定値確認中	OFF	3	3
6	電源断	OFF	3	
7	電源投入	ON	3	
8	設定変更モード開始	ON	3	3

【図 10-39】



【図 10-38】



【図 10-40】

